時限	授業時間（100分）
1	8 : 40 ～ 10 : 20
2	10 : 35 ～ 12 : 15
昼休み　12 : 15 ～ 13 : 15	
3	13 : 15 ～ 14 : 55
4	15 : 10 ～ 16 : 50
5	17 : 05 ～ 18 : 45

KIT

金沢工業大学
〒921-8501
石川県野々市市扇が丘7-1
Tel. 076-248-1100（代表番号）

www.kanazawa-it.ac.jp

CAMPUS GUIDE 2026 学部・大学院
https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2026/
最新情報はWeb版で確認してください。
大学院の科目概要も上記URLから確認できます。

学籍番号　　学科・専攻

氏　　名

CAMPUS GUIDE 2026

CAMPUS GUIDE 2026

学部・大学院

2026年度　入学生用

KIT

KIT-IDEALS

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を"KIT-IDEALS"としてまとめ、これらに基づく信条を次の通り定めました。
これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

K	**Kindness of Heart ……思いやりの心** 私たちは「素直、感謝、謙虚」の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I	**Intellectual Curiosity……知的好奇心** 私たちは「情熱、自信、信念」を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T	**Team Spirit ……共同と共創の精神** 私たちは「主体性、独創性、柔軟性」を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I	**Integrity ……誠実** 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D	**Diligence ……勤勉** 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E	**Energy ……活力** 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A	**Autonomy ……自律** 私たちは、自分の行いを律し、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	**Leadership……リーダーシップ** 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割を自覚しつつ、責任を果たします。
S	**Self-Realization ……自己実現** 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に向かって挑戦することに努めます。

目次 | CAMPUS GUIDE 2025 学部・大学院

CHAPTER 1
大学の理念・概要

1-1 大学の理念 …… 001
1-2 教育研究方針 …… 005
1-3 教育システム …… 007
1-4 学生心得 …… 009
1-5 大学・大学院の構成 …… 010

CHAPTER 2
学生生活

2-1 修学支援について
学生ポータル …… 011
KITナビ …… 012
学習支援計画書（シラバス）／eシラバス …… 013
自己成長シート …… 015
電子メールの利用／告知テレビ・掲示による連絡 …… 017
修学アドバイザー／オフィスアワー／自習スペース …… 018

2-2 生活支援について
奨学金 …… 019
大学院進学支援等 特別奨学生制度（学部のみ） …… 020
大学院修学奨励金（大学院のみ） …… 021
大学院特待生（大学院のみ） …… 021

2-3 各種手続きについて
学生証 …… 022
在学証明書／学割証 …… 022
通学定期券 …… 022
JR団体割引乗車券 …… 023
保険 …… 023
住所・氏名等変更の届出 …… 023
ローマ字氏名の変更 …… 023
復学・休学・退学・転学部 転学科・転研究科 転専攻 …… 024
公認欠席 …… 024

2-4 課外活動について
学内勤務（TA・SA・RA・学生スタッフ） …… 025
課外活動 …… 026

2-5 学生生活における基本事項について
キャンパスマナー …… 027
不正行為の禁止 …… 027
通学 …… 028
ハラスメント …… 029
カウンセリングセンター …… 030
緊急事態への対応 …… 031
学内の安全対策 …… 033

2-6 パソコン・インターネットについて
大学のネットワーク環境 …… 034
Remote-VPN（学外からの学内ネットワーク利用） …… 035
学内プリントサービス …… 036
コピー機／パソコンのトラブル／ソフトウェアの利用 …… 037
情報モラル／生成AIの利用について …… 038
著作権／セキュリティ（コンピュータウイルス対策・情報漏洩対策） …… 039

CHAPTER 3
履修・成績

3-1 履修にあたっての留意点について
授業時間割／クラス編成 …… 040
４年間の修学チャート …… 041
KIT数理データサイエンス教育プログラムについて …… 042
カリキュラムの概要と教育課程表の見方 …… 042
進級条件（学部） …… 043
修業年限と在学制限・休学制限（学部） …… 043
休講・補講・出欠 …… 043
卒業要件（学部） …… 044
自己点検 …… 048
先取り履修制度 …… 048
国際教養理工学課程、サブメジャー制度 …… 049
他学科専門科目の履修について …… 049
大学院科目の履修・単位認定の申請 …… 050
学位論文の審査基準（大学院） …… 050
修了要件（大学院博士前期課程（修士課程）） …… 051
修了要件（大学院博士後期課程） …… 052

3-2 履修申請について
学部
修学計画と履修申請 …… 055
履修申請の手順 …… 057
履修申請の修正方法 …… 059
指定放送大学科目について …… 060

大学以外の教育施設等での学修による単位認定の申請（2026年度入学生） …… 062
CAP制（登録単位数の上限） …… 063

大学院（博士前期課程（修士課程）・博士後期課程）
履修申請期間 …… 063
履修申請時の注意事項 …… 063
履修申請・修正の手順 …… 063

3-3 成績について
成績評価・成績照会・成績公開 …… 065
単位の認定 …… 066
GPA（学部のみ） …… 067
正課学修ポイント（学部のみ） …… 067
連携大学院・他大学院との単位互換制度 …… 068
コーオプ教育 …… 068

CHAPTER 4
進路・資格

4-1 進学について
大学院（博士前期課程（修士課程）と博士後期課程） …… 069

4-2 就職について
就職支援 …… 070
インターンシップ …… 070

4-3 その他
研究生 …… 070

4-4 資格取得について
教育職員免許状 …… 071
その他資格 …… 074

CHAPTER 5
施設

5-1 学内の施設について
大学事務局 …… 075
入試センター/修学支援課・学生課/教務課/庶務課/教職支援室/オナーズプログラム推進課/進路開発センター/八束穂事務室
北校地 …… 076
ライブラリーセンター（LC）/情報処理サービスセンター/金沢工業大学内簡易郵便局
東校地 …… 077
学生ステーション/国際教育交流センター/数理工教育研究センター/自己開発センター/パソコンセンター/Challenge Lab/カウンセリングセンター/コミュニティFM放送局 えふえむ・エヌ・ワン/校友会事務局/夢考房
南校地 …… 080
進路開発センター/扇が丘診療所/Beyond SDGs推進センター/AV室/スポーツ考房トレーニングルーム
自然学苑（セミナーハウス） …… 081
天池自然学苑/池の平セミナーハウス
研究所 …… 082
KITの37研究所
各種サービス施設 …… 082
レストラン LA TERRA/KITサービスセンター/KITブックセンター/カフェテリア IL SOLE/コンビニ（Yショップアクア店）/レストラン・売店 ENERGY

CHAPTER 6
カリキュラムガイド

6-1 カリキュラムガイドについて
学習プランは自分が作る …… 084
自分のテーマを発見し、考え、解決する …… 084

大学におけるポリシー
学部のカリキュラム
6-2 基礎教育部
修学基礎教育課程 …… 087
英語教育課程 …… 089
数理・データサイエンス・AI教育課程 …… 090
プロジェクトデザイン基礎教育課程 …… 091
6-3 情報デザイン学部
経営情報学科 …… 093
環境デザイン創成学科 …… 097
6-4 メディア情報学部
メディア情報学科 …… 103
心理情報デザイン学科 …… 107
6-5 情報理工学部
情報工学科 …… 113
知能情報システム学科 …… 117
ロボティクス学科 …… 121
6-6 バイオ・化学部
環境・応用化学科 …… 127
生命・応用バイオ学科 …… 131
6-7 工学部
機械工学科 …… 137
先進機械システム工学科 …… 141
航空宇宙工学科 …… 145
電気エネルギーシステム工学科 …… 149
電子情報システム工学科 …… 153
環境土木工学科 …… 157
6-8 建築学部
建築学科 …… 163
建築デザイン学科 …… 167
6-9 リベラルアーツ系科目 …… 173
6-10 国際教養理工学課程 …… 175
6-11 教員免許状取得に関する科目 …… 177

大学院のカリキュラム
6-12 工学研究科
機械工学専攻 …… 181
環境土木工学専攻 …… 183
情報工学専攻 …… 185
電気電子工学専攻 …… 187
システム設計工学専攻 …… 189
バイオ・化学専攻 …… 191
建築学専攻 …… 193
高信頼ものづくり専攻 …… 195
ビジネスアーキテクト専攻 …… 197
専攻共通 …… 199
6-13 心理科学研究科
臨床心理学専攻 …… 201

CHAPTER 7
規則集

7-1 学部
金沢工業大学学則 …… 203
金沢工業大学修学規程 …… 210
履修科目の登録の上限に関する規程 …… 212
大学以外の教育施設等における学修の取扱いに関する規程 …… 213
指定放送大学科目の取扱要領 …… 214
金沢工業大学再入学及び編入学に関する規則 …… 214
金沢工業大学転学部・転学科に関する規程 …… 215
金沢工業大学早期卒業に関する規程 …… 216
金沢工業大学特別奨学金給付規程 …… 217
金沢工業大学奨学金給付規程 …… 218

7-2 大学院
金沢工業大学大学院学則 …… 219
金沢工業大学大学院学位申請要項 …… 227
金沢工業大学大学院博士の学位申請に関する規程 …… 228
大学院特別聴講学生規程 …… 231
金沢工業大学大学院転研究科・転専攻に関する規程 …… 231
金沢工業大学大学院特待生規程 …… 232
金沢工業大学大学院修学奨励金規程 …… 233
金沢工業大学大学院長期履修に関する規程 …… 234

7-3 学部・大学院共通
学園協議会規則 …… 235
金沢工業大学学位規則 …… 235
休学・復学の手続に関する規程 …… 238
金沢工業大学派遣留学規程 …… 238
他大学等において修得した単位の取扱いに関する規程 …… 239
金沢工業大学科目等履修生規程 …… 240
金沢工業大学研究生規程 …… 241
金沢工業大学外国人留学生規程 …… 242
金沢工業大学社会人共学者規程 …… 242
金沢工業大学学長褒賞規程 …… 243
金沢工業大学学長表彰規程 …… 244
学生懲戒に関する規程 …… 244
金沢工業大学就職あっ旋規程 …… 245
金沢工業大学就職あっ旋に関する学生心得 …… 246

7-4 学友会
金沢工業大学学友会会則 …… 247
金沢工業大学学生健康保険互助会規約 …… 251

7-5 教育課程表
学部教育課程表 …… 253
教職に関する科目 …… 273
大学院教育課程表 …… 275

CAMPUS GUIDE 2026 学部・大学院
https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2026/
最新情報はWeb版で確認してください。
大学院の科目概要も上記URLから確認できます。

学生ポータル（学内ネットワークのみアクセス可）
https://navi.mars.kanazawa-it.ac.jp/portal/student/
授業の連絡だけでなく、日々大学からの連絡が掲載されます。
ブックマークに登録して毎日確認しましょう。
学内WEB

物語の始まりへ
https://kitnet.jp/monogatari/
金沢工業大学の学生が主役のテレビ番組です。
放送された番組は動画で視聴できます。
さまざまな活動に一生懸命取り組んでいる学生の姿からも学べます。

I-1 大学の理念

学校法人金沢工業大学　理事長
田向　純

本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963年６月10日アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いましたが、この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的名演説といわれています。彼はその中で、

「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」

と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することであります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術研究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいと思うのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つことになります。

学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命でありますが、特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては学生・理事・教職員一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福澤精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿りともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的発展を、はるかに凌駕する神秘的発展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいうべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

高邁な人間形成 我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。

深遠な技術革新 我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。

雄大な産学協同 我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

学園の学章

この学章は、本学のシンボルであるゴールデンイーグル（いぬ鷲）の翼をモチーフに、三大建学旗標

●高邁な人間形成　●深遠な技術革新　●雄大な産学協同

三位一体の学園共同体

●学生　●理事　●教職員

科学技術を学ぶ者への指針を示す、3つの"T"

●Truth＝真理　●Theory＝理論　●Technology＝科学技術

を表現したものです。

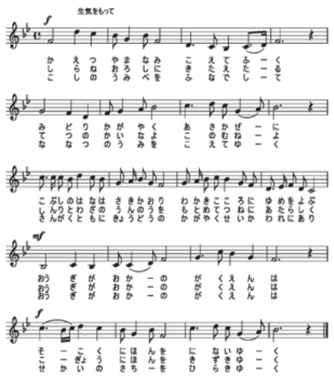
白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージの中に、勇気と信念を象徴しています。

校歌

1. 加越山脈越えて吹く
緑かがやく朝風に
こぶしの花は咲きかおり
若き心に夢を呼ぶ
扇が丘の学園は
祖国日本をにないゆく

2. 白嶺おろしにきたえたる
鉄の腕よこの胸よ
真理と技の蘊奥を
求めて常に新しく
扇が丘の学園は
工業日本をきずきゆく

3. 越の海辺を船出して
七つの海を越えて行く
産学共に協同の
輝く成果我にあり
扇が丘の学園は
世界の幸をひらきゆく



学園共同体の理想

学園創設者の泉屋利吉翁は、学生・理事・教職員の三位一体で構成する学園共同体の理想を掲げ「工学アカデミア」の建設に全力を傾けました。学園創設期においては、学生を"Young gentlemen"と呼び、彼らの自律と自主的な活動を支援し、自由と活気ある学園の樹立に心がけました。特に、直接、その設立を企画した穴水湾自然学苑は、豊かな自然の中で教職員と学生が寝食を共にし、規律ある共同生活を送ることにより、お互いの信頼関係の構築と学園共同体の理想を実現せんとするものでありました。傍ら、教職員の資質向上を図るため、教職員の学内外への留学制度を構築し、全ての教職員に教育者としての自覚を強く求めました。

初代校長・学長の青山兵吉先生は"Truth(真理)""Theory(理論)""Technology(技術)"を当時の学園の記章に三つの"T"として込められ、学園を「知を求める場」「知を生産する場」とされ、本学園卒業生が我が国産業界において指導的役割を担う技術者・研究者として活躍することを強く念じ、また信じておられました。学術に生きる青山兵吉先生の純粋で崇高な願いと言動は、当時の教職員には忘れ難いものがあります。

第２代大学学長の京藤睦重先生は、学生の学力や資質を直視され、多年にわたる教育者としての信念に基づき、学園共同体の理想を「親切な学園である」との言葉に込められ、学生との信頼関係を構築する軸として、基礎学力の向上を目的とする徹底した教育訓練を展開されました。特に、「努力すれば、必ず報われる」と学生に熱く語りかけておられた姿や「誠意をもって学生に対応すれば、学生は必ず応えてくれる」と自ら率先して学生と向き合う活力ある行動は、教職員を励ますのみならず、学外の多くの方々から支持されました。

私は、"KIT-IDEALS"を標榜するにあたり、学園が組織として重視すべき価値と位置づけた

・Kindness of Heart(思いやりの心）は、京藤睦重先生の教育者としての学生を思う心を

・Intellectual Curiosity(知的好奇心）は、青山兵吉先生の学者としての純粋な崇高さを

・Team Spirit（共同と共創の精神）は、泉屋利吉翁の学園共同体の理想を追究する闘志に満ちた活動を

それぞれ想起し定めたものであります。

また、学園を構成する（学生、理事、教職員）個々人が重視すべき価値として位置づけた

・Integrity（誠実）

・Diligence（勤勉）

・Energy（活力）

・Autonomy（自律）

・Leadership（リーダーシップ）

・Self-Realization（自己実現）

は、創設者を始めとして、歴代の学長・校長が話されたり、学生を諭された言葉の数々から、その思いを要約させていただいたものであります。

学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が生涯にわたる「行動」を通して自己実現を目指され、学園共同体の理想実現に寄与されますことを念願するものであります。

I-2 教育研究方針

金沢工業大学　学長
大澤 敏

金沢工業大学は、建学の綱領である「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」に基づき、人間力豊かで、「自ら考え行動する創造的探究・実践人材の育成」を教育目標としています。

現代社会はかつてない速度で持続可能な社会に向けて変化しています。その中で日本が世界をリードし、成長し続けるためには、イノベーションを絶え間なく創造できる人材の育成が求められています。このような社会的な要請に伴い、我が国の成長分野である「デジタルトランスフォーメーション」（DX）、「グリーントランスフォーメーション」（GX）、「サステナビリティ・トランスフォーメーション」（SX）の実現に向けて社会課題の解決を目指した社会実装型の教育と研究を全学的に推進しています。変化の激しい時代の中で、学生が本質を見抜く力を養い、それぞれの夢やビジョンを主体的に実現してゆくための多様な教育システムを用意しています。

金沢工業大学という学びの場において、高い志をもって、自然や人間に対する認識を深め科学・工学的能力、並びに文理探究的能力や感性を磨くと共に、予測困難な時代に身をもって当たり、各自の創造的挑戦を形あるものにすることで、各学生がきらめくような成長を遂げることを願っています。

「学力×人間力＝総合力」 知識を知恵に変換する教育

本学の教育は教職員と学生との共同作業であり、教える側と学ぶ側との連携や協同があって、はじめて教育の成果に繋がると考えています。学生の持っている能力や意欲を引き出し、後押ししてゆくことが教育の本質であり「学生が教えられる側から教える側の立場になる仕組み（教え合いの仕組み）」は極めて有効な教育手法になります。この精神は「教学半」（きょうがくなかば）という中国の古典の礼記として学内に掲げられています。これは、人に教える立場にある者は学ぶ者に数倍する力量をもたねばならぬ、との意味であり、それを実践する教育システムの中で学生一人ひとりが成長することを期待しています。

また、科学技術が急速に進展する今日の社会においては、高等教育で得られた各分野の専門的な「学力」は勿論、多様な分野や世代・文化の異なる人達と協力してチームの中で力を発揮できる「人間力」が求められます。授業（正課）では「学力（基礎力と専門力）」、プロジェクト活動等を含む正課外では「人間力（社会で活躍することのできる力）」を高め、総合力（＝「学力」×「人間力」）を効果的に身につけて将来の夢やビジョンの実現につなげてほしく思います。「総合力」には「学力」と「人間力」を統合し知識を知恵に変える能力が含まれており、以下に示す学習プロセスを繰り返し行いながら、知識を応用できる能力を身につけていくことを常に念頭において行動してください。

正課や正課外活動における能動的な学習プロセス

① 基礎知識や専門知識を修得する

② 知識を基にいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造し実践する

③ 修得した事がらや実践した内容を表現、発表、伝達する

④ 実践した内容・成果を総合的に評価する

アクティブでオープンなキャンパスに

学生の能動的で主体的な学修の促進と学修意欲の触発を推進するためには、上述した理念や教育目標を踏まえた上で、正課と正課外活動が密接に連動し、学生の学びの場の提供、地域社会や産学連携などにより、学生と社会が共に成長を図るための協同と、これらを支援するキャンパス環境の構築が必要です。本学では、学生が主体的に学ぶための各種教育支援センターや地域・産学共創のプロジェクト活動などを整備しています。学力と共にコミュニケーション力や協働する力、学習への取り組みの姿勢や意欲、社会に出てから必要とされるコラボレーション力や共創・協同の能力を育成するために、「正課×正課外」教育を通じて能動的な学びの場とするアクティブでオープンなキャンパスの構築を目指しています。

本学が推進する「正課×正課外」教育とは、正課の授業内容と社会との関わりを学生が実感できるようにすることであり、正課で身につけた「学力」「研究力」を社会実装プロジェクト等の正課外で「活用」することで能力や意欲を引き出し、そこから新しい課題を再発見し学生の成長へと導く循環を提供する教育システムのことです。「正課×正課外」教育では、分野の異なる学生、世代の異なる社会人、そして文化の異なる外国人と共に学ぶ仕組みも含まれています。これらの仕組みの発展形として、学生が企業で4カ月～１年の長期に渡って就労しながら企業と大学で同時に学ぶKITコーオプ教育科目を設けています。社会に開かれたキャンパスで、学生が成長することを期待しています。

大学院でのさらなる成長

大学院では、自らのより一層の視野の拡大と研鑽に努めることを推奨し、科学技術が急速に進展する今日の社会において、予測困難な時代に果敢に挑戦し、柔軟に対応できるイノベーターの育成に軸足を置いた教育・研究を展開しています。新しい知識や知見を探求し、創造的活動を通して世界に通用する研究者や高度専門技術者に成長してほしく思います。

博士前期課程（修士課程）では、自分の専門領域における基礎と応用を学ぶと同時に、研究テーマの設定から、研究・開発の手法までを主体的に学び、専門家としてのバックボーンを確かなものにします。その上で、分野の異なる専門家とコラボレーションできる能力を身につけます。社会との接点を強く持ちながら、国際社会においても活躍できるプロフェッショナルとしての倫理観の育成や行動設計の明確化などを図ります。

博士後期課程においては、自立して研究活動ができることに加え、高度な専門領域において世界で活躍できる技術者・研究者を目指します。国内外の研究開発や産業界のニーズを的確に捉えるための視野を持ち、海外の大学や企業の研究者と協働できる能力や国際会議等におけるディベート力を育成します。

期待 学生時代を実り多いものに

学生の主体的な学びが実現できる学修環境空間（ワークスペース）、教育支援センター、アクティブ・ラーニングや「正課×正課外」活動を実践するための学生ステーション、ライブラリーセンター、イノベーション＆デザインスタジオ、夢考房などの教育設備やシステム、プロジェクトなどを積極的に活用して、学生生活を実り多いものにしてください。皆さんが基礎および専門知識とその活用プロセスを自ら学び、一人ひとりが成長し社会で活躍されることを切に望みます。

I-3 教育システム

教務部長
山口 敦史

人間力豊かで、自ら考え行動する創造的探究・実践人材を育成するために、課程、学部、学科には、それぞれの教育目標があり、科目群、一つ一つの科目にも学習・教育目標があります。(この冊子の6.カリキュラムガイド(p.083～)を参照してください)

本学では、専門的な学問やその基盤となる基礎的な学問を学び、それらの内容を真に理解することにより身につく「学力」と、多様な分野や世代の異なる方々と協働することで身につく「人間力」の両方をバランス良く兼ね備えた能力を「総合力」と称して、学力×人間力＝「総合力」の向上に資する教育を実践します。この総合力は、正課内、正課外のさまざまな活動を通して身につきます。本学の教育は、この能力を活かして、予測困難な社会の変化に柔軟に対応し、チームの中で率先して活躍できるバイタリティーに富んだ将来有為なグローバル人材の育成を目指しています。

探究的な学修（アクティブ・ラーニング）

本学では、すべての科目で、問題発見・問題解決学習、双方向教育、予習・復習、課題・演習、討議・発表、グループワーク、反転授業（事前に予習をして授業に臨み、授業ではその内容について深く理解するための議論や教え合いを行う形式の授業）等を取り入れた探究的な学修（アクティブ・ラーニング）を積極的に導入しています。

本学のアクティブ・ラーニングの特徴は、教員による一方向の授業だけではなく、学生自身が能動的に学修することに主眼を置き、教員と学生がともに授業を構築し、学びを深めるための工夫が取り入れられていることにあります。このため、授業ごとに学生自身が自己点検を行い、気づきを通して自己成長に繋がるような学修が実践できます。

アクティブな学習を実践するためには、学年を問わず学生同士が教えあうことや、企業の技術者、地域の方々と世代や分野を超えて関わりながら学ぶことが必要です。本学では、そのためのさまざまな場やプロジェクト活動を提供していますので積極的に参加してください。

大学院では、研究室の運営、学外の研究機関や企業との協働、研究成果の発表などを通して、調整力や社会人としての基礎力を養います。また、後輩に対する指導力や研究グループのリーダーとしての能力をもつ高度専門技術者としての素養を身につけます。自らの学修、研究のみならず同輩との切磋琢磨に加えて、後輩達に対する指導や助言等を通じて自らが成長する「場」としても充実した大学院生活になるよう努めてください。

学習支援計画書・eシラバス

学習支援計画書（シラバス）は、授業に関する大事な情報源です。受講の際は、その授業科目を学習することによって何ができるようになるのか、成績評価の方法、各回の授業内容などを、事前に確認しておいてください。また、学習支援計画書の内容をネットで見られるようにしたものがｅシラバスです。ｅシラバスでは、学習支援計画書の内容（授業開始前のアナウンス）に加えて、授業が進んでいく段階で提示される教材、レポート課題などの情報もリアルタイムで追記・更新されていきます。予習・復習、自己点検にこのeシラバスを活用し、学びの過程や自らの成長を振り返ることで、将来の進路を選択することに活用してください。

さらに、各教員は学生からの質問や相談を受けるためにオフィスアワー（様々な能力レベルの学生に応じて個人教授する制度）と呼ぶ時間を設けています。不明な点を解決し自分の能力を伸ばす絶好の機会ですので、積極的な活用を心がけてください。

教育付加価値日本一を目指す取り組み

本学が最も重視することは、入学した学生の「力」を引き出し、「学力（基礎力と専門力）」ならびに「人間力（社会で活躍することのできる力）」を高め、個々の学生の「学力×人間力＝総合力」を最大限に成長させることです。この「総合力」を涵養するため、正課教育（授業）と正課外教育（課外活動）の相乗学修を実現する教育システムを展開します。これにより、学生は、正課教育ではチームで問題を発見・解決に取り組む教育を主としたカリキュラムのもとで学修し、正課外教育では正課教育で学修した知識・スキルを統合して実社会が抱える問題の解決に取り組むことで、学生が「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」としての素養を身につけることを目指しています。

本学では、学びに対して真摯な学生の向学心を一層奮い立たせるような環境・支援体制の整備に積極的に取り組むことで、「教育付加価値日本一」を目指しています。

チームラーニングの推進

探究的な学修（アクティブ・ラーニング）を前提としたチームラーニングでは、他者を尊重し協力し合うことが重要です。学びの過程では、知識の修得だけでなく他者との協働で人間力も養われます。

本学では、正課外においても学生同士で教え合い・学び合い、議論し、ものをつくり、実験できる環境（ラーニング・コモンズ）で学生が主役となって教職員と共に学びを深めることができます。

学生の皆さんには、こうした環境で学力と人間力を互いに高め合える学びの輪を主体的に創り出し、他の学生や教職員と協働しつつも、ときとしてリーダーシップを発揮しながらチームで活動してください。

TA・SAの活躍

本学には、学生の学内勤務制度「教育補助員（大学院生：TA・学部生：SA）」を設定しています。TA・SA（Teaching Assistant ・ Student Assistant）は、その名の通り、教員を補佐する役割を担います。正課において、教員側の立場で履修学生からの質問に答えるのみならず、ときには教員と共に授業の方針について話し合うこともあります。この制度の中でも、特にアクティブ・ラーニングの輪の中心で活躍を期待されているのが「シニア TA・SA」です。

シニア TA・SA は、正課の授業の内容について、正課内・正課外で学生の質問に対して解説・指導を行うことで、学習のサポートを行います。内容を理解した学生が、十分な理解に達していない学生に教えることで、授業内容を理解した学生を増やし、さらに他の学生に繋ぐ「教え合いの連鎖」を創りだしています。

また、シニア TA・SA が解説・指導した内容は、教員にもフィードバックされ、学生の視点、意見を取り入れることにより、授業の改善が図られています。

I-4 学生心得

学生部長
佐藤 進

金沢工業大学は、皆さんを「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」の素養と「人間力」を身につけた人材として、社会に送り出すことを最も大切な教育目標としています。新型コロナウイルス感染症が収束した後も、日本や世界各地で災害が発生し、戦争や紛争が繰り返されています。一方、科学技術は日々進歩し、新しい技術が生み出されています。このような状況下では、どのような知識やスキル、思考、人間力を備えた人が求められるでしょうか。このような時代に、大学という場所で新たな学びをスタートしようとしている皆さんには、是非、現時点での自分なりの考えを持ち、大学生活での様々な経験を通して、あなたが将来の自分に必要だと信じる多くのことを身につけてほしいと思います。

本学では、学生・教職員・理事会が「KIT-IDEALS」という価値観を共有し、協同して教育活動を推進しています。また、本学学友会は、学生としてのモラルや倫理の向上を図るため「学生宣言」を全学議会において平成18年に採択しました。この「学生宣言」は、各教室に「KIT-IDEALS」と共に掲示してあります。その序文には「学生ひとり一人が、本学学生としての人間力を備えた行動をとり、また地域社会の一員としての責任を認識し、学生宣言に掲げる行動規範を遵守します」と書かれています。皆さんは学生としてのみならず社会の一構成員としての責任と義務を意識した行動をとらなくてはなりません。この「学生宣言」に署名することで、その意味を理解し本学の学生として歩みだすことになります。

本学で学ぶ皆さんには、学園を形成する一員として、大学を支え、大学の発展に寄与する責任と義務があります。学生は学ぶ者の立場で、教職員は導く者の立場でお互いに努力し、力を合わせ、より優れた環境を形成しようとする営みは、結果的に皆さんに高いレベルの成長をもたらします。自分が所属する組織・集団の発展や活力はひとり一人の幸せに繋がっていきます。特に大学は高等教育機関として、一生涯自分を高めるための絆を繋いでいく共同体であることを忘れず、勉学のみならず倫理観の育成やマナーに関しても真摯な気持ちで取り組んでください。学園全体で全力をあげて皆さんを支援しますので、皆さんも自己実現に向かって一歩一歩着実に前進されることを大いに期待します。

修学上の心得

学ぶ者の大切な姿勢は、自らが求めて学修しようとする意欲を持ち、実践し、そして継続することにあります。「こうでなければならない」「こうしなければならない」という発想からは、苦悩や苦痛が生まれがちですが、「こうしたい」「ああなりたい」という発想から生まれる活動の先には、多少苦労することがあったとしても、楽しさやうれしさ、充実感が得られやすいものです。与えられるのではなく、自覚と目的意識を持ち、自ら積極的に学ぼうとする姿勢が重要です。没頭できる時間を大切にしてください。情熱を傾けられるものを見つけてください。そして皆さんが卒業する時に、「これを学び」「これができるようになった」と明言できることを期待しています。本学における、面倒見の良さとは、このような姿勢で学ぶ学生を全力で支援することにあると考えています。

生活上の心構えと学生生活

キャンパス内のルールや生活上のルールは、人間としての基本的なマナーと常識で成り立っています。ルールを守ることは当然として、自分の行動の影響力を考え、周囲の人を思いやる想像力と行動が求められます。他者を思いやることができない人やルールを守れない人を皆さんは信用できるでしょうか。そのような人は、社会ではどのような評価を受けるでしょうか。他者から信頼されて仕事を任せてもらえるでしょうか。自分の行動が引き起こす結果を想像できない学生や、ルールを守れない学生は、人としての信頼を失い、それまでのすべての努力が無になってしまうおそれがあります。十分な配慮と自戒を心がけてください。様々な行動を起こす前に、少し止まって、他者の立場になって考えてみてください。

充実した学生生活のサポートを目的として「学生心得　Campus Diary」を配付しています。冊子の表紙は皆さんの仲間がデザインしたものです。KIT-IDEALSにあるような行動規範を身につけ実践するための有意義な情報や、困ったときの対処方法・相談窓口なども掲載していますので、常に持ち歩いてください。

皆さんは大学での学びをスタートします。学ぶことを支えてくれている家族、協同している友人とのかかわり、支援を惜しまない教職員との関係を大切にし、自分自身の成長を目指して努力してください。皆さんの大学生としての一つ一つの行いが、この先の皆さんの人生とどのように繋がることになるのかは現段階ではわかりません。しかし、それらが影響し合いながら皆さんの未来を形づくっていくことは事実です。やるにせよ、やらないにせよ、よく考え、自らの責任のもとに判断し、行動していってください。これまで過ごしてきた時間は変えることはできませんが、これからの過ごし方は変えられます。そして、これからの過ごし方により、皆さんのこれまでの営みの価値をも変えることができるのではないでしょうか。日々の営みの延長線上に自分の将来があることを胸に留め、実りある学生生活を送られることを願っています。

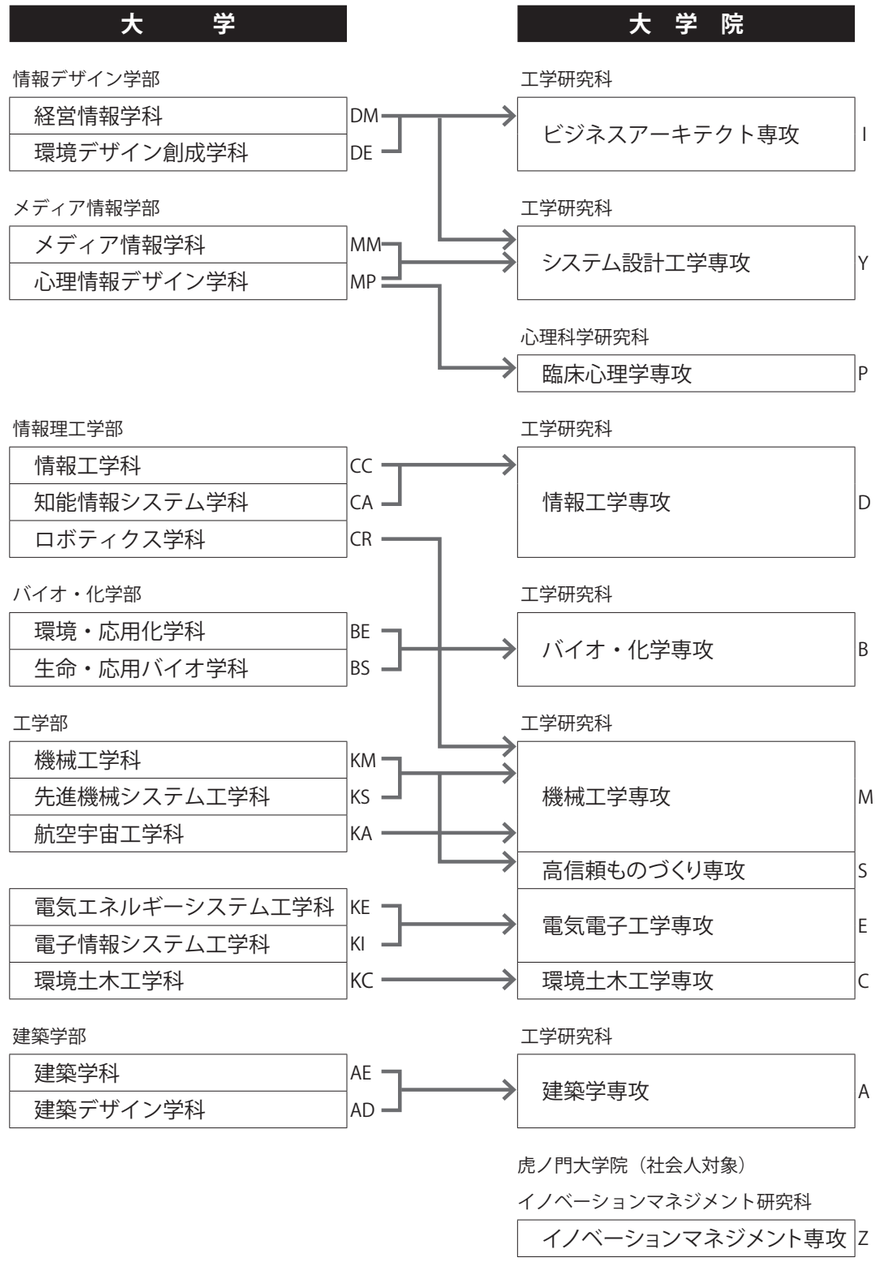
I-5 大学・大学院の構成

金沢工業大学において、大学は6学部17学科、大学院は3研究科11専攻から構成されています。

学部では、それぞれに関連する専門教育を通して、教養と識見が豊かで、社会において確かな技術者として高い倫理観を備えた人材の育成を目指しています。

大学院では、専門的かつ先進的な学術の理論および応用を教授、研究し、創造性豊かで優れた研究・開発能力を有する研究者と高度な専門知識・能力を有する人材の養成を行い、我が国の科学技術並びに文化の発展を担う人材の養成を目的としています。

学科名、専攻名の右側に記載しているアルファベットは、学科・専攻の略称です。



2-1 修学支援について

社会で活躍できる技術者となるためには授業で知識を学ぶことだけではなく、大学生としての基本的な修学能力を育成することも重要です。大学のカリキュラムを理解し、自ら修学計画を立案・実行していくことも社会で活躍するための第一歩です。各項目をよく理解し、修学に役立ててください。

金沢工業大学の教育目標は「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」の育成であり、人間力豊かな技術者の育成を目指しています。学力と人間力が不可分との観点から「学力×人間力（社会で活躍できる力）＝総合力」の形で能力を育むことができる学習プロセスに基づいた、「総合力」ラーニング型授業体制を提供することで、本学学生の皆さんが創造力豊かな技術者になるための努力を支援しています。

学生ポータル

休講・補講などの授業に関する情報や学生向けの案内など学生生活をおくる上で必要な情報は全て学生ポータルから確認することができます。**毎日必ず確認しましょう。**

■学生ポータル

https://navi.mars.kanazawa-it.ac.jp/portal/student

本学に入学すると学生ポータルアカウント（学籍番号と初期パスワード）が全員に付与されます。

●学籍番号：半角数字7桁

●パスワード：半角英数8桁～32桁

※初期パスワードは生年月日（和暦）になっています。（例）平成19年8月14日生の場合…h190814

パスワードは、個人情報が悪用されないように容易に推測できないものに定期的に変更し、厳重に管理してください。

パスワードを忘れた場合、教務課（1号館2階）または情報処理サービスセンター（6号館2階）へ相談してください。

KITナビ

学生ポータルには、KITナビという機能があります。学生の皆さんが履修した科目が一目でわかるようになっています。

「学生ポータル」→上部タブ「KITナビ」からアクセスしてください。

科目のボックスにカーソルを合わせると、出席率と成績評語（S～F）が表示されます。

これまでに履修した科目が表示されます。履修済み・不合格・現在履修中で色分けされています。

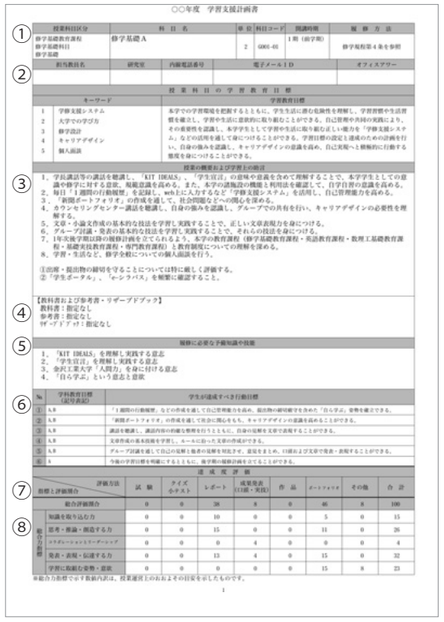
KITナビは、eシラバスの入口にもなっています。各授業科目をクリックすると、eシラバスのページへ移動します。eシラバスについては、p.014を参照してください。

学習支援計画書（シラバス）

学生は、大学生としての基本的な修学能力を育成するために、自らが修学計画を立案、実行していく学習スタイルを構築する必要があります。そのために、各授業科目の目標、教育内容などを明示した学習支援計画書（シラバス）を公開し、教育内容のオープン化を行っています。また、授業内で定期的に自己点検や振り返りを行い、学習支援計画書に明記している「学生が達成すべき行動目標」について各自の達成度の確認を行います。

「学生ポータル」→下部リンク集「学部 学習支援計画書」または「大学院 学習支援計画書」

修学・履修計画を立てる際は、学習支援計画書を参考にしてください。学習支援計画書には、以下の内容が掲載されています。



①科目の単位数や開講期

②科目担当者情報

③学習教育目標とキーワードおよび授業の概要

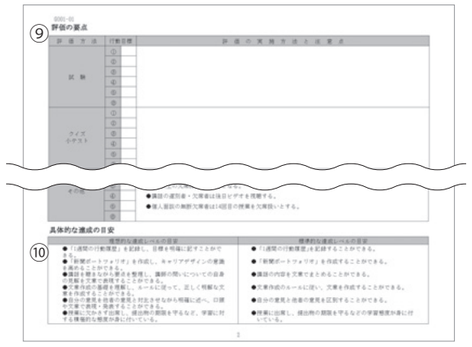
④授業で使用する教科書や参考書

⑤履修前に必要とされる知識や技能など

⑥学生の行動目標「何ができるようになるか」
教育プログラムでの教育目標との関係

⑦評価方法と評価割合

⑧総合力指標



⑨評価方法ごとの行動目標との関係と、評価の実施方法や注意点

⑩当該科目で期待される理想的な達成度レベルと標準的な達成度レベル

⑪各回の授業内容（レポートや学習課題、予習・復習の内容と目安となる学習時間）

eシラバス

eシラバスは、シラバスに基づいて各回の授業内容を動的に示すことができる学修支援システムです。科目担当教員から各授業回の詳細な内容や個別の教材・課題が提示されることがあります。また、レポート等の提出をeシラバス上で行うこともあります。予習・復習に活用し、学びの過程や自らの理解度を確認し、さらなる学修への足掛かりにしてください。

■eシラバスへのアクセス方法

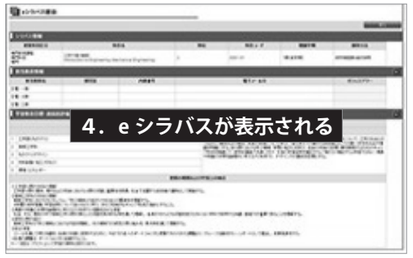
学生ポータル・KITナビ・科目の順番に選択することでアクセスできます。

学生ポータルTop

学生個人ページ

KITナビ

eシラバス



eシラバスの詳しい操作方法は、学生ポータルログイン後の画面左側にある「各種マニュアル」から参照できます。不明な点は「情報処理サービスセンター(p.076)」に問い合わせてください。

自己成長シート

自己成長シートには、履修科目、成績、学長褒賞や資格取得の情報などが掲載されています。また、課外での活動状況を自身で入力することも可能です。定期的に確認・入力し、自己の成長を振り返り、今後のさらなる成長に繋げていけるようにしましょう。

自己成長シートは、「学生ポータル」→上部タブ「自己成長」から参照できます。

①持続的自己成長のための活動ポイント

特別奨学生の継続審査および次年度からの新規申請に必要なポイントです。ここから獲得状況などを確認できます。

②修学履歴

修学アドバイザー、履修科目数、出席率、GPA等の情報が確認できます。

③単位修得状況

進級条件、単位修得状況、課程別修得単位数等の情報が記載されています。

④学長褒賞取得状況

学長褒賞の内容と推薦条件、推薦者等が表示されます。

⑤資格取得状況

受験した資格とその合否、合格によって得られたポイント等が表示されます。

⑥課外活動状況

活動期間、活動内容等が表示されます。

⑦インターンシップ

参加した期間、企業名などが表示されます。

⑧活動記録・参加プログラム等

学内での研究成果発表や留学等の活動内容が表示されます。

⑨受講講座・講習会・ワークショップ等

受講日、講座名などが表示されます。

⑩オナーズプログラム導入・基礎提出状況

⑪専門能力

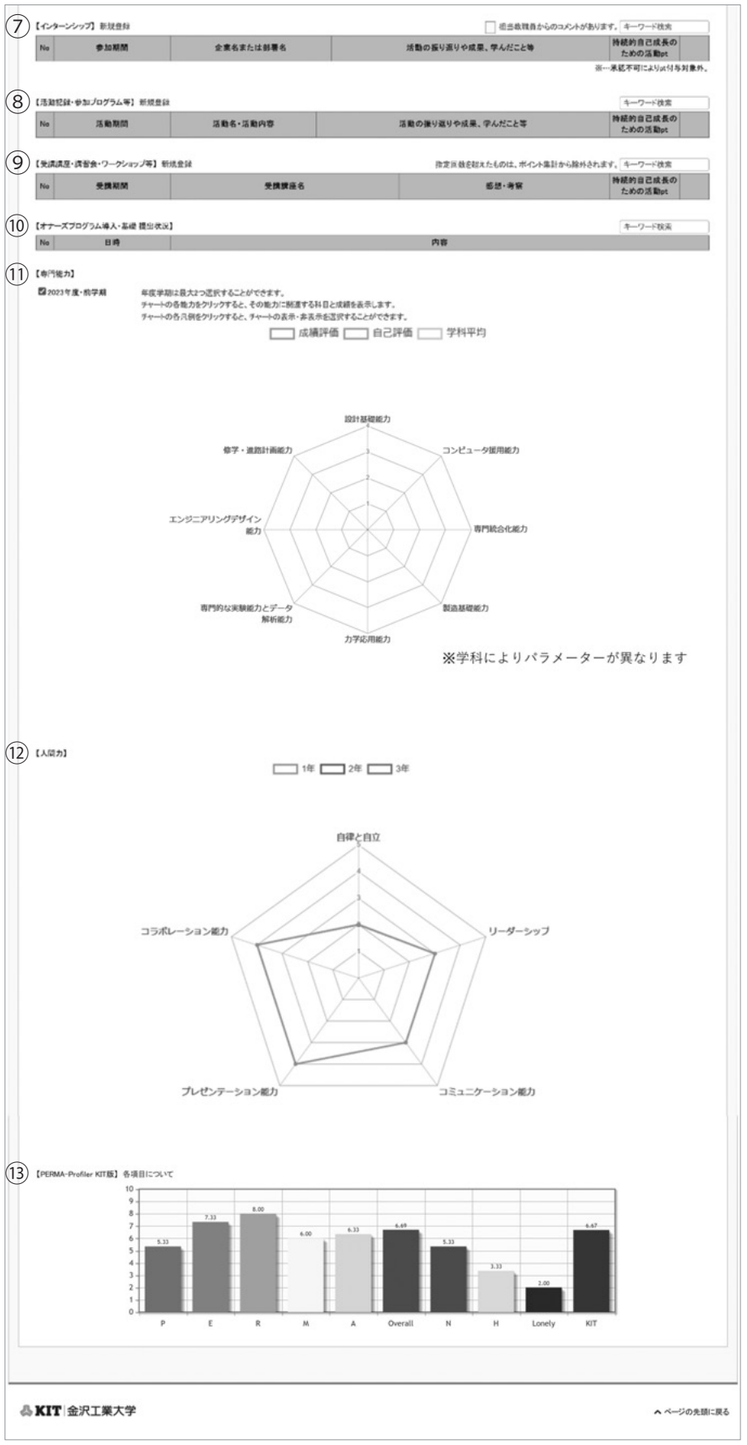
各学科が定めるカリキュラムポリシーで設定された科目群の学習・教育目標に基づく専門能力を、「①成績評価」、「②成績評価の学科平均」、「③授業アンケート内の達成度評価を活用し算出した自己評価」の3つをレーダーチャートに可視化しています。

⑫人間力

各学年の学期末に実施する達成度評価ポートフォリオ内の設問において、KIT人間力＝「自律と自立」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「プレゼンテーション能力」、「コラボレーション能力」の5つの能力を、ルーブリック手法で自己評価し、レーダーチャートに可視化しています。

⑬PERMA-Profiler KIT版

well-being（主観的幸福感）のアンケート結果が表示されます。



電子メールの利用

本学では大学独自ドメインのメールアドレスを全学生に配付しています。このメールアドレスには下記の各種連絡や災害などの緊急時の連絡が入りますので、スマートフォンなどで受信設定を行ってください。

●大学からの各種連絡事項
1.休講・補講情報
2.学生ポータルでの各種連絡の通知
・共通告知（タイトル一覧）
・授業連絡
・学部・学科・クラス連絡
・学生個人連絡

●Microsoft365アカウント（2026年度入学生）
・メールアドレス：c学籍番号@st.kanazawa-it.ac.jp
・初期パスワード：和暦の生年月日
（例）平成19年8月14日生の場合…h190814
メールアドレス初回利用時に多要素認証の登録を求められます。
・モバイルアプリ認証：自身のスマートフォンに認証アプリをインストールし、サインインの都度認証を行います。
・SMS認証：機種変更時など、モバイルアプリ認証が利用できなくなった場合に、携帯電話番号を利用したSMS（Short Message Service）により認証を行います。

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/student-st/
「学生ポータル」→下部リンク集「情報処理サービスセンター」→上部メニュー「電子メール」→「電子メールの利用」→「大学独自ドメイン（st.kanazawa-it.ac.jp）のアドレスについて」

告知テレビ・掲示による連絡

各種情報の案内用に「学内告知テレビ」が学内の各建物の主要な個所に設置されています。
・当日分の休講・補講・臨時教室変更
・奨学金に関する連絡
・就職・資格・各種イベントの実施案内など
休講・補講・臨時教室変更に関する情報は、学生ポータルでも案内されます。

また、1号館～3号館通路の掲示板には修学支援課・学生課・教務課のほか、学内のさまざまな部署からの連絡が掲示されています。

学内告知テレビ

1号館～3号館通路の掲示板

修学アドバイザー

各クラスには、皆さんの学習や学生生活について支援する修学アドバイザーがつきます。まずは修学アドバイザーの教員名と研究室（教員居室）、メールアドレスを確認し、気軽に相談してください。
修学アドバイザー　：「学生ポータル」→下部リンク集「修学アドバイザー一覧」
研究室（教員居室）：「学生ポータル」→下部リンク集「研究室一覧」
メールアドレス　　：「学生ポータル」→下部リンク集「教職員情報検索」

修学アドバイザーへの相談例
・修学、生活についての相談
・修学計画立案のアドバイス
・学生生活を有意義に過ごすアドバイス

1年次は学期ごとに、2年次以上は年度初めに全員と個別面談を行いますが、その他の時間でも相談することができます。

オフィスアワー

本学では、授業のサポートの一つとして「オフィスアワー制度」を設定しています。
オフィスアワーとは、各教員が学生の皆さんの学習を支援するために、あらかじめ定めた時間に研究室（教員居室）等で待機して、授業内容の分からないことや質問に応じる制度です。
各授業の初回に、科目担当教員からオフィスアワーの時間が周知されますので、学習成果を上げるために活用してください。教員のオフィスアワーは、各科目のeシラバス上部「担当教員情報」に記載されています。

研究室（教員居室）は、学生ポータル下部リンク集「研究室一覧」から確認できます。
また、やつかほリサーチキャンパスに研究室を持つ教員は、21号館教員控室に在室している場合があります。在席状況は学生ポータル下部リンク集「21号館教員控室 在席状況」から確認できます。

在席状況一覧

表示情報

階	4F

最新情報　3F情報へ

利用者氏名 ▲▼	利用座席 ▲▼	内線番号	利用時間	時間割					
				1	2	3	4	5	6
	4A07	5007	15:30~20:00						
	4D01	5031	10:52~20:00						
	4C08	5028	09:56~20:00						
	4A01	5001	15:16~17:00						
	4F07	5057	15:46~20:00						
	4E01	5041	15:42~18:00						
	4D10	5040	11:13~19:05						
	4F06	5056	09:09~20:00						
	4C05	5025	07:27~20:00						

※ 時間割のこにマウスカーソルを当てることで、科目名を確認できます。
※ 利用時間内であっても先生が席に居ない場合があります。
21号館教員控室 在籍状況

自習スペース

学内には自学自習のためのスペースが設けられています。個人の自学自習や授業でのチーム活動に活用してください。

・7号館1階自習室　利用時間　365日　24時間
授業における学習課題やプロジェクト学習が多く、自習室は勉強や仲間同士での学び合い、グループ討議などに活用されています。

・ラウンジ　利用時間　建物ごとの利用時間に準ずる
学内の建物ごとにラウンジが設けられています。

2-2 生活支援について

奨学金

▶受付窓口：修学支援課・学生課（1号館2階）

奨学金に関すること・奨学生への情報は、学生ポータル・修学支援課・学生課ホームページ・学内告知テレビ・修学支援課・学生課掲示板（1号館1階）にてお知らせしています。

■独立行政法人 日本学生支援機構奨学金

奨学生の募集は、原則春（一次）募集及び秋（二次）募集の年2回あります。

（学部生）

貸与奨学金（返還義務のある奨学金）		
第一種奨学金（無利子）（月額）		第二種奨学金（有利子）（月額）
自宅通学	自宅外通学	
20,000円、30,000円、40,000円、最高月額54,000円から選択	20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、最高月額64,000円から選択	20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、60,000円、70,000円、80,000円、90,000円、100,000円、110,000円、120,000円から選択

最高月額は、奨学金申込時の生計維持者の収入が一定以内の場合のみ利用できます。

給付奨学金（返還義務のない奨学金）

国による「高等教育の修学支援新制度」により給付奨学金に加えて授業料減免および入学金減免（新入生のみ）の支援を併せて受けることができます。

高等教育の修学支援新制度

世帯の所得金額に基づく区分		給付奨学金		授業料減免（年額）	入学金減免（新入生のみ）
		自宅通学	自宅外通学		
第Ⅰ区分		38,300円（42,500円※1）	75,800円	700,000円（700,000円※2）	200,000円（200,000円※2）
第Ⅱ区分		25,600円（28,400円※1）	50,600円	466,700円（700,000円※2）	133,400円（200,000円※2）
第Ⅲ区分		12,800円（14,200円※1）	25,300円	233,400円（700,000円※2）	66,700円（200,000円※2）
第Ⅳ区分	多子世帯	9,600円（10,700円※1）	19,000円	（700,000円※2）	（200,000円※2）
	理工農系	―	―	233,400円	66,700円
第Ⅰ～Ⅳ区分に該当しない	多子世帯	―	―	（700,000円※2）	（200,000円※2）

※1　生活保護（扶助の種類を問いません）を受けている生計維持者と同居している場合等の金額となります。
※2　各区分の多子世帯の金額となります。
（注）高等教育の修学支援新制度の詳細は、文部科学省のWebサイト（https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm）をご覧ください。
（注）第一種奨学金と給付奨学金を併用する場合は、貸与額が調整されます。

（文部科学省サイト）

○大学院進学希望の方へ

特に優れた業績による返還免除内定制度

大学院での貸与（第一種奨学金または授業料後払い制度）終了時に認定する"特に優れた業績による返還免除"を、大学院に進学する前に内定する制度です。
大学学部において修学支援新制度を利用している、または住民税非課税世帯の学生であって、大学学部の成績等をもとに特に優れた業績を挙げる見込みがあると認められた人について、大学院での貸与終了時に全額または半額の返還が免除されます。

（大学院）

貸与奨学金（返還義務のある奨学金）				
第一種奨学金（無利子）（月額）		春入学者：春募集のみ 秋入学者：秋募集のみ 授業料後払い制度（無利子）		第二種奨学金（有利子）（月額）
博士前期（修士）課程	博士後期課程	博士前期（修士）課程		博士前期（修士）課程　博士後期課程
		授業料支援金（年額）	生活費支援金（月額）	
50, 000円、88,000円から選択　※	80,000円、122,000円から選択　※	776,000円　※	20,000円、40,000円、0円（利用しない）から選択　※	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

※　**特に優れた業績による返還免除制度**
第一種奨学金、または授業料後払い制度の貸与を受けていた学生のうち、大学院在学中に特に優れた業績を挙げた者（返還免除内定制度採用者を含む）として日本学生支援機構から認定された場合には、貸与終了時に奨学金の全額又は半額の返還が免除されます。
（注）詳細については、日本学生支援機構のWebサイト（https://www.jasso.go.jp/shogakukin/saiyochu/gyosekimenjo/index.html）をご覧ください。

（日本学生支援機構サイト）

■地方自治体奨学金・民間団体等奨学金

都道府県、市町村や民間企業、財団法人等が行っている奨学金があり、本学に届いた奨学金情報は、学生ポータルや修学支援課・学生課ホームページ、修学支援課・学生課掲示板（1号館1階）にてお知らせします。

大学院進学支援等 特別奨学生制度（学部のみ）

▶受付窓口：オナーズプログラム推進課（1号館4階）

学部2年次・3年次・4年次進級時に大学院進学支援等特別奨学生の選抜を行います。
入学後、正課・課外の活動の成果によって2年次、3年次、4年次に特別奨学生（KITリーダーシップアワード生）にチャレンジすることができます。

定員	フェロー	メンバー	合計	選考方法
2年次（進級時）	2	10	12	1年次の成績とKITオナーズプログラムの活動状況により選抜
3年次（進級時）	2	10	12	1～2年次の成績とKITオナーズプログラムの活動状況により選抜
4年次（進級時）	2	10	12	1～3年次の成績とKITオナーズプログラムの活動状況により選抜
合計	6	30	36	

※詳細は、「学生ポータル」→下部リンク集　修学支援「特別奨学生制度」を参照

大学院修学奨励金（大学院のみ）

▶受付窓口：修学支援課・学生課（1号館2階）

大学院博士前期課程（修士課程＊ただし、イノベーションマネジメント研究科は除く）と博士後期課程に在籍する学生の修学および研究活動を支援・奨励することを目的に設けられています。

区分	種類および対象者	給付額	給付枠
第1種	博士前期課程(修士課程)に在籍する１年次生であって経済的な支援を必要とする者（特待生は除く）	1名あたり　年間 250,000円	年間　5名以内
第2種	各専攻が認める学協会等において研究成果が評価された者	1件につき　100,000円（上限）	年間　150件以内
第3種	各専攻が認める学協会等において研究発表を行うために要する旅費を必要とする者	1件につき　30,000円（上限）	1学年につき1回限り
第4種	不測の事情により経済的な支援を急ぎ必要とする者	1名あたり　年間 250,000円（上限）	年間10名以内1学年につき1回限り

大学院特待生（大学院のみ）

▶受付窓口：修学支援課・学生課（1号館2階）

大学院博士前期課程（修士課程＊ただし、イノベーションマネジメント研究科は除く）における優秀な学生の修学の奨励を目的に設けられています。本学学部の卒業に引き続き本学大学院へ入学した者で、学業成績が優秀または学業に対する取り組みが真摯でかつ高潔な人格を備えた学生を特待生とし、特待生給付金を給付します。

区分	種類および対象者	給付額	給付年限	定員
特待生A	特待生のうち、成績、人物が特に優秀と認められた学生	1名あたり　年間 500,000円	2年	各年次 17名以内
特待生B	特待生A以外	1名あたり　年間 250,000円	2年	各年次 概ね90名程度

※大学院入学前に申請する必要があります。申請時期・給付額などは「金沢工業大学大学院特待生規程」を確認してください。

■事前確約制度について

優秀な学生が安心して大学院進学を決断できるように、３年次修了時点で成績優秀者に対し、特待生Aまたは特待生Bの事前確約をします。大学院進学後、特待生Aまたは特待生Bに選出されることをお約束いたしますので、前向きに大学院進学を検討してください。

特待生Ａ：３年次修了時点で各学科における正課学修ポイント１位の学生（計17名）
特待生Ｂ：３年次修了時点での成績が優秀な学生（特待生A以外の学生、全学科で35名程度）
※「正課学修ポイント１位」とは、申請者の中での１位ではなく、真の学科１位を指します。
※早期卒業生は必ず特待生Aまたは特待生Bのいずれかに選出します。

事前確約から決定までのプロセス

3年次（3月上旬）
大学院特待生確約対象者へ通知
▼
４年次（12月～1月）※早期卒業候補学生は４年次（6月）
大学院特待生を希望する学生の申請※
（修学支援課・学生課のホームページから大学院特待生申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、指導教員へ提出）
▼
４年次（2月）※早期卒業候補学生は４年次（7月）
大学院特待生の選考
▼
４年次（3月上旬）※早期卒業候補学生は４年次（8月）
大学院特待生の選考結果を通知

※４年次（12月～1月）の時点で大学院進学を予定している方を対象に、**事前確約対象者以外の方も含めた**特待生の募集を行います。
特待生Bについては事前確約対象者以外の枠が数多くありますので、事前確約されなかった大学院進学予定者も積極的に申請してください。

2-3 各種手続きについて

学生証

学生証は本学の学生であることを証明するものです。一部の授業では、出席管理アプリを使用して授業の出席を取る際に学生証が必要になります。また、各施設を利用する場合や試験時、証明書の発行・受取などで必要になります。大切に取り扱い、常に携帯してください。裏面は「KIT-LC CARD」として、ライブラリーセンターでの図書の貸出手続きに利用します。
紛失・破損の場合は、学生課で再発行できます（再発行料2,000円、発行に約1週間かかります）。
学生証は出願時に入力された文字（JIS第1水準、JIS第2水準）を用いて作成しています。

（表）学生証

（裏）KIT-LC CARD

在学証明書／学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）

1号館2階の自動発行機をご利用ください（無料）。在学証明書はコンビニでも発行可能です（有料）。
なお、利用するには事前にスマートフォンやパソコンで申請・印刷予約が必要です。
詳しくは、学生ポータル→左メニュー修学情報「在学証明書・学割（自動証明書発行サービス）」をご覧ください。
■自動発行機利用時間（稼働停止日：日曜・祝日、修学支援課・学生課・教務課の窓口休業日に準ずる）
平日　8:30～17:20／土曜日　8:30～13:00

【学割証について】
利用区間（JR線）の片道の営業キロが101km以上ある場合、運賃が2割引きになります（1枚の学割証につき片道の普通乗車券を2枚まで同時に購入することができます）。自動発行機での発行枚数は、1人当たり年間（4月~翌年3月）20枚までです。

[学割証使用の際に注意すること]
- **有効期限は発行日より3か月です**
- **学割証を「他人に譲る」「他人からもらう」ことは不正行為になるので、絶対にしないこと**

通学定期券

●JR
定期券はJRの窓口で購入できます。
購入に必要な「通学証明書」は、修学支援課で発行します（学生証が必要です）。
※IRいしかわ鉄道、あいの風とやま鉄道、新幹線等をご利用の方は、各鉄道の窓口に購入方法を確認の上、修学支援課で通学証明書の発行手続きを行ってください。

●北陸鉄道バス、北陸鉄道石川線・浅野川線（電車）
北陸鉄道バス定期券取扱窓口で購入できます。
購入に必要な「通学証明書」は、KITサービスセンター（21号館2階）で発行します（学生証が必要です）。

JR団体割引乗車券

学生8人以上が、教職員に引率されて旅行する場合に利用できます。出発日の14日前までにKITサービスセンター（21号館2階）で申し込みをしてください。

※KITサービスセンターでは、高速バス・航空機などの切符や宿泊施設および海外旅行の申し込みができます。（JR券は団体のみの取り扱いです）

保険

■ケガ…学研災（学生教育研究災害傷害保険） **▶受付窓口：修学支援課（1号館2階）**

全学部生・大学院生が加入しています。保険対象は以下のとおりです。

事故発生時の活動の種類	保険対象となる条件
正課中・学校行事中	1回以上通院
通学中・施設間移動中・学校施設内	4回以上通院
課外活動中	14回以上通院

※入院した場合は1日目から対象

■病気・ケガ…【任意】学研災付帯 学生生活総合保険 **▶受付窓口：KITサービスセンター**

本学では、実験・実習等で発生したケガに備えて学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）に全学生が加入しています。ただ、この保険制度の適用範囲は、授業中・大学が認めている課外活動中に限られています。そこで学生の皆さんが学生生活を送るうえで万一の時に備えて、学研災の上乗せ補償制度である**「学研災付帯学生生活総合保険」**への加入を勧めています。

引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社　2026年2月作成25TC-005408

■病気…互助会（学生健康保険互助会）

全学部生が加入しています。大学院生の加入は任意（申込は4月・10月のみ）です。

病気の治療でかかった医療費の給付が受けられます。学研災付帯保険との併用はできません。また、受付できない例もありますので、詳細は修学支援課・学生課ホームページを確認してください。

申請方法「学生ポータル」→左メニュー修学情報「医療費申請」

※年間（4月～翌年3月）30,000円まで、休学中は給付対象外。
※治療した月の翌月10日までに申請してください。

住所・氏名等変更の届出

入学後、必ず内容を確認してください。大学からの重要なお知らせが、「登録住所」「氏名」宛てに郵送されます。

現住所・連絡先（携帯番号）、および父母等の住所に変更があった場合は、学生ポータルの左メニューにある「住所・連絡先変更申請」から変更してください。

なお、氏名や父母等を変更する場合は、学生課（1号館2階）へ申し出てください。

ローマ字氏名の変更

入学後、必ず内容を確認してください。学位記や英文の証明書など公的な証明書類に「ローマ字氏名」が印刷されます。

パスポートをお持ちの方は、パスポートの表記に合わせてください。

ローマ字氏名は学生ポータルから変更が可能です。「学生ポータル」→左メニューマイメニューの「ローマ字氏名変更」から変更してください。

復学・休学・退学・転学部 転学科・転研究科 転専攻

申請方法は下記のとおりです。

取扱い窓口：学生課

種　類	提出期限	備　考
復　学	前学期：４月21日※ 後学期：10月21日※	休学者へ個別に通知します。
休　学		学生課で面談の上、用紙をお渡しします。 父母等の署名・捺印が必要です。
退　学	随　時	
転学部 転学科 転研究科 転専攻	後学期（12月頃）に学生ポータル、修学支援課・学生課掲示板(1号館1階)にて告知	学部・学科／研究科・専攻の面接等があります。

※当該日が土日祝日の場合はその翌日

公認欠席

以下の理由で授業を欠席する場合は、締切までに学生ポータルから各担当部署に申請することにより、公認欠席として認定されます。ただし、授業には出席していないので、当日行われる授業内容（レポート、各種試験など）は各自で科目担当教員に確認してください。

■公認欠席

「学生ポータル」→左メニュー修学情報「公認欠席」から申請してください。

申請の他に、添付書類や特別な手続きが必要な場合があります。

理　由		担当部署	締　切
忌引	父母　7日間 祖父母または兄弟姉妹　3日間 おじ・おば　1日間	修学支援課	欠席最終日の翌日から 7日以内※
学校保健安全法で定められた伝染病			
公共交通機関の途絶および遅延			
対外試合または行事などへの参加			欠席開始日の10日前まで
その他、学長が認めた事由			欠席開始日の7日前まで
教育職員免許取得のための実習などへの参加		教務課	欠席開始日の7日前まで
学協会などでの成果発表			
就職	就職試験を受験する場合 会社の採用内定式に出席する場合	進路開発センター	欠席日の前日まで

※学期末や夏期・春期集中講義における申請の締切は変動します。都度確認してください。（学期末、夏期・春期集中講義は3日以内）

2-4 課外活動について

学内勤務（TA・SA・RA・学生スタッフ）

本学ではキャンパスのさまざまな部署で学生が勤務しています。現在、約1,350名（2025年度現在）の学生が、教育補助員（TA：Teaching Assistant・SA：Student Assistant）、研究補助員（RA：Research Assistant）、学生スタッフ（Student Staff）として学内で勤務しています。募集要項や勤務内容については、担当部署にて確認してください。

種類		学部生	大学院生	業務内容	担当部署
教育補助員	TA	×	○	授業運営補助	教務課（1号館2階）
	シニアTA	×	○	学生間の学び合いの促進	
	SA	○	×	授業運営補助	
	シニアSA	○	×	学生間の学び合いの促進	
研究補助員RA		○	○	研究の補助	研究支援推進部（12号館3階）
学生スタッフ（※）		○	○	学内の部署・センター等における運営の補助	CDIOチャレンジ学生ステーション運営課（23号館1階学生ステーション）

※学生スタッフの主な勤務部署

勤務部署	業務名	業務内容
ライブラリーセンター（6号館）	レファレンス業務	受付、資料の排架・整理、開館業務
	PMC業務	受付、レコードの保管・管理等のデータ整理
	デザインアートラボ	教育プログラム運営補助、展示作業補助、展示室や什器のメンテナンス補助、所蔵品整理/登録補助作業
AV室（12号館4階）	運営スタッフ（長期）業務	旧メディアのデジタル変換、アーカイヴ作業、倉庫整理
	運営スタッフ（短期）業務	学内イベントの撮影・AV機器操作サポート、備品の管理
プロジェクトデザイン教育推進室（24号館2階）	プロジェクトデザイン業務	実験用機器管理、7・24号館の管理
	短期／合同研修業務	教員研修会支援業務（資料作成、活動記録管理、準備、片付け等）
夢考房運営室（41号館）	夢考房運営スタッフ業務	受付、機器管理、安全指導、加工・修理等の補助
CDIOチャレンジ学生ステーション運営課（23号館1階）	学生ステーション運営スタッフ業務	質問対応、企画相談、ポスター制作、スタジオ運営支援
Challenge Lab（26号館）	Challenge Lab運営スタッフ業務	受付、VR・MRコンテンツ製作、館内の設備管理
プロジェクト教育センター	FM番組制作	FMラジオ番組制作に関わる補助業務
スポーツ考房運営課（20号館2階）	スポーツ考房運営室スタッフ業務	受付、マシン利用指導、4S活動、環境づくり、ショートレッスンやイベントの企画運営等
自己開発センター（8号館2階）	資格試験対策講座アドバイザー業務	講座実施における資料作成や講師の補助、および受講生への質疑応答
	事務業務	講座受付や窓口対応、データ入力の補助、資格試験実施の補助
数理工教育研究センター（23号館5階）	教材開発（物理・数学）業務	eラーニング教材の作成、物理教材の開発・作成、Webコンテンツの作成
	採点・分析業務	学力診断の採点業務支援、Excel データ入力等
庶務課（1号館2階）	事務サポート業務	事務業務、入学式・学位授与式の準備・サポート、プロジェクトデザインⅢ公開発表審査会の準備・受付 等
進路開発センター（10号館2階）	運営スタッフ業務	イベント企画・運営補助、就職支援プログラム・進路セミナー運営補助
企画部（1号館1階）	キャンパス案内業務、質問対応業務	キャンパス案内、来場者への質問対応
施設部（6号館1階）	キャンパス内の環境保全、駐車場誘導業務	自転車整理、キャンパス内環境美化、教室内の設備点検、イベント時の駐車場誘導や来客対応
Beyond SDGs推進センター（12号館1階）	事務スタッフ業務	センターの管理・運営補助、事務業務、受付業務
革新複合材料研究開発センター（75号館）	事務スタッフ業務	引張試験機や化学分析装置による計測・データ整理、基材の在庫管理、来所時の受付補助等

課外活動

課外活動に参加し、大学生活を有意義に送ることは、自らの人間形成にとって欠かすことのできない経験となります。

本学では、学生団体の『学友会』があり、その傘下に各専門委員会、体育部会・文化部会所属の部活団体、同好会、サークルがあります。

このほか、夢考房プロジェクトや学科・課程・各教育センターの取組みに関連したプロジェクト、産学連携・地域連携に関するプロジェクトなど、さまざまな学生主体の課外活動があります。

活動内容など詳しくは各団体へ直接お問い合わせください。

■KITオナーズプログラム

学内WEB

「KITオナーズプログラム」は、個々の持続的な自己成長と自己実現を目指したプログラムです。
学生生活を有意義なものにするために、積極的に参加してください。

「KITオナーズプログラム」および「特別奨学生制度」の詳細は、学生ポータル「オナーズプログラム推進課」下段の「オナーズプログラム活動紹介」および「特別奨学生制度」で確認してください。

■課外活動参加の奨め

課外活動は、個人の才能や趣味に合わせて自由に選択し、積極的に参加することにより、各課外活動団体の目標を達成するための相互協力の大切さ、人との付き合い方などを学ぶことになります。さらに同じ趣味や活動を通じて一生の友を得ることができます。学生生活を充実するためにも、ぜひ参加してください。

各団体には、教職員による指導者を配し、部活動の指導や、修学・生活などに関する相談も受けています。

■課外活動に参加するには

学友会では、学生の皆さんが課外活動について正しく理解できるよう、入学式後の学友会紹介や学友会オリエンテーション・プロジェクト説明会で各課外活動の紹介や入部に関する説明を行います。課外活動に参加したい時は、これらの機会に情報を得るとともに、各部活動団体の相談コーナーや活動場所に自ら訪れ、積極的に行動してください。相談には各部活団体の代表学生が快く対応してくれます。その他、いつでも学友会や学生ステーション、学生課でいろいろな情報を得ることができます。

■課外活動の実施について

課外活動は大学の承認を受けています。本学学生としての自覚を持った上で他大学との交流や大会に参加してください。

なお、公認欠席の手続きをする場合は、各部活動団体の責任者が取りまとめ、申請してください。

学友会（体育部会、文化部会、同好会、サークル）、課外教育活動プロジェクト、夢考房プロジェクトなどの課外活動では、参加者を随時募集しています。

下のQRコードから、個々の活動詳細を見ることができます。

学友会　課外教育活動プロジェクト　夢考房プロジェクト

2-5 学生生活における基本事項について

キャンパスマナー

■喫煙

学内では灰皿の設置してある所定の喫煙場所以外は禁煙です。（館内は全館禁煙です。）
路上や歩きながらの喫煙・吸殻のポイ捨ては迷惑になりますのでやめましょう。

■ゴミ

資源のリサイクルのために「ゴミ分別」を徹底してください。
「焼却ごみ」「不燃ごみ」「空カン」「空きびん」「ペットボトル」と5種類のゴミ箱を設置していますので、教室内・廊下・休憩場にゴミを放置せず、皆さんの手できちんと分別してゴミ箱に捨ててください。

■スマートフォン・携帯電話

授業中やライブラリーセンター、自習室での呼び出し音や通話は重大なマナー違反です。授業を受ける前に電源を切りましょう。また学内だけでなく、公共機関などでも同様です。各々が社会の一員として、マナーの向上に努めてください。

■ネットワーク・エチケット（ネチケット）

インターネットを利用する上でのエチケットやマナーのことです。以下の規範を遵守してください。

金沢工業大学学園「コンピュータネットワーク利用に関する規範」
(1) 虚偽に利用者IDを申請したり、不正に他人の利用者IDを使用してはいけません。
(2) 自分の利用者IDを他人に使用させてはいけません。他人に使用させた結果として、他人の行為に対しても全責任を負うことになります。
(3) システム資源を大量に消費することにより他の利用者の正常な利用を妨害したり、コンピュータシステムの正常な運用を妨げるような行為により、他の利用者に迷惑もしくは損害を与えてはいけません。（求められていないゴミメールやチェーンレターの送信を禁止します。また、故意にコンピュータシステムを混乱させる行為や有害なプログラムの持ち込みを禁止します。）
(4) 営利、非営利を問わず、商用を目的とした利用をしてはいけません。
(5) 他人のプライバシーを侵害したり、他人を誹謗中傷してはいけません。
(6) 嫌がらせや、公序良俗に反する行為、その他脅迫的行為をしてはいけません。
(7) 著作権の対象になっているものに対して、著作権者の許可や正規のライセンスなしにこれを侵害してはいけません。

不正行為の禁止

学生としての本分を守り、単に不正行為を行わないだけでなく、誤解を与えるような紛らわしい行為を行わないように十分注意してください。
不正行為とは、成績評価の対象となる事項について正当でない手段をもって、自己または他人の便宜をはかる行為を言います。例えば、以下の行為があります。

(1)試験などで指定された物品以外を使用した場合　(2)試験などで監督者の指示に従わない場合
(3)他人と答案や提出レポートを交換した場合　(4)他人の答案をのぞき見した場合
(5)他人の提出レポートを写した場合
(6)レポートなどにおいて、インターネットサイトや他人の著作物から文章や図表を許可なくそのまま使用した場合（剽窃※）
(7)その他、教授会が不正行為と認めたもの
※剽窃　「盗作・盗用」は犯罪です。社会通念として許されません。

試験、クイズ・小テスト、レポート、作品などにおいて科目担当教員が不正行為と判断した場合は、金沢工業大学学則第54条、金沢工業大学大学院則第50条により教授会の議を経て、懲戒（退学・停学・訓告）します。懲戒に関する成績の取り扱いは、次のとおりです（学生懲戒に関する規程別表第1）。

処分	成績の取扱い
訓告	当該学期の履修許可科目をF評価（出席不良等）とすることができる。
停学	当該学期の履修許可科目を全てF評価（出席不良等）とし、解除日まで履修登録申請を受け付けない。
退学	退学日をもって、当該学期（前学期又は後学期）の履修許可科目をすべて取り消す。

※生成AIの利用においても、使い方によっては、著作権侵害や剽窃等の不正行為に当たる可能性がありますので、十分注意してください。詳細は、「生成AIの利用について」（p.038）を参照してください。

通学

大学へは徒歩や自転車、または公共交通機関（電車・バス）を利用し、通学してください。
通学時は交通ルールを守り、事故に注意してください。

■自転車での通学

学内では定められた自転車駐輪場にはみ出さないように駐輪し、必ず施錠（二重ロック）してください。正しく駐輪されていない場合は、撤去することがあります。

■自動車・バイクでの通学、課外活動での自動車利用

1.　自動車・バイクでの通学（学生駐車場利用）
本学では原則、自動車通学を認めていません。ただし、以下の対象学生は所定の手続きを行い許可された場合、自動車・バイクでの通学（学生駐車場利用）ができます。

申請項目	対象	申請者の現住所からキャンパスまでの距離
自動車通学（扇が丘キャンパス駐車場）	大学院生、学部４年次生 課外活動団体に所属している学部3年次生以上	６km以上
自動車通学（やつかほりサーチキャンパス駐車場）	大学院生、学部４年次生	なし
自動車通学（扇が丘・やつかほ駐車場）	大学院生、学部４年次生で授業やTA・SA、課外活動等で扇が丘キャンパスを利用する学生	1.5km（扇が丘キャンパスまでの距離） ＊TA・SAで利用する学生は距離制限なし
バイク通学	全学生	なし

2.　課外活動での自動車利用
課外活動で学外に移動する際に自動車を利用する場合、申請が必要です。ただし、課外活動での自動車利用申請者は学生駐車場を利用することができません。
・申請者自身に適用される自動車、またはバイクについて任意保険に加入している。(レンタカーも含む)
・自動車の運転歴が1年以上ある。(申請書類の提出日の時点)
・自動車の申請者は原則2年次以上の学生である。

■申請・許可の流れ

・交通安全講習会（申請したい学期の前の学期：２月、8月に開催予定）を受講する
・学友会（学友会交通安全対策専門委員会）に申請書類を提出する
・許可証の配布・受け渡し

■学内の自転車・バイク置場と学生駐車場

自転車駐輪場	3号館横・6号館裏・7号館裏・8号館裏・11号館前・23号館裏
バイク駐輪場	43号館横
学生駐車場	久安学生駐車場・やつかほリサーチキャンパス学生駐車場

注意事項
※学内では定められた駐車場に駐車しましょう。
※教職員駐車場、路上、商店の駐車場、他人の敷地等には絶対に駐車、駐輪してはいけません。無断駐車、無断駐輪した場合は、厳しい処分の対象となります。

学友会交通安全対策専門委員会　11号館2階209室（学友会室）

この専門委員会は、交通事故を防止し積極的に交通安全を推進することを目的として学友会組織として発足しました。また、委員会の発足と同時に「交通安全宣言」を行いました。この「交通安全宣言」は、最も交通事故を起こしやすい年齢である皆さんが、交通事故により学業を断念せざるを得ないという不幸な事態になることを防止しようというもので、全学生がこのことを理解し、交通安全に努めています。

ハラスメント

■教職員との関係に悩んでいませんか？

人間関係の悩みは日常的にあるものですが、場合によっては、そういった悩みが「ハラスメント」（アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメントなど）に関係しているかもしれません。「ハラスメント」とは「嫌がらせ」という意味で、理不尽な言動によって修学環境を侵害する人権問題です。

ハラスメントの判断基準は、受け手が不快と感じたこととはかぎりません。そもそも、判断基準が確立されていないのが現状です。また、日常化していると、それがハラスメントだと気づかない場合もあります。

どのような行為がハラスメントに該当する可能性があるのか、その事例を紹介します。

【ハラスメント事例】

・机や壁などを叩いて脅す
・本人の望まない進学や就職先を強要する
・常識的に不可能な課題の達成を強要する
・相手の評判を落とすようなことを言いふらす
・「バカか」、「小学生以下」など、相手の人格を傷つける発言を繰り返す
・正当な理由なく指導をしない
・身体的に不必要な接触をする
・執拗にデートや食事に誘う
・授業や会話の中で、性的な冗談を繰り返す
・「男のくせにお酒も飲めないの」、「女性には研究職は無理だ」など、性差別的な発言を繰り返す

これら以外でも、「理不尽な扱いを受けて、思うように勉強や研究に励むことができない」、「ハラスメントなのかどうか判断がつかないが、先生との関係や学生間での関係に悩んでいる」、「ハラスメントの被害者から相談を受けて悩んでいる」などで悩んだ場合は、我慢したり一人で悩んだりせず、下記のいずれかの窓口に相談してください。個人情報を守りながら、相談に対応します。

■ハラスメント相談窓口

▼学生課（1号館2階）

・受付時間：平日 8:30〜17:20／土曜日 8:30〜13:00
・電話番号：076-294-6739
・メールアドレス：sgk@mlist.kanazawa-it.ac.jp

▼カウンセリングセンター（36号館）

「金沢工業大学の学生である」ということが明示されれば、匿名でも相談可能です。

・受付時間：平日 12:00〜17:00
・電話番号：076-294-6492（カウンセリングセンター受付）
・メールアドレス【ハラスメント専用】：kit-cc@kanazawa-it.ac.jp
（このアドレスはハラスメント相談用です。通常のカウンセリングの利用についてはp.030の「カウンセリングセンター」を参照してください。）
・相談箱
36号館カウンセリングセンター入口に、相談箱を設置していますので、必ず連絡先を書いて、簡単な相談内容とともにメッセージを入れてください。

カウンセリングセンター

11名の公認心理師・臨床心理士が、対人関係や心理面での相談に応じています。悩みだけではなく、もっとポジティブな人生を歩みたい、より充実した学生生活を送りたいといった幅広い相談にも応じています。

心理的なカウンセリングは、皆さんのニーズ（希望）に応じてじっくりと話を聴くことから始まります。それだけで自然に自分のことが理解できたり、前向きになっていくことも多いのですが、それだけではありません。

カウンセリングセンターでは、皆さんの多様なニーズに応えるために、各種心理テストの実施とその結果の丁寧な説明、ご自分の能力を十分発揮していただくため、不安や緊張の低減のさせ方、自分の強みの見つけ方、強みの活かし方等のエクササイズ（実践的なワーク）を多数用意しています。

さらに、学外の医療機関などの情報を提供したり、学内の各部署と連携して、皆さんのサポートも行っています。

悩んだり困った時はもちろん、自分の人生をもっと充実させたいと思った時にも是非、ご相談ください。「こんなことを相談してもいいのだろうか」とためらわず、気軽にご相談ください。女性のカウンセラーも男性のカウンセラーもいますので、遠慮なく希望をお伝えください。

■学生相談

●カウンセリングを受けられる時間　※予約制です

平日　　13:00〜19:00　（木曜日　13:00〜17:00）
土曜日　　8:30〜13:00

※休祭日はお休みします。土曜日はあらかじめ休館日が決まっています。
※学園行事などにより、開館日および時間が変更になる場合があります。
※長期休業中のカウンセリング受付についてはお問い合わせください。

●カウンセリングを受けるための手順（利用方法）

1. カウンセリングセンター受付(36号館)で希望の時間に予約する
2. 予約カードを受け取る
3. 予約の時間にカウンセラーを訪ねる　（やむを得ず来られない時は、事前に連絡する）
4. カウンセリングを受ける　（終わったらカウンセラーと次回の予約をする）
5. 予約の時間に再びカウンセラーを訪ねる

詳しくは、学生ポータル左欄の"悩んだり困ったりした時は"からご確認ください。

■ハラスメント相談

●カウンセリングセンターでは、ハラスメント相談も受け付けています。詳しくは、p.029を参照してください。

緊急事態への対応

■大地震が発生したら

地震をはじめとする台風や大雨など自然災害は多くありますが、最も深刻な被害をもたらすといわれているのが大地震です。大地震が発生した場合に自分はどのように行動すればよいかを確認しておき、いざという時に速やかに行動できるよう備えておいてください。

■発生直後

大地震発生直後は、どこにいても身の安全を守り、冷静に行動することを基本としてください。

・窓の近くはガラスが割れて危険なので速やかに離れる。
・机の下にもぐるなど身の安全を確保する。
・近くに身を隠す場所がない場合は、蛍光灯などの落下物から頭を守るためにバッグや衣類などで頭を覆う。
・大きな棚などは、中のものが飛び出し危険なので離れる。
・ドアを開け、避難経路を確保する。
・火気を使っている場合は、火を消す。
・化学薬品を使用している場合は、薬品から離れる。
・学生、教職員ともに「机の下へ!」、「棚から離れて!」などと、お互いに声を掛けあう。
・実験設備の運転中は、停止する。
・屋外にいる場合は、建物から離れ落下物に注意して安全な場所に避難する。
・エレベーターに乗っている時は、すぐに各階のボタンをすべて押し、停止した階で降りる。
　閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、救出を求める。
・就寝中は、布団や枕などで頭を守り、転倒の恐れのある家具から離れる。
・風呂・トイレにいる場合は、ドアや窓を開け、避難経路を確保する（風呂・トイレは比較的安全な場所と言われている）。

■発生から1分後

地震の揺れが収まる約1分後の行動のポイントは、①自分の身の安全を確保する②2次災害の防止に努める③負傷者の救助にあたる。以下に重要な事項を示しますので、理解しておいてください。

・冷静に落ち着いて行動する。
・建物は大丈夫か、火災は起きていないか、負傷者はいないかなど確認する。
・火災の場合は、自分の身が安全な範囲で初期消火に努める。
・火災の場合は、タオルやハンカチで口を覆い避難する。
・負傷者がいる場合は、周囲に助けを求め、応急手当を行う。
・負傷したら大声をあげて助けを求める。声が出ない場合は、大きな音を出すなどし、助けを求める。
・エレベーター、エスカレーターは使わず、階段を使用する。
・押し合うなどしないで、周囲の人と協力して避難する。
・ガス漏れ対策として、ガスの元栓をしめる。
・電気火災、漏電の対策として、配電盤のスイッチを切り、電気器具はプラグを抜く。
・室内の状況（薬品の漏れや流出、部屋の損壊、火災状況）を確認後、学園内の避難場所もしくは近くの拠点避難場所に避難する。
・狭い路地、塀ぎわ、がけや川べりに近づかない。
・海の近くにいる時は、高所に避難し、津波から身を守る。

■通学中に発生した場合

通学中に起きた場合は①公共機関の場合：係員の指示に従う
②自転車・バイク：安全に左側に停止して揺れが収まった後、広い場所へ移動する

■避難場所

大地震が起きた時の避難場所として、大学では「扇が丘キャンパス」と「やつかほリサーチキャンパス」、「白山麓キャンパス」が指定されています。また、火災による延焼の恐れがない場所を設定していますので、巻末にある各キャンパスの地図を必ず確かめておいてください。

各教室からの避難経路図をWEBで公開しています。（【学内WEBのみ】金沢工業大学安全衛生委員会室ＨＰ：http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/safety/keirozu.html）

大学へ避難できない場合は、お住まいの市町村の避難場所へ避難してください。下記ホームページから住まいの近くの避難場所も確認してください。なお、自分の住居地と避難場所への複数の避難経路を想定し、実際に徒歩で確認しておきましょう。

金沢工業大学大地震ガイドブック【学生用】：http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/earthquake/JisinGuide.pdf
①学内の避難場所（p.289参照）　②学外の避難場所（市町村ホームページ）

（住まいの市町村）避難場所　検索

学内WEB

■大学への安否報告

大学ドメインのメールアドレスの利用設定はできていますか？

災害発生時には安否確認メールが配信されますので、指定されたURLに自身の安否情報、所在を必ず回答してください。

毎年、試行（訓練）を実施していますので必ず返信してください。

［安否報告連絡先］
修学支援課・学生課（1号館2F）
Tel. 076-294-6739／076-248-1100
Fax. 072-248-9747
Mail. kit-annpi@kanazawa-it.ac.jp
〒921-8501野々市市扇が丘7-1

学生ポータル下部メニュー「大地震対応ガイドブック」を万が一に備え、よく読んでおきましょう

安否確認回答画面（例）

大学からの連絡は次の手段で行います
●学園内非常放送設備　●掲示板（3号館前・65号館）
●電子メール・学生ポータル・本学ホームページ
●地域コミュニティFM放送局「えふえむ・エヌ・ワン（76.3MHz）」
●各種報道機関（新聞・テレビ・メディア）

■家族との連絡方法

災害用伝言ダイヤル171		
	録音	再生
①	171	
②	1 録音 3 録音(暗証番号利用)	2 再生 4 再生(暗証番号利用)
③	「連絡を取りたい方の電話番号をダイヤル」 携帯電話・固定電話など （固定電話の場合、076等の市外局番からダイヤル）	
利用方法の案内はこちら https://www.ntt-west.co.jp/dengon/		

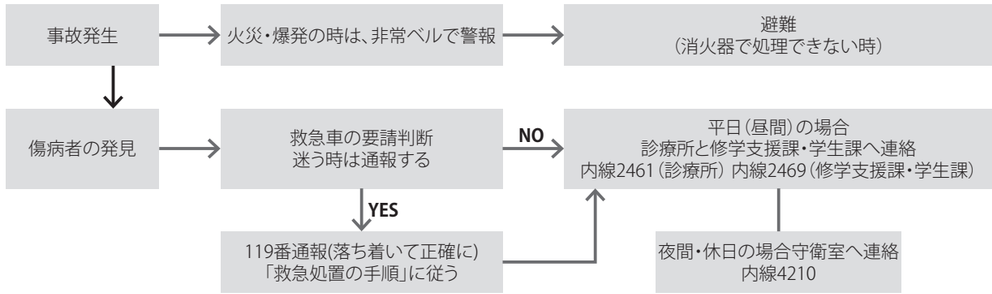
災害用伝言板Web171		
	登録	閲覧
①	https://www.web171.jpにアクセス	
②	「連絡を取りたい方の電話番号をダイヤル」 携帯電話・固定電話など （固定電話の場合、076等の市外局番からダイヤル）	
③	画面の指示に従い 伝言を登録	画面の指示に従い 伝言の追加登録
利用方法の案内はこちら https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/		

学内の安全対策

学内での実験、実習などにおける安全について、指導担当教員の指示・指導を十分に守ってください。本学ではプロジェクトデザイン入門開始時に「学生のための安全の手引」を、専門実験・演習科目開始時には「安全指針」を利用し、安全指導を行っていますので、熟読し、災害予防に努めてください。

これは単に学生個人のことでなく、同じ実験室・研究室で学ぶ学生におよぼす危険を防ぐとともに、安全について学ぶことでもあり、実社会に出ても役立つことです。

学内で事故が発生し、学生及び教職員が負傷した場合には、次の処置をとってください。



■担架

各号館担架収納庫にあります。

このほかにエレベーターで利用可能な肩掛け式救護用担架が、ライブラリーセンター1階事務室、7号館1階事務室、17号館2階事務室、24号館2階事務室、8号館3階事務室、23号館1階学生ステーション、守衛室（1号館、南校地）、21号館307室にあります。

■救急箱

各号館事務室・研究室・実験室・体育館・守衛室（1号館、南校地）にあります。

■AEDの設置について

AEDとはautomated external defibrillator（自動体外式除細動器）の頭文字をとったもので、心室細動などによる心停止者に電気ショックを与え、正常な心臓の動きを取り戻させる医療機器です。扇が丘キャンパスでの設置場所は、p.289を参照してください。

この他、62・65・74・75号館（やつかほリサーチキャンパス）、白山麓キャンパス、天池自然学苑、池の平セミナーハウス、東京虎ノ門キャンパスにも設置してあります。

学部１年次を対象とする「人間と自然」セミナーにおいて、実際のAEDの使用方法のほか、成人の心肺蘇生法、気道異物除去法を加えた救急救命講習を実施しています。また要救助者のプライバシーに配慮して、AED設置場所に機器と併せて「AED処置用テント」を付設しています。

2-6 パソコン・インターネットについて

大学のネットワーク環境

本学では、学生個人や授業連絡等、重要なメッセージをお知らせする学生ポータルやeシラバス、履修申請、成績照会など、修学上必要となるさまざまな手続きや情報がWebシステムで提供されています。

学生の皆さんは、教室（講義室、実験室、演習室）や課外学習エリア（自習室、ライブラリーセンター、ラウンジなど）、研究室など学内のいたるところから学内システムやインターネットを利用することができます。

情報倫理に関する学習コースINFOSS

パソコンやスマートフォンでのネット利用でトラブルを起こさないためには、情報の取り扱いについての知識やルールに関する情報倫理を正しく理解する必要があります。本学では学内ネットワークを利用するには、事前に情報倫理に関する学習コースINFOSSを受講し、修了テストに合格する必要があります。

有線LAN（情報コンセント）

教室や課外学習エリアには、パソコンをLANケーブルでインターネットに繋ぐことのできる情報コンセントを設置しています。INFOSSの修了テストに合格し、ネットワーク利用申請をすると、翌日の午前8時から情報コンセントを利用できるようになります。INFOSSの学習期間として、4月～5月は、講義室と7号館自習室の情報コンセントに限り、申請なしで利用することができます。

■情報コンセントの主な設置場所

建物	設置場所
1号館	中2階ラウンジ
6号館(LC)	4 ～ 11階
7号館	自習室
8号館	ラウンジ
21号館	LA TERRA（昼食時間帯利用不可）
23号館	スタジオ、ラウンジ
27号館	ラウンジ（昼食時間帯利用不可）
62号館	ENERGY（昼食時間帯利用不可）
その他	講義室etc.

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/private
「学生ポータル」→下部リンク集「情報処理サービスセンター」→目的から探す「情報コンセント」

学内WEB

Wi-Fi（無線LANアクセスサービス）

教室や課外学習エリアにアクセスポイントを設置し、無線LANによる学内ネットワーク接続サービスを提供しています。認証用パスワードとWi-Fiインタフェースのアダプタアドレスを申請すると、翌日午前8時から利用できるようになります。無線LANアクセスサービスを利用するには、事前にINFOSSの修了テストの合格とネットワーク接続設定が必要です。

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/wireless-lan/
「学生ポータル」→下部リンク集「情報処理サービスセンター」→目的から探す「無線LAN」

学内WEB

■利用申請（認証用パスワードとWi-Fiインタフェースのアダプタアドレス）

①情報処理サービスセンターの無線LANアクセスサービスページにアクセスします。
②「利用申請」ボタンをクリックし、申請画面を開きます。申請画面への接続には、ユーザー名に学籍番号、パスワードに和暦の生年月日（例：平成19年6月5日→h190605）をそれぞれ入力してください。
③「認証用パスワードの登録はこちら」をクリックし、パスワードを登録します。
④「アダプタアドレスの登録・確認はこちら」をクリックし、Wi-Fiインタフェースのアダプタアドレスを申請します。

■認証用パスワードの有効期限

利用申請後、大学に在籍中は有効です。ただし、前年度中に利用がない場合は、失効します。再度利用申請をしてください。

■無線LANアクセスサービスの主な提供エリア

学内の主要な教室、ラウンジ、食堂などで利用できます。
詳しい提供エリアについては、情報処理サービスセンターHPをご覧ください。

Remote-VPN（学外からの学内ネットワーク利用）

学内ネットワークはインターネットの外部利用から守られているため、通常、自宅のパソコンから学内のWebシステムを利用することはできません。
（ただし、大学指定寮でイーグルネットを契約していれば直接学内のネットワークにアクセスできます。詳しくは8号館3階パソコンセンターへお問い合わせください。）

自宅でインターネットから学内ネットワークに接続するにはRemote-VPNサービスを利用します。Remote-VPNサービスの利用には、事前に学内ネットワークからVPN接続パスワードの申請や専用ソフトウェアのインストール等が必要です。なお、セキュリティの観点から有効期限は年度末としています。継続利用にはVPN接続パスワードの再申請が必要です。

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/ras2/
「学生ポータル」→下部リンク集「情報処理サービスセンター」→目的から探す「Remote-VPN」

学内WEB

学内プリントサービス

学内には、修学・研究活動の成果物を印刷できるカラーレーザープリンタを設置しています。学内ネットワークに接続したパソコンから印刷を実行した後、プリンタのタッチパネルを操作して印刷出力をします。印刷には学生証が必要です。

当プリントサービスは、毎月300ポイントの範囲内で利用することができます。

■消費ポイント

用紙サイズ	モノクロ	カラー
A4	1ポイント／枚	3ポイント／枚
A3	2ポイント／枚	6ポイント／枚

※片面、両面印刷物ともに、1 枚あたり上記ポイントが消費されます

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/ps/

学内WEB

■プリンタ設置場所（A3、A4サイズのみ）

設置場所	
1号館2階	大学事務局窓口前
6号館2階	ライブラリーセンター
7号館1階	自習室
8号館1、2階	西南ラウンジ内
8号館3階	パソコンセンター前
10号館2階	進路開発室キャリアプラザ
23号館1階	コピーコーナー
23号館1階	コラボレーションスタジオ
24号館2階	プロジェクト教育センター事務室前
41号館1階	夢考房
62号館1階（※やつかほリサーチキャンパス）	ENERGY前
65号館1階（※やつかほリサーチキャンパス）	八束穂事務室前

上記プリントサービス以外で、A0サイズ（841mm×1189mm）までのポスターを印刷することができます。所定の印刷申請書に記入し、各設置場所の窓口で手続きすることで印刷できます。
代金は1枚200円です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

■プリンタ設置場所（A0、A1サイズのみ）

設置場所・窓口	
6号館2階	ライブラリーセンター2階DCFカウンター
23号館1-2階階段踊り場	学生ステーション
41号館1階	夢考房

コピー機

設置場所		備考
扇が丘	3号館 1 階　ロビー	カラー対応
	8号館1、2階　西南ラウンジ内	2階のみカラー対応
	9号館 1 階　放送大学	
	10号館2階　進路開発室キャリアプラザ	
	17号館2階　廊下	
	21号館2階　ブックセンター（1機目）	カラー対応
	21号館2階　ブックセンター（2機目）	A2サイズ印刷可
	23号館1階　コピーコーナー	
	31号館1階　国際高等専門学校 ロビー	
	41号館1階　夢考房　ロビー	

設置場所		備考
八束穂	61号館2階　ロビー	
	63号館2階　ゲノム生物工学研究所 ロビー	
	64号館2階　高信頼理工学研究センター ロビー	
	67号館2階　情報技術AI研究所 ロビー	
	69号館3階　地域防災環境科学研究所 ロビー	
	74号館1階　FMT研究所 廊下	
白山麓	101号館2階　国際高等専門学校 リビングコモンズ	

パソコンのトラブル

パソコンセンターでは各自のノートパソコンのハード障害やウイルスに関する相談に応じています。また、1年次前学期開講「ICT入門」の授業の範囲内で、技術的なサポートを受けることができます。その他、学生指定寮のインターネット接続プロバイダサービス（eagle-net）の窓口も兼ねています。

場所	施設名	窓口取扱い時間
8号館3階	パソコンセンター	平日 8:30〜17:20　土曜日 8:30〜13:00

ソフトウェアの利用

マイクロソフト製品

マイクロソフト社とのライセンス契約により、在学中は個人所有のパソコン1台に限り、Office製品（文書作成ソフトウェアWord、表計算ソフトウェアExcel、プレゼンテーションソフトウェアPowerPointなど）を使用することができます。Office製品は、「ICT入門」の授業でインストールします。

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/msvl/

学内WEB

マスワークス製品

マスワークス社とのライセンス契約により、在学中は個人所有のパソコン4台まで、科学技術計算ソフトウェアMATLABとシミュレーションソフトウェアSimulinkを利用することができます。オプション製品が豊富に用意されているため、数式処理、画像処理、統計処理、シミュレーションなど幅広い分野で活用することができます。アプリケーションディスクなどからインストールすることができます。使用するにはマスワークス社のアカウント作成が必要です。

詳しい情報　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/matlab/

学内WEB

情報モラル

情報社会では日々の情報化の進展に伴い人々の生活が便利になる一方、予期せぬ危険にさらされることがあります。そのような情報社会の特性を理解してさまざまな場面で正しい判断をし、適切な利用ができるように情報モラル（情報社会で適切な活動を行うための基になる考え方と態度）を身に付けておく必要があります。情報社会で必要とされる行動規範には、具体的なルールや行動指針が示されています。本学では、ネットワーク利用規範と情報セキュリティポリシーを定めるとともに、情報倫理（インターネットを活用する上でのルールやマナー）に関する学習コース(INFOSS)の受講を通して情報モラルを修得します。

金沢工業大学学園コンピュータネットワーク利用規範　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/net_rule/
学校法人金沢工業大学の情報セキュリティポリシー　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/policy/
情報倫理に関する学習コースの利用案内（INFOSS）　http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/infoss_top/

生成AIの利用について

「自ら考え行動する創造的探究・実践人材の育成」を目指す本学においては、学生の皆さんが、各授業科目において、自分自身の力で問題・課題に立ち向かい、学問の本質を理解するとともに、課題解決能力を身につけることが重要であると考えています。

その一方で、今後の社会の技術者にとって重要なツールとなり得る、ChatGPT等の生成AIを学生の皆さんが使いこなす能力を身につけることも重要であると考えています。

本学としては、学生の皆さんには、本学の教育カリキュラムの中で自らの能力を向上させることを第一に考えて、生成AIの利用の可否を場面毎に考えていただきたいと思っております。本学の教員は、学生の皆さんの判断を信じ、皆さんの生成AIの使用を認めていきますので、以下の方針・注意点を確認した上で、生成AIを学習効果を高めるツールの一つとして、自らの学びをさらに発展させられるよう、有効に活用してください。

■本学の方針

1. 本学では、技術革新により飛躍的に発展を遂げている生成AIを一律に禁止することはしません。学生の皆さんが、生成AIについて正しい知識を身につけ適切に判断し利用することを期待します。
2. 本学は、「自ら考え行動する創造的探究・実践人材の育成」を教育目標に掲げ、学生の皆さんに身につけて欲しい能力を学習支援計画書（シラバス）や大学ホームページ等において公開しています。それらの能力を身につけるため、授業科目の性質に則して、生成AIと向き合う必要があります。生成AIの適正な利用については、各科目担当教員の指示に従ってください。

■注意点

・質問として入力した情報が意図せずに流出する危険があります。個人情報や知的財産等の機密情報は入力しないよう留意する必要があります。
・生成AIで作成された文章や画像をそのままレポート課題や研究論文等に使うことは著作権侵害や剽窃等の不正行為に当たる可能性があります。
・生成AIから提供される情報は、膨大なデータベースから自然言語処理に基づき生成されているため、その情報が正しい内容か、誤った内容なのかを自身で確認する必要があります。

著作権

知的財産権

知的財産権は人が考えて創作したものの知的価値を守るための権利のことを言います。知的財産権の中に産業財産権と著作権があります。

●産業財産権には、特許権、実用新案権、意匠権、商標権などがあり、権利を得るために登録の手続きが必要です。

●著作権とは、人が創作したあらゆる創作物が生み出された瞬間から発生する権利であり、創作者である著作者の死後70年まで保護されるのが原則となっています。創作物には文章、絵、音楽、写真、動画などのほか、コンピュータのプログラムも含まれます。

著作物の利用

著作権が放棄されていない著作物を著作者に無断で利用すると著作権侵害となります。他人の著作物は、著作権法をよく理解した上で利用してください。

詳しい情報：文化庁（https://www.bunka.go.jp/）

（社）著作権情報センター（略称：CRIC）（https://www.cric.or.jp/）

セキュリティ（コンピュータウイルス対策・情報漏洩対策）

コンピュータウイルス対策

パソコン利用にはコンピュータウイルス感染の危険性が伴うため、セキュリティ対策を講じる必要があります。コンピュータウイルスに感染すると、パソコンが正常に動作しなくなる他、自分が気付かないうちにパソコンのデータが悪用されることがあります。さらに、ネットワークを通じてほかのパソコンに感染し、周囲に迷惑をかけることもあります。感染しないためには以下のようなセキュリティ対策が必要です。

●パソコンにウイルス対策ソフトウェアをインストールし、定義ファイルは常に最新の状態を保つ。

●Windows Updateなどソフトウェア自動更新を活用し、ソフトウェアの弱点や不具合を早期に修正する。

●信頼性の低いWebサイトやソフトウェアは極力使用しない。

なお、在学中は大学が契約しているコンピュータウイルス対策ソフトを個人所有パソコンで使用することができます。

詳しい情報：http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/virus-scan/

情報漏洩対策

インターネットは大変便利なものですが、不正利用や情報漏洩の被害にあう危険性を伴うため、自分や他人のプライベートな情報の取り扱いには注意が必要です。また、Webサービスなどのアカウントを不正利用されないよう、パスワードは適切に管理してください。具体的には、短い文字数や他人が推測しやすいパスワードを使用しない、複数のサービスで全く同じパスワードを使いまわさないことが必要です。

機器の取り扱いとしては、パソコンやスマートフォンを置いたままにしない、離席時はパスワードロックをかけるなど、盗難や不正利用を未然に防ぐよう心がけてください。

3-1 履修にあたっての留意点について

授業時間割

本学では1時限を100分と規定しています。月曜日から金曜日までは第5時限まで授業を行います。

	月曜日から金曜日
第1時限	8:40 ～ 10:20
第2時限	10:35 ～ 12:15
昼休み	12:15 ～ 13:15
第3時限	13:15 ～ 14:55
第4時限	15:10 ～ 16:50
第5時限	17:05 ～ 18:45

※第5時限は原則として、特別科目・教職科目・一部科目の再履修クラスが開講されます。

クラス編成

本学では、教育課程の進行に合わせてクラスを編成しています。学年と所属クラスおよび名列番号を組み合わせて、次のように表します。学科・専攻の略称はp.010を確認してください。

※学年部分が変更になり、クラスや名列番号はそのまま変わりません。

（留年学生は、名列番号が変更になる場合があります。変更になる場合は、学生ポータルで通知されます。）

1年次　情報デザイン学部　経営情報学科　1組　1番　＝　1　DM　1　－　1

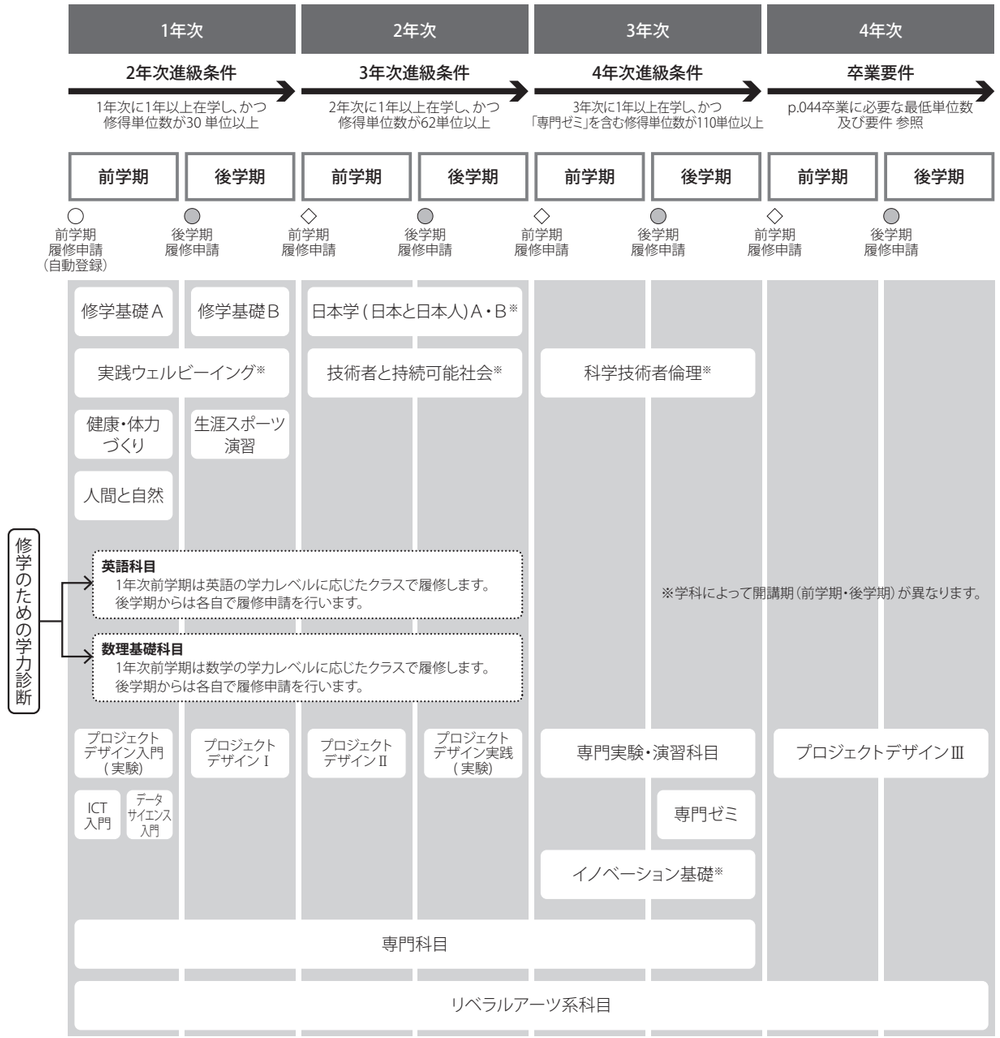
	1年次クラス	2年次クラス	3年次クラス	4年次クラス
氏名	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
所属	情報デザイン学部 経営情報学科			
クラス	1DM1	2DM1	3DM1	4DM1

1年次　工学研究科　機械工学専攻　1組　1番　＝　1　M　1　－　1

	1年次クラス	2年次クラス	3年次クラス（博士後期課程のみ）
氏名	○○○○	○○○○	○○○○
所属	工学研究科 機械工学専攻		
クラス	1M1	2M1	3M1

4年間の修学チャート

2026年度入学生



●1年次後学期からは学生本人が履修登録を行う必要があります。履修登録できなかった科目は受講することができません。履修登録は学生本人の自己責任です。わからないことがあれば修学アドバイザーや教務課（1号館2階）に相談することができます。

●カリキュラムや各科目の詳細、卒業に必要な最低単位数などは、6.カリキュラムガイド（p.083〜）に記載されています。

KIT数理データサイエンス教育プログラムについて

「KIT数理データサイエンス教育プログラム」は、デジタル社会に必要な数理・データサイエンス・AIを正しく理解し、基礎力を身につけることを目的とした教育プログラムです。指定された授業科目の単位を修得すれば、プログラムを修了した証としてデジタル証明（オープンバッジ）が自動的に付与され、就職活動にも活用できます。

本プログラムには「リテラシーレベル」と「応用基礎レベル」があり、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（MDASH）」の認定を受けています。

・「リテラシーレベル（MDASH Literacy）：
数理・データサイエンス・AI技術が社会でどのように活用されているか、どのような可能性があるか、また、いろいろなデータを活用するうえで注意しなければならない情報セキュリティや倫理、データを読む・使う・説明するといったデータを扱う上で必要な基本的な知識やスキルを身につけます。
卒業要件に含まれる必修科目（6科目）の単位を修得するとオープンバッジが付与されます。

・「応用基礎レベル（MDASH Advanced Literacy）」：
数理・データサイエンス・AIに関する知識・スキルを適切に補強し、自らの専門分野においてこれらを応用するための大局的な視点を身につけ、実データ、実課題を用いた演習などを通して、現実の課題へのアプローチ方法や数理・データサイエンス・AIの適切な活用スキルを身につけます。
指定科目（学科により異なる）の単位を修得するとオープンバッジが付与されます。

https://www.kanazawa-it.ac.jp/mdash/

カリキュラムの概要と教育課程表の見方

本学の教育課程は「自ら考え行動する創造的探究・実践人材の育成」を教育目標としています。これを達成するため、プロジェクトデザイン教育を中心とした問題発見能力、分析能力、問題解決能力など、能力の統合化を図ります。カリキュラムは下表のとおり複数の教育課程で編成されています。各教育課程について詳しくは6.カリキュラムガイド（p.083〜）を確認してください。

金沢工業大学規則集（7.規則集（p.202〜））には、学部・大学院それぞれの「教育課程表」（p.253〜）が掲載されています。これは本学の教育課程ごとに開講される授業科目と単位数、週授業時間数を一覧にした表で、履修計画を立てる上で非常に重要なものです。ぜひとも参考にしてください。以下に修学基礎教育課程の教育課程表の一部を例に見方を示します。

単位：必修／選択の区分と、科目の単位数が示されています。
必修科目…必ず修得しなければならない科目です。
選択科目…希望により選択履修する科目です。

1. 修学基礎教育課程（学部共通）

科目区分		授業科目名	単位		週授業時間数								備考
			必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		
					前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
					1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期	
修学基礎科目	修学基礎	修学基礎A	2		2.0								
		修学基礎B	2			2.0							
人間形成基礎科目	人間形成基礎	実践ウェルビーイング	1		(1.0)	(1.0)							履修クラスによって開講時期が異なる。
		技術者と持続可能社会	2				(2.0)	(2.0)					

週授業時間数：科目ごとに開講期と授業時間数が示されています。
（　）は履修クラスによって開講時期が異なります。
例：1.0＝100分授業7週分　／　2.0＝100分授業15週分

進級条件（学部：2026年度入学生）

進級するためには、以下に示す進級条件を満たしている必要があります（修学規程第4条の3別表第1）。進級条件は入学年度により異なります。

・「〇年次に1年以上」とは、該当年次の前学期と後学期に履修歴があることとする。
・修得単位数には、金沢工業大学学則別表第 1 教育課程表（第18条関係）（以下、課程表と表記）にある専門教育課程「その他」並びに教職に関する科目の単位は含めない。

年　次	進級条件
2年次	1年次に1年以上在学し、かつ、修得単位数が30単位以上であること。
3年次	2年次に1年以上在学し、かつ、修得単位数が62単位以上であること。
4年次	3年次に1年以上在学し、かつ、「専門ゼミ」を含む修得単位数が110単位以上であること。

（参考）各年次での修得が望ましい単位数

1年次	1年次終了時で40単位以上
2年次	2年次終了時で85単位以上
3年次	3年次終了時で116単位以上

修業年限と在学制限・休学制限（学部）

修業年限は4年です。休学期間は在学期間に含めません。また、在学・休学できる期間には制限があります。休学手続きはp.024を参照してください。（学則5条・学則13条）

	在学制限・休学制限
在学制限	8年を超えて在学することはできない。
休学制限	通算して2学期間を超えて休学することはできない。

休講・補講・出欠

休講

科目担当教員が都合により授業を行うことができない場合は休講となります。事前に学生ポータルにて連絡され、当日は学内告知テレビで案内します。休講連絡がないにも関わらず授業開始時刻になっても科目担当教員が入室しない場合は、備えつけの内線電話で直ちに教務課へ連絡してください。

補講

休講があった場合には、必ず代わりの講義が行われます。これを補講といいます。この場合も事前に学生ポータルで連絡し、当日は学内告知テレビで案内しますので、十分注意してください。

出席・欠席

全講義回数の**2／3以上**の出席がない場合、**単位の修得はできません。実験・実習・実技科目**などは、**1回の欠席でも単位の修得ができない場合があります**ので注意してください。

なお、欠席した場合は、科目担当教員に当日行われた授業内容を確認し、指示を受けてください。

自分の出席を確認したい時は

出席照会システムを利用してください。
履修している科目の出席状況は、学生ポータルログイン後の画面左側にある「出席照会」から確認することができます（一部科目、集中講義を除く）。出席回数に疑義がある場合、科目担当教員へ申し出てください。
（公認欠席の申請が必要な場合は、公認欠席の手続き（p.024）を行う必要があります。）

卒業要件（学部：2026年度入学生）

本学学部を卒業するためには、次の事項をすべて満たしていなければなりません。
(1) 卒業に必要な最低単位数（124単位）を修得していること（修学規程第12条別表第5）。
　すべての必修科目を含め、各科目群ごとに必要とされる単位数を修得していること
(2) 4年以上在学していること（学則第5条、第25条）。
(3)「人間と自然」を履修し、合格していること（学則第25条）。

卒業するために修得するべき単位

卒業するために必要な最低単位数は124単位ですが、必ず修得しなければならない科目（必修科目）や、各科目群から修得するべき最低単位数など、細かい決まりがあります。

卒業に必要な最低単位数は、
(1) 各科目群から最低限修得すべき単位（合計112単位）
(2) どの科目群からも自由に選択できる科目（リベラルアーツ系科目）の修得単位（合計12単位以上）
の2つに分かれます。

表１　卒業に必要な最低単位数（科目群ごと）

課程区分	科目区分	科目群	必修	選択	合計	
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	4	0	4	各科目群から最低限修得すべき単位（合計112単位）
	人間形成基礎科目	人間形成基礎	7	0	7	
		生涯スポーツ	2	0	2	
		人間と自然	-	-	-	
英語教育課程	英語科目	英語	0	8	8	
数理・データサイエンス・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	9	2	11	
プロジェクトデザイン基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	10	0	10	
専門教育課程	専門科目	専門	学科別		60	
	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト	10	0	10	
（全課程から提供）	リベラルアーツ系科目	文理横断	0	12	12	リベラルアーツ系科目
		専門探究				
合計			学科別		124	

(1)各科目群から最低限修得すべき単位

表１において、□で示した部分（修学基礎教育課程、英語教育課程、…、専門教育課程）は、各科目群から必ず修得すべき単位数を示しています（ただし、専門教育課程における卒業に必要な最低単位数は、所属する学科の授業科目の履修によって修得しなければなりません。他学科の専門教育課程の授業科目の単位は後述のリベラルアーツ系科目の単位として数えます）。必修科目は必ず修得しなければならない科目です。選択科目は、希望により履修する科目で単位修得は義務づけられていませんが、各科目群で定められた単位数を最低限修得する必要があります。各科目群における具体的な必修科目・選択科目については、教育課程表やカリキュラムフローを参照してください。すべての科目群から最低限必要な単位（必修科目および選択科目の単位）を修得すると、合計が112単位となります。

(2)リベラルアーツ系科目の修得単位

卒業に必要な単位数124単位のうち、上記の112単位以外は、どの科目群からも自由に選択できます。本学では、人文・社会科学から自然科学までの教養基礎を文理横断的に学ぶことに加え、異分野の専門科目や自分野の専門科目を深く学ぶことを「リベラルアーツ教育」として推奨しており、この自由選択科目（12単位以上）を、各自の志向により、「より広く」「より深く」学ぶ科目として「リベラルアーツ系科目」と呼びます。リベラルアーツ系科目には、文理横断というタイプの科目（人文・社会科学から自然科学までの教養基礎を文理横断的に学ぶもの）と、専門探究というタイプの科目（異分野の専門科目や自分野の専門科目を深く学ぶもの）の2種類があります。各学生は、この2種類の中から自由に組み合わせて合計12単位以上の単位を修得する必要があります。これらの詳細についてはp.045を参照してください。

(2A) 文理横断

表Aは、リベラルアーツ系科目(文理横断)として用意されている科目です。どの科目も全学生を対象に開講されている自由選択科目です。ここで、「生涯学習特別科目」「外国語特別科目」など「○○特別科目」という名称のものは、固定されている科目ではなく、「生涯学習特別科目(株式と経済)」「専門教養特別科目(教養としての半導体技術入門)」などのように、学期ごとに様々な科目がラインアップされます。また、科目によって開講時期が異なるほか、人数制限や履修の制限がついている科目もあります。学期ごとに発行される「履修申請の手引き」を参考にして科目選択をしてください。

表A　リベラルアーツ系科目(文理横断)として用意されている科目

分野	科目名
人文社会	日本文学の世界、人間と哲学、法と社会、経済と社会、こころのはたらき、グローバル社会(ヨーロッパ)、グローバル社会(アジア)、芸術へのアプローチ、科学技術と社会、技術者のためのコミュニケーション、企業の組織と戦略、日本国憲法、韓国語入門、国際関係論、危機管理論、指定放送大学科目、生涯学習特別科目
外国語教養	外国語特別科目
数理・情報	AIプログラミング入門、AI応用Ⅰ、AI応用Ⅱ、ビジネスデータサイエンス、データサイエンス応用、数理特別科目
技術統合	IoT基礎、IoTプロトタイピング、IoTプログラミング入門、ドローンプログラミング、IoT応用、ロボティクス基礎、情報ネットワーク基礎、ネットワークセキュリティ、プロジェクトデザイン特別科目
専門教養	専門教養特別科目
国際教養理工学	グローバルPD、未来学、コンセプチュアル思考、感性とデザイン、サステナブルイノベーション、科学技術と人・社会、国際教養理工学特別科目

(2B) 専門探究

リベラルアーツ系科目(専門探究)については、特に独自に科目が用意されているわけではなく、表１の科目群に属する科目を卒業に必要な最低単位数を超えて履修するものです。表1の中で、英語科目、数理基礎科目、各学科の専門科目には、たくさんの選択科目が用意されています。それらの選択科目を表1に掲げる必要単位数を超えて履修した場合、その修得単位をリベラルアーツ系科目(専門探究)の修得単位と扱います。例えば、英語科目を10単位修得した場合、卒業に最低限必要な8単位を超えた2単位分はリベラルアーツ系科目(専門探究)の修得単位として扱います。また、所属学科の専門科目を60単位を超えて単位修得した場合、超過分の単位はリベラルアーツ系科目(専門探究)の修得単位として扱います。そして、所属学科とは異なる学科の専門科目を履修(他学科履修)した場合、その修得単位はすべてリベラルアーツ系科目(専門探究)の修得単位として扱います。これらの単位は、大学が標準的に修得を要求している単位数を超えて修得したものですので、リベラルアーツ系科目の中の「異分野の専門科目や自分野の専門科目を深く学ぶ」タイプの学修と見なせるわけです。表Bには、リベラルアーツ系科目(専門探究)として、単位修得し得る科目のカテゴリーをまとめてあります。

表B　リベラルアーツ系科目(専門探究)の単位修得と見なせるもの

課程区分	科目区分	リベラルアーツ系科目として扱う単位数
英語教育課程	英語科目	卒業に必要な最低単位数8単位を超えて修得した単位数
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	卒業に必要な最低単位数11単位を超えて修得した単位数
専門教育課程(自学科)	専門科目	卒業に必要な最低単位数60単位を超えて修得した単位数
専門教育課程(他学科)	専門科目	他学科履修で修得したすべての単位数

卒業に必要な単位修得のイメージ図

各科目群から最低限修得すべき単位　112単位
- 修学基礎(4単位)、人間形成基礎(7単位)、生涯スポーツ(2単位)、人間と自然(合格)
- 英語(8単位)、数理基礎(11単位)、基礎プロジェクト(10単位)
- 専門(60単位)、専門プロジェクト(10単位)

＋

さらに「より広く」「より深く」自由に学ぶ

リベラルアーツ系科目　12単位以上(自由に組み合わせ可能)
- **「より広く学ぶ」文理横断**
  リベラルアーツ系科目として開講されている自由選択科目(表A)
- **「より深く学ぶ」専門探究**
  各科目群に属する科目を卒業に必要な最低単位数を超えて履修(表B)

卒業要件にかかわる特殊な科目

■人間と自然

修学基礎教育課程の「人間と自然」科目は白山麓キャンパスにおいて1泊2日の日程で実施されます。この科目は、単位は付与されませんが、「合格」することが卒業要件になっています。

●研修日程は、所属クラスごとに異なります。

●集合時間および場所の詳細については、別途、説明されます。

■研究室での活動

実験室などの設備を持ち、教員・学部生・大学院生・研究員などが所属し、専門分野の研究に取り組むのが研究室です。3年次に開講される「専門ゼミ」の履修許可を皮切りに、研究室での活動が始まります。専門ゼミでは、4年次に開講される「プロジェクトデザインⅢ(以下、PDⅢ)」で取り組む研究テーマについて、担当教員とともに計画します。PDⅢは、いわゆる卒業研究です。研究テーマに基づいて、皆さんが培ってきた各分野の基礎力を活用し、1年間をかけて各研究室の研究課題に取り組みます。

学部学科によって研究テーマが異なり、同じ学科でも研究室ごとに取り組む課題はさまざまです。

研究室ガイド:「学生ポータル」→下部リンク集「研究室ガイド」

卒業(学士の学位授与)

卒業要件を満たした者には、教授会の意見を聴いて、学長が学士の学位を授与します(学則第25条)。

授与される学位には、学部ごとに次のとおり専攻分野の名称が付記されます(学則第25条)。

情報デザイン学部	学士(情報)	バイオ・化学部	学士(理工学)
メディア情報学部	学士(情報)	工学部	学士(工学)
情報理工学部		建築学部	学士(工学)
情報工学科	学士(工学)		
知能情報システム学科	学士(理工学)		
ロボティクス学科	学士(工学)		

早期卒業（学部）

卒業の要件として学部の定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者について、4年次の9月に早期（3.5年）卒業することを目指す制度です。卒業後は本学の大学院工学研究科博士前期課程（修士課程）へ進学（秋入学）することが条件です。

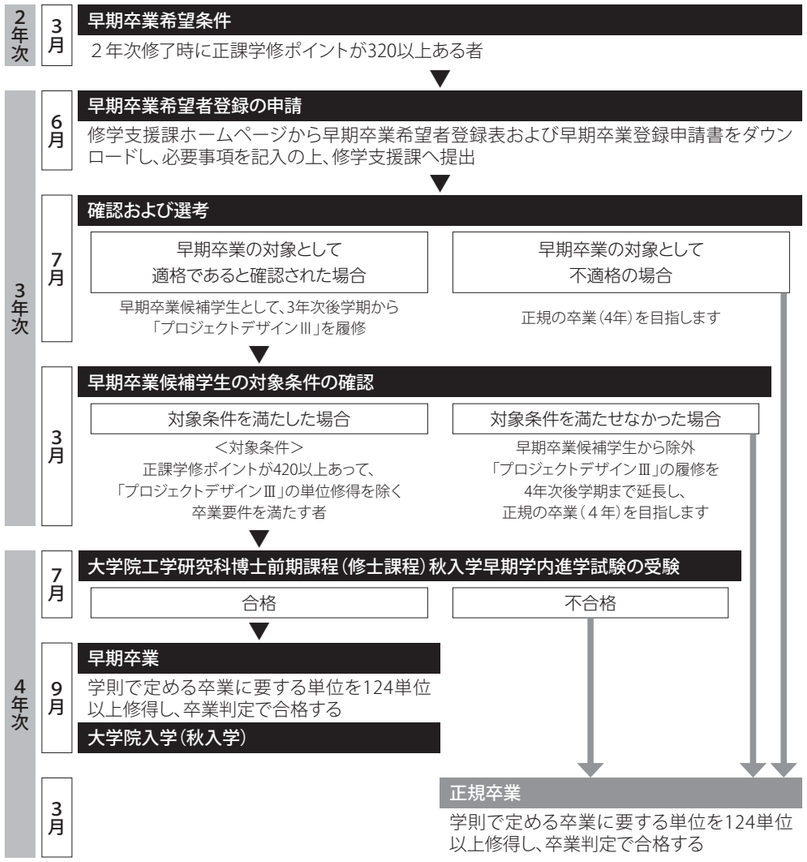
また、大学院にも早期修了制度（p.052）があり、通常の修了期間より1年間短縮して、（学部3.5年）＋（修士1.5年）＝ 5年間で学部と大学院を修了することが可能です。

■早期卒業の対象となる学生の条件

1. ２年次修了時に正課学修ポイントが320以上ある者
2. ３年次修了時に正課学修ポイントが420以上あって、プロジェクトデザインⅢの単位修得を除く卒業要件を満たす者
3. ４年次において、本学の大学院工学研究科博士前期課程（修士課程）の秋入学早期学内進学試験に合格し、かつ大学院への進学の意思が明確であること
4. ４年次前学期修了時に、学則で定める卒業に要する単位を124単位以上修得していること

※ただし、再入学及び編入学、転学部・転学科に該当する者は対象となりません。

■申請から早期卒業までのプロセス



自己点検

自己点検は、学生自身が学習のプロセスとその成果について確認を行うために実施されます。科目担当教員から学習支援計画書に記載された「学生が達成すべき行動目標」に対する講評や提出されたレポートの返却並びに今後の学習に対するアドバイスが行われます。

先取り履修制度

通常、所属年次より上の年次で開講されている科目は履修できません（例えば、1年次の学生が2年次対象の科目は履修できません）が、各課程・学科にて認められている科目に限り、「先取り履修」（後学期科目を前学期に履修または、上位年次の科目を履修）をすることができます。

対象科目は、各履修計画申請期間までに教務課から学生ポータルでお知らせします。

■先取り履修の履修条件

①：前の学期までの累計GPAが3.00以上であること（但し、先取り履修を希望する学期の直前の夏期及び春期集中の成績は除く）。

※1年次前学期および夏期集中に先取り履修できる科目については、上記条件は除きます。

②：①に加えて各科目で個別に履修条件が設けられている場合はそれを満足していること。

■先取り履修の授業形式

先取り履修は、原則以下のいずれかの授業形式で行います。なお、成績評価は、通常授業と同じ基準で行います。

(a)上位年次の学生とともに受講する授業

対面授業を基本とします。教室や担当教員の都合により、履修者数を制限することがあります。

(b)『先取り履修』専用の授業

オンデマンド授業（録画授業）を基本とします。

国際教養理工学課程について

「国際教養理工学課程」では、深い人間理解に基づく教養と理工学の専門力を活かし、グローバルに活躍できる人材を育成します。国際教養理工学課程が提供する科目、英語で開講されるリベラルアーツ系科目や専門科目の中から16単位以上修得した者には、卒業時に修了証が授与されます。対象科目は、6.カリキュラムガイド（p.175～176）を参照してください。

エントリーおよび履修申請については以下の手順で行ってください。

なお、エントリー以前に単位修得した科目も制度を利用した単位として認められます。詳しくは申請時に確認してください。

1. エントリー

教務課にて受付を行います。エントリー期間に申請を行ってください。エントリー申請書は教務課ホームページに掲載されています。

2. 履修申請方法

申請方法は教務課のホームページを確認してください。なお、1学期あたり24単位を超えて履修登録することはできません。申請時点の累積GPAが3.00以上であれば、教務課に申請することで上限を超えて履修登録ができます。

サブメジャー制度、他学科専門科目の履修について

「サブメジャー制度」とは、学びの視野を広めるとともに、将来技術者としての素養を高めることを目的として、所属学科以外の分野の指定科目群の中から12単位以上を計画的に履修し、修得を目指す制度です。修了者には卒業時に修了証が授与されます。対象科目は、教務課ホームページを参照してください。

「他学科専門科目」については、申請できる専門科目に特段の制限はありませんが、所属学科と専門領域が近い学科の開講科目は、履修が許可されない場合があります。

履修申請については以下の手順で行ってください。いずれの場合も科目担当教員の許可が必要です。

申請方法	1. 所定の申請書を教務課ホームページよりダウンロードまたは教務課窓口にて受取る 2. 必要事項を記入の上、教務課窓口に提出する（※科目担当教員の許可が必要です）
申請期間	「履修計画申請期間」および「履修計画修正期間」

【注意事項】

- サブメジャー制度を利用して履修した科目（以下、サブメジャー科目）および他学科専門科目を履修して修得した単位は、リベラルアーツ系科目（専門探究）の単位となります（p.045参照）。所属学科の専門科目の単位数（60単位）には含まれません。
- 原則として、1学期間に履修登録できる科目の単位数は24単位を超えることはできません（CAP制）。サブメジャー科目および他学科専門科目の履修により、CAP制の上限に抵触しないよう注意してください。ただし、申請時点での累積GPAが3.00以上の学生は、「履修申請書（登録単位数の特例）」を教務課に提出することにより、CAP制の上限を超えて履修することができます。詳細はp.063を参照してください。

学部生の大学院科目の履修・単位認定の申請（学部4年次～大学院進学後）

■大学院科目の履修申請に関する注意事項

PDⅢの指導教員が認めた者で、本学大学院博士前期課程（修士課程）の授業科目（以下、「大学院科目」という）の受講を希望する者は、教務課にて所定の履修申請手続きを行うことで、科目履修学部生として大学院科目を履修することができます。履修申請する際には、以下の点に注意してください。

(1)履修可能な単位数は在学中16単位までとします（不合格の単位数を含む）

(2)履修申請が可能な科目区分は「関係科目」のみとします

(3)**学部卒業に必要な単位数には含まれません**

■履修申請の方法

大学院の時間割は教務課ホームページで確認できます。事前に学生ポータルで告知します。

履修申請には「履修申請書（科目履修学部生用）」が必要です。教務課のホームページから様式をダウンロードしてください。申請書に必要事項を記入したら、PDⅢの指導教員の署名をもらってください。**大学院の履修申請期間中（p.063参照）**に教務課の窓口に提出してください。

■履修登録した科目の確認

履修申請書提出後、教務課での履修登録が完了すると学生ポータルの「履修申請（大学院）」から時間割を確認できます。履修登録の完了まで数日かかる場合もあります。

■単位認定について

学部4年次に大学院科目の単位を修得し、本学大学院博士前期課程（修士課程）に進学した者は、入学後に単位認定されます。認定結果は、入学年度の前学期の成績公開時に反映されます。単位認定を希望しない場合は、単位不認定の届出が必要です。

●単位不認定の届出について

届出期間は大学院の前学期履修申請期間に準じます。手続方法は教務課ホームページ等を確認してください。

学位論文の審査基準（大学院）

本学大学院工学研究科、心理科学研究科における学位論文は、学位授与方針に基づき、以下の基準で審査され、その成績は総合的に判断されます。

【博士前期課程（修士課程）】

1. 学位申請者が取り組んだ研究または特定の課題をまとめたものであること。
2. 研究または特定の課題の学術的背景と社会的な意義を有していること。
3. 論文の構成、論旨、参考文献、引用資料、補足資料などが的確であること。
4. 明確な問題意識、問題分析に基づいて適切に研究を実施し、その成果を評価した上で、結論を導いていること。
5. 研究または特定の課題の成果は、新規性、独創性、有効性等を含んでいること。
6. 研究または特定の内容は、学校法人金沢工業大学研究倫理規定を遵守していること。
7. 審査会における修士学位論文の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明確に行われていること。

【博士後期課程】

1. 学位申請者が主体的に取り組んだ研究をまとめたものであること。
2. 先行研究との関係を明確に示しており、学術的背景と社会的な意義を有していること。
3. 論文の構成、論旨、参考文献、引用資料、補足資料などが的確であること。
4. 明確な問題意識、問題分析に基づいて研究を適切に実施し、その成果を評価した上で、結論を導いていること。
5. 研究の成果に、新規性、独創性、有効性等を含み、当該分野の学問の発展に貢献できる内容であること。
6. 研究の内容は、学校法人金沢工業大学研究倫理規定を遵守していること。
7. 審査会における博士学位論文の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明確に行われていること。

各研究科ごとの修了要件について詳しくはp.051～053を確認してください。

修了要件（大学院博士前期課程（修士課程））

修了要件（博士前期課程（修士課程））

■修士課程および博士前期課程の修了要件（大学院学則第33条）、学位申請要項参照

修士課程および博士前期課程の修了要件は、当該課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位申請までに論文または特定の課題の内容を専門学協会か各種コンペなどにおいて、少なくとも1回以上プレゼンテーションするとともに、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
（デュアルディグリープログラム参加学生の取扱いについては別に定める。）

修了に必要な最低単位数（博士前期課程（修士課程））

修了に必要な最低単位数は以下のとおりです。課程修了に関しては、「学位取得までのプロセス（博士前期課程（修士課程））」を参照してください（大学院学則第28条）。

1年次前学期履修申請時に、当該専攻の専修科目の中から必ず1科目(12単位)を選んでください。この科目を担当する教員が指導教員になります(大学院学則第24条)。

【工学研究科】

高信頼ものづくり専攻（博士前期課程1年制コース）を除く。

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	必修	選択
専修科目	12	ー
関係科目	ー	18
合計	30	

※　関係科目は10単位分を自専攻から修得しなければならない。
※　専攻共通科目については他専攻科目として扱う。

【心理科学研究科】

■修士課程

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	必修	選択
専修科目	8	ー
関係科目	34	2
合計	44	

修士研究活動支援システム

「学位取得までのプロセス（博士前期課程（修士課程））」にある「論文計画書」「学位申請書」は「修士研究活動支援システム」で作成・PDFファイルを出力します。「修士研究活動支援システム」は、学生ポータルにログインし「修士活動支援」の項目からアクセスできます。詳しい操作説明は「修士研究活動支援システム」のページ内の操作説明書を参照してください。

学位取得までのプロセス（博士前期課程（修士課程））

1. 論文計画書の提出（10月末頃）

論文計画書または研究成果計画書1通を、指導教員を経て専攻主任に提出する。

2. 学位申請書、論文等の提出（1月末頃まで）

次の書類を各部数、指導教員を経て専攻主任に提出する。

a.学位申請書（所定用紙）
b.予稿集の原稿
c.修士論文（草稿）
d.専門学協会や各種コンペなどにおける発表関係資料
（投稿論文やプレゼンテーション資料などのコピー可）

3. 論文審査および最終試験の実施（2月上旬頃）

4. 学位授与の可否を大学院委員会で判定（2月下旬頃）

5. 学位授与（3月中旬頃）

6. 論文の保管

論文（PDF）は本学ライブラリーセンターに保管する。

修了（修士の学位の授与）

課程ごとに規定された修了要件を満たした者には、大学院委員会の意見を聴いて、学長が修士の学位を授与します（大学院学則第35条）。授与される学位には、研究科または研究科の専攻ごとに次のとおり専攻分野の名称が付記されます（大学院学則35条の2）。

●工学研究科

機械工学専攻	修士（工学）	バイオ・化学専攻	修士（理工学）
環境土木工学専攻	修士（工学）	建築学専攻	修士（工学）
情報工学専攻	修士（工学）	高信頼ものづくり専攻	修士（工学）
電気電子工学専攻	修士（工学）	ビジネスアーキテクト専攻	修士（工学）
システム設計工学専攻	修士（工学）		

●心理科学研究科

臨床心理学専攻　修士（心理学）

●イノベーションマネジメント研究科

イノベーションマネジメント専攻　修士（経営管理）又は修士（知的財産マネジメント）

早期修了（博士前期課程（修士課程））

大学院学則に定める修了の要件（p.051）を満たし、さらに優れた業績を上げた者については、修士2年次の9月（秋入学した場合には3月）に、在学期間1.5年で早期修了が認められる制度です。

■優れた業績の条件

・研究論文（査読付き・筆頭著者）の採択1本以上、もしくは国際会議発表（査読付き・筆頭著者として本人が発表）1件以上、または、それに相当する成果（各専攻で定める）を上げること
・大学院関係科目のポイントが54以上ある者
大学院関係科目のポイントとは、大学院関係科目における学修の積分値としてのポイントです。「大学院関係科目の修得単位数×学部のGPAに相当する値」で算出されます。
（cf. 大学院関係科目の修得単位数18単位×学部のGPAに相当する値3.00＝大学院関係科目のポイント54）

修了要件（大学院博士後期課程）

修了要件（博士後期課程）

■博士後期課程の修了要件（大学院学則第34条）

博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位申請までに主要論文の内容の全部または一部が、当該専門分野の学会の発行する論文誌（有審査）、またはそれに相当する学術論文誌（有審査）に掲載されており、その論文が2編※以上あるとともに、主要論文の全部または一部に関して国際会議等で1回以上の口

頭発表を実施し、かつ、博士の論文の審査および最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年（修士課程又は博士前期課程を1年以上2年未満の在学期間をもって修了した者にあっては、3年から当該修士課程又は博士前期課程における在学期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

※採択が決定されているものはこの数に含める。採択決定は発行者の証明書または本人あての通知書による。また、共著論文については、内容が主として当該学位申請者の業績であること。ただし、当該学位申請者がどの部分にどれほど貢献したかについて、共著者の証明を必要とする。当該共著論文が共著者の博士論文の主要な内容となっているときは、論文数に算入しないものとする。

修了に必要な最低単位数（博士後期課程）

修了に必要な最低単位数は以下のとおりです。課程修了に関しては、「学位取得までのプロセス（博士後期課程）」を参照してください。

【工学研究科】

1年次前学期履修申請時に、当該専攻の特殊研究科目の中から必ず1科目(4単位)を選んでください。この科目を担当する教員が指導教員になります(大学院学則第24条)。

■工学研究科

科目区分	修了に必要な最低単位数
特殊研究	4
主要科目	2
特別科目	4
合計	10

学位取得までのプロセス（博士後期課程）

1. 論文計画書・論文（草稿）などの提出（9月下旬）

次の書類を各部数、指導教員を経て専攻主任に提出する。

a.論文計画書（所定用紙）
b.論文（草稿）
c.論文の概要(所定用紙-和文2,000字程度)

専攻主任は、論文計画書を学長に提出する。

2. 研究発表会の開催（10月上旬〜11月下旬頃）

当該研究について、専攻内教員および類似テーマ研究者の参加を得て、研究発表会を行う。

3. 論文などの提出（1月末日頃まで）

専攻主任より通知を受けた者は、次の書類を各部数、指導教員を経て、学長に提出する。

a.学位申請書（所定用紙）
b.論文
c.論文の概要（所定用紙-和文2,000字程度、英文500語程度）
d.論文目録（所定用紙）
e.履歴書（所定用紙）
f.参考論文（必要な場合のみ）

4. 公聴会を開催（2月上旬頃）

各専攻は、公聴会を開催する。

5.学位授与の可否を大学院委員会で判定（2月下旬頃）

6. 学位授与（3月中旬頃）

修了（博士の学位の授与）

課程ごとに規定された修了要件を満たした者には、大学院委員会の意見を聴いて、学長が博士の学位を授与します（大学院学則第35条）。授与される学位には、研究科の専攻ごとに次のとおり専攻分野の名称が付記されます（大学院学則35条の2）。

■博士

●工学研究科

機械工学専攻	博士（工学）	システム設計工学専攻	博士（工学）又は博士（学術）
環境土木工学専攻	博士（工学）	バイオ・化学専攻	博士（理工学）
情報工学専攻	博士（工学）	建築学専攻	博士（工学）
電気電子工学専攻	博士（工学）	高信頼ものづくり専攻	博士（工学）

3-2 履修申請について

学部

修学計画と履修申請

「修学計画」とは４年間の修学目標を計画することです。「履修計画」とはその修学計画にあわせた各学期の授業科目の受講計画をすることです。自分の目標を考慮して、履修計画を立ててください。

(1)履修計画申請

修学計画に基づいて、受講したい授業科目の開講時限等を「履修申請の手引き」で確認し、履修計画を立て、学生ポータルの「履修申請システム」から履修申請を行います（詳細はp.057～）。

履修計画申請期間内であれば、履修申請した科目を変更することができます。申請内容は履修申請システムで確認できます。

修学計画、履修計画を立てるにあたり、以下の点を注意してください。

- ●必修科目・選択科目の区分について（p.042参照）
- ●進級条件（p.043参照）
- ●卒業要件（p.044参照）
- ●GPA（p.067参照）

入学後の1年次 前学期は、自動的に履修申請されるので履修申請は不要です。
1年次 後学期の履修申請については「修学基礎A」で説明があります。

(2)履修許可

履修申請した科目の履修許可・不許可の結果は学生ポータル内「時間割表」から確認できます。

(3)履修計画修正

必要に応じて履修計画の修正申請ができます。履修計画修正期間の申請による履修許可・不許可の結果は、翌日から履修申請システムの「時間割表」で確認できます。履修計画修正期間後の履修変更（履修削除・追加履修申請）はできません。

履修申請の手続きは、履修申請期間内に必ず完了してください。
※ 期間外の履修申請は受け付けません。

※ 進級条件により、申請した科目が「履修許可」されない場合もあります。
「履修許可」の結果は、履修申請システムで確認してください。
※ 所属学科以外の専門教育課程にて開講されている科目を受講希望する場合は、科目担当教員の許可を受けて履修することができます（詳しくは教務課ホームページ参照）。ただし、専門教育課程の卒業に必要な最低単位数は所属する学科から履修していなければなりません（p.044「**卒業に必要な最低単位数**」を参照）。

2026年度　後学期の履修計画申請は、下記の日程で行います。

申請期間	後学期分
履修計画申請期間	7月27日（月）12:30～7月29日（水）17:20まで
履修計画修正期間	9月24日（木）8:30～17:20まで

2027年度　前学期の履修計画申請は、下記の日程で行います。

申請期間	前学期分
履修計画申請期間	1月25日（月）12:30～1月27日（水）17:20まで
履修計画修正期間	未定 2027年1月頃、学生ポータルでお知らせします。

履修申請から授業開始までのプロセス（2026年度 後学期）

「履修申請の手引き」を参考に履修計画を立てる

＊「履修申請の手引き」は教務課ホームページから入手できます。（公開時期は学生ポータルでお知らせします）
＊ 記載内容の変更・訂正がある場合は、教務課ホームページにてお知らせします。

▼

履修申請システムで履修登録
履修計画申請期間　7月27日（月）12:30～7月29日（水）17:20

＊ 操作方法は、教務課ホームページに記載しています。
＊ 17:20からデータ処理を行うため、一時アクセスできない時間帯があります。
＊ 履修登録（修正）をした後は、履修申請システム「時間割表」で「申請状況」を必ず確認してください。

▼

データの処理（進級・履修条件の確認など）

▼

後学期オリエンテーション日以降に、履修申請システムの「時間割表」で履修申請結果を確認

履修許可

履修不許可/履修修正が必要

▼

履修申請システムで履修修正
履修計画修正期間
9月24日（木）8:30～17:20

▼

データの処理

▼

履修許可

履修計画修正期間に申請内容を変更した場合は、翌日以降に履修申請システムの「時間割表」で担当教員・教室を確認してください。

▼

担当教員・教室を確認

授業開始　9月28日（月）～

履修計画申請・修正期間締め切り時間以降の申請は一切受け付けられません。

履修申請の手順

❶受講科目を選択

「履修申請の手引き」、「カリキュラムガイド」（6.カリキュラムガイド（p.083〜））並びに各科目の学習支援計画書で受講科目や授業内容を確認してください。

「履修申請の手引き」には、課程区分ごとに「対象（クラス）」、「講義日」、「開講期」を記載しています。（「カリキュラムガイド」の開講期から変更される場合がありますので、毎学期、必ず確認してください。）

「履修申請の手引き」は教務課ホームページからダウンロードできます。

「学生ポータル」→下部リンク集「教務課」→上部メニュー「学部」から「履修申請」

❷科目の開講時間を確認し、自分の時間割表を作成

選択した各科目を時間ごとに記入して、実際に1週間の時間割表を作成してください。
同一時間帯に複数の科目を履修することはできません。

❸「履修申請システム」にアクセス　https://risyu.mars.kanazawa-it.ac.jp/risyu

履修申請システムは、ノートパソコンなどから学内イントラネットに接続することで、履修登録（登録・削除）を行えるシステムです。履修期間中は夜間でも申請することができます。

（データ処理のため、履修申請期間中の17:20以降にアクセスできない時間帯があります）

（1）履修申請する学期を選択し、「確定」をクリックしてください。

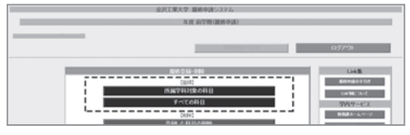
❹登録する科目を選択する

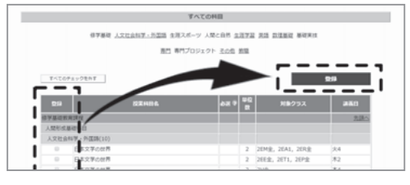
（1）「所属学科対象の科目」（もしくは「すべての科目」）から、登録可能な科目をリストアップします。
- 所属学科対象の科目…所属する学年・学科が対象となっている科目
- すべての科目…登録可能なすべての科目

右側に履修申請の参考になる「Link集」および「学内サービス」のリンクを表示しています。

（2）登録したい科目をすべて選択します。（科目左側のチェックボックスをクリックしてください。）
以下の科目は履修申請システムに表示されません。
- すでに単位修得済みの科目（別途申請する必要があります）
- 所属学科以外の専門教育課程の科目（別途申請する必要があります）
- 現在履修中の科目（履修計画修正期間に履修申請システムから申請できます）

（3）選択が完了したら右上の「登録」をクリックしてください。前学期と後学期にわたって開講される科目は、後学期分も登録されます。





❺履修申請科目を確定する

履修申請した科目の単位数の合計、履修申請した科目の一覧がリストアップされるので、内容を再度確認し、間違いがなければ左下の「確定」をクリックしてください。
- 修正する場合は、右下の「修正」をクリックし、科目選択から行ってください。
- **履修申請の内容に不備や注意事項がある場合は、次ページを参照してください。**

❻申請内容を「履修申請システム」内の「時間割表」で確認する

（1）右上の「時間割表」をクリックして、履修申請結果を時間割表で確認してください。

※ 一部の科目は履修人数に制限があります。
『履修人数が定員に達したので、履修申請を受け付けることができませんでした。』というメッセージが表示された場合は、その科目を**申請することはできません。**
この場合、定員に達した科目を除いて申請科目が登録されます。

（2）時間割表に科目が表示されていれば、履修申請は完了です。事前に作成した時間割表と比較して、申請漏れなどがないようにしてください。
締め切り前であれば、それまでに履修申請した科目の修正・変更は可能です。

❼「時間割表」で履修許可された科目、講義教室、科目担当者を確認する

（1）学生ポータル内「時間割表」から、履修許可された科目の講義教室と担当教員を確認してください。
履修計画修正期間に履修申請を変更した場合は、期間終了後翌日以降に履修申請システムの「時間割表」で確認してください。

（2）履修申請した科目であっても、進級条件を満たさない場合は、該当科目は履修許可されません。この場合、履修は削除されます。

履修申請の修正方法

■科目を追加する場合…… p.057手順4の(1)より登録する科目を選択して履修申請を行う。

■登録した科目を削除する場合…… 以下の手順で登録科目の削除申請を行う。

1.「登録した科目の削除」を選択

現在登録されている科目がリストアップされます。
以下の科目は表示されません。

- 通年科目で、後学期にあたる場合
- 各種履修申請書で履修申請を行った科目
- 専門実験・演習科目（再履修者除く）

2. 削除したい科目を選択

（1）削除したい科目を選択します。
（2）右上の「削除」を選択してください。

3. 削除する科目の確認

選択された削除対象科目がリストアップされるので、間違いがないか確認して、左下の「削除」を選択してください。

4.「時間割表」で確認

右上の「時間割表」を選択して、申請結果を時間割表で確認してください。

■申請した科目がCAP制の上限(24単位)を超えた場合

申請した科目がCAP制の上限（24単位）を超えた場合は、警告メッセージが表示され、申請ができません。
「修正」を選択して、登録画面に戻り、再度申請を行ってください。

■注意が必要な科目：教職に関する科目／専門その他科目

・「教職に関する科目」は、教員免許取得の意志がある学生を対象とする科目です。
・「専門その他科目」は、進級・卒業に必要な単位に含まれない科目です。

●「登録する」を選択すると全て履修登録されます。
●「登録しない」をクリックすると、それらの科目を除いて登録されます。

指定放送大学科目について

本学では、放送大学（千葉県）と単位互換協定を結んでいます。
本学学生は、生涯学習の一環として在学中に本学が指定する放送大学科目（指定放送大学科目）を履修することができます。

指定放送大学科目の学習の流れ

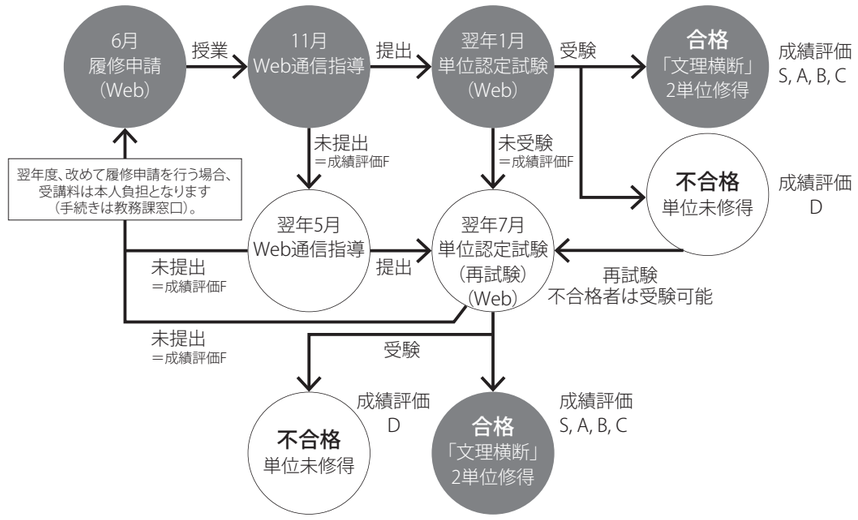
指定放送大学科目の履修申請は、6月中旬～下旬に行い、授業は後学期から始まります。

9月下旬には自宅にテキスト（以下、印刷教材）が郵送されます。どの印刷教材も1回45分（全15回）の放送授業（インターネット等での映像・音声の視聴による授業）に対応して、第1章から第15章で構成されています。

10月から授業を視聴してください。視聴方法は学生ポータルと教務課ホームページで案内します。
（「学生ポータル」→下部リンク集「教務課」→上部メニュー「学部」から「指定放送大学科目」）

11月頃に課せられるWeb通信指導（レポート）と、1月頃に課せられる単位認定試験に合格した場合は、本学のリベラルアーツ系科目（文理横断）の単位として認定されます。

指定放送大学科目の履修申請から単位認定までの主な流れを示します。次ページに、下図に沿った履修申請から成績評価について詳細を記載しています。



指定放送大学科目に関するQ&A

Q. Web通信指導を未提出または不合格だった

A. Web通信指導を未提出または不合格だった場合、受講した学期の次の学期に限り、改めてWeb通信指導を提出することができます（この場合、履修申請手続きは不要です）。指定された期日までに提出してください（5月中旬～下旬）。Web通信指導の合否は、放送大学「システム WAKABA」にて確認できます（6月下旬）。Web通信指導を提出し、合格しなければ単位認定試験を受験できません。
再試験の日時などは、学生ポータルや教務課ホームページを確認してください。

Q. 単位認定試験を受験できなかった、または成績がD評価だった

A. 単位認定試験を受験できなかった、または成績がD評価だった場合、受講した学期の次の学期に限り、再試験を受験できます。受験対象者は、放送大学「システム WAKABA」にて詳細を確認してください（6月下旬）。 再試験の日時などは、学生ポータルや教務課ホームページをよく確認してください。

不明な点は教務課ホームページを確認するか、教務課（1号館2階）へお問い合わせください。

指定放送大学科目の履修申請～成績評価について

1.「指定放送大学科目」の履修申請をする

①履修申請前に各科目の講義内容を確認してください。
指定放送大学科目の講義概要は、教務課ホームページに掲載されています。
②指定放送大学科目の中から、1科目を選択してください。
初回(1科目分)の受講料は不要です。2回目以降の履修申請では、受講料が必要です。
同一年度中に1科目のみ履修申請できます。
③指定放送大学科目 履修申請期間に履修申請をしてください(例年6月中旬～下旬)。
履修申請期間の日程は、通常のものと異なります。注意してください。

2.印刷教材を受け取る

印刷教材は自宅(履修申請時に本学に登録されている学生住所)へ郵送されます(例年9月中旬～下旬)。授業開始までに届かない場合は、本学教務課まで申し出てください。

また、住所変更をした場合は、学生ポータルから住所の変更の届出(p.023参照)を行い、最寄りの郵便局へ「転居届」(1年間有効)を忘れずに提出してください。

3. 授業を視聴する

学生ポータル内「時間割表」から受講科目を確認し、授業を視聴してください。授業の視聴方法等は学生ポータルおよび教務課ホームページに掲載するので、必ず確認してください。

4.Web通信指導を提出する

①受講開始後、11月中旬にWeb通信指導の提出が課せられます。
②提出方法は、教務課ホームページで確認できますので、指定された期日までに提出してください(おおむね第1回から第8回までの授業が出題範囲です)。
※Web通信指導を提出しなかった場合は、単位認定試験を受験できません。

〈放送大学の学生番号の取り扱い〉
Web通信指導提出時、および単位認定試験受験時に放送大学の学生番号が必要です。
本学の学生ポータルで確認できます。本学の学籍番号とは異なりますので注意してください。

5.放送大学の単位認定試験を受験する

①12月下旬に、単位認定試験の受験票を放送大学「システムWAKABA」にて出力できるようになります。
②放送大学が指定する期間・方法で単位認定試験を受験してください。
なお、期間・方法などは、学生ポータルや教務課ホームページでもお知らせします。

6.単位修得と成績通知

①単位認定試験を受験し、合格した場合は、本学のリベラルアーツ系科目(文理横断)の単位として認定されます。
②成績は本学の「成績照会システム」で公開します(例年2月下旬～3月)。なお、GPA算出の対象となります。

大学以外の教育施設等での学修による単位認定の申請 (2026年度入学生)

■TOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL®、IELTS™による単位認定の申請について

TOEIC® Listening & Reading Test、TOEFL®テスト及びIELTS™のいずれかを受験し、以下の規定の点数以上を取得した場合には、単位認定を申請することができます。適用カリキュラムにより条件が異なりますので注意してください。

入学年度(カリキュラム)	認定資格			対応する本学の授業科目
	TOEIC®	TOEFL®	IELTS™	
2025年度(令和7年度)以降	600点以上	70点以上	5.5点以上	インテンシブイングリッシュ(2単位)

指定の申請期間に「**学修単位認定申請書**」および「**公式の認定証**または**スコア(原本)**」を教務課窓口へ提出してください。
※各試験の受験について
開催日時・申し込み方法・テスト結果の通知時期は、各自で確認し、申請期間までに必要書類をそろえられるように注意してください。

■語学学校での学修による単位認定について

ELTU(レスター大学付属の語学学校)およびEF(Education First Ltd)が提供する英語研修プログラムにおいて、以下の規定の評価を受けた場合に単位認定を申請することができます。

認定基準		対応する本学の授業科目
ELTU	EF	
C評価以上	C評価以上	インテンシブイングリッシュ(2単位)

指定の申請期間に「**学修単位認定申請書**」および「**参加した語学学校が発行する成績を証明する書類**」を教務課窓口へ提出してください。

〈TOEIC®等および語学学校での学修による単位認定の申請に係る注意事項〉

●学部3、4年次でTOEIC®、TOEFL®、IELTS™による単位認定の申請をする場合は、英語科目を8単位以上修得していないと申請できません。
●「**公式の認定証**または**スコア(原本)**」は、試験日が2年以内の認定証でなければなりません(本学入学以前に取得したものでも可)。
●「学修単位認定申請書」は教務課ホームページからダウンロードしてください。
●申請期間外には受け付けできません。
●既に修得した授業科目は、単位認定の対象とはなりません。
●申請学期に履修していた科目が合格であった場合は、その評価(S～C)が優先されます。
●単位認定された場合の評価はN(認定)となり、単位を修得したことになります(GPAの算出対象にはなりません)。認定結果は、学生ポータルで通知します。
●単位認定後に同一科目の再履修を希望する場合は、教務課(1号館2階)で相談してください。

〈上記の単位認定に係る申請期間について(年2回)〉

申請期間	認定学期	認定結果の通知
後学期の履修計画申請期間(7月下旬)	前学期	8月下旬
前学期の履修計画申請期間(1月下旬)	後学期	2月下旬

■国家資格保有による単位認定について(対象:電気エネルギーシステム工学科、電子情報システム工学科のみ)

下表に示す資格について条件を満たした学生は、単位認定を申請することができます。

また、認定申請者は希望により、電気エネルギーシステム工学科と電子情報システム工学科が指定する1年次後学期開講科目を、1年次前学期に履修することができます。詳細はオリエンテーションで説明されます。

資格の名称と条件	対応する本学の授業科目	単位数
第一種・第二種・第三種 電気主任技術者試験(合格または理論科目合格)	電気数学Ⅰ(2単位), 電気回路基礎(2単位), 電気回路Ⅰ(2単位), 電子回路Ⅰ(4単位)	10単位
第一種・第二種 電気工事士試験(技能試験合格)	電気数学Ⅰ(2単位), 電気回路基礎(2単位)	4単位

〈申請に係る注意事項(電気エネルギーシステム工学科のみ)〉

在学中に指定科目の単位を修得し卒業後に業務内容に応じた必要な実務経験を経て、第一種・第二種・第三種電気主任技術者免状交付の申請を行うことができます。なお、単位認定制度により認定された単位は、指定科目の単位には含まれません。卒業後に免状交付の申請を考えている学生は、注意してください。

CAP 制（登録単位数の上限）

予習・復習を含む自主的な学習時間の確保を目的として、履修科目の登録単位数の上限を設定する「CAP制」を導入しています。これにより、**1学期間に履修可能な単位数の上限が24単位に制限されます。なお、以下の表に示す科目群はCAP制に含まれません。**

登録単位数の上限に含めない科目
①教職に関する科目
②専門教育課程のその他の科目（ex. 進路セミナー、情報工学特別講義など）
③指定放送大学科目
④生涯学習特別科目（インターンシップ実習）
⑤いしかわシティカレッジ科目
⑥春期休業中または夏期休業中に開講する集中科目
⑦インテンシブイングリッシュ（語学研究科目）
⑧グローバルPD
⑨学長が認めた科目

なお、累計GPAが3.00以上の者は、CAP制の上限を超えて履修することができます。
申請方法は教務課ホームページを確認してください。

大学院（博士前期課程（修士課程）・博士後期課程）

履修申請期間

大学院カリキュラムの概要はWebで公開しています。
https://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_guide/2026/chapter_6/doctor/

履修申請は、概ね以下の時期に行ってください。詳しくは学生ポータルおよび教務課ホームページで確認してください。

学期	履修申請期間
前学期	4月上旬（1週間程度）
後学期	9月下旬（1週間程度）

※申請期間最終日は回線の混雑が予想されますので、早めに申請手続きを行ってください。

履修申請時の注意事項

特別な申請が必要な科目

以下の科目は「履修申請システム」から履修を受け付けることができません。
教務課（1号館2階）にて手続きを行ってください。

- ●連携大学院にて開講される科目
- ●他大学院との単位互換協定に基づく科目
- ●学部開講科目

履修申請・修正の手順

履修申請は、学生ポータルの履修申請システムから行います。

❶特殊研究または専修科目・関係科目などの科目選択と時間割の作成

（1）特殊研究（博士後期課程）、または専修科目（博士前期(修士)課程）を必ず1科目選択してください。特殊研究および専修科目は、入学年度の前学期に一度登録すれば、変更が無い限り次の学期以降の履修登録は不要です（この科目の担当教員が指導教員となります）。
（2）当該学期に履修する関係科目を、指導教員と相談の上選択してください。

❷「履修申請システム」にアクセスする

履修申請システムは、パソコンなどから履修登録（登録・削除）を行えるシステムです。履修申請期間中は夜間・日曜日でも利用することができます。

❸履修申請データを作成する

現在の申請状況を確認し、履修申請を行ってください（履修確定後は、時間割照会画面がトップ画面になります）。

❹特殊研究・専修科目の選択をする

履修したい科目の左側にあるチェックボックスにチェックを入れ、「選択する」をクリックしてください。

❺履修したい科目を選択する

（1）履修したい科目の専攻を選択し、「申請科目の追加」を選択する。
（2）履修したい科目名の左側にあるチェックボックスにチェックを入れる（複数科目選択可能）。
- ●すでに修得している科目は、非表示になっています。
- ●選択した科目の曜日・時限が重複した場合、備考欄にエラーが表示されます。

（3）選択した科目に間違いがないか確認後、「追加」をクリックする。

❻履修削除したい場合

（1）「申請科目の削除」を選択する。
（2）削除したい科目名の左側にあるチェックボックスにチェックを入れる（複数科目選択可能）。
（3）「削除」をクリックする。
（4）チェックを入れた削除対象科目がリストアップされるので、間違いがないか確認後、「削除実行」をクリックする。
（5）作成完了画面を確認する。
- ●データの仮登録前であれば、何度でも変更可能です。

❼データを仮登録し、指導教員の承認を得る

（1）履修申請データの作成が完了したら「仮登録」をクリックする。
- ●**仮登録後は、申請内容を変更することができない**ので、間違いがないかよく確認してください。

（2）仮登録データ確認画面で内容を確認し「仮登録実行」をクリックする。
- ●**「仮登録実行」によって指導教員が承認できる状態になります。**
- ●**履修申請トップ画面で申請状況の表示が【仮登録】へ変更されたことを確認してください。**

（3）指導教員の承認を得る（電子承認）。
- ●**指導教員の承認をもって、履修申請が確定となります。**

❽履修内容を確認する

履修申請が確定されている場合、トップ画面には時間割照会画面が表示されるので、確認します。
- ●指導教員による承認後は、申請状況の表示が【承認済】となります。
- ●履修申請が承認されなかった場合は、申請状況の表示が【要修正】となりますので、指導教員に理由を確認し、再度履修申請（仮登録）を行ってください。
- ●仮登録中に申請科目を修正する場合は、指導教員へ修正の連絡を行い、再度申請手続きを行ってください。

❾履修修正の手続きをする場合

教員による承認後（履修確定後）、履修登録した科目を修正（追加・削除）したい場合は、履修申請期間内に教務課まで申し出てください。

3-3 成績について

成績評価・成績照会・成績公開

成績評価

各授業科目の成績は、学生個々の学習プロセスとその成果を総合的に評価します。科目によって、総合評価点数により段階評価（S~D評価）されるものと、合否判定のみのものがあります。詳しい成績の評価方法は、各授業科目の学習支援計画書（p.013参照）に明記されています。

■総合評価点数（修学規程第7条別表第3）

評価項目	総合評価割合	評価項目点数	総合評価点数
試験	学習支援計画書に示す基準 ただし、試験は40 %以下とする	各評価項目を100点満点で 評価した点数	評価項目点数に 総合評価割合を乗じた点数
クイズ・小テスト			
レポート			
成果発表（口頭・実技）			
作品			
ポートフォリオ			
その他			
合計	100 %	-	100点

総合評価点数による段階評価は、「S，A，B，C，D，F」の6種の評語で表し、「S，A，B，C」を合格、「D，F」を不合格とします。また、合否判定のみの科目では、「合」と「否」の評語を用い、「合」を合格、「否」を不合格とします。合格した場合、その授業科目で定められた単位数を修得できます（「人間と自然」の単位数は０です）。

成績評価を受けた授業科目に対して、さらに良い成績評価を得たい場合、同一授業科目を再度、履修することができます。ただし、前回の成績評価および修得した単位は取り消されますので注意してください。詳しくは、教務課（1号館2階）で相談してください。

■総合評価点数と評語の対応および合格・不合格（学則第23条第1項別表第4、修学規程第9条の3）

総合評価点数	評語	判定
100点～90点	S（秀）	合格
89点～80点	A（優）	
79点～70点	B（良）	
69点～60点	C（可）	
-	合	
59点～0点	D（成績不良）	不合格
-	F（出席不良等）	
-	否	

※他大学等で修得した単位、TOEIC®等の試験成績により認定された単位、本学入学前に修得した大学等の単位が認定された場合は、評語はNと表記されます。

成績照会・成績公開

現在の成績状況は、「学生ポータル」→左側メニュー「成績照会」から確認することができます。
履修中の科目の成績公開日は学生ポータルでお知らせします。

	学生 学生ポータル「成績照会システム」	父母等 （学部のみ）	
前学期	8月下旬	保護者ポータル	9月上旬
後学期	2月下旬	保護者ポータル	3月上旬

父母等には、「保護者ポータル」で通知します。

■成績異議申し立て

公開された成績結果に異議のある場合は、成績異議申し立て期間中に科目担当教員へ申し出てください。（教員と連絡が取れない場合は、ただちに教務課へ申し出てください）。

※ 成績異議申し立て期間は、成績公開に合わせて各学期ごとに決まり、学生ポータルでお知らせします。

※ 成績異議申し立て期間以降の異議申し立ては、一切受付できません。

■成績記載内容

成績内容に関する記載については以下のとおりです。

	合格科目	不合格科目
保護者ポータル	記載あり	記載あり
成績・単位修得証明書	記載あり	記載されません

「成績・単位修得証明書」の発行については、修学支援課（1号館2階）へ申し出てください。
就職・進学で使用する場合は進路開発センター（10号館2階）へ申し出てください。

単位の認定

■大学以外の教育施設等で修得した単位の取り扱い（学部）

TOEIC®Listening&Reading Test、TOEFL®、IELTS™を受験し、認定基準の点数を満たした場合、指定された期間に申請することで、定められた英語科目の単位が認定されます。また、ELTU（レスター大学付属の語学学校）およびEF（Education First Ltd.）が提供する英語研修プログラムにおいて、認定基準の評価を満たした場合も、申請により英語科目の単位が認定されます。（p.062『**大学以外の教育施設等での学修による単位認定の申請**』参照）。

■大学以外の教育施設等での学修による単位の取り扱い（対象：電気エネルギーシステム工学科、電子情報システム工学科のみ）

第一種・第二種・第三種電気主任技術者（理論科目のみの合格者含む）または、第一種・第二種電気工事士（技能試験合格者）の条件を満たす場合、申請することで定められた専門科目の単位が認定されます（p.062『**大学以外の教育施設等での学修による単位認定の申請**』参照）。

■入学前、他大学で修得した単位の取り扱い

本学が教育上有益と認める時は、入学前、他大学等で修得した授業科目の単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます（学則第24条の2、第24条の3、第24条の4）（大学院学則第29条、第29条の2）。

詳しくは、教務課（1号館2階）までお問い合わせください。

GPA（学部のみ）

GPA（Grade Point Average）とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点の成績状況を確認できます。科目個々の成績評価が高ければGPAも高くなります。

全履修科目を対象としていますので、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があります。また、GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりではなく、CAP制の制限緩和、先取り履修の許可、大学院学内選抜試験への出願などにおける要件として用いられますので、日々の学修に努力してください。

入学から現在までの累積GPAおよび各学期ごとに算出するGPAは、学生諸君が自身で計算するだけでなく、学生ポータルの「成績照会システム」から確認することもできます。

なお、「自己成長支援システム」および「成績照会システム」では、各学期の成績公開および異議申立期間に合わせてGPAを更新しています（GPAの公開日は学生ポータルでお知らせします）。

■成績評価とGPAの算出方法

評語	評価ポイント
S（秀）	4ポイント
A（優）	3ポイント
B（良）	2ポイント
C（可）	1ポイント
D（成績不良）	0ポイント
F（出席不良等）	0ポイント

成績評価が「合」「否」「N」評価の科目はGPAの算出対象ではありません。

$$\text{GPA} = \frac{\text{（評価ポイント×単位数）の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

■ GPAの算出対象

進級や卒業に必要な単位数に含まれない科目（進路セミナー、教職科目など）は算出対象外です。

また、それ以外の科目でも「合」「否」で成績を判定する科目、及び、認定科目（成績評価が「N」の科目）は算出対象外です。

正課学修ポイント（学部のみ）

正課学修ポイントとは、正課授業における学修の積分値としてのポイントです。「GPA×修得単位数」で算出され、「修得単位数」には「合」「否」で成績を判定する科目、及び、認定科目（成績評価が「Ｎ」の科目）の単位も含めます。ただし、進級や卒業に必要な単位数に含まれない科目（進路セミナー、教職科目など）は含まれません。同様に、大学院科目の学部履修単位も含めません。

「合」「否」「Ｎ」の科目が全くない場合、正課学修ポイントは（評価ポイント×単位数）の総和になります。したがって、正課学修ポイントは、新しい科目を単位修得するごとにその科目の成績評価ポイントを積算していくようなイメージです。新しい科目を履修した際に、その科目の成績評価が悪いとGPAは下がってしまいますが、正課学修ポイントは増えます（認定科目等が極端に多い場合、ごく稀に正課学修ポイントが下がる場合があります）。

本学では、学生が卒業に必要な最低限の単位履修で満足せず、各自の興味・志向に合わせて、たくさんの科目を履修することを推奨し、この正課学修ポイントを導入しています。この正課学修ポイントは学長表彰、大学院進学時の特待生などの選考に用いられます。

連携大学院・他大学院との単位互換制度

連携大学院

連携大学院とは、学外の高度な研究水準を持つ独立行政法人試験研究所や民間研究所の研究者を客員教授に迎え、大学院での研究指導を担当していただくものです。ここでは、大学院生の皆さんは、研究所に赴き、直接研究指導を受けます。

研究所などで研究指導を受けられる期間は、原則として博士前期課程（修士課程）では1年、博士後期課程では3年までとなっています。博士前期課程（修士課程）においては、課程修了に必要な授業科目は大学で履修することになっています。研究所などの連携先での研究と大学での授業科目の履修については、指導教員と十分相談し研究計画を立案してください。

連携する研究所はいずれも国内外における最高水準の研究機関であり、皆さんの学問研究領域の拡大と新しい型の高度な専門技術者、研究者養成に期待がかけられています。

他大学院との単位互換制度

金沢工業大学大学院と金沢大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学の工学系大学院間で単位を相互に修得することができるものです。

大学院の工学研究科博士前期課程（修士課程）に在学する学生は10単位以内で単位互換が可能です（実験・実習以外の科目が対象となります）。

■単位互換となる研究科

●金沢大学大学院・自然科学研究科
●北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科

不明な点は、教務課ホームページを確認するか教務課（1号館2階）までお問い合わせください。

コーオプ教育

コーオプ教育とは、インターンシップとは異なり、大学での専門に関連した業務に従事する教育活動です。教育研究のフィールドを、大学から現実の社会(企業)へ移し、実際の社会課題解決に取り組むことで、インターンシップよりもはるかに自身の成長につなげることができます。

社員の一人として、企業の現実の部署に配属され、実際の業務に従事するため、上司や先輩社員から、新入社員と同等の指導が受けられます。また、企業より対価が支給されます。

学生にとっては、授業で身につけた能力が社会で活用できるかを試す絶好の機会となるとともに、「働く」ということを身をもって理解できます。

科目名：「コーオププログラム」（大学院科目）
大学院生・進学予定の学部4年次向け　180時間以上
※学部の卒業に必要な単位数には含まれません

科目名：「コーオププロジェクト」（大学院科目）
大学院生・進学予定の学部4年次向け　90時間以上
※学部の卒業に必要な単位数には含まれません

科目名：「生涯学習特別科目（コーオプ実習）」（学部科目）
学部1年次～4年次向け　90時間以上
※リベラルアーツ系科目（文理横断）の単位として認定されます

4-1 進学について

大学院（博士前期課程（修士課程）と博士後期課程）

技術革新によって産業のハイテク化が進む中で、企業の技術者に求められるニーズはますます多様化、高度化していきます。とりわけ、技術者が日進月歩の知識を吸収し、より新しい技術を生み出す能力を維持するには、いまや4年間の大学教育だけでは対応しきれない時代になっています。卒業時の技能や知識に加え、それをより総合的に高めていくための継続教育が、改めてクローズアップされているのです。

実際、産業界の第一線で最先端の研究に従事する技術者の多くは、大学院修了者が多く、大学院における優れた指導のもとに能力、知識、工学的センスなどを磨くことが不可欠な要素になっているといっても過言ではありません。

こうした環境の中、本学では総合的な視野に立った、より高度な知識と研究能力を有する学生を養成するための大学院（博士課程・修士課程）を備えています。

本学大学院への進学を考えている方は、以下から最新の募集要項を確認しておきましょう。

大学院学生募集要項：「学生ポータル」→下部リンク集「大学院学生募集要項抜粋」

大学院特待生については、p.021「大学院特待生（大学院のみ）」を参照してください。

博士前期課程（修士課程）

学部卒業後も引き続き研究を続けたい学生にとって、大学院は理想的な環境であるといえます。博士前期課程（修士課程）は標準修業年限が2年と定められており、学部4年次の「プロジェクトデザインⅢ」の研究テーマから一貫して合計3年間の研究活動を行うことができます。（イノベーションマネジメント専攻を除く）

また、4年次の学生は博士前期課程（修士課程）の科目を16単位まで履修することができます。履修した科目は学部卒業に必要な単位には含まれませんが、大学院進学後は大学院授業科目の単位として修得した単位の一部または全部について単位認定が行われます。

手続きについては、p.050『**学部生の大学院科目の履修・単位認定の申請**』を参照してください。

博士後期課程

大学院博士前期課程（修士課程）2年を修めたあと、さらに研究を深めたい場合には博士後期課程（標準修業年限3年）が用意されており、研究職・教育職へ進む道も開かれています。

大学院修了後の進路

将来、技術者として第一線で活躍するためには「どのような企業に入るか」だけではなく、「入社して何をしたいのか」ということが、とても大切なポイントになります。多くの企業で研究開発部門は、すでに修士課程修了者の採用が常識とも言われています。自分の能力を十分に発揮し、希望を実現するためには、大学院進学は欠かせないステップです。

高度な専門知識と応用能力を身につけた本学の大学院修了者は、研究開発の第一線で活躍し、その実績は各企業から高く評価されています。就職に際しても、指導教員の適切な助言や豊富な人脈を通してのバックアップは大きく、希望する企業、部門へ就職できる可能性が高くなります。

4-2 就職について

就職活動全般の支援は、進路開発センターが行っています。進路開発センターに関する詳しい紹介は「**CHAPTER 5 施設**」の「進路開発センター」（p.080）を参照してください。

ここでは就職支援とインターンシップについて紹介します。

就職支援

就職活動では「自分を知ること」と「業界・企業・職種研究」が内定獲得の両輪となります。大学時代に身につけたことを『自信を持って語ること』、『仕事に対する目的意識を明確に伝えること』が求められます。大学で学んだ専門分野の知識ばかりではなく、自分自身の人間力を磨き、視野を広くして臨んでください。

進路開発センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「進路開発センター」

インターンシップ

インターンシップとは自らの専門に関連する企業や、興味・関心のある企業において在学中に一定期間、実践的な就業体験をすることです。

将来の仕事に関して"気づき"を得ることで、実際の就職活動に活かしていくことができるでしょう。参加の時期は3年次夏期休暇中が多いです。長期休暇を有効に過ごしてください。

インターンシップ：「学生ポータル」→下部リンク集「インターンシップ」

4-3 その他

研究生

本学では、研究生の入学について以下のように規定しています。

■学部における研究生

本学の学生以外の者が、本学において、特定の専門事項について研究することを希望するときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある（学則第47条）。

本学の学部の研究生の入学資格は、高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する者を含む。）又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

■大学院における研究生

本学の大学院の学生以外の者が、大学院において、特定の専門事項について研究することを希望するときは、大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる（大学院学則第46条）。

本学大学院の研究生の入学資格は、大学を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

4-4 資格取得について

教育職員免許状

学校の教員になるためには、各都道府県教育委員会が発行する「教育職員免許状」を取得し、教員採用試験に合格する必要があります。

「教育職員免許状（以下、免許状）」を取得するには、教育職員免許法（以下、免許法）・同法施行規則上定められた最低修得単位を基礎として、本学で定められている免許状取得に必要な科目の単位を修得しなければなりません。

（1）本学における教職課程の目標・目指すべき教師像

本学では、建学綱領として「高邁な人間形成」・「深遠な技術革新」・「雄大な産学協同」の理念を掲げ、それに基づき、「専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力」、「地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力」、「世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力」の育成をディプロマ・ポリシーとしている。教職課程では、このディプロマ・ポリシーに基づき、以下の３つの能力育成を目標とする。

① 教育と取得する免許状の分野に関する専門的な知識を教育実践に適用できる能力
② 教育における多様な問題を発見し、それらを解決する実践的能力
③ 教育に関わる多様な分野を超えた価値観を共有し、よりよい教育を実現できる能力

本学の教職課程において育成を目指す教師像は以下に示すものである。
(1)次世代を担う人材を育てる教師としての使命感と責任感をもつ教師
(2)人間の成長や発達についての深い学識と、教育に対する使命感をもつ教師
(3)科学・工学に関する確かな専門的知識と豊かな教養をもち、実践的指導力のある教師
(4)すべての生徒に対する温かい思いやりの心、人間愛をもつ教師
(5)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、生徒と共に成長する、専門的資質を備えた教師

（2）本学で取得できる免許状について

本学において取得できる免許状の種類は、所属学科、専攻ごとに決まっています。
以下の学校種、免許種、教科があります。

学校種：中学校教諭、高等学校教諭
免許種：一種免許状、専修免許状
教科　：工業（高校）、情報（高校）、数学（中学）、数学（高校）、理科（中学）、理科（高校）
例）中学校教諭・一種免許状・数学の場合…中一種免（数学）と表記される

【学部】

情報デザイン学部	経営情報学科	高一種（工業）	高一種（情報）	―	―
	環境デザイン創成学科	―	高一種（情報）	―	―
メディア情報学部	メディア情報学科	高一種（工業）	高一種（情報）	―	―
	心理情報デザイン学科	―	高一種（情報）	―	―
情報理工学部	情報工学科	高一種（工業）	高一種（情報）	高一種（数学）	中一種（数学）
	知能情報システム学科	―	高一種（情報）	高一種（数学）	中一種（数学）
	ロボティクス学科	高一種（工業）	―	―	―
バイオ・化学部	環境・応用化学科	高一種（工業）	―	高一種（理科）	中一種（理科）
	生命・応用バイオ学科	高一種（工業）	―	高一種（理科）	中一種（理科）
工学部 / 建築学部		高一種（工業）	―	―	―

【大学院】

工学研究科	機械工学専攻	高専免（工業）	―
	環境土木工学専攻	高専免（工業）	―
	電気電子工学専攻	高専免（工業）	―
	バイオ・化学専攻	高専免（理科）	中専免（理科）
	建築学専攻	高専免（工業）	―

（3）免許状を取得するための要件

免許状を取得するためには、以下（ｉ）～（iv）の要件を全て満たす必要があります。

（ｉ）　免許法第五条別表第一第二欄の基礎資格を有すること
　　┌一種免許状：学士の学位を有すること（大学を卒業すること）
　　└専修免許状：修士の学位を有すること（大学院を修了すること）
（ii）　免許法第五条別表第一第三欄で定める単位（「教科及び教職に関する科目」の単位）を修得すること
（iii）　免許法施行規則第66条の6に定める科目の単位を修得すること
（iv）　中学校教諭免許取得希望者は、介護等体験を実施済みであること

免許状取得要件は以下のとおりです。単位修得が必要な科目については「教職ガイダンス」で説明します。

免許状取得要件 ＼ 免許状の種類			中学校教諭		高等学校教諭	
			一種免許状	専修免許状	一種免許状	専修免許状
i	**基礎資格**（免許法第五条別表第一第二欄）		**学士の学位を有すること**	**修士の学位を有すること**	**学士の学位を有すること**	**修士の学位を有すること**
ii	**教科及び教職に関する科目**（免許法第五条別表第一第三欄）		**59単位以上**	**83**※1**単位以上**	**59単位以上**	**83**※1**単位以上**
iii	**第66条の6に定める科目**		**8**※2**単位以上**			
	区分	日本国憲法	2単位			
		体育	2単位			
		外国語コミュニケーション	2単位			
		数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作	2単位			
iv	**介護等体験の実施**		**要**		―	

※1　専修免許状の取得希望者で同じ学校種・教科の一種免許状所持者は、専修免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」の単位数（83単位）のうち、59単位は学部の課程より、24単位は大学院の課程より修得すること
※2　「第66条の6に定める科目」の各科目区分から2単位以上修得すること

（4）教職課程を履修するにあたって

【教職課程の登録制】

免許状を在学中に取得するためには、免許状取得に必要な科目の履修に加えて、「教職課程登録申請書」を提出する必要があります。教職課程登録制の主な目的は、以下の2つです。
①教職課程を目指す学生を漏れなく把握し、4年間を見通した指導・支援をすること
②必要な情報の提供などをスムーズに行うこと

また教職課程を履修するにあたっては、以下の事項を守らなければなりません。
下記の事項を守れなかった場合や条件を満たせなかった場合、教職課程教員の呼び出しに応じ、個別面談を受けなければなりません。その結果、教職課程の継続ができなくなり、在学中に免許状が取得できなくなる場合があります。

【教職課程を履修するための守るべき事項】

(1)　教師になることを真剣に考えていること
(2)　教職にかかわる各ガイダンスには必ず出席すること
(3)　提出書類を指定された期日までに提出すること
(4)　学生ポータルからの連絡事項に細心の注意を払い、手続きを漏れなく行うこと
(5)　連絡先などの届け出事項に変更があった場合は、速やかに教務課に届け出ること
　　上記の事項に加え、2年次の前学期終了時点で以下の条件を追加します
(6)　2年次前学期までの各学期の出席率の平均値が90%以上であること
(7)　「教師入門セミナー」「教育原理」「教育心理学」、「道徳教育の理論と実践」(中免希望者のみ)に合格していること

(5)本学における免許状取得までの学部4年間のスケジュール

毎年4月に行われる「教職ガイダンス」にて履修すべき科目や注意事項について説明します。必ず出席してください。分からないことがあれば、すぐに教職課程教員もしくは教務課（1号館2階）に確認してください。

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月		在学生教職ガイダンス 第２回介護等体験ガイダンス	在学生教職ガイダンス 教育実習ガイダンス①	在学生教職ガイダンス 教育実習ガイダンス② 教員採用試験出願（4月～6月） 教育実習事前指導
5月	新入生教職ガイダンス① ※教員免許取得を考えている場合は、必ず出席すること。		教育実習内諾依頼	教育実習期間
6月	新入生教職ガイダンス② ★教職課程登録申請書 提出	第３回介護等体験ガイダンス		
7月	新入生教職ガイダンス③	介護等体験事前指導		教育実習報告会① 教員採用試験受験（7月～9月）
8月	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど 夏期集中講義 ★教職課程継続判定 介護等体験7日間	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど 夏期集中講義 ★教職課程継続判定	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど 夏期集中講義
9月				
10月				教育職員免許状一括申請説明会 ※免許状取得希望者は必ず出席してください。
11月				教育実習報告会②
12月	教員採用試験説明会 第1回介護等体験ガイダンス	教員採用試験説明会 介護等体験事後指導	教員採用試験説明会	教育実習事後指導
1月				
2月	春期集中講義	春期集中講義		
3月	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど	【イベント】学校現場体験、学校ボランティアなど ★教職課程継続判定	授業づくり練習（模擬授業実践など） ★教育実習受講判定	教育職員免許状の受取（卒業式当日）

※年間スケジュールの実施時期・内容については変更される場合があります。具体的な日程・内容などについては、掲示や学生ポータル等で案内を出すので、必ず確認すること。
※上記以外にも各種イベントを実施する場合があります。その場合は授業内で案内します。

その他資格

■自己開発センター利用時間　平　日：8:30～17:20
土曜日：8:30～13:00

将来の目標を定め、資格試験にチャレンジするよう心掛けてください。
資格試験・講習会に関する申し込み・相談は、自己開発センター（8号館2階）で受付します。詳しいことは「LICENSE2026」（前学期オリエンテーションで配布・自己開発センター前にも設置）や自己開発センターHP、学内掲示等で確認してください。

資格試験スケジュールや受験申込などの情報（自己開発センターHP）
https://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku

自己開発センターで開講している資格取得のための講座一覧

資格試験対策講座の詳細は、自己開発センター前の掲示板等学内掲示で案内いたします。

第二種電気工事士（筆記・技能）
第三種電気主任技術者（理論・電力・機械・法規）
宅地建物取引士
日商簿記検定
危険物取扱者（甲種）
3級機械設計技術者
1級建築士（基礎）
など

認定校として許可を得ている資格一覧（学科別）

認定に必要な科目や単位数を確認してください。計画的な単位修得を目指しましょう。

■「電気エネルギーシステム工学科」を卒業した学生

電気主任技術者
在学中に指定の科目を修得し、卒業後、所定の実務経験を経た者は第一種～第三種の電気主任技術者免状の交付申請を行うことができます。

第二種電気工事士
在学中に指定の科目を修得し卒業した者は、第二種電気工事士の筆記試験が免除となります。

■「電子情報システム工学科」を卒業した学生

電気通信主任技術者（一部受験科目免除）
在学中に指定の科目を修得し卒業した者は、「電気通信システム」科目が免除されます。

第一級陸上特殊無線技士・第二級海上特殊無線技士
在学中に指定の科目を修得し、地方総合通信局に申請することで上記の資格が与えられます。なお卒業後、免許を申請する場合は、「住所」を管轄する地方総合通信局に申請する必要があります。

■「環境土木工学科」を卒業した学生

測量士・測量士補
卒業後、国土地理院へ登録することにより、測量士補になることができます。また、卒業後、測量に関し1年以上の実務経験を積み、国土地理院へ登録することにより、測量士になることができます。

■「建築学科」「建築デザイン学科」を卒業した学生

一級建築士・二級建築士・木造建築士
学部卒業直後から実務経験を経なくても受験可能です。一級建築士については、在学中に所定の科目を修得し、試験に合格後、建築実務の経験が2年以上あれば登録することが可能です。

5-1 学内の施設について

大学事務局

大学事務局

■窓口対応時間　平日：8:30～17:20　土曜日：8:30～13:00

大学事務局の窓口では、学生生活の主な手続きを行うことができます。
また、修学・進路に関する各種質問・相談も受け付けています。

施設名	主な機能	参照ページ
入試センター （1号館1階）	本学の大学院へ進学を希望する学生に対してサポートを行っています。 ●本学大学院への入学願書受付	
修学支援課・学生課 （1号館2階 1・201室左）	●修学および学生生活全般●奨学金●学割証・JR通学証明書・在学証明書、他●休学・復学・退学●転学部・転学科、転研究科・転専攻●各種届出、願出●学生健康保険互助会制度●障がいのある学生に対する支援●ハラスメントに関すること	**修学支援課・学生課HP：** **「学生ポータル」→** **下部リンク集修学支援** **「修学支援課・学生課」**
教務課 （1号館2階 1・201室右）	●履修申請（指定放送大学科目を含む）●授業●成績●教職支援（教職支援室）●教育補助員（TA・SA）に関すること	**教務課HP：** **「学生ポータル」→** **下部リンク集授業共通** **「教務課」**
庶務課 （1号館2階 1・205室）	●授業アンケート●プロジェクトデザインⅢにおける「池の平セミナーハウス研修」●修士公聴会・PDⅢ公開発表審査会●日本技術者教育認定機構（JABEE）●入学式・学位授与式●拯友会（しょうゆうかい）（父母等で構成される会）に関すること	
教職支援室 （1号館4階 1・413室）	教職課程登録者の支援を行う場として「教職支援室」を設置しています。 ■教職支援室でできること ●教育職員免許状取得・教育実習・介護等体験および教職課程の履修相談 ●学校ボランティアの紹介 ●教職に関する資料や本の閲覧・グループでの勉強会・教員採用試験対策等	**教職支援室HP：** **「学生ポータル」→** **下部リンク集施設** **「教職支援室」**
オナーズ **プログラム推進課** （1号館4階 1・408室）	■KITオナーズプログラムの活動に関すること ■特別奨学生制度・リーダーシップアワード生に関すること	**オナーズプログラム推進課HP：** **「学生ポータル」→** **下部リンク集修学支援** **「特別奨学生制度」** **「オナーズプログラム活動紹介」**
進路開発センター （10号館2階）	就職・進路に関するさまざまな情報を提供しています。 ■就職活動に必要な証明書発行および申請書類受付 ■就職支援プログラム運営　など（p.080参照）	**進路開発センターHP：** **「学生ポータル」→** **下部リンク集進路** **「進路開発センター」**
八束穂事務室 （65号館1階 65・113室）	●学割証の受付と発行 ●就職活動用証明書発行申請書の受付 ※公認欠席は進路開発センターへ申請すること ●Microsoft社契約ソフトウェアのインストールメディア短期貸出の受付と貸出 ●学生の通学に関すること ●学生の安全衛生管理に関すること	

やつかほリサーチキャンパス＝扇が丘キャンパス間は無料シャトルバスが運行しています（所要時間約30分）。

北校地

ライブラリーセンター（LC）

■開館時間　平日：8:30～22:00（※学生休業期間中～17:00）
土曜日：8:30～17:00　日・祝日：10:00～17:00

ライブラリーセンターHP：「学生ポータル」→下部リンク集ライブラリーセンター「Webサイト」

■館内施設　※各施設の利用時間についてはWebサイトや館内掲示をご確認ください。

●学習支援デスク ……2階
各学科・課程の教員がサブジェクトライブラリアン（SL）として学習相談や個別指導などを実施しています。担当スケジュールは、LC ウェブサイトで確認してください。

●ライティングセンター ……2階
小論文や就職活動での自己PR文、手紙など、さまざまな文章の添削やアドバイスをしています。受付時間はライティングセンター前の掲示を確認してください。

●STEM・ビブリオ・プラザ ……2階
科学・技術・工学・数学の融合と本質を洞察する「広場」です。科学技術の発展を、所蔵する貴重書（「工学の曙文庫」）でたどる企画展示、科学の定理などを体験・体感できるコーナー、科学に関する書籍コーナーがあります。

●五十嵐威暢アーカイブ（イガラシ タケノブ アーカイブ）…2階
彫刻家・デザイナーの五十嵐威暢氏から寄贈された5000点もの作品や資料を収蔵する感性教育の拠点。展示を主体に、多彩なラーニングプログラムを展開する学生の皆さんのインフォーマルな学びの場です。

●Digital Contents Factory（DCF）……2階
A0 ポスタープリンターや画像・動画編集、音楽制作などの各種ソフトウェアが利用できます。利用を希望する場合は2階DCFカウンターにお申し出ください。

●PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）……3階
28万枚を超えるアナログレコードを中心としたコレクションを、ボディソニック（体感音響装置）を利用して聴くことができます。また、スマホやレコード、CD などを持ち込んで聴くこともできます。

●グループ学習室／Knowledge Square …… 3階、5～11階
グループで勉強会などが行える部屋です。予約を希望する場合は、1階インフォメーションカウンターで申し込んでください。

●分野別フロア …… 5～10階
専門分野の図書・雑誌が分野別に置かれています。

情報処理サービスセンター　6号館2階

■窓口対応時間　平日：8:30～17:20　土曜日：8:30～13:00

情報処理サービスセンターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「情報処理サービスセンター」

大学生活においては、日々の学修にパソコン・ネットワークなどを活用する技術はICTリテラシーと言って必須のこととなっています。
学内ネットワークには、学生ポータルを始めとした各種サービスを提供するシステムが用意され、授業に関すること、学生生活に関することでこれらサービスをWebから利用することができます。
情報処理サービスセンターでは、ICTを活用した高度な教育・研究環境構築に向けた各種支援を行っています。

■主な機能

●ネットワークの提供
・学内ネットワークへのパソコン接続（要申請）
・Remote-VPNによるネットワーク接続（要申請）
・無線LANによるネットワーク接続（要申請）

●学内プリントサービス
・ネットワークから利用できるカラーレーザープリンターの設置

●契約ソフトウェア提供
・ウイルス対策ソフトウェア
・技術計算言語MATLABとシミュレーションおよびモデルベースデザイン環境 Simulink

●電子メールの利用
・大学独自ドメインのメールアカウントの提供

※p.034からの「2-6パソコン・インターネットについて」も参照してください。

金沢工業大学内簡易郵便局　5号館1階

■窓口対応時間　平日：9:00～17:00
（切手等の販売、転送された郵便物の引き渡しなど）
ATM　平日 9:00～17:30、土曜日 9:00～12:30

学内には簡易郵便局があります。ATM（現金自動預払機）によるキャッシュサービスも利用できるので仕送りにも便利です。不在のために受け取れなかった郵便物をこの簡易郵便局に転送し、キャンパスの中で受け取ることもできます。また簡易郵便局に直接送れば取り次ぎも行っています。はがき、切手販売はスマホ決済できます。ゆうプリタッチも扱っています。

■主な機能

●切手・はがき・印紙・レターパック等の販売
●ゆうパックおよび郵便物の取り次ぎなど（日本郵便株式会社）
●貯金、振替、為替、交通反則金、国民年金（株式会社ゆうちょ銀行）
●保険（株式会社かんぽ生命保険）

東校地

学生ステーション　23号館1階　■利用時間　平日：8:30～21:00　土曜日：8:30～17:00

学生ステーションHP：「学生ポータル」→下部リンク集「学生ステーション」

学生による学生のための交流と情報発信の場です。何でも相談できる窓口では、先輩学生スタッフから学習や学生生活におけるさまざまな疑問に対してアドバイスしてもらえます。また、課外活動（プロジェクト活動や学内外のアルバイト、ボランティアなど）の紹介や、学生同士の交流イベントや勉強会の企画運営サポートを行っています。隣接するCDIOイノベーション＆デザインスタジオでは、電子黒板やプロジェクターを使用しながらミーティングやディスカッション、活動成果の発表会などを開催することができます（前日までの予約優先）。夢考房やチャレンジラボへもアクセスしやすく、スタジオでのアイディア創出後はものづくりの実践活動に繋げることができます。

■主な機能

●学生による学生相談窓口　●学生同士の交流イベントや勉強会の企画運営支援
●落とし物窓口　●ポスター印刷サポート　●CDIOイノベーション＆デザインスタジオ予約・管理
●課外活動、セミナー、交流会等に関する情報発信　●学生スタッフに関する総合窓口

国際教育交流センター　23号館2階　■利用時間　平日：8:30～17:20　土曜日：8:30～13:00

国際教育交流センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「国際教育交流センター」

専門や語学などの学習に加えて、生活スタイル、習慣、考え方、コミュニケーションの取り方などに向き合う「留学」は、学生生活に新たな教育付加価値をもたらし、実社会の要求に応えられる柔軟で思慮深い人材へと成長する貴重な経験となります。海外への留学プログラムや海外からの留学生と交流できる学内留学プログラムを実施することで、留学や国際交流を通じた学びを支援します。また、学期を通して学生のニーズに合わせて英語の課外活動を計画し、将来につながる英語スキルの向上や国際感覚の習得など、楽しく英語を学ぶ機会を提供します。

数理工教育研究センター　23号館4・5階　■利用時間　平日：8:30～18:00　土曜日：8:30～13:00

数理工教育研究センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「数理工教育研究センター」

「普段の授業でわかりにくい点がある」「数学、物理、化学などの理解を深めたい」など、数理分野の学習に関する質問や相談に本センターの“チューター（個別指導教員）”が、いつでも・わかりやすく・丁寧に応えてくれます。

また、数理・データサイエンス・AI教育課程の授業に直結した演習等の学習プログラムを各種開設し、皆さんの学習状況にあった学習サポートやアドバイスをしています。

さらに、基礎から専門分野へのステップアップに必要な「数理の基礎能力」を効率よく体系的に修得するための「数理リテラシーパスポートプログラム」も実施しています。

そして、数理に関連する問題集やポイント集、eラーニング教材を無償で提供し、これらを活用した皆さんの自学自習もサポートしています。

このほか、学生を中心とした自主的な知的活動を展開する「数理考房」では、皆さんの数理に対する知的好奇心の向上に繋がる各種プロジェクト活動を行っています。

些細なことでも数理の学習についての質問、相談等があれば、数理工教育研究センターを訪ねてください。

数学・物理など検索が簡単にできる辞書はこちらから
「KIT STEMナビゲーション」
http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/math/stem/index.html

おタスケケータイ！　写真を送っていつでも、どこからでも質問！
efc-support@mlist.kanazawa-it.ac.jp

自己開発センター　8号館2階　■利用時間　平日：8:30～17:20　土曜日：8:30～13:00

自己開発センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「自己開発センター（資格講習会・試験案内）」
資格試験・講習会申込：自己開発センターHP→「資格申込(学内専用)」

各種資格の取得についてサポートをしています。

学内での資格試験の申込手続きはもちろん、試験会場についても、できる限り学内で受験できるようにしています。また、年に1回「LICENSE」という資格の情報誌も発行していますので、必ず見てみてください。一部の資格については試験対策講習会も開講しています。

初代所長の「資格は実力の証明」「学歴は無限の可能性への保証」という言葉にあるように、資格取得は毎日の勉強へのモチベーション維持や就職活動の際のアピール材料としてなど、さまざまな場面で心強い味方になってくれるはずです。

資格に関する質問・相談も受付していますので、気軽に訪ねてきてください。

パソコンセンター　8号館3階　▶窓口対応時間　平日：8:30～17:20　土曜日：8:30～13:00

パソコンセンターでは各自のパソコンのハード障害やウイルスに関する相談に応じています。また、1年次前学期開講「ICT入門」の授業の範囲内で、技術的なサポートを受けることができます。

■主な機能

●パソコンのハード障害やウイルスに関する相談　●大学推奨パソコンの修理受付
●学生指定寮のインターネット接続プロバイダサービス（eagle-net）の受付

Challenge Lab　26号館　■利用時間　平日：8:30～19:00　土曜日：8:30～13:00

Challenge Lab HP：「学生ポータル」→下部リンク集施設「Challenge Lab」

チャレンジラボは、分野を超えて人と知識が繋がり、未来の社会に必要とされる新しい技術や価値を創出する場です。ここを活動拠点とするクラスター研究室は、多様な社会の問題解決のため、「世代・分野・文化を超えた共創教育」と「CDIOプロセス」を実践し、社会実装型の研究活動を実施しています。

また、教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する場として、VR・AR・MRのヘッドマウントディスプレイ、3Dスキャナ、360度3Dカメラなどの設備機器を利用することができます。

■主な機能

●Co-creation Studio（1階）
クラスター研究室の活動拠点であり、社会の多様な問題解決のために、分野横断的な視点を取り入れて解決に挑戦する場です。

●C∞Lounge（1階）
一般の教職員・学生に公開しているエリアで、落ち着いた雰囲気の中、学科学部の垣根を超えた活動やコミュニケーションができる場です。世代・分野・文化を超えて、人と知識・知恵が集まる接続点と分岐点の役割を担っています。

●Fabrication Room（1階）
カッティングマシンや3Dプリンタでアイディアを具体化し、社会実装の検証へ繋げます。

カウンセリングセンター　36号館　■カウンセリング予約受付時間　平日：12:00～17:00　※予約制です

詳しくは、p.030を参照してください。

コミュニティFM放送局　えふえむ・エヌ・ワン　28号館1階

インターネットやスマホ・アプリで同時配信。文字や画像、映像も楽しめる
先進的な“マルチメディア・ラジオ”FM-N1

えふえむ・エヌ・ワン (FM-N1) は、KIT が中心となって野々市市や地域の企業とともに作ったコミュニティ FM局です。2008 年から電波による放送だけでなく、インターネット・スマートフォン向けの同時配信を行い、パソコン画面で画像や映像なども楽しめるマルチメディア・ラジオです。

また、SNSを活用し、1つの番組をさまざまな媒体で楽しめる「マルチメディア・ラジオ」を実践しています。スタジオは扇が丘キャンパスに5つ、白山麓キャンパスに1つの合わせて6つあり、ここからさまざまな番組を制作、発信しています。

校友会事務局　28号館2階

学園同窓会「こぶし会」は、3つの同窓会「金沢工業大学同窓会」、「金沢国際高専同窓会（金沢工業高等専門学校、国際高等専門学校）」および「保二会（北陸電波学校、北陸電波専門学校、北陸電波高校、金沢工業大学附属高校の同窓会）」で構成されており、事務局を校友会事務局内（28号館2階）に置いています。

在学生の皆さんは、卒業と同時に「金沢工業大学同窓会」と「こぶし会」の会員となります。これまでに金沢工業大学を卒業した先輩は、全国各地で多彩な分野において活躍しています。就職活動で企業の先輩に話を聞きたい時、同郷の先輩に連絡を取りたい時など相談に来てください。

夢考房　41号館

■利用時間　平日：8:40～21:00　**土曜日**：8:40～17:00　**日曜日**：9:30～17:00

夢考房HP：「学生ポータル」→下部リンク集「夢考房」

自由に利用できる工作環境です。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間たちとの議論は工学の原点です。

手工具から各種工作機械までを取り揃え、多様なものづくりに対応する機能があり、技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることもできます。また、フォーミュラーカーやロボットなど夢考房プロジェクトの活動の場ともなっています。

■夢考房の機能

●「ものづくり」を行う場所として活用できます。
●「ものづくり」に必要な道具が揃っています。
●各種材料・部品を提供するパーツショップがあります。
●安全な「ものづくり」を支援する技術職員と学生スタッフがいます。気軽に相談してください。
●10種類の夢考房ライセンス講習会を開講しています。ぜひ、受講してください。
●夢考房プロジェクトの活動を支援しています。
●あなたの夢をプロジェクトにしてみませんか？

その他、ものづくり、安全作業に関することは、何でも相談してください。詳しい情報や開館日はホームページで確認できます。

■主な機能

●ものづくり相談　●木材・金属・プラスチック加工　●樹脂成型　●模型製作　●溶接　●塗装　●パーツショップ
●実験装置の設計・組み立て　●3Dプリンタ（プラスチック造形・金属光造形複合加工機）　●レーザー加工　●基盤制作

■利用方法

学生証で入館手続きをすれば、全学生が自由に使用できます。安全に工作を行うために、使用する工具・機械によっては「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもあります。

■夢考房プロジェクト

夢考房プロジェクトとは、学年・学部・学科の垣根を越えたチーム編成で、ひとつのテーマを通してお互いの専門分野の知識を集結させ、創作活動に取り組んでいる学生のチームのことです。

南校地

進路開発センター　10号館2階

■窓口対応時間　平日：8:30～17:20　**土曜日**：8:30～13:00

進路開発センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集「進路開発センター」

就職・進路に関するさまざまな情報を提供しています。

■主な機能

●就職活動に必要な証明書発行および申請書類受付　●就職支援プログラム運営
●就職支援バス運行スケジュール管理（乗車申込はKITサービスセンターにて受付）

下記を希望の場合は、事前に予約が必要です（1回の予約で50分程度）

●進路相談：就職や進路について個別に相談ができます　●履歴書確認：書き方の相談やアドバイス、内容の添削
●模擬面接：就職試験対策のための面接練習　●模擬試験：就職試験でよく利用されているSPI適性、一般常識ができます

扇が丘診療所　11号館1階

■窓口対応時間　平日：9:00～17:00

扇が丘診療所HP：「学生ポータル」→下部リンク集「扇が丘診療所」　直通電話番号：076-246-1393

学生および教職員の健康保持増進を図ることを目的とした内科の医療機関です。
体調不良時の診察や健康診断などを実施しています。

■診療日・診療時間

平日（月～金）　9:00～12:00（土・日・祝休診）
※水曜日のみ午後も診療しています。（13:30～16:00）
（受付は終了30分前まで）

■診療を受ける時に必要なもの

・マイナンバーカードまたは資格確認書
※お支払いには現金をご用意ください。

■その他

・困っている症状がある、怪我をした、受診先が分からないなどのご相談に応じるとともに、近隣の医療機関をご案内します。
・診療所内の自動血圧計、身長体重計、体組成計は窓口対応時間であれば自由に使用できます。
・就職活動等で使用する「健康診断証明書」を発行しています。
・必要に応じて車椅子・松葉杖・体温計などの貸し出しをしています。

※学部生は本学の学生健康保険互助会（互助会）制度により、年間30,000円を上限とした医療費の補助が受けられます。（詳細は修学支援課まで）

Beyond SDGs推進センター　12号館1階

■利用時間　平日：8:30～17:30　**土曜日**：8:30～13:00

Beyond SDGs推進センターHP：「学生ポータル」→下部リンク集施設「Beyond SDGs推進センター」

Beyond SDGs推進センターは、本学の持続可能な活動の拠点として、企業・自治体・教育機関等と連携し、SDGsの達成に取り組むとともに、その先の未来を学生とともに創り出す活動を展開しています。また、SDGsクラスター研究室としても、学部・学科の枠を超え、地球規模の視点から複雑な社会課題に挑戦する場になっています。

「私たちは私たちの未来を救うために」を活動目標とする学生団体 SDGs Global Youth Innovators の活動拠点として、本学学生をはじめとしこれからの時代を担うユース世代を中心とした活動として、SDGsゲーム開発やワークショップなど、多様なSDGsの達成に貢献する革新的な取り組みを実践しています。

AV室　12号館4階（12・402室）

AV室HP：「学生ポータル」→下部リンク集「AV室」

ゼミ、研究を目的とした映像・音声に関する各種サービスを行っています。

■視聴覚機器貸出（事前申請が必要）
BD・DVD、プロジェクター、カメラ、メディアプレーヤー、拡声装置などを貸し出しています。

■視聴覚資料制作
プレゼンテーションなどの視聴覚資料の出力サービスを行っています。
●動画データトランスコード
●静止画データ加工　など

■映像・音声に関する技術相談
各種イベントやゼミなどに使用する映像・音声の取り扱い、コンテンツを作成する際の撮影・編集方法などの相談に応じます。

■AVIS（Audio Visual Instruction System）の紹介
学内ネットワークを利用し、動画コンテンツ（eシラバスにリンクされたコンテンツ、反転授業、大学で行われた各種講演会や講義・各プロジェクトの活躍など）を視聴できます。

スポーツ考房トレーニングルーム　第2体育館2階（20号館）

■利用時間　平日：17:30〜20:00（学生休業期間中：9:00〜17:00）　**土曜日**：9:00〜16:00（学生休業期間中：9:00〜13:00）

スポーツ考房HP：「学生ポータル」→下部リンク集「スポーツ考房」

気軽にトレーニングルームへ。多種多様なエクササイズマシーンを揃え、毎日を楽しく元気に過ごせる健康づくり、競技に勝つための身体づくりができます。また、腰痛、肩こり、ダイエットなど個々に合わせたアドバイスも行っているのでスタッフに相談してください。まずは、利用者講習会に参加しましょう。

■利用者講習会
水曜日 16：15〜17：15　※前学期のみ月曜日・火曜日 17：15〜18：15
●申込方法：スポーツ考房ホームページ→トレーニングルーム予約サイトよりお申込みください。受講日の2日前8:30から予約可能です。

■設備
●ストレングスマシーン（筋力系）　18種類　●カーディオマシーン（有酸素系）　14台
●ランニングコース（1周155 m）　●バランスボール、ストレッチボール、ストレッチマット、ダンベル、縄跳びなど
●身長体重計、体脂肪計、血圧計

自然学苑（セミナーハウス）

天池自然学苑

天池自然学苑は金沢市の南東部に位置し、扇が丘キャンパスからは車でおよそ25分のところにあります。苑内には、体育館、野球場、ゴルフ練習場などがあり、体育の授業や課外活動に利用されています。
・所在地：〒920-1331　天池自然学苑　金沢市天池町3　問い合わせ：施設部（6号館1階）

池の平セミナーハウス

池の平セミナーハウスは、扇が丘キャンパスから自動車で約3時間の新潟県妙高高原にある収容人数60名の施設です。おもに、研究室単位の研修で利用し、この研修を通して教員や友人とのコミュニケーションの充実を図ることも目的にしています。
・所在地：〒949-2112　池の平セミナーハウス
新潟県妙高市大字（おおあざ）関川2275-5

研究所

研究所HP：「学生ポータル」→下部リンク集施設「産学連携局 研究支援推進部」

最新テクノロジーに関する研究所はもちろん、経済活動や社会環境問題に対応した研究所など広い領域の研究所があります。学部・学科の枠を超えてスタッフが集結し、アメリカの大学に見られるようなプロジェクト型の研究所となっています。

KITの37研究所（2026年4月現在）

■COI事業拠点　○革新複合材料研究開発センター
■オープンリサーチセンター　○感動デザイン工学研究所○地域防災環境科学研究所○電気・光・エネルギー応用研究センター
■附置研究所　○高信頼理工学研究センター○人間情報システム研究所○先端電子技術応用研究所○心理科学研究所○ゲノム生物工学研究所○情報技術AI研究所○知的創造・経営研究所○建築アーカイヴス研究所○FMT研究所○先端半導体教育研究センター
■研究センター　○材料システム研究所○日本学研究所○時事問題研究所○科学技術応用倫理研究所○先端材料創製技術研究所○生活環境研究所○知的財産科学研究所○国際学研究所○コンテンツ＆テクノロジー融合研究所○航空宇宙工学研究所○医工融合技術研究所○地域共創イノベーション研究所○金沢歴史都市建築研究所○地方創生研究所○AIラボ○KIT×KAJIMA 3D Printing Lab○KIT × NTT-AE スマートエネルギーラボ
■海外研究所　○KIT/UMD共同脳磁研究所（メリーランド大学内）○KIT/マッコーリー大学脳科学研究所（マッコーリー大学内）○KIT/NYU共同脳磁研究所（ニューヨーク大学内）○KIT/UCL/CNRS共同小動物脳磁研究所（ロンドン大学内）○KIT/NYUアブダビ校共同脳磁研究所（ニューヨーク大学アブダビ校内）
■国際高専　○創造技術教育研究所

各種サービス施設

学食・書籍文具・旅行・保険・アパートHP：「学生ポータル」→下部リンク集施設「学食・書籍文具・旅行・保険・アパート」

レストラン LA TERRA　21号館1階

ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実しています。自分に適した食事を選ぶことができます。サラダメニューも豊富なので野菜不足も解消できます。

■営業時間
平日　：8:00〜10:00（モーニングタイム）
　　10:00〜15:00（ランチタイム）
　　16:00〜19:00（ディナータイム）
土曜日：10:00〜13:00
日曜・祝日 休業

KITサービスセンター　21号館2階

高速バスなどのチケット購入、国内・海外旅行のお申し込みができます。また、学生生活総合保険の手続き、自動車学校の紹介、金沢工業大学生・国際高等専門学校生向けのアパート・寮の紹介（住まいサポートデスク）など、さまざまなサービスを提供しています。

■営業時間
平日　：9:00〜17:30
土曜日：9:00〜13:00
日曜・祝日 休業

KITブックセンター　21号館2階

本や雑誌を8 %引き、文具は20 %引きで販売しています。教科書はもちろん、専門書、資格本、就活本が充実しています。話題の本など、きめ細かいラインナップが自慢です。文具では製図用品など、特殊なものも揃えています。もちろん、取り寄せにも迅速に対応してくれます。詳しくはホームページを参照してください。

■営業時間
平日　：8:30〜17:00
土曜日：8:30〜13:00
日曜・祝日 休業

カフェテリア IL SOLE　21号館2階

落ち着いた雰囲気でランチを楽しみたい時は、イルソーレをご利用ください。金沢B級グルメのハントンライスを日替りで選ぶ楽しみがあります。また、その場で豆を挽く本格コーヒーも楽しめるので、授業の合間のブレイクタイムにぜひご利用ください。

■営業時間
平日　：10:00〜14:00
土曜・日曜・祝日 休業

コンビニ（Yショップアクア店）　27号館2階

焼きたてパン、豊富な種類のお菓子やドリンクを取り揃えています。また、専用マシンによる本格コーヒーの提供も行っています。コーヒーブレイクや3時のおやつにご利用ください。

■営業時間
平日　：8:30〜19:00
土曜日：8:30〜13:30
日曜・祝日 休業

レストラン・売店 ENERGY　62号館1階

やつかほリサーチキャンパスにあるレストランです。セットもの・麺類・丼・カレーとなんでも揃っています。

■営業時間
平日　：11:00〜15:00（ランチタイム）
土曜・日曜・祝日 休業

やつかほリサーチキャンパスにある売店です。お弁当、パン、スナック、飲料、アイスクリームなど種類も豊富に取り揃えています。本や文具も販売しています。

■営業時間
平日　：11:00〜16:00
土曜・日曜・祝日 休業

CHAPTER 6
カリキュラムガイド

6-1 About Curriculum Guide カリキュラムガイドについて

学習プランは自分が作る

カリキュラムガイド活用法

このカリキュラムガイドは「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」を育成するために必要な「基礎教育」と「専門教育」における教育目標と、その目標を達成するために必要な授業科目をわかりやすく説明しています。

このカリキュラムガイドを活用して、学習プランを立ててください。

系統的なカリキュラム

本学では、教育目標を明示するとともに、その目標達成のために必要な授業科目を系統的に配置し、その関連性を明示しています。その点を十分に理解し、カリキュラムフローに沿ってしっかりと学習を進める必要があります。

自分のテーマを発見し、考え、解決する

自学自習が基本です

自学自習を基本とする理由は、アクティビティ（活動）とクリエイティビティ（創造性）を大切にしているからです。創造性は、どうしたら身につくものなのか……。もちろんこの問いかけに対する正答はありません。しかし、自分が得た知識を知恵として変換することが必要です。自分の興味を探し出し、そのテーマに向けて自らが積極的に学習する。本学はそれを万全の体制でバックアップします。

学び、考え、行動する学生になる

知識や技術は、持っているだけでは役に立ちません。何に、どう使うか、どうやって実現するか……ということを身につけておくことが必要です。技術者として、何が本当に大切なものなのか？それは、問題を発見し、モノやシステムを生み出し、解決していくという“創造的な能力”であると考えています。

科目群の学習・教育目標について（学部）

各学科ページの上部にある「卒業の認定に関する方針」では、アルファベット記号（学科ページ：図１）が記されています。これは、科目ごとの学習支援計画書（シラバス：図２）における「学科教育目標」に関連付けられています。

詳しい説明は、以下WEBサイト（教育目標）を確認してください。
https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyoiku/mokuhyo/new-index.html

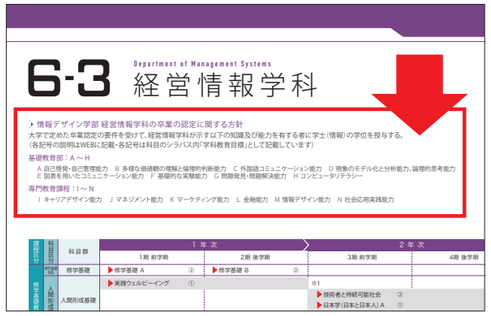


図１：学科ページの一部（例：経営情報学科）

図２：シラバスの一部（例：修学基礎A）

大学におけるポリシー

大学の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学協同」の理念に基づき「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与する。

・専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力
・地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力
・世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力

大学の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与方針に掲げる能力を身につけるための教育課程（修学基礎教育課程、英語教育課程、数理・データサイエンス・AI教育課程、プロジェクトデザイン基礎教育課程、専門教育課程、国際教養理工学課程）を以下のとおり編成する。

・歴史観、世界観、倫理観ならびに使命感を包含した人間力を身につけるとともに、生涯にわたり学修する姿勢を育成するための修学基礎教育課程
・グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を修得するための英語教育課程
・専門分野において求められる数理基礎能力を修得するための数理・データサイエンス・AI教育課程
・社会で求められるイノベーションを効果的に実践する手法を学ぶためのプロジェクトデザイン基礎教育課程
・専門分野における基礎理論、および高度な専門知識と技術を修得するための専門教育課程
・グローバルかつ多角的な視点で物事を捉え、人々から共感される新しい価値や技術を創造する能力を修得するための国際教養理工学課程

各教育課程で開講される諸科目の中でも、特に幅広い教養と国際的視野を身に付けることを意図した科目は、科目区分「リベラルアーツ系科目」として開講する。なお、国際教養理工学課程の授業科目はすべて「リベラルアーツ系科目」として開講される。

これらの教育課程のもとで以下のように、人文・社会科学から自然科学までの教養基礎を文理横断的に学ぶことに加え、異分野の専門科目や自分野の専門科目を深く学ぶ教育を実施する。

・チーム学習やアクティブラーニングにより自ら学び主体的に活動する能力を育成するための初年次教育
・修得した知識を知恵へ転換し、問題発見・問題解決能力を育成するためのプロジェクトデザイン教育
・技術者を取巻く社会環境を理解し、技術者に求められる素養・能力を育成するためのキャリア教育
・Conceive（考える）、Design（設計する）、Implement（実行する）、Operate（運用する）を重視して国際的に通用する創造する力を身につけるための総合教育
・イノベーションを可能にする世代・分野・文化を超えた共創教育

これらの教育実践を通して得られる学修成果は、多面的な評価方法（試験、クイズ・小テスト、レポート、成果発表、作品、ポートフォリオ等）に基づき総合的に評価される。

学科及び課程の教育課程の編成及び実施に関する方針は、大学の教育課程の編成及び実施に関する方針に従い別途定める。

学部のカリキュラム

Academic Foundations Programs

基礎教育部

教育目標

急速に変化する社会においては、生涯学び続けるための基礎学力と学びに向かう力を身につけておく必要がある。基礎教育部では自主的、かつ継続的な修学・生活スタイルの確立によって自己管理能力を高め、基礎学力の向上と専門分野との有機的な接続を図る。そして、チーム活動を通じて、コミュニケーション能力・論理的思考力・アクティブな行動力を培い、さらに確かな技術観を学ぶとともに技術者としての倫理観を身につけ、専門分野を見据えたキャリア形成を目指すことのできる人間力豊かで、「知性」「感性」「徳性」を持つ人材を育成する。

キーワード

- 自己管理能力
- 基礎学力の向上
- 専門分野との接続
- キャリア形成

6-2 修学基礎教育課程

Humanities and Social Sciences Program

キーワード

学習習慣 / 自己管理能力 / 広範な教養 / 人間力 / キャリアデザイン / 生涯学習

教育目標

「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」の礎となる広範な教養（日本語表現力、技術者倫理、日本文化・歴史と国際社会、健康と体力）と人間力（社会に適応する力）を体得する。また修学の基本となるルールとスキルを修得した上で、自主的・継続的な学習習慣と健康的な生活スタイルを形成し、それらを自己管理する力を身につける。さらにキャリアデザインを日常的に意識し行動する態度を身につける。これらの教育と学修を通して、生涯にわたって自律的に学修を継続でき、心身ともに健康で豊かな人生を創造できる人材を育成する。

科目群の主な学習・教育目標

自己啓発・自己管理能力（A）
多様な価値観の理解と倫理的判断能力（B）

①大学生として正しく学ぶ能力
- 金沢工業大学の建学の綱領に基づく人間形成を理解し実践する能力
- 大学生としての学習・生活スタイルを理解し実践する能力
- 自律的な学習を継続する能力
- 自分の将来像を描き、学び続ける能力
- 物事の本質を理解し、広く論理的に考え、わかりやすく表現する能力

②大学での学びを実社会で活かす能力
- 主体的に考え、他者と協働して物事に取り組む能力
- 安全や倫理に関して、情報を収集し、判断、行動する能力
- 卒業後の実社会を知り、働くことの意義を理解する能力
- 自らのキャリアを具体的にデザインできる能力

③幅広い教養と国際的視野を身につけ、多面的に考える能力
- 幅広い教養を身につけ、さまざまな場面で的確に問題を発見する能力
- 物事を広い視野から捉え、深く考え、適切に対応する能力
- 自国を理解し、国際社会における自身の在り方を考える能力
- 学んだ知識を活かして、国際化の時代に対応する能力

④心身ともに健康で豊かな人生をおくる能力
- 自己管理の重要性を理解し、健康で豊かな人生をおくるための知識を身につけ、実践する能力
- 集団の中での自己の役割を認識し、前向きに考え行動する能力

1年次 1期 前学期

- ▶ 修学基礎 A ②
- ▶ 実践ウェルビーイング ①
- ▶ 健康・体力づくり ①
- ▶ 人間と自然

1年次 2期 後学期

- ▶ 修学基礎 B ②
- □ 日本文学の世界 ②
- □ 人間と哲学 ②
- □ 法と社会 ②
- □ 経済と社会 ②
- □ こころのはたらき ②
- □ グローバル社会（ヨーロッパ） ②
- □ グローバル社会（アジア） ②
- □ 芸術へのアプローチ ②
- □ 科学技術と社会 ②
- □ 技術者のためのコミュニケーション ②
- □ 企業の組織と戦略 ②
- □ 指定放送大学科目
- □ 生涯学習特別科目
- ▶ 生涯スポーツ演習 ①

※「人間と自然」は、「合格」することが卒業要件

2年次 3期 前学期

- ▶ 技術者と持続可能社会 ②
- ▶ 日本学（日本と日本人）A ①
- ▶ 日本学（日本と日本人）B ①
- □ 国際関係論 ②
- □ 危機管理論 ②

2年次 4期 後学期

3年次 5期 前学期

- ▶ 科学技術者倫理 ②
- □ 日本国憲法 ②
- □ 韓国語入門 ②

3年次 6期 後学期

4年次 7期 前学期

4年次 8期 後学期

この枠内の科目は「リベラルアーツ系科目」として1～4年次に開講されます

▶ 必修科目　□ 選択科目　学科によって開講学期が異なる　○付数字は単位数を表す

6-2 English Language Program 英語教育課程

教育目標

英語の「読む」「書く」「話す」「聞く」能力を総合的に運用して、さまざまな文化の違いを理解できる国際的な視野を養う。専門分野でも必要とされるコミュニケーション能力や、プレゼンテーション能力を高めるために、英語で調べ、発表する能力を培う。語学を学ぶために必要不可欠な自主的、かつ継続的な学習の習慣を身につけ、能力向上のために行動できる人材を育成する。

キーワード

英語コミュニケーション能力 ／ 異文化理解 ／ 自己学習力

科目群の主な学習・教育目標

外国語コミュニケーション能力(C)

イングリッシュベーシックス
イングリッシュベーシックスは基礎的な英文法や語彙を修得し、練習を重ねることで、英会話に慣れ、バランスよく4技能(「読む」「書く」「話す」「聴く」)を伸ばすコースである。基礎的な文型を学ぶのみではなく、定着を図るためにグループワーク、ペアワーク、短い作文、発表を通して練習する。さらに、大学レベルでの英語学習に必要な効果的な学習方法を修得する。

イングリッシュトピックス
各コースのレベルにあった内容や教材を用いて、4技能(「読む」「書く」「話す」「聞く」)を総合的に修得する。各ユニットで学ぶ語彙や文章、文法を使用しながら基本的な英語のコミュニケーション能力を身につける。自学方法を学び自律した学習者になるためのスキルを修得する。

ビジネスコミュニケーション
ビジネス・会社の場において使われる英語を学習する。ビジネスに関係する語彙、表現などを実際のビジネスタスク(商品開発、プレゼンテーション、広告作りなど)を通して、効果的に使いこなせるようになる。「読む」「書く」「話す」「聴く」の総合的な4技能を鍛え、グループでのプレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどを通してビジネスの場に必要なスキルを修得する。

アカデミックリーディング
世界で起こっている事象や多文化についてのアカデミックな文章を読むことで、リーディングの能力を向上させるとともに、多角的視野を養う。長文読解のさまざまな技能を学びつつ、長文の構造、目的、主旨、細部の情報を見つける練習をする。アカデミックな語彙を増やすとともに、自分が理解した内容を人に伝える方法や技術も学ぶ。文章を読み、その内容について話し合い、個人の意見を論理的に表現する能力を身につける。

ライティングベーシックス
基礎レベルの学習者を対象とする英語ライティングの入門科目。基本的な語彙を増やし、英語の基礎的な文構造を身につけることを目的とする。授業は段階的に進め、単文を書く練習から始め、論理的にまとまりのある段落を構成する力を養う。最終的には、学期を通して教員から複数回の指導とフィードバックを受けながら、短い文章作品を完成させることを目標とする。あわせて、コンピュータを用いた文章作成や書式設定など、実践的なライティングスキルを修得する。

アカデミックプレゼンテーション
言語・非言語的スキルを学び、アカデミックな英語を用いてプレゼンテーションを行う。ライティングスキルを使い図や表を適切に説明しながら効果的な発表原稿を書く。

STEM イングリッシュ
STEMの話題について口頭または記述で自分の意見を表現する。科学的手法を用いて、問題を特定し、簡単な科学実験を行う。その結果を使い、問題の解決方法を提案する。その後調査結果をまとめ、口頭で発表する。

イングリッシュセミナー
グローバル社会に関わる様々な社会的課題を題材に、英語で情報を理解し、考察する。資料の読解や調査活動を通して課題を分析し、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。多様な視点を比較しながら解決策を検討し、英語で論理的に意見や考えを伝える力を養う。協働的な学習活動を通して、英語によるコミュニケーション能力および課題解決力を修得する。

TOEIC 初級
TOEIC® Listening & Reading 受験のための基礎コース。基礎的な文法と語彙の演習・課題を通して、テストの概要と構成を理解する。

TOEIC 中級
イングリッシュトピックス5(中級)から英語学習をスタートした学生や、就職・進学に向けてスコアアップを目指す学生を主対象とする応用コース。語彙を増やし、演習・課題を実践しながら攻略法を身につける。

インテンシブイングリッシュ
本学が認める語学学校で実施される短期集中プログラム。参加学生は、語学学校での講義と、英語圏での日常生活におけるコミュニケーションを通して、英語能力を向上させることを目指す。

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期
基礎レベル推奨科目(履修案1)			
□ イングリッシュベーシックス②	□ イングリッシュトピックス2 ②	□ イングリッシュトピックス3 ②	
	□ (夏期集中)イングリッシュトピックス1 ②		
基礎レベル推奨科目(履修案2)			
□ イングリッシュベーシックス②	□ ライティングベーシックス② ・ □ ビジネスコミュニケーション②	□ イングリッシュトピックス1 ②	□ イングリッシュトピックス2 ②
基礎レベル推奨科目(履修案3)			
□ イングリッシュトピックス1 ②	□ イングリッシュトピックス2 ②	□ イングリッシュベーシックス② ・ □ イングリッシュトピックス 3②	□ ライティングベーシックス② ・ □ ビジネスコミュニケーション② ・ □ イングリッシュトピックス 4②
初級レベル推奨科目(履修案1)			
□ イングリッシュトピックス3 ②	□ イングリッシュトピックス4 ②	□ イングリッシュトピックス5 ②	□ アカデミックリーディング1②
初級レベル推奨科目(履修案2)			
□ イングリッシュトピックス3 ②	□ イングリッシュトピックス4 ②	□ イングリッシュベーシックス②	□ ライティングベーシックス② ・ □ ビジネスコミュニケーション②
初級レベル推奨科目(履修案3)			
□ イングリッシュトピックス3 ②	□ イングリッシュトピックス4 ②	□ イングリッシュトピックス5 ②	
中級レベル推奨科目(履修案1)			
□ イングリッシュトピックス5 ②	□ アカデミックリーディング1②	□ アカデミックリーディング2②	□ STEMイングリッシュ②
中級レベル推奨科目(履修案2)			
□ イングリッシュトピックス5 ②	□ STEMイングリッシュ②	□ イングリッシュセミナー ②	□ アカデミックリーディング1②
中級レベル推奨科目(履修案3)			
□ イングリッシュトピックス5 ②	□ アカデミックリーディング1②	□ アカデミックプレゼンテーション②	□ STEMイングリッシュ②

3・4年次にも履修可能

□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-2 Mathematics,Science,Data Science and AI Program 数理・データサイエンス・AI教育課程

教育目標

「自ら考え行動する創造的探究・実践人材」に必要な数理系の基礎学力の向上と専門課程へのスムーズな接続を図るため、専門課程において求められる数理基礎(数学、物理、化学、生物)とその工学系、理工学系、情報学系に関わる応用、及び社会に浸透し始めたAI・データサイエンスの基礎を学び、それらの知識を取り込む力、思考・推論・創造する力を身につける。さらに、学習に取り組む姿勢を能動化させ、学習意欲をより一層喚起させることにより、予習・復習を主とした自学自習などの学びに向かう力や自己管理能力を養い、学び合いとコミュニケーションを通じて、課題解決能力を持つ人材を育成する。

キーワード

数理基礎能力 ／ 論理的思考力 ／ 学びに向かう力 ／ 自己管理能力 ／ 課題解決力 ／ 専門課程との接続

科目群の主な学習・教育目標

現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力(D)

全学部共通科目
平面や空間における図形を正確に認識し表現するために、ベクトルや行列の計算、連立1次方程式の解法、行列式などを中心に、幾何学的対象を代数的に扱える能力を養う。

情報理工学部、バイオ・化学部、工学部、建築学部対象科目
数理基礎(数学、物理)と工学系分野(機械、電気、環境、建築)や理工学系分野(バイオ、化学)への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力を養う。さらに、予習・復習を主とした自学自習などの自己学習力や自己管理能力を養う。

工学部対象科目
数理基礎(数学、物理)とその工学系分野(環境)への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力を養う。さらに、予習・復習を主とした自学自習などの自己学習力や自己管理能力を養う。
(ただし、「環境系数理」は工学部環境土木工学科を対象とした科目です。)

全学部共通科目
数理基礎(数学、物理)と工学系分野(機械、電気、環境、建築)や理工学系分野(バイオ、化学)への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力を養う。さらに、予習・復習を主とした自学自習などの自己学習力や自己管理能力を養う。

情報デザイン学部、メディア情報学部対象科目
情報数理基礎とその情報学系分野への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力を養う。さらに、予習・復習を主とした自学自習などの自己学習力や自己管理能力を養う。

全学部共通科目
物理の分野について、基礎的な概念や法則を学び、工学、情報学、理工学(バイオ、化学)における課題について、物理的な解析ができる能力を身につける。

全学部共通科目
偶然性を伴う現象を解析する場合に必要となる統計的な考え方を学び、工学、情報学、理工学(バイオ、化学)における課題について統計的な解析ができる能力を身につける。

全学部共通科目
データサイエンスとAIへの知的好奇心、学習意欲を惹起し、その初歩的知識と操作を修得する。これにより工学・理学全分野へデータサイエンスとAIを応用するための基盤となる能力を身につける。

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期
	▶ 線形代数学 ②		
▶ 技術者のための数理Ⅰ ② / ▶ 技術者のための数理Ⅱ ②		□ 技術者のための数理Ⅲ ②	
	□ 環境系数理 ②		
	□ アドバンスト数理A ②		
	□ アドバンスト数理B ②		
▶ 情報のための数学Ⅰ ② / ▶ 情報のための数学Ⅱ ②	□ 情報数理A ②		
	□ データサイエンス物理 ②		
	□ 技術者ための統計 ②		
	▶ AⅠ基礎 ①		
	▶ データサイエンス基礎Ⅰ ①	▶ データサイエンス基礎Ⅱ ①	
	□ 数理特別科目	□ AⅠプログラミング入門 ① / □ ビジネスデータサイエンス ①	□ AⅠ応用Ⅰ ① / □ AⅠ応用Ⅱ ① / □ データサイエンス応用 ①

3・4年次にも履修可能

この枠内の科目は「リベラルアーツ系科目」として1〜4年次に開講されます

▶ 必修科目　□ 選択科目　学科によって開講学期が異なる　○付数字は単位数を表す

6-2 Design Project Program プロジェクトデザイン基礎教育課程

教育目標

現在、技術者には専門知識と実践スキルのバランスを重視した実践的なイノベーション力が強く要望されている。本課程のプロジェクトデザイン活動では、チームによる問題発見、情報収集、問題解決のアイデア創出、作品制作や実験によるアイデアの検証など多くのイノベーション手法を学ぶ。これらの学びを通して、実践的イノベーション力を身につけた人材を育成する。

キーワード

- 問題発見・解決
- 主体的学習
- 論理的思考力
- コミュニケーション能力

科目群の主な学習・教育目標

	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期
問題発見・問題解決能力(G) 基礎的な実験能力(F) 図表を用いたコミュニケーション能力(E)	▶プロジェクトデザイン入門(実験) ②	▶プロジェクトデザインⅠ ② ▶プロジェクトデザインⅠ(英語クラス) ②	▶プロジェクトデザインⅡ ② ▶プロジェクトデザインⅡ(英語クラス) ②	▶プロジェクトデザイン実践(実験) ②
コンピュータリテラシー(H)	▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ①			

知識や技能を集約して問題を発見し解決する力を養う

「プロジェクトデザイン入門(実験)」と「プロジェクトデザイン実践(実験)」では、検証活動を進めるための基本的な知識と技術を修得する。さまざまな対象や現象について、データを収集し、整理し分析することで、定量的あるいは定性的に捉え、その特徴・特性・法則性を抽出し、それらを第三者にわかりやすく伝える力を養う。
「プロジェクトデザインⅠ」と「プロジェクトデザインⅡ」では、修得した知識と情報収集により、チーム活動を通して社会に存在する問題に気づき、解決する能力を身につける。データに基づいて地域社会や産業界の現状を把握し、原因を分析した上で、問題点を発見して解決策を見いだす。論理的な思考によりプロジェクト活動を進める力を養う。

コンピュータ利用の基礎知識

パーソナルコンピュータ(パソコン)を学業と学生生活に活用するために、パソコンの仕組みとその能力・可能性を理解する。パソコンの基本操作やネットワーク利用の基本操作を学び、さらに文書・プレゼンテーション資料作成の伝える力およびデータを集計・分析する力を養う。

3・4年次にも履修可能

- □ IoT基礎 ①
- □ IoTプロトタイピング ①
- □ IoTプログラミング入門 ①
- □ ドローンプログラミング ①
- □ IoT応用 ①
- □ ロボティクス基礎 ①
- □ 情報ネットワーク基礎 ①
- □ ネットワークセキュリティ ①
- □ プロジェクトデザイン特別科目

この枠内の科目は「リベラルアーツ系科目」として1〜4年次に開講されます

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

College of Information Design

情報デザイン学部

教育目標

人々が幸せであり、かつ持続可能な社会を構築するために、高い視座・広い視野・様々な視点から将来の理想像を構想(デザイン)して、その理想像を実現するための取組を実行できる人材があらゆる分野で求められている。本学部では、社会データ、情報技術、情報コミュニケーションなどを活用して、将来の望ましい「もの・こと・組織・社会」をデザインするために工学・技術・経営・文化・芸術などを広範に学ぶ。修得した知識・スキル・技術を幅広い分野で活用して、人々の生活をより豊かにして持続可能な世界をデザインできる構想力と、構想を社会実装できる実行力のある人材を育成する。

キーワード

- フューチャーデザイン
- データと情報技術の活用
- 総合知
- 文理融合

6-3 Department of Management Systems 経営情報学科

情報デザイン学部 経営情報学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、経営情報学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ N

I キャリアデザイン能力　J マネジメント能力　K マーケティング能力　L 金融能力　M 情報デザイン能力　N 社会応用実践能力

教育目標

高度に情報化した現代の国際競争社会では、マネジメント・スキルと情報技術の双方の基本的な素養を備え、実社会に活用できる人材があらゆる分野で求められている。本学科では、①マネジメント能力、②マーケティング能力、③金融能力、④情報通信能力を修得し、4分野融合に基づく社会に有益なビジネスを新しく立ち上げ、そのビジネスと組織を効率的に管理するための知識や方法、さらに、それらを実現するための基盤であるマネジメント・スキルと情報技術によって、ビジネスを通じた社会課題の解決を実現する人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英　語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶情報のための数学 I ② ▶情報のための数学 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □情報数理 A ② □データサイエンス物理 ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 A ② □アドバンスト数理 B ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶情報デザイン学キャリアデザイン（経営情報） ② ▶Webデザイン ② ▶経営学入門 ② ▶企業会計基礎 ② ▶データアナリティクス入門 ②	▶ＩＴシステム基礎 ② ▶プログラミング基礎 ② ▶経営戦略と組織 ②	▶マーケティング基礎 ② ▶ビジネス統計学 I ② ▶経営分析とＥＳＧ ② ▶戦略会計入門 ② ▶イノベーション・デザイン ② □ロジカルシンキング ② □データベースマネジメント ② □数理マネジメント ②	□マーケティング戦略 ② □Ｗｅｂプログラミング ② □システムモデリング ② □戦略会計応用 ② □会計情報とビジネス法規 ② □ビジネス統計学 II ②	▶経営情報専門実験・演習 A ③ □インダストリアルエンジニアリング ② □ＳＤＧｓ基礎 ② □先進プログラミング ② □アルゴリズムとデータ構造 ② □サステナブルファイナンス ② □原価管理 ② □データアナリティクス ② □グローバルリーダーシップ実践 ②	▶経営情報専門実験・演習 B ③ □マーケティング実践 ② □ＳＤＧｓ実践 ② □先進プログラミング応用 ② □システム思考 ② □企業価値評価とＥＳＧ ② □アカデミックリーディング ② □データサイエンス実践 ②			60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧		10		—
専門教育課程		その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-3 Department of Management Systems 経営情報学科 ［専門教育課程］

キーワード

コトづくり　イノベーション　SDGs　行動変容　データサイエンス
経営分析　財務会計　IoT　ビッグデータ　AI

学ぶ領域

1 マネジメント
人・モノ・金の全体最適化を実現することで、社会課題解決により理想的な状況を生み出す。

2 マーケティング
人々が持つ潜在的なニーズを掘り起こし、技術と結びつける。

3 金融
お金の流れを物事の原動力、実態を映し出す鏡として捉え、活用する。

4 情報通信
IoT、ビックデータ、AIによる新しいモノ・コトを創り出し、活用する。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
経営情報学科で何を学ぶか、経営情報とは何かの概念を得る。経営情報学科プログラムの学習・教育目標を把握し、自ら履修計画および学習計画を立案できる。また、ビジネス業界の動向や就職環境などを把握して、自らの適性と希望に応じた将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

マネジメント能力（J）
データサイエンスの基礎的な手法を習得するとともに、事業のマネジメントに関する広範な知識と一般原則を理解できる。特に、SDGs（持続可能な開発目標）などグローバルな視点から、事業のありかたについての視点を持つことができる。

マーケティング能力（K）
顧客ニーズを起点とするマーケティングの用語と考え方を理解した上で、ビッグデータによる市場動向を把握する手法、およびそれを解析する手法を習得するとともに、実際の社会事例において、それらの手法を活用した分析と提案ができる。

金融能力（L）
経営状態を表現するための会計および資金の調達と運用・投資を行うためのファイナンスに関する知識を修得することにより、財務諸表を見てケース企業の経営状態を把握すること、さらには資本調達計画の立案など、お金に関する意思決定をすることができる。

情報デザイン能力（M）
情報技術を活用するために、コンピュータ、データベース、インターネットとそのサービスに関する基礎知識を習得するとともに、複雑な事象やシステムのモデル化技法と解決技法を習得する。これらの知識・技法を用いて、課題解決のためにIT活用に関する提案や、ITシステムの設計とプログラミングを行うことができる。

社会応用実践能力（N）
ビジネス上のさまざまな問題に対して、問題解決の過程に基づき解決案を創出し成果を得ることができる。また理論的なアイデアを具体的な計画やレポートで明確に表現することができ、そのアイデアの有効性を実証するための調査や実施項目を計画し、実行に移して成果を上げ、以上のすべてを適切に説明することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶情報デザイン学キャリアデザイン（経営情報）②				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶データアナリティクス入門 ②		▶ビジネス統計学Ⅰ ②	□ビジネス統計学Ⅱ ②	□データアナリティクス ②	□データサイエンス実践 ②		
▶経営学入門 ②	▶経営戦略と組織 ②				□アカデミックリーディング ②		
		□ロジカルシンキング ②		□インダストリアルエンジニアリング ②			
		□数理マネジメント ②					
		▶イノベーション・デザイン ②		□グローバルリーダーシップ実践 ②			
				□ＳＤＧｓ基礎 ②	□ＳＤＧｓ実践 ②		
		▶マーケティング基礎 ②	□マーケティング戦略 ②		□マーケティング実践 ②		
						▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
▶企業会計基礎 ②		▶経営分析とＥＳＧ ②	□会計情報とビジネス法規 ②	□サステナブルファイナンス ②	□企業価値評価とＥＳＧ ②		
		▶戦略会計入門 ②	□戦略会計応用 ②	□原価管理 ②			
▶Webデザイン ②	▶プログラミング基礎 ②	□データベースマネジメント ②	□Webプログラミング ②	□先進プログラミング ②	□先進プログラミング応用 ②		
	▶ＩＴシステム基礎 ②			□アルゴリズムとデータ構造 ②			
			□システムモデリング ②		□システム思考 ②		
				▶経営情報専門実験・演習Ａ ③	▶経営情報専門実験・演習Ｂ ③		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-3 環境デザイン創成学科

Department of Environmental Design and Innovation

情報デザイン学部 環境デザイン創成学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境デザイン創成学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ M

I キャリアデザイン能力　J 現状を敷衍（ふえん）して先を見通す基礎能力　K 地域や社会の全体像を描いて構想する基礎能力　L コミュニケーションを介して協業する基礎能力
M 社会応用実践能力

教育目標

環境デザイン創成学科では、「現状を敷衍（ふえん）して先を見通す基礎能力」「地域や社会の全体像を描いて構想する基礎能力」「コミュニケーションを介して協業する基礎能力」の基礎能力を身に付けて、持続可能な社会を築くための将来像を描き，その将来の実現に向かってやりぬくことのできる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英　語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶情報のための数学 I ② ▶情報のための数学 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □情報数理 A ② □データサイエンス物理 ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 A ② □アドバンスト数理 B ② 一部科目の記載はp.090参照	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目	専門科目	▶情報デザイン学キャリアデザイン（環境デザイン創成） ② ▶Ｗｅｂデザイン ② ▶経営学入門 ② ▶データアナリティクス入門 ②	▶社会調査法 ② ▶グラフィック・コミュニケーション ② ▶グローバル開発論 ② ▶コミュニケーション・デザイン入門 ② □プログラミング基礎 ②	▶イノベーション・デザイン ② ▶カーボンニュートラル概論 ② ▶コミュニケーション・デザイン実践 ② ▶経営分析とＥＳＧ ② ▶ランドスケープ入門 ② □マーケティング基礎 ②	▶ウェルビーイングシティ政策デザイン ② □３次元コンピュータグラフィックス入門 ② □共生社会デザイン概論 ② □異文化理解・コミュニケーション ② □思考のトレーニング ② □地域・ランドスケープ計画論 ② □社会シミュレーション ② □環境・空間調査分析法 ②	▶環境デザイン創成専門実験・演習 A ③ ▶ＮＧＯ組織デザイン概論 ② □グローバルリーダーシップ実践 ② □データアナリティクス ② □環境・エネルギーシステム論 ② □サステナブルファイナンス ② □映像メディアと環境応用 ② □バリアフリー・ユニバーサルデザイン論 ② □ＳＤＧｓ・ＧＸ・ＳＸ入門 ②	▶環境デザイン創成専門実験・演習 B ③ □環境と倫理 ② □ヘドニスティック・サステナビリティ実践 ② □環境アート・デザイン論 ② □学習理論と環境応用 ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧		10		—
専門教育課程	その他	その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目	リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

卒業に必要な最低単位数

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-3 Department of Environmental Design and Innovation 環境デザイン創成学科 ［専門教育課程］

キーワード

- 地域活性化
- 分析力
- 構想力
- コミュニケーション
- 社会実装
- コトづくり
- 技術ベース
- グリーントランスフォーメーション
- ウェルビーイング
- 総合知

学ぶ領域

1 現状を敷衍（ふえん）して先を見通す基礎能力

社会や環境の現状を把握するための基本的な調査法やデータ分析などを理解し，様々なテクノロジーが社会や環境に対する役割や影響を理解する。

2 地域や社会の全体像を描いて構想する基礎能力

人間と社会と自然を取り巻く環境に関する関係と構造を理解し、さらに地域や社会の様々な環境的要因を考慮して理想的な将来像を描くことができる。

3 コミュニケーションを介して協業する基礎能力

自らの考えを相手に効果的に伝える手法を理解して実践することができ、様々な背景や文化を有する人たちに対しても傾聴や対話によって相手を理解して、建設的なコミュニケーションをとることができる。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
環境デザイン創成学科において何を学ぶか、環境デザイン創成とは何を目指しているのかなどを理解する。環境デザイン創成学科教育プログラムの学習・教育目標を把握し、自ら履修計画および学習計画を立案できる。また、社会動向や就職環境などを把握して、自らの適性と希望に応じた将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

現状を敷衍して先を見通す基礎能力（J）
社会や環境の現状を把握して基本的なリテラシーである各種の調査法やデータ分析などを理解している。また、様々なテクノロジーが社会や環境に対して果たしている役割や影響を基本的な素養として理解する。それらの理解に基づいて、現状を外挿した将来を予想することができる。

地域や社会の全体像を描いて構想する基礎能力（K）
過疎化等の地域課題から気候変動等の地球規模課題までの人間と社会と自然を取り巻く環境に関する知識と構造を理解し、さらに地域や社会の様々な環境的要因を考慮して理想的な将来像を描くグランドデザインを作成することができる。

コミュニケーションを介して協業する基礎能力（L）
的確な言葉やグラフィックを用いて、自らの考えを相手に効果的に伝える手法を理解して実践することができる。さらに、地域や社会の利害関係者、あるいは様々な背景や文化を有する人たちに対して、傾聴や対話によって相手を理解して、建設的なコミュニケーションをとることができる。

社会応用実践能力（M）
修得した基礎能力を応用して、地域や社会の課題を発見して多様な社会課題の中で自らが取り組むべき課題を自分の意志で選択して、その課題を解決するための計画を立てて、解決に導くための行動を取ることができる。さらに、地域や社会に有用な価値を創出するイノベーションの種を見つけ出し、イノベーションを起こす行動に結びつけることができる。また、地域や社会の様々な規模に至る課題に対して、問題解決の過程に基づき解決案を創出し成果を得ることができる。また理論的なアイディアを具体的な計画やレポートで明確に表現することができ、そのアイディアの有効性を実証するための調査や実施項目を計画し、実行に移して成果を上げることができる。以上のすべてを適切に説明することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶情報デザイン学キャリアデザイン（環境デザイン創成）②				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶データアナリティクス入門②		▶カーボンニュートラル概論②	□社会シミュレーション②	□データアナリティクス②	□学習理論と環境応用②		
				□環境・エネルギーシステム論②			
	▶社会調査法 ②	▶経営分析とESG ②		□サステナブルファイナンス②			
				□映像メディアと環境応用②			
		□マーケティング基礎②					
▶経営学入門 ②	▶グローバル開発論②	▶イノベーション・デザイン②	▶ウェルビーイングシティ政策デザイン ②				
		▶ランドスケープ入門②	□地域・ランドスケープ計画論②				
			□環境・空間調査分析法②				
				▶NGO組織デザイン概論②		▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
▶Webデザイン ②	□プログラミング基礎②	▶コミュニケーション・デザイン実践②	□3次元コンピュータグラフィックス入門②		□環境と倫理 ②		
	▶グラフィック・コミュニケーション②		□異文化理解・コミュニケーション②				
	▶コミュニケーション・デザイン入門②		□思考のトレーニング②				
			□共生社会デザイン概論③	▶環境デザイン創成専門実験・演習A ③	▶環境デザイン創成専門実験・演習B ③		
				□バリアフリー・ユニバーサルデザイン論②			
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		
				□SDGs・GX・SX入門②	□ヘドニスティック・サステナビリティ実践 ②		
				□グローバルリーダーシップ実践②	□環境アート・デザイン論②		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

College of Media Information

メディア情報学部

教育目標

人々の生活や社会のあらゆる場面において、デジタルメディア技術を活用した新たな価値創造が求められている。メディア分野ではメディアテクノロジーとメディアデザインという二つの領域を統合しコンテンツ・システム等の企画・開発を目指すための能力を涵養する。心理分野では人の心のはたらきをAI・データサイエンス技術を用いて科学的に測定・評価し、それをもの・コトづくりに応用して新しい価値を創出するための能力を涵養する。

キーワード

- メディアテクノロジー
- メディアデザイン
- ヒューマンインタフェース
- 心理情報デザイン

6-4 メディア情報学科

Department of Media Information

メディア情報学部 メディア情報学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、メディア情報学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ O

I キャリアデザイン能力　J 情報技術の基礎能力　K ネットワークデザイン能力　L アプリケーション開発能力　M コンテンツ制作のための基盤能力
N メディアコンテンツのデザイン能力　O プロジェクト推進能力

教育目標

われわれの身の回りには、いたるところにさまざまなメディアを通じた情報コミュニケーションが存在する。本学科では、CG、モバイル技術、ネットワークセキュリティなどの最新の情報テクノロジーと映像・音楽・Web・XRなどのコンテンツ制作のための感性の基礎、デザインを修得し、それらを統合・実践的に結びつけることでメディアコンテンツ、サービス、システムを企画・開発でき、社会に新しい価値を創出するクリエイティブ人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	卒業に必要な最低単位数 必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶情報のための数学Ⅰ ② ▶情報のための数学Ⅱ ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎Ⅰ ① □情報数理 A ② □データサイエンス物理 ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎Ⅱ ① □アドバンスト数理 A ② □アドバンスト数理 B ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	※3
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザインⅠ ②	▶プロジェクトデザインⅡ ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目	専門科目	▶メディア情報学入門とキャリアデザイン ① ▶Webデザイン ② ▶色覚・聴覚トレーニング ② ▶プログラミング入門 ①	▶ＩＴシステム入門 ② ▶コミュニケーションドローイング ② ▶プログラミングⅠ ① □ＵＩ／ＵＸデザイン ②	▶メディア情報論Ⅰ ② ▶サーバマネジメント入門 ② ▶プログラミングⅡ ① □グラフィック・コミュニケーション ② □コンピュータシステムとＡＩ ② □コンピュータグラフィックス演習 ② □プログラミング総合 ① □プログラミング発展 ①	▶メディア文化論 ② □音楽・音響情報処理 ② □オブジェクト指向プログラミング ② □アニメーション制作演習 ② □メディアコンテンツ応用 ② □情報ネットワーク ② □多変量データの統計科学の基礎 ②	▶メディア情報専門実験・演習 A（映像制作・デジタルファブリケーション） ③ □メディア情報論Ⅱ ② □Webプログラミング ② □ゲーム制作演習 ② □ＸＲ（ＶＲ／ＭＲ／ＡＲ）デザイン ② □情報セキュリティ ② □イメージメディア処理 ② □データベース ②	▶メディア情報専門実験・演習 B（クラウドサービス活用、IoT） ③ □モバイルアプリケーション ② □Webアプリケーション ② □ネットワークとセキュリティ演習 ② □メディアコンテンツ数理 ② □作品制作 ② □ＡＩ理論・実践 ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧		10		—
専門教育課程	その他	その他					□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①	※1		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目	リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-4 Department of Media Information メディア情報学科 ［専門教育課程］

学ぶ領域

1 メディアテクノロジー

CG、AI、プログラミング、ネットワークセキュリティなど最新の情報テクノロジーを学ぶ。

2 メディアデザイン

映像、音楽、Web・XRコンテンツなどを効果的にデザインするための技術・感性と論理的設計手法を学ぶ。

キーワード

メディアテクノロジー　メディアデザイン　論理と感性の融合　コンテンツ企画・設計・開発

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
メディア情報に関する産業界の動向、求められる人物像、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

情報技術の基礎能力（J）
プログラミング、IT システム、AI、データサイエンス、画像・音響情報処理などの情報技術の基礎的な知識と技能を修得しそれらを活用できる。

ネットワークデザイン能力（K）
コンピュータネットワーク、クラウド、モバイル技術などのメディアテクノロジーに関する知識・技術を修得しそれらを活用できる。

アプリケーション開発能力（L）
XR(VR/AR/MR)コンテンツやWebコンテンツやゲームコンテンツ、モバイルアプリケーションなどをデザインし制作できる。

コンテンツ制作のための基盤能力（M）
メディアコンテンツをデザインするため、その背景となる社会文化学、生理学、感性工学など基礎的知識を修得し、実際のコンテンツ制作へ応用できる。

メディアコンテンツのデザイン能力（N）
CG、映像、音楽、Web、XR(VR/MR/AR)などのメディアコンテンツをデザインし制作するための知識・技術を修得し活用できる。

プロジェクト推進能力（O）
地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、新しい価値をもたらす課題解決のためにメディアテクノロジーとメディアデザインの二つの領域の専門知識・技術の修得を基本にし、それらを統合的、実践的に結びつけ、コンテンツ、サービス、システムなどを論理的に制作し、評価できる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶メディア情報学入門とキャリアデザイン ①				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
			□多変量データの統計科学の基礎 ②				
	▶ＩＴシステム入門 ②	□コンピュータシステムとＡＩ ②			□ＡＩ理論・実践 ②		
▶プログラミング入門 ①	▶プログラミングⅠ ①	▶プログラミングⅡ ①					
		□プログラミング総合 ①	□オブジェクト指向プログラミング ②				
		□プログラミング発展 ①					
		▶サーバマネジメント入門 ②	□情報ネットワーク ②	□情報セキュリティ ②	□ネットワークとセキュリティ演習 ②		
				□データベース ②			
▶Webデザイン ②	□UI/UXデザイン ②			□ゲーム制作演習 ②	□モバイルアプリケーション ②		
				□Webプログラミング ②	□Webアプリケーション ②		
						▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶メディア情報論Ⅰ ②	▶メディア文化論 ②	□メディア情報論Ⅱ ②			
			□音楽・音響情報処理 ②	□イメージメディア処理 ②	□メディアコンテンツ数理 ②		
▶色覚・聴覚トレーニング ②	▶コミュニケーションドローイング ②	□グラフィック・コミュニケーション ②	□アニメーション制作演習 ②	□XR(VR/MR/AR)デザイン ②			
		□コンピュータグラフィックス演習 ②					
			□メディアコンテンツ応用 ②		□作品制作 ②		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		
				▶メディア情報専門実験・演習Ａ（映像制作・デジタルアプリケーション）③	▶メディア情報専門実験・演習Ｂ（クラウドサービス活用、IoT）③		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-4 心理情報デザイン学科

Department of Psychology and Information Design

メディア情報学部 心理情報デザイン学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、心理情報デザイン学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（情報）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ M

I キャリアデザイン能力　J 心の基礎的理解力　K 研究計画立案・実施・データ分析能力　L 心の理解と産業的応用実践力　M 心の理解と臨床的応用実践力

教育目標

心理情報デザイン学科では、心理学を学ぶことを通して、人の生活を支える安全で使いやすく、魅力的なコンテンツ、製品、サービスを提案・実現するのに必要不可欠な知識を身につけることを目指す。心のはたらきや脳・神経の仕組みを理解し、データサイエンスを含む科学的な手法を通して課題解決に取り組むことができ、またそれらの知識をものづくり・ことづくり・ひとづくりに活用することや、臨床場面で実践することができる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	卒業に必要な最低単位数 必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英　語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶情報のための数学 I ② ▶情報のための数学 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □情報数理 A ② □データサイエンス物理 ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 A ② □アドバンスト数理 B ②	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	※3
				一部科目の記載はp.090参照									
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ①	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
			一部科目の記載はp.091参照										
専門教育課程	専門科目		▶心理と情報デザイン ① ▶心理学概論 A ② ▶心理学概論 B ② ▶心理学研究法 ② ▶認知情報データ解析基礎 ②	▶心理情報プログラミング I ② □知覚・認知心理学 A ② □臨床心理学概論 ②	▶心理学実験 ② ▶心理学統計法 ② ▶心理学基礎実験実習 I ② ▶心理情報とキャリアデザイン ② □認知情報と心理調査法 ② □心理情報プログラミング II ②	□教育・学校心理学 ② □心理学基礎実験実習 II ② □認知情報データ解析応用 ② □健康・医療心理学 ② □観察法 ② □脳生理データ解析演習 ②	▶心理情報専門実験・演習 A ③ □人体の構造と機能及び疾病 ② □神経・生理心理学 ② □社会・集団・家族心理学 ② □学習・言語心理学 ② □産業・組織心理学 ② □障害者・障害児心理学 ② □知覚・認知心理学 B ② □心理学的支援法 ②	▶心理情報専門実験・演習 B ③ □脳における情報処理 ② □発達心理学 ② □情報デザインと消費者心理 ② □感情・人格心理学 ② □ヒューマンインタフェース設計 ② □心理演習 ② □心理的アセスメント ②	□公認心理師の職責 ② □精神疾患とその治療 ②	□福祉心理学 ② □司法・犯罪心理学 ② □関係行政論 ②	60		※3
	専門プロジェクト科目							▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインIII ⑧		10		—
	その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1	□心理実習 ③		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-4 Department of Psychology and Information Design 心理情報デザイン学科 ［専門教育課程］

キーワード

心のはたらき　脳・神経の仕組み　データサイエンス　臨床心理学

学ぶ領域

1 心のはたらきを支える仕組みについての心理学
心のはたらきを理解するために必要な認知・神経・行動メカニズムに関する知識を身につける。

2 心理学のためのプログラミング・データサイエンス
実験や実習を通して、心についての測定や評価に必要な情報技術、データ解析技法、統計技法を身につける。

3 ものづくり・ことづくり・ひとづくりのための心理学
社会の中で主に産業分野において心のはたらきに関わる諸問題を解決するための知識と応用技術を身につける。

4 臨床心理学
社会の中で主に臨床分野において心のはたらきに関わる諸問題を解決するための知識と実践的技術を身につける。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
実社会において心理学の知識が生かされる場面を理解し、社会の動向、求められる人物像、就職環境などを把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

心の基礎的理解力（J）
心について蓄積されてきた知見を理解し、そこから心のはたらきの理解や検討を進めるための枠組み・モデルを構築することができる。

研究計画立案・実施・データ分析能力（K）
心のはたらきや心のしくみを明らかにするために、観察・面接・調査・実験といった手法を用いて適切に研究を計画し、それを精緻に実施し、種々のデータを分析するために必要な情報技術、統計技法を身に付け適切に実施することができる。

心の理解と産業的応用実践力（L）
心とそのはたらき、しくみに関する知識を、ものづくり、ことづくり、ひとづくりに活用するための方法を知り、それを社会や産業における実装を進めることができる。

心の理解と臨床的応用実践力（M）
医療・教育・福祉・産業・司法といった領域における心のはたらきについて理解し、心理アセスメント、心理的援助、心理教育といった臨床的実践のための技術を身につけ、その実践のための基礎を身につけている。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶ 心理と情報デザイン ①		▶ 心理情報とキャリアデザイン ②	□ 進路セミナーⅠ ①	□ 進路セミナーⅡ ①	▶ イノベーション基礎 ① ▶ 専門ゼミ ①	▶ プロジェクトデザインⅢ ⑧	
▶ 心理学概論A ②	□ 知覚・認知心理学A ②			□ 人体の構造と機能及び疾病 ② □ 神経・生理心理学 ② □ 学習・言語心理学 ② □ 知覚・認知心理学B ②	□ 脳における情報処理 ②		
▶ 心理学研究法 ② ▶ 認知情報データ解析基礎 ②	▶ 心理情報プログラミングⅠ ②	▶ 心理学実験 ② ▶ 心理学統計法 ② ▶ 心理学基礎実験実習Ⅰ ② □ 認知情報と心理調査法 ② □ 心理情報プログラミングⅡ ②	□ 心理学基礎実験実習Ⅱ ② □ 認知情報データ解析応用 ② □ 観察法 ② □ 脳生理データ解析演習 ②		▶ 心理情報専門実験・演習B ③		
				□ 社会・集団・家族心理学 ② □ 産業・組織心理学 ②	□ 情報デザインと消費者心理 ② □ ヒューマンインタフェース設計 ②		
▶ 心理学概論B ②	□ 臨床心理学概論 ②		□ 教育・学校心理学 ② □ 健康・医療心理学 ②	▶ 心理情報専門実験・演習A ③ □ 障害者・障害児心理学 ② □ 心理学的支援法 ②	□ 発達心理学 ② □ 感情・人格心理学 ② □ 心理演習 ② □ 心理的アセスメント ②	□ 公認心理師の職責 ② □ 精神疾患とその治療 ② □ 心理実習 ③	□ 福祉心理学 ② □ 司法・犯罪心理学 ② □ 関係行政論 ②

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

College of Information Science and Engineering

情報理工学部

教育目標

人工知能に関する技術が加速度的に発展すると同時に、IoTやクラウドサービスが日常的に利用され、AIとロボットが今後急速に融合していくと、これら高度な情報技術は社会を根本から支える必須技術になっていくと考えられる。このような背景から，情報理工学部では高度情報化社会を支えると共に、新たな社会を創造していくための人材を養成する。具体的に本学部の学生は、まずコンピュータサイエンスの基礎知識と技術を十分に習得する。その上でハードウエアやネットワーク関連技術、AIやデータサイエンス、制御工学やロボット工学などの専門領域を幅広く学び、イノベーションを実現する力を身に付ける。

キーワード

- プログラミング
- 情報セキュリティ
- AI
- データサイエンス
- XR
- ドローン・ビークル

6-5 情報工学科

Department of Information and Computer Science

情報理工学部 情報工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、情報工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ R

I キャリアデザイン能力　J 情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力　K プログラミングとソフトウェア開発能力　L 情報処理環境の機能設定・運用能力
M 情報処理技法の設計と評価能力　N 情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力　O ハードウェア・ソフトウェア・IoT の設計・製作能力
P 情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力　Q 分散システムの設計・開発能力　R メディア情報処理システムの設計・開発能力

教育目標

本学科では、コンピュータサイエンスを十分に理解した上で、ハードウエア・ソフトウエアの技術やネットワーク関連技術等を活用し、それらの技術を応用することで高度情報化社会を支え発展させる人材を育成する。加速度的に進む高度情報化社会を支え発展させるため、学生はコンピュータサイエンスを深く学ぶ。その上で、コンピュータアーキテクチャや組込みシステムといったハードウエアの技術、ブロックチェーンを背景としたWeb3に関連する技術や情報セキュリティ技術、ネットワークの仮想化等のソフトウエア技術を幅広く修得する。加えて、複雑・高度化する社会課題を解決するため、修得した情報基盤技術を適切な形で社会実装できるイノベーション力を備えた人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目		▶情報工学入門とキャリアデザイン ② ▶プログラミング I ② ▶コンピュータシステム基礎 ②	▶離散数学 ② ▶論理回路 ② ▶情報ネットワーク ② ▶プログラミング II ① ▶プログラミング III ①	▶アルゴリズムとデータ構造 ② ▶オブジェクト指向プログラミング ② ▶データベース ② ▶情報工学基礎演習 ② ▶コンピュータアーキテクチャ基礎 ②	▶ソフトウェアデザイン ② ▶オペレーティングシステム ② ▶確率と統計 ② ▶組込みシステム ② ▶情報工学系代数学 ② □アルゴリズムデザイン ②	▶情報工学専門実験・演習 A ③ ▶コンピュータグラフィックス ② □符号理論とブロックチェーン ② □情報システムデザイン ② □分散システム ② □デジタル通信と信号処理 ② □コンピュータアーキテクチャ設計 ② □データサイエンス ② □形式言語とオートマトン ②	▶情報工学専門実験・演習 B ③ □ネットワークプログラミング ② □知識情報処理 ② □プログラミング言語とコンパイラ ② □情報セキュリティ ② □仮想化技術とクラウドシステム ② □映像メディア処理 ② □機械学習 ② □量子コンピューティング ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目							▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程	その他			□情報工学特別講義 II ②			□進路セミナー I ① □情報工学特別講義 VII ②	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-5 情報工学科［専門教育課程］

Department of Information and Computer Science

キーワード

プログラミング　コンピュータアーキテクチャ　ネットワーク　モバイルソフトウェア　クラウドサービス　情報セキュリティ　イノベーション

学ぶ領域

1 情報基盤技術

コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、情報ネットワークなどコンピュータシステムを構成するための基礎的な技術を学ぶ。さらに組込みシステムの構成についてハードウェアとソフトウェアの両面から深く学び、それらを連携動作させるためのIoTやモバイルソフトウェアの構築技術について学ぶ。

2 ソリューション＆サービス

社会のさまざまな課題に対するソリューションを提供するために、ブロックチェーンを背景としたWeb3に関連する技術や情報セキュリティ技術について学ぶ。またWebシステムやクラウドサービスを構成するための基礎的技術や仮想化技術などについて幅広く学び、それらを適切な情報システムとして実装する方法を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン（I）
情報系産業の現状、情報技術者に必要な能力について学び、関連する能力を向上させるとともに、自分の将来像を設定し、それに必要な能力の修得状況を自らチェックし補完することができる。

情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力（J）
情報工学全般を概観する導入教育に引き続き、情報の表現、加工、蓄積、伝達の基本原理、コンピュータおよびネットワークシステムの実際と設計法の基礎を学び、コンピュータおよびネットワークの基本構造を説明でき、種々の数表現、論理関数と回路、簡単な機械命令を自在に使うことができる。

プログラミングとソフトウェア開発能力（K）
Python、JAVA、C、SQL等構造が異なる複数のプログラミング言語を使い分けてソフトウェアを記述する基礎的能力を修得する。さらに要求分析/仕様記述/プロジェクト管理などソフトウェア開発のための技術を修得し、小規模なソフトウェアの設計・開発ができる。

情報処理環境の機能設定・運用能力（L）
オペレーティングシステムの機能、プログラミング環境、形式言語とコンパイラの仕組み、計算処理実行形式、通信処理の実際について学び、情報システム開発の基礎的能力を身につけ、Windows系・Unix系のOSの機能を説明でき、種々の機能設定を自在に行うことができる。

情報処理技法の設計と評価能力（M）
データ構造とアルゴリズム、グラフとアルゴリズム、確率・統計、知識情報処理、学習理論の基礎を学び、自然言語処理やAIシステムなどに適用可能な各種情報処理技法を設計して効率を評価することができる。

情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力（N）
情報工学の基礎となる情報と計算の基本原理を学び、論理的、形式的な思考能力を身につけ、集合、整数、代数系、情報量の基礎的事項を説明でき、符号化および暗号化の効率を評価することができる。また、情報セキュリティに関する技術、およびブロックチェーンを利用したアプリケーション作成法について学ぶ。

ハードウェア・ソフトウェア・IoTの設計・製作能力（O）
組込みシステム、ネットワーク、モバイルソフトウェアの構築を通して、ハードウェア・ソフトウェア設計の基礎的能力を身につけ、実験・演習の過程で生じる問題を多面的観点から解決し、自分のアイデアを適確にまとめることができる。

情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力（P）
情報工学関連の安全・危機管理、プロジェクトデザインⅢ活動領域プログラムの概要を学ぶ。次いで、プロジェクトデザイン教育の最終課題として、各自が既存技術の調査、課題の発見、問題解決の方法・手順の設定、プロトタイプの試作・評価を行い、自主的かつ継続的な情報システム開発能力を身につけ、具体的な研究開発の課題を自ら発見し、課題解決へのプロセスを完遂することができる。

分散システムの設計・開発能力（Q）
プロセス間通信などの基本的な通信方式、アーキテクチャ／ミドルウェアなどのプラットフォーム技術を学び、ネットワーク接続された分散システムおよびアプリケーションの設計・開発ができる。

メディア情報処理システムの設計・開発能力（R）
画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、データサイエンスなどを学び、画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理システムの設計・開発ができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶情報工学入門とキャリアデザイン ②				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶コンピュータシステム基礎 ②	▶論理回路 ②	▶コンピュータアーキテクチャ基礎 ②	▶組込みシステム ②	□コンピュータアーキテクチャ設計 ②			
▶プログラミングⅠ ②	▶プログラミングⅡ ①　▶プログラミングⅢ ①	▶オブジェクト指向プログラミング ② ▶データベース ②	▶ソフトウェアデザイン ②	□情報システムデザイン ②			
			▶オペレーティングシステム ②	□形式言語とオートマトン ②	□プログラミング言語とコンパイラ ②		
		▶アルゴリズムとデータ構造 ②	□アルゴリズムデザイン ② ▶確率と統計 ②	□データサイエンス ②	□知識情報処理 ② □機械学習 ② □量子コンピューティング ②	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
	▶離散数学 ②		▶情報工学系代数学 ②	□符号理論とブロックチェーン ② □デジタル通信と信号処理 ②	□情報セキュリティ ②		
		▶情報工学基礎演習 ②		▶情報工学専門実験・演習A ③	▶情報工学専門実験・演習B ③		
					▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①		
	▶情報ネットワーク ②			□分散システム ②	□ネットワークプログラミング ② □仮想化技術とクラウドシステム ②		
				▶コンピュータグラフィックス ②	□映像メディア処理 ②		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-5 知能情報システム学科

Department of Artificial Intelligence

情報理工学部 知能情報システム学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、知能情報システム学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ R

I キャリアデザイン能力　J 情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力　K 知能情報システムプログラミングとソフトウェア開発能力
L 情報処理環境の機能設定・運用能力　M 知能情報システムの処理技法の設計と評価能力　N 情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力
O 知能情報システム向けハードウェア・ソフトウェアの設計・製作能力　P 情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力　Q 分散システムの設計・開発能力
R メディア情報処理システムの設計・開発能力

教育目標

本学科では、AI（人工知能）やデータサイエンスに関する技術を活用し、高度情報化社会を創造するために、コンピュータサイエンスを深く学ぶ。その上で、数理工学に基づいた学習理論、生成AI、自然言語処理などAIやデータサイエンスに関する技術、XRや量子コンピューティングなどの先端情報技術を幅広く修得する。加えて、新たな価値の創出が求められる社会において、修得した先端情報技術を社会実装できるイノベーション力を備えた人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 Ⅰ ② ▶技術者のための数理 Ⅱ ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 Ⅰ ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 Ⅱ ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 Ⅲ ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン Ⅰ ②	▶プロジェクトデザイン Ⅱ ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目		▶知能情報入門とキャリアデザイン ② ▶知能情報プログラミング Ⅰ ② ▶コンピュータシステム基礎 ②	▶離散数学 ② ▶論理回路 ② ▶情報ネットワーク ② ▶知能情報プログラミング Ⅱ ① ▶知能情報プログラミング Ⅲ ①	▶アルゴリズムとデータ構造 ② ▶オブジェクト指向プログラミング ② ▶データベース ② ▶知能情報工学基礎演習 ② ▶コンピュータアーキテクチャ基礎 ②	▶ソフトウェアモデリング ② ▶オペレーティングシステム ② ▶確率と統計 ② ▶アルゴリズムデザイン ② □情報工学系代数学 ② □組込みシステム ②	▶知能情報システム専門実験・演習 A ③ ▶コンピュータグラフィックス ② ▶データサイエンス ② □オートマトンと言語理論 ② □ブロックチェーンとＷｅｂ３ ② □知能情報システムデザイン ② □分散コンピューティング ② □デジタル通信と信号処理 ② □コンピュータアーキテクチャ設計 ②	▶知能情報システム専門実験・演習 B ③ ▶人工知能 ② ▶学習理論 ② □視覚情報処理とＸＲ ② □情報セキュリティ ② □量子コンピューティング ② □プログラミング言語とコンパイラ ② □仮想化技術とクラウドシステム ② □ネットワークプログラミング ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目							▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン Ⅲ ⑧		10		—
専門教育課程	その他			□情報工学特別講義 Ⅱ ②			□進路セミナー Ⅰ ① □情報工学特別講義 Ⅶ ②	□進路セミナー Ⅱ ①	※1		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

卒業に必要な最低単位数

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-5 Department of Artificial Intelligence 知能情報システム学科［専門教育課程］

キーワード

AI ／ 学習理論 ／ データサイエンス ／ XR（クロスリアリティ） ／ 量子コンピューティング ／ イノベーション

学ぶ領域

1 AI、データサイエンス

確率と統計、アルゴリズム、データベースなどデータを扱うための基礎的な技術を学び、さらに大きなデータを扱うデータサイエンス、それらのデータを活用して様々な知的な振る舞いを実現するAIに関する技術を学ぶ。

2 XR、量子コンピューティング

コンピュータ上で3次元的な映像を扱うための基本的な技術を学び、それらを実空間上で重畳して表示するXRに関連する技術を学ぶ。また、量子力学の特徴を用いた量子コンピューティングの基礎について学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
情報系産業の現状、情報技術者に必要な能力について学び、関連する能力を向上させるとともに、自分の将来像を設定し、それに必要な能力の修得状況を自らチェックし補完することができる。

情報システムの基本構成説明能力および基本要素操作能力（J）
情報工学全般を概観する導入教育に引き続き、情報の表現、加工、蓄積、伝達の基本原理、コンピュータおよびネットワークシステムの実際と設計法の基礎を学び、コンピュータおよびネットワークの基本構造を説明でき、種々の数表現、論理関数と回路、簡単な機械命令を自在に使うことができる。

知能情報システムプログラミングとソフトウェア開発能力（K）
Python、JAVA、C、SQL等構造が異なる複数のプログラミング言語を使い分けてソフトウェアを記述する基礎的能力を修得する。さらに人工知能・データサイエンスに関するソフトウェア開発のための技術を修得し、小規模なソフトウェアの設計・開発ができる。

情報処理環境の機能設定・運用能力（L）
オペレーティングシステムの機能、プログラミング環境、形式言語とコンパイラの仕組み、計算処理実行形式、通信処理の実際について学び、情報システム開発の基礎的能力を身につけ、Windows系・Unix系のOSの機能を説明でき、種々の機能設定を自在に行うことができる。

知能情報システムの処理技法の設計と評価能力（M）
データ構造とアルゴリズム、グラフとアルゴリズム、確率・統計、知識情報処理、学習理論の基礎を学び、自然言語処理やAIシステムなどに適用可能な各種情報処理技法を設計して効率を評価することができる。また、量子コンピューティングの基礎とそこで動作するプログラミングについて学ぶ。

情報・計算に関する形式的記述と論理的思考能力（N）
情報工学の基礎となる情報と計算の基本原理を学び、論理的、形式的な思考能力を身につけ、集合、整数、代数系、情報量の基礎的事項を説明でき、符号化および暗号化の効率を評価することができる。また、情報セキュリティに関する技術、およびブロックチェーンを利用したアプリケーション作成法について学ぶ。

知能情報システム向けハードウェア・ソフトウェアの設計・製作能力（O）
組込みシステム、ネットワーク、モバイルソフトウェアの構築を通して、ハードウェア・ソフトウェア設計の基礎的能力を身につけ、実験・演習の過程で生じる問題を多面的観点から解決し、自分のアイデアを適確にまとめることができる。

情報システムの設計開発能力とプロジェクト遂行能力（P）
情報工学関連の安全・危機管理、プロジェクトデザインIII活動領域プログラムの概要を学ぶ。次いで、プロジェクトデザイン教育の最終課題として、各自が既存技術の調査、課題の発見、問題解決の方法・手順の設定、プロトタイプの試作・評価を行い、自主的かつ継続的な情報システム開発能力を身につけ、具体的な研究開発の課題を自ら発見し、課題解決へのプロセスを完遂することができる。

分散システムの設計・開発能力（Q）
プロセス間通信などの基本的な通信方式、アーキテクチャ／ミドルウェアなどのプラットフォーム技術を学び、ネットワーク接続された分散システムおよびアプリケーションの設計・開発ができる。

メディア情報処理システムの設計・開発能力（R）
画像情報処理、コンピュータグラフィックス、パターン認識、データサイエンスなどを学び、画像、映像、幾何データ、音声、文書などのメディア情報処理システムの設計・開発ができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶知能情報入門とキャリアデザイン ②				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶コンピュータシステム基礎 ②	▶論理回路 ②	▶コンピュータアーキテクチャ基礎 ②	□組込みシステム ②	□コンピュータアーキテクチャ設計 ②			
▶知能情報プログラミングⅠ ②	▶知能情報プログラミングⅡ ① ▶知能情報プログラミングⅢ ①	▶オブジェクト指向プログラミング ② ▶データベース ②	▶ソフトウェアモデリング ②	□知能情報システムデザイン ②			
			▶オペレーティングシステム ②	□オートマトンと言語理論 ②	□プログラミング言語とコンパイラ ②		
						▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶アルゴリズムとデータ構造 ②	▶アルゴリズムデザイン ② ▶確率と統計 ②	▶データサイエンス ②	▶人工知能 ② ▶学習理論 ② □量子コンピューティング ②		
	▶離散数学 ②		□情報工学系代数学 ②	□ブロックチェーンとWeb3 ② □デジタル通信と信号処理 ②	□情報セキュリティ ②		
		▶知能情報工学基礎演習 ②		▶知能情報システム専門実験・演習A ③	▶知能情報システム専門実験・演習B ③		
					▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①		
	▶情報ネットワーク ②			□分散コンピューティング ②	□ネットワークプログラミング ② □仮想化技術とクラウドシステム ②		
				▶コンピュータグラフィックス ②	□視覚情報処理とXR ②		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-5 Department of Robotics ロボティクス学科

情報理工学部 ロボティクス学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、ロボティクス学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ O

I 自ら学びキャリアデザインできる能力　J 情報技術および知能化技術の修得と応用能力　K 電気・電子工学の専門知識の修得と応用能力
L 計測・制御工学の専門知識の修得と応用能力　M 機械工学の専門知識の修得と応用能力
N ものづくり技術の修得と実践能力　O システム統合化能力およびプロジェクト遂行能力

教育目標

情報工学、電気電子工学、機械工学とその周辺分野を含む学際的領域であるロボット工学を学び、計測・自動制御技術、知能情報化技術、機械設計技術等、情報技術からものづくり技術まで総合的に修得することで、多様な社会における課題を解決できるイノベーション力を備え、分野横断的に活躍できるロボティクス技術者の育成を目的とする。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ②	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験）② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験）②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶ロボティクスキャリアデザイン ② ▶ロボティクス入門 ② ▶機械系製図 I ② ▶ロボット基礎力学 I ② ▶プログラミング基礎 I ②	▶機械系製図 II ② ▶ロボット基礎力学 II ② ▶電気回路 I ② ▶プログラミング基礎 II ②	▶ロボット材料力学 ② ▶ロボット設計演習 I ② ▶ロボット要素設計 ② □ロボティクス数理・演習 I ② □電気回路 II ② □コンピュータ概論 ②	▶ロボット応用力学 I ② ▶制御工学入門 ② ▶制御工学 I ② ▶電子回路 ② ▶マイコンプログラミング ② □ロボティクス数理・演習 II ② □ロボット設計演習 II ② □信号処理 ②	▶ロボティクス専門実験・演習 A ③ ▶ロボットプログラミング ② ▶ロボット応用力学 II ② □制御工学 II ② □シミュレーション工学 ② □メカトロニクス ② □ロボット制御 ② □熱流体工学 ②	▶ロボティクス専門実験・演習 B ③ □ロボットセンシング ② □アドバンストロボティクス ② □AIロボットプログラミング ② □機械学習 ② □機械加工学 ②	□ロボティクス統合演習 ②		60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目						▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程		その他				□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2
										合計	124		

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1：　ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

詳細は次ページへ

6-5 Department of Robotics ロボティクス学科 ［専門教育課程］

キーワード

- AIロボット
- ドローン・ビークル
- 機械学習
- AIプログラミング
- XR（クロスリアリティ）技術
- ヘルスケアシステム
- 生活支援
- 農業支援

学ぶ領域

1 計測・自動制御技術
ロボティクスシステムを実現するために必要となる、計測技術、自動制御技術を学ぶ。

2 知能情報化技術
ロボットの知能化を実現するために必要となる、プログラミング、AI技術、機械学習を学ぶ。

3 機械・回路設計技術
ロボットの機構設計や回路設計に必要となる、機械工学、電気電子工学、ロボット設計・製作に必要なものづくり技術を学ぶ。

4 システム統合化技術
修得した知識と技術を統合して新たなロボティクスシステムを実現するために必要となる、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力およびプロジェクト遂行能力を実践的に学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

自ら学びキャリアデザインできる能力（I）
情報工学、電気工学、機械工学とその周辺分野を横断的に活躍できるロボティクス技術者として、自らの修学計画を立案し実行することができ、デジタル・グリーン分野等、専門領域に留まらず、広く産業界の動向や課題、来るべき新たな社会において求められる技術者像や専門的能力に深く関心を持って自らのあるべき姿と進むべき方向性を見出すことができる能力を養う。

情報技術および知能化技術の修得と応用能力（J）
プログラミング言語の基本やアルゴリズム、データ構造を理解し、機械システムやロボットを制御するためのプログラミング技術を修得する。さらに、機械学習、AI技術を修得し、様々なセンサ情報に基づいたロボットの知能化を実現できる能力を養う。

電気・電子工学の専門知識の修得と応用能力（K）
電気・電子工学の専門知識を修得し、ロボットを制御するためのモータ駆動回路、フィルタ回路等を設計できる能力を養う。

計測・制御工学の専門知識の修得と応用能力（L）
計測・制御工学の専門知識を修得し、センサ、アクチュエータ、信号処理、フィードバックといった概念を理解し、システムの様々な特性を解析、評価する技術を修得し、制御系を設計できる能力を養う。

機械工学の専門知識の修得と応用能力（M）
機械力学、材料力学、熱・流体力学の専門知識を修得し、ロボットの機構設計や運動解析に応用できる能力を養う。

ものづくり技術の修得と実践能力（N）
システム設計・製作に必要な機械システムやロボットを構成する要素技術を理解し、設計・製図技術を修得する。さらに、ロボットの設計・製作を通して、機械設計や機械加工に係る知識や技術を実践的に学び、ものづくりの能力を養う。

システム統合化能力およびプロジェクト遂行能力（O）
多様な社会における問題を自ら発見し、修得した知識と技術を統合して解決する能力、およびイノベーションを実現できる能力を養う。また、実践的な課題にチームで取り組むことで、コミュニケーション能力を高め、課題解決を実現するためのプロジェクト遂行能力を養う。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶ロボティクスキャリアデザイン ②		□ロボティクス数理・演習Ⅰ ②	□ロボティクス数理・演習Ⅱ ②			□ロボティクス統合演習 ②	
			□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①			
▶プログラミング基礎Ⅰ ②	▶プログラミング基礎Ⅱ ②	□コンピュータ概論 ②	▶マイコンプログラミング ②	▶ロボットプログラミング ②	□AIロボットプログラミング ② □機械学習 ②		
	▶電気回路Ⅰ ②	□電気回路Ⅱ ②	▶電子回路 ②	□メカトロニクス ②			
			▶制御工学入門 ② ▶制御工学Ⅰ ② □信号処理 ②	□シミュレーション工学 ② □制御工学Ⅱ ② □ロボット制御 ②	□アドバンストロボティクス ② □ロボットセンシング ②	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
▶ロボット基礎力学Ⅰ ②	▶ロボット基礎力学Ⅱ ②	▶ロボット材料力学 ②	▶ロボット応用力学Ⅰ ②	▶ロボット応用力学Ⅱ ② □熱流体工学 ②			
▶機械系製図Ⅰ ②	▶機械系製図Ⅱ ②	▶ロボット設計演習Ⅰ ② ▶ロボット要素設計 ②	□ロボット設計演習Ⅱ ②		□機械加工学 ②		
▶ロボティクス入門 ②				▶ロボティクス専門実験・演習A ③	▶ロボティクス専門実験・演習B ③ ▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

College of Bioscience and Chemistry

バイオ・化学部

教育目標

グローバル化とともに、生命・資源・エネルギー・環境に関わる諸問題を解決するためには、地球規模での取り組みが必要になっている。本学部では、脳科学・遺伝子工学・微生物工学をはじめとする最先端のバイオ技術に加え、生命工学・新素材・環境・エネルギーなど広範囲にわたるバイオ・化学技術の基礎と応用を学ぶ。実験を重視した探究型の学習により科学的思考力、深い洞察力、柔軟な応用力を身につけ、バイオ・化学分野で活躍できる人材を育成する。

キーワード

- 化学生命工学
- バイオ技術
- 化学技術
- 地球環境

6-6 環境・応用化学科

Department of Chemistry and Environmental Science

バイオ・化学部 環境・応用化学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境・応用化学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ L

I 課題発見・解決能力、自己開発・キャリアデザイン能力　J 理工学リテラシー　K 化学に関する専門基礎能力　L 環境・応用化学における専門的課題解決能力

教育目標

「持続成長可能な社会」の実現のために、基礎化学の知識基盤の上に修得した有機・無機機能化学および環境化学の知恵を生かし、人類が直面しているエネルギーおよび環境にかかわる諸問題を解決していくことが求められている。本学科では、環境化学、エネルギー機能化学、バイオ・機能化学を基盤にして、人類の持続成長を可能とする産業分野においてグローバルに活躍することができる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英　語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1 一部科目の記載はp.090参照	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目		▶環境・応用化学とキャリアデザイン ② ▶物理化学 ② ▶有機化学 ② ▶化学と安全 ②	▶化学熱力学 ② ▶無機化学 ② ▶分析化学 ②	▶バイオ・化学基礎実験・演習A1（応用化学） ① ▶バイオ・化学基礎実験・演習A2（応用化学） ① ▶バイオ・化学基礎実験・演習A3（応用化学） ① ▶有機合成化学 ② ▶化学反応論 ② □環境化学 ② □基礎生化学 ②	▶バイオ・化学基礎実験・演習B1（応用化学） ① ▶バイオ・化学基礎実験・演習B2（応用化学） ① ▶バイオ・化学基礎実験・演習B3（応用化学） ① ▶化学工学 ② ▶高分子化学 ② □電気化学 ② □応用生化学 ②	▶応用化学専門実験・演習Ｂ１ ① ▶応用化学専門実験・演習Ｂ２ ① ▶応用化学専門実験・演習Ｂ３ ① ▶応用化学演習 ② □生命科学 ② □機器分析化学 ② □エネルギー固体化学 ② □水と環境の化学 ② □応用有機化学 ② □化学コンピュータ演習 I ②	▶応用化学専門実験・演習Ａ１ ① ▶応用化学専門実験・演習Ａ２ ① ▶応用化学専門実験・演習Ａ３ ① □無機・エネルギー機能化学 ② □科学技術英語 ① □化学コンピュータ演習 II ② □地球環境学 ② □環境計測学 ② □有機・バイオ機能化学 ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目							▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインIII ⑧		10		—
専門教育課程	その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-6 Department of Chemistry and Environmental Science 環境・応用化学科 ［専門教育課程］

キーワード

化学分析 ／ 化学合成 ／ プロセス開発 ／ 物質情報活用技術

学ぶ領域

1 環境化学
持続的な成長が可能な低炭素型社会の実現を目指し、水・大気・地球資源に関する化学を学ぶ。

2 エネルギー機能化学
地球規模での発展が可能な住みよい社会の実現を目指し、エネルギーおよび有機・無機の機能物質に関する化学を学ぶ。

3 バイオ・機能化学
人に優しい社会の実現を目指し、生命・生物機能と有機・無機機能物質との関連に関する化学を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

課題発見・解決能力、自己開発・キャリアデザイン能力（I）
現代社会に広く存在する課題を発見し、専門知識を活用して、課題解決策を提案することができる。自分に適した学習・進路の目標を設定することができ、これらの目標を達成するための準備・対策を自主的かつ意欲的に取り組むことで、主体的かつ自律的に目標を達成することができる。

理工学リテラシー（J）
環境・応用化学分野をはじめとする理工学全般の学習を必要に応じて自力で進めることができる。学習、実験、研究においてコンピュータを有効に活用することができ、報告書等を理工学分野の文書の基本様式に則り作成することができる。安全のための基本動作を習得し、十分に安全に配慮しながら実験等を進めることができる。

化学に関する専門基礎能力（K）
環境・応用化学に関する知識の修得を自ら行い、実験・実習・演習、プロジェクト活動等に活用することができる。定性・定量分析、構造解析等の化学分析において適切な分析方法を選択・設計できる。文献に基づいて物質を合成し、性質を評価することができる。化学プロセスの設計・管理を行うことができる。グローバルな視野と環境化学の知識に基づき、地球環境・生活環境を保全するための方策を考えることができる。

環境・応用化学における専門的課題解決能力（L）
環境・応用化学とその関連分野における課題に対して、調査、実験の計画、準備、実施、解析、考察、報告の一連の流れを経て、解決策を提案することができる。課題解決のために、主体的、自律的に学習を継続することができ、コミュニケーション、プレゼンテーションを的確に行うことができる。

専門教育課程

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶環境・応用化学とキャリアデザイン ②			□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①			
					□科学技術英語 ①		
				□化学コンピュータ演習Ⅰ ②	□化学コンピュータ演習Ⅱ ②		
▶化学と安全 ②							
	▶化学熱力学 ②	▶化学反応論 ②	▶化学工学 ②				
▶物理化学 ②	▶無機化学 ②		□電気化学 ②	□エネルギー固体化学 ②			
▶有機化学 ②		▶有機合成化学 ②	▶高分子化学 ②				
				□応用有機化学 ②			
	▶分析化学 ②			□機器分析化学 ②			
						▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		□環境化学 ②					
		□基礎生化学 ②	□応用生化学 ②	□生命科学 ②			
				統合学習科目群	□地球環境学 ②		
				□水と環境の化学 ②	□環境計測学 ②		
					□無機・エネルギー機能化学 ②		
					□有機・バイオ機能化学 ②		
				▶応用化学演習 ②			
		▶バイオ・化学基礎実験・演習A1（応用化学）① ▶バイオ・化学基礎実験・演習A2（応用化学）① ▶バイオ・化学基礎実験・演習A3（応用化学）①	▶バイオ・化学基礎実験・演習B1（応用化学）① ▶バイオ・化学基礎実験・演習B2（応用化学）① ▶バイオ・化学基礎実験・演習B3（応用化学）①	▶応用化学専門実験・演習B1 ① ▶応用化学専門実験・演習B2 ① ▶応用化学専門実験・演習B3 ①	▶応用化学専門実験・演習A1 ① ▶応用化学専門実験・演習A2 ① ▶応用化学専門実験・演習A3 ①		
					▶イノベーション基礎 ①		
					▶専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-6 生命・応用バイオ学科

Department of Life Science and Biotechnology

バイオ・化学部 生命・応用バイオ学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、生命・応用バイオ学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（理工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ P

I キャリアデザイン能力　J 生命科学基礎能力　K バイオ工学基礎能力　L バイオ工学技術応用能力　M 人間科学基礎能力　N 生命現象解析能力
O 生命科学解析能力　P 問題解決実践能力

教育目標

高品位な社会生活に必要な生命科学に基づいた技術開発のために、本学科では、生物に関連した新機能分子創出、ゲノム解析や遺伝子解析、人間の行動や感覚の仕組みについて主に学ぶ。生命現象の基礎となるＤＮＡやタンパク質の合成過程、生物の基本機能、感覚や行動を制御する脳の仕組みを理解し、広義のバイオ技術に基づいて新しい産業を担うことのできる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英　語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ②	□技術者のための統計 ② ※1 一部科目の記載はp.090参照					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶生命・応用バイオ学入門とキャリアデザイン ② ▶基礎生物学 I ② ▶人体の構造と機能 ② □基礎生物学 II ②	▶バイオ工学入門 ② ▶バイオ情報学入門 ② □有機化学 I ②	▶バイオ・化学基礎実験・演習 A（応用バイオ） ③ ▶アカデミックライティング（生命・応用バイオ） ① ▶細胞の構造と機能 ② □神経科学 ② □分子生物学 ② □有機化学 II ②	▶バイオ・化学基礎実験・演習 B（応用バイオ） ③ □データ解析 ② □微生物学 ② □感覚機能論 ② □バイオ情報基礎 ②	▶応用バイオ専門実験・演習 A ③ ▶生命と倫理 ② □生化学 ② □運動機能論 ② □生体計測 ② □食品栄養学 ② □遺伝子工学 ② □生命科学 ②	▶応用バイオ専門実験・演習 B ③ □脳科学 ② □医用工学 ② □細胞工学 ② □アドバンストバイオ工学 ② □アドバンストバイオ情報 ② □タンパク質工学 ②			60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインIII ⑧		10		—
専門教育課程		その他				□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-6 Department of Life Science and Biotechnology 生命・応用バイオ学科 ［専門教育課程］

キーワード

生命現象解析力 ／ 脳機能解析力 ／ 生命科学応用力 ／ バイオ工学技術応用力

学ぶ領域

1 バイオ工学
微生物や酵素の働き、医薬品微生物や食品加工、環境保全についてバイオ工学を中心に学ぶ。

2 脳科学
神経科学と脳科学、およびこれら研究領域を支える計測工学、情報処理工学、細胞生物学や生物物理学について学ぶ。

3 遺伝子工学
ゲノムや遺伝子の仕組みやその解析手法と、遺伝子組換え技術の有用性に関して、遺伝子工学やタンパク質工学について学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
自己の啓発を継続することにより、自己管理能力を高め、自己を実現することができるとともに、将来の進路を開拓していくための行動指針を設計することができる。

生命科学基礎能力（J）
生命現象を支える基本単位である細胞や生体分子の構造と機能に関する知識を理解し、それらを生み出す仕組みや情報の流れを理解することができる。また、基礎的な安全と倫理について理解し、事象に付随するリスクや倫理的問題を発見したり、問題解決策を立案したりすることができる。

バイオ工学基礎能力（K）
生物学、生理学、生化学、遺伝学などの生命科学に関する基礎知識を理解し、自然現象の摂理を科学的・論理的に思考できるとともに、応用バイオに関する専門知識の修得や実験・演習を行うことができる。

バイオ工学技術応用能力（L）
生物の持つ構造や機能を模倣することによって、新たな機能分子や機能の仕組みを生み出すことが可能なバイオ工学技術を理解し、その手法を活用することができる。

人間科学基礎能力（M）
人体の機能、感覚や認知、行動の仕組み、さらに動物の行動に関する基礎知識を修得し、それらを統合している脳の情報処理機構の基礎を理解することができる。

生命現象解析能力（N）
生命現象を対象とした各種の計測とそのデータ解析の基礎と応用を理解するとともに、医療や福祉を支える工学技術を活用することができる。

生命科学解析能力（O）
生生化学実験、微生物実験、生理学実験、分子生物学実験、遺伝子工学実験、有機化学実験などの実験技術を修得するとともに、実験方法の原理を理解し、実験結果に基づいた考察を行うことができる。

問題解決実践能力（P）
基礎科目および専門科目で学んだ科目と技術を実験や実習、プロジェクトデザインⅢを通してさらに深め、方法論の理解や問題解決を自主的に実践できる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶生命・応用バイオ学入門とキャリアデザイン ②		▶アカデミックライティング（生命・応用バイオ） ①	□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①			
▶基礎生物学Ⅰ ②		▶細胞の構造と機能 ②		▶生命と倫理 ②	□細胞工学 ②		
□基礎生物学Ⅱ ②				□生命科学 ②			
	□有機化学Ⅰ ②	□有機化学Ⅱ ②		□遺伝子工学 ②	□タンパク質工学 ②		
		□分子生物学 ②		□生化学 ②			
				※このゾーンの科目は、互いに関連の深い科目群			
	▶バイオ工学入門 ②		□微生物学 ②	□食品栄養学 ②	□アドバンストバイオ工学 ②		
▶人体の構造と機能 ②		□神経科学 ②	□感覚機能論 ②	□運動機能論 ②	□脳科学 ②		
				□生体計測 ②	□医用工学 ②		
		※このゾーンの科目は、互いに関連の深い科目群					
	▶バイオ情報学入門 ②		□バイオ情報基礎 ②		□アドバンストバイオ情報 ②		
			□データ解析 ②				
		▶バイオ・化学基礎実験・演習Ａ（応用バイオ） ③	▶バイオ・化学基礎実験・演習Ｂ（応用バイオ） ③	▶応用バイオ専門実験・演習 Ａ ③	▶応用バイオ専門実験・演習 Ｂ ③		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		
						▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

学部のカリキュラム

College of Engineering

工学部

教育目標

社会の成長と発展を支えてきた「ものづくり」において、社会環境の変化に伴い高付加価値・少量多品種生産方式への転換が進められている。持続可能な社会構築を目指し、限りある資源やエネルギーを有効に利用するとともに、確かな技術基盤に基づく地球環境と調和した高度な技術革新が重要である。本学部では、専門基礎力と応用技術に加え、情報技術(DX)を修得し、社会を支える機械・電気電子・土木の各分野における技術およびそれらを融合した技術を発展させ、脱炭素社会の実現(GX)を目指し、グローバルな視野で活躍できる創造性豊かな人材を育成する。

キーワード

- ものづくり
- 環境・エネルギー
- 新材料
- 社会基盤
- 情報・通信

6-7 Department of Mechanical Engineering 機械工学科

工学部 機械工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、機械工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ P

I キャリアデザイン能力　J 設計基礎能力　K 製造基礎能力　L コンピュータ援用能力　M 力学応用能力　N 専門統合化能力　O エンジニアリングデザイン能力
P 専門的な実験能力とデータ解析能力

教育目標

機械工学は産業基盤の中心をなす分野である。これまで自動車、家電製品、工作機械、エネルギー機械、福祉医療機器など多くの製品を産み出してきた。一方、省エネルギー、環境負荷低減、安全・信頼性向上への要求が高まってきている。本学科では、機械工学に関する基礎知識を身につけ、デジタルツールを活用したものづくりのための設計・応用技術、新材料とその加工方法、環境・エネルギーに関する技術を修得し、社会的要請に対応できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	卒業に必要な最低単位数 必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1						7	—	—
					▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1				
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ②	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	
				一部科目の記載はp.090参照									
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ①	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
			一部科目の記載はp.091参照										
専門教育課程	専門科目		▶機械工学キャリアデザイン ① ▶機械系製図 I ② ▶機械の原理・演習 ② ▶工業力学 I ② ▶電気基礎 ②	▶機械系製図 II ② ▶工業力学 II ②	▶材料力学 I ② ▶材料科学 I ② ▶流体力学 I ② ▶機械力学 I ② ▶機械工作法 ② □プログラミング基礎 ②	▶材料力学 II ② ▶熱力学 I ② ▶機械要素設計 ② ▶機械力学 II ② ▶材料科学 II ② □数値計算プログラミング ② □計測工学 ② □制御工学 ②	▶機械工学専門実験・演習 A ③ ▶流体力学 II ② ▶熱力学 II ② ▶３Ｄモデリング ② ▶３Ｄシミュレーション ② □材料力学 III ② □エコマテリアル ② □医用生体工学 ② □機械加工学 ②	▶機械工学専門実験・演習 B ③ ▶機械設計演習 ② □伝熱工学 ② □クリーンエネルギービークル ② □環境・エネルギー機械 ② □マイクロ・ナノ加工 ② □生産プロセス ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目						▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程	その他						□進路セミナー I ① □進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-7 Department of Mechanical Engineering 機械工学科［専門教育課程］

キーワード

材料・熱・流体 ／ 機械設計 ／ 環境・エネルギー ／ バイオメカニクス ／ 医工連携 ／ 複合材料

学ぶ領域

1 ものづくりデザイン
設計・加工技術、コンピュータ応用技術を総合的に活用し、新しい機能を有する製品を開発する工学領域を学ぶ。

2 材料創製・加工プロセス
機械部品を構成する材料の性質改良や新しい機能を有する材料を創出し、その材料を効率的に加工する工学領域を学ぶ。

3 環境・エネルギー
流体や熱エネルギーなどを環境に配慮しながら、機械要素を有効に活用するために必要な工学領域を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
機械工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを把握しながら将来の進路を展望した上で、機械や機械システム、機械工学に関する基本的な概念を修得できる。また、金沢工業大学および機械工学科それぞれのディプロマポリシーを把握し、機械工学科での学修方法や環境を理解することを通じて、自らの修学プランを立案できるとともに、自らの進むべき方向を決定できる。

設計基礎能力（J）
設計の基本原理や規則および各種機械要素の機構や機能などに関する基礎的な知識を修得し、これらを機械および機械システムの設計に適用できる。

製造基礎能力（K）
切削加工、特殊加工、機械材料、熱処理などに関する基礎的な知識を修得し、技術的要求仕様を満たしながら、効率的に製造できる加工法や材料およびその改質方法などを選択できる。

コンピュータ援用能力（L）
エンジニアリングシミュレーション・ソフトウェアの理論と使用法を理解し、設計から製造に至る様々な過程における工学的諸問題の解決にそれを適用できる。

力学応用能力（M）
四力学（機械力学、材料力学、熱力学、流体力学）および電気基礎学や制御工学などを修得し、これらを機械や機械システムの設計に応用できる。

専門統合化能力（N）
機械工学科における学修から得られるすべての専門知識や能力を統合・発展させ、それを工学的諸問題の解決に適用できる。

エンジニアリングデザイン能力（O）
様々な工学的諸問題に対し、それを解決に導くためのアイディアを創出し、そのアイディアをレポートなどで明確に表現できる。さらに、その有効性を実証するための設計・試作や実験、並びに理論検証を計画・実行し、その結果を分析することで、一連の成果を得ることができる。

専門的な実験能力とデータ解析能力（P）
実験や演習を通じて専門知識をより深く修得し、それらを検証できる。また、実験装置を適切に使用して必要なデータを計測・解析し、その結果や考察をレポートにまとめ、成果を発表することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶機械工学キャリアデザイン ①				□進路セミナーⅠ ① □進路セミナーⅡ ①			
▶機械系製図Ⅰ ② ▶機械の原理・演習 ②	▶機械系製図Ⅱ ②		▶機械要素設計 ②	▶3Dモデリング ②			
		▶機械工作法 ② ▶材料科学Ⅰ ②	□計測工学 ② ▶材料科学Ⅱ ②	□機械加工学 ② □エコマテリアル ②	□マイクロ・ナノ加工 ②		
		□プログラミング基礎 ②	□数値計算プログラミング ②	▶3Dシミュレーション ②		▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
▶電気基礎 ② ▶工業力学Ⅰ ②	▶工業力学Ⅱ ②	▶流体力学Ⅰ ② ▶機械力学Ⅰ ② ▶材料力学Ⅰ ②	▶熱力学Ⅰ ② ▶機械力学Ⅱ ② ▶材料力学Ⅱ ② □制御工学 ②	▶流体力学Ⅱ ② ▶熱力学Ⅱ ② □材料力学Ⅲ ②	□環境・エネルギー機械 ② □伝熱工学 ②		
					▶機械設計演習 ② □クリーンエネルギーピークル ② □生産プロセス ②		
				□医用生体工学 ②			
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		
				▶機械工学専門実験・演習Ａ ③	▶機械工学専門実験・演習Ｂ ③		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-7 先進機械システム工学科

Department of Advanced Mechanical Systems Engineering

工学部 先進機械システム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、先進機械システム工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ P

I キャリアデザイン能力　J 機械システム設計能力　K 生産基礎・応用能力　L コンピュータ援用能力　M 力学応用能力　N 専門統合化能力
O エンジニアリングデザイン能力　P 実験手法・データ解析に関する能力

教育目標

本学科では、機械工学の伝統的な学問体系を学び、最新のものづくりに必要となる設計・応用技術、新材料と加工技術、生産システム等に関する技術を修得し、デジタルテクノロジーを活用して超少子高齢化時代における持続可能な次世代スマートマニュファクチャリングシステムを構築できる機械技術者を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	卒業に必要な最低単位数 必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ②	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	
				一部科目の記載はp.090参照									
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ①	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
			一部科目の記載はp.091参照										
専門教育課程	専門科目	専門科目	▶先進機械システムキャリアデザイン ① ▶機械系製図 I ② ▶機械の原理・演習 ② ▶工業力学 I ② ▶電気基礎 ②	▶機械系製図 II ② ▶工業力学 II ②	▶材料力学 I ② ▶機械材料 I ② ▶基礎流体力学 ② ▶機械力学 ② ▶アドバンスドマニュファクチャリング I ② □プログラミング基礎 ②	▶基礎熱力学 ② ▶機械要素設計 ② ▶アドバンスドマニュファクチャリング II ② ▶制御工学 ② □振動工学 ② □機械材料 II ② □材料力学 II ② □制御系プログラミング ②	▶先進機械システム工学専門実験・演習 A ③ ▶センシングシステム ② ▶デジタルモデリング ② ▶３Ｄシミュレーション ② □応用流体力学 ② □応用熱力学 ② □材料力学 III ② □先端材料 ② □医用生体工学 ②	▶先進機械システム工学専門実験・演習 B ③ ▶機械設計演習 ② ▶スマートマニュファクチャリング ② □ナノプロセス ② □機械制御システム ② □熱移動工学 ② □環境・エネルギー機械 ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程	その他	その他					□進路セミナー I ① □進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目	リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-7 先進機械システム工学科［専門教育課程］

Department of Advanced Mechanical Systems Engineering

キーワード

設計・製造 / スマートマニファクチャリング / 省エネルギー / センシング / 新材料 / 工作機械 / バイオプリンティング

学ぶ領域

1 生産システム

デジタルツインやセンサーテクノロジーなどの最新技術を活用した効率的で柔軟な生産システムのデジタル化・自動化に必要な工学領域を学ぶ。

2 加工技術

アディティブマニュファクチャリングやナノテクノロジーを含む新しい製品や製造プロセスを構成する加工技術に関する工学領域を学ぶ。

3 グリーンマニファクチャリング

省エネルギーや環境に配慮した持続可能な製造プロセスを可能とするための工学領域を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
機械工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを把握しながら将来の進路を展望した上で、機械や機械システム、機械工学に関する基本的な概念を修得できる。また、金沢工業大学および機械工学科それぞれのディプロマポリシーを把握し、機械工学科での学修方法や環境を理解することを通じて、自らの修学プランを立案できるとともに、自らの進むべき方向を決定できる。

機械システム設計能力（J）
設計の基本原理や規則および各種機械要素の機構や機能などに関する基礎的な知識を修得し、これらを機械および機械システムの設計に適用できる。

生産基礎・応用能力（K）
切削加工、特殊加工、機械材料、熱処理などに関する基礎的な知識を修得し、技術的要求仕様を満たしながら、効率的に製造できる加工法や材料およびその改質方法などを選択できる。さらに、製造技術の効率化を図るためのデジタルテクノロジーを活用することができる。

コンピュータ援用能力（L）
エンジニアリングシミュレーション・ソフトウェアの理論と使用法を理解し、設計から製造に至る様々な過程における工学的諸問題の解決にそれを適用できる。

力学応用能力（M）
四力学（機械力学、材料力学、熱力学、流体力学）および電気基礎学や制御工学などを修得し、これらを機械や機械システムの設計に応用できる。

専門統合化能力（N）
機械工学科における学修から得られるすべての専門知識や能力を統合・発展させ、それを工学的諸問題の解決に適用できる。

エンジニアリングデザイン能力（O）
様々な工学的諸問題に対し、それを解決に導くためのアイディアを創出し、そのアイディアをレポートなどで明確に表現できる。さらに、その有効性を実証するための設計・試作や実験、並びに理論検証を計画・実行し、その結果を分析することで、一連の成果を得ることができる。

実験手法・データ解析に関する能力（P）
実験や演習を通じて専門知識をより深く修得し、それらを検証できる。また、実験装置を適切に使用して必要なデータを計測・解析し、その結果や考察をレポートにまとめ、成果を発表することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶先進機械システム キャリアデザインⅠ ①				□進路セミナーⅠ ① □進路セミナーⅡ ①			
▶機械系製図Ⅰ ② ▶機械の原理・演習 ②	▶機械系製図Ⅱ ②		▶機械要素設計 ②	▶デジタルモデリング ②	□機械制御システム ②		
			▶制御工学 ②				
		▶アドバンスドマニュファクチャリングⅠ ②	▶アドバンスドマニュファクチャリングⅡ ②	▶センシングシステム ②	▶スマートマニュファクチャリング ② □ナノプロセス ②		
		▶機械材料Ⅰ ②	□機械材料Ⅱ ②	□先端材料 ②			
		□プログラミング基礎 ②	□制御系プログラミング ②	▶3Dシミュレーション ②		▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶基礎流体力学 ②		□応用流体力学 ②	□環境・エネルギー機械 ②		
▶電気基礎 ② ▶工業力学Ⅰ ②	▶工業力学Ⅱ ②		▶基礎熱力学 ②	□応用熱力学 ②	□熱移動工学 ②		
		▶機械力学 ②	□振動工学 ②				
		▶材料力学Ⅰ ②	□材料力学Ⅱ ②	□材料力学Ⅲ ②			
				□医用生体工学 ②			
					▶機械設計演習 ②		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		
				▶先進機械システム工学専門実験・演習Ａ ③	▶先進機械システム工学専門実験・演習Ｂ ③		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-7 Department of Aeronautics and Astronautics 航空宇宙工学科

工学部 航空宇宙工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、航空宇宙工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ O

I キャリアデザイン能力　J 設計・製造基礎能力　K 力学の基礎知識の修得と専門分野への応用能力　L 技術者としての自主学習能力　M 数値シミュレーション能力
N 専門知識の実践能力　O 工学設計能力

教育目標

航空宇宙産業においては、安全性の確保はもちろん、エネルギーの効率的な活用や地球環境との調和を図る先端的な技術革新がこれまで以上に求められる。本学科では、航空宇宙工学という総合工学の学問体系を学び、航空機や宇宙機に関する要素技術から統合技術までを修得する。これにより、航空宇宙産業をはじめとする輸送機械産業で活躍できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶航空宇宙工学入門とキャリアデザイン ② ▶機械系製図 I ② ▶航空機の原理 ② ▶工業力学 I ③	▶機械系製図 II ② ▶工業力学 II ② ▶航空宇宙基礎数学 ① ▶数理モデルプログラミング ②	▶機械力学 ② ▶材料力学 ④ ▶航空宇宙工学概論 ② ▶熱力学 I ② ▶流れ学 I ②	▶航空宇宙文献調査入門 ① ▶航空材料力学 I ② ▶飛行力学 I ② ▶熱力学 II ② ▶流れ学 II ② □振動工学 ②	▶航空宇宙工学専門実験・演習 A ③ □デジタルファブリケーション ② □航空制御工学 ② □航空宇宙流体力学 I ② □航空材料 ② □熱流体工学 ② □宇宙推進工学 ② □飛行力学 II ② □航空材料力学 II ②	▶航空宇宙工学専門実験・演習 B ③ □航空宇宙構造力学 ② □宇宙機設計概論 ② □航空工学演習 ④ □航空原動機 ② □航空宇宙流体力学 II ② □航空宇宙材料 ② □航空宇宙構造解析演習 ① □航空宇宙流体解析演習 ①	□航空宇宙グローバル演習 ②		60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目						▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程		その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

卒業に必要な最低単位数

合計 124

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

詳細は次ページへ

6-7 Department of Aeronautics and Astronautics 航空宇宙工学科 ［専門教育課程］

学ぶ領域

1 航空宇宙要素技術

航空機や宇宙機における揚力や推力を効率的に発生させるメカニズムを理解し、それらを制御するために必要な工学領域を学ぶ。

2 航空宇宙統合技術

航空機や宇宙機の構造や機能を理解し、安定した運用を実現するために必要なシステム統合技術に関する工学領域を学ぶ。

キーワード

飛行制御 ／ 自律ドローン ／ 惑星探査航空機 ／ 環境適応型ジェットエンジン ／ 宇宙推進エンジン ／ 軽量複合材構造

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
航空宇宙工学に関する産業界の動向、求められる技術者像、職場環境などを把握して、技術者としての将来像を創造することができる。

設計・製造基礎能力（J）
実際の機械や機構に触れて機械というものを理解した上で、設計製図の基礎とCADを用いた現代設計技術を学習し、機械要素の設計を行い、デジタルデータを活用したモノ作りを実践することができる。

力学の基礎知識の修得と専門分野への応用能力（K）
材料力学、機械力学、熱力学、流体力学の四力学とその関連分野について学習して機械工学の基礎的知識を修得し、これらの知識を航空宇宙工学の専門分野に対して具体的に応用することができる。

技術者としての自主学習能力（L）
航空宇宙工学の主要分野（空力、構造、装備、制御、エンジン）の概要を知り、それら工学分野の調和の上で成立する航空機および宇宙機の設計・製造プロセスを理解した上で、必要な知識・技能を自主的かつ継続的に修得することができる。

数値シミュレーション能力（M）
コンピュータによるシミュレーション技術を修得し、航空宇宙工学の諸問題を解決する手段として活用することができる。

専門知識の実践能力（N）
航空宇宙工学全般にわたる専門知識や解析手法を実験・演習を通して身につけることができる。

工学設計能力（O）
身近な問題についての設計過程を経験することによって、具体的な航空機および宇宙機の設計や航空宇宙工学理論の応用、航空機および宇宙機に関連する実現象の評価等を含め、実現可能なものを設計・製作・提案することのできる能力を身につけ、それを応用することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶航空宇宙工学入門とキャリアデザイン ②				□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶機械系製図Ⅰ ②	▶機械系製図Ⅱ ②			□デジタルファブリケーション ②	□宇宙機設計概論 ②		
▶航空機の原理 ②							
▶工業力学Ⅰ ③	▶工業力学Ⅱ ②	▶材料力学 ④	▶航空材料力学Ⅰ ②	□航空材料力学Ⅱ ②	□航空宇宙構造力学 ②		
	▶航空宇宙基礎数学 ①		□振動工学 ②	□航空材料 ②	□航空宇宙材料 ②		
		▶機械力学 ②	▶飛行力学Ⅰ ②	□飛行力学Ⅱ ②	□航空工学演習 ④		
				□航空制御工学 ②			
		▶熱力学Ⅰ ②	▶熱力学Ⅱ ②	□熱流体工学 ②	□航空原動機 ②		
				□宇宙推進工学 ②			
		▶流れ学Ⅰ ②	▶流れ学Ⅱ ②	□航空宇宙流体力学Ⅰ ②	□航空宇宙流体力学Ⅱ ②	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶航空宇宙工学概論 ②	▶航空宇宙文献調査入門 ①				
	▶数理モデルプログラミング ②				□航空宇宙構造解析演習 ①	□航空宇宙グローバル演習 ②	
					□航空宇宙流体解析演習 ①		
				▶航空宇宙工学専門実験・演習A ③	▶航空宇宙工学専門実験・演習B ③		
					▶イノベーション基礎 ①		
					▶専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-7 Department of Electrical Energy Systems Engineering 電気エネルギーシステム工学科

工学部 電気エネルギーシステム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、電気エネルギーシステム工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ N

I キャリアデザイン能力　J 電気電子工学基礎能力　K プログラミング・制御工学基礎能力　L 電気エネルギーシステム工学実践能力
M 電気エネルギーシステム工学応用能力　N 工学統合能力

教育目標

カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギーによる発電、モビリティーの電動化、パワーエレクトロニクス、蓄電システムならびにそれらを支える電気材料が求められる。本学科では、電気エネルギー工学の基礎を体系的に学び、ディジタル技術を活用して電気エネルギーシステムを構成する要素技術とそれをシステムとして統合・制御できる技術を修得し、電気エネルギーシステム分野で活躍できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶電気数学 I ② ▶電気数学 II ② ▶電気回路基礎 ② ▶電気回路 I ②	▶電気回路 II ② ▶電気磁気学 I ④ ▶電子工学 ②	▶電気電子キャリアデザイン ① ▶電気回路 III ② ▶電気磁気学 II ② ▶電子回路 I ④ ▶電気電子プログラミング ②	▶過渡現象論 ② ▶電気計測 ② ▶電気エネルギー発生工学 ② ▶電気材料 ② □電気磁気学 III ② □電子回路 II ② □電気電子コンピュータ工学 ② □多相交流回路 ② □半導体工学基礎 ②	▶電気エネルギーシステム工学専門実験A ② ▶電気機器 I ② □自動制御 ② □高電圧パルスパワー工学 ② □パワー半導体工学 ① □電気法規と電気施設管理 ① □電気製図 ①	▶電気エネルギーシステム工学専門実験B ② □電気エネルギー伝送工学 ② □電気機器 II ② □パワーエレクトロニクス ② □エネルギーデバイス工学 ② □電気応用 ② □電気設計 ③			60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程		その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-7 Department of Electrical Energy Systems Engineering 電気エネルギーシステム工学科 [専門教育課程]

学ぶ領域

1 電力・エネルギー

電気エネルギーの発生と輸送に不可欠な発変電、送配電、高電圧、蓄電システムおよび電気材料について、専門的に学ぶ。

2 パワーエレクトロニクス

電気エネルギーの変換と制御に不可欠な電気機器、パワー半導体デバイス、パワーエレクトロニクス、蓄電システムおよび電気材料について、専門的に学ぶ。

キーワード

電力・エネルギー / 電気機器 / パワーエレクトロニクス / 蓄電システム / 電気材料

ディプロマ・ポリシー(DP)

キャリアデザイン能力(I)
電気エネルギーシステム工学分野に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを正確に把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

電気電子工学基礎能力(J)
電気電子工学分野に関連する基礎的な数学を学び、電気回路・電気磁気学・電子回路などの電気の基礎知識を修得し、物理的・数学的考察により、具体的な問題に適用できる。

プログラミング・制御工学基礎能力(K)
電気電子工学に関わるプログラミング・制御についての基礎知識を修得し、実際にプログラミング・制御を行うことができる。

電気エネルギーシステム工学実践能力(L)
電気エネルギーシステム工学に関わる計測・実験についての基礎知識を修得し、実際に測定・解析を行うことができる。

電気エネルギーシステム工学応用能力(M)
電気エネルギーシステム及びそれを構成する機器並びにそれらを支える材料に関する基礎知識を修得し、それらを具体的に活用できる。

工学統合能力(N)
電気エネルギーシステム工学分野における新しい課題を自らが提案し、自らの知識・技術を用いてその課題を解決できる能力、および、電気エネルギーシステム工学以外の分野にも目を向け、創造的な発想に向けて挑戦できる。

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
		▶ 電気電子キャリアデザイン ①		□ 進路セミナーⅠ ①	□ 進路セミナーⅡ ①		
▶ 電気回路基礎 ② ▶ 電気回路Ⅰ ② ▶ 電気数学Ⅰ ② ▶ 電気数学Ⅱ ②	▶ 電気回路Ⅱ ② ▶ 電気磁気学Ⅰ ④ ▶ 電子工学 ②	▶ 電気回路Ⅲ ② ▶ 電気磁気学Ⅱ ② ▶ 電子回路Ⅰ ④	□ 電気磁気学Ⅲ ② □ 電子回路Ⅱ ②				
		▶ 電気電子プログラミング ②	□ 電気電子コンピュータ工学 ② ▶ 過渡現象論 ②	□ 自動制御 ②			
			▶ 電気計測 ②	▶ 電気エネルギーシステム工学専門実験A ②	▶ 電気エネルギーシステム工学専門実験B ②		
			▶ 電気エネルギー発生工学 ② □ 多相交流回路 ② □ 半導体工学基礎 ② ▶ 電気材料 ②	□ 高電圧パルスパワー工学 ② ▶ 電気機器Ⅰ ② □ パワー半導体工学 ① □ 電気法規と電気施設管理 ① □ 電気製図 ①	□ 電気エネルギー伝送工学 ② □ 電気機器Ⅱ ② □ パワーエレクトロニクス ② □ エネルギーデバイス工学 ② □ 電気応用 ② □ 電気設計 ③		
				▶ イノベーション基礎 ①	▶ 専門ゼミ ①	▶ プロジェクトデザインⅢ ⑧	

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-7 Department of Electronics and Information Systems Engineering 電子情報システム工学科

工学部 電子情報システム工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、電子情報システム工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ N

I キャリアデザイン能力　J 電気電子工学基礎能力　K プログラミング・制御工学基礎能力　L 電子情報システム工学実践能力　M 電子情報システム工学応用能力
N 工学統合能力

教育目標

Society 5.0実現に向けた「仮想空間と現実空間の融合」のための基盤技術である半導体エレクトロニクス、通信・電波および音響・映像の技術を基礎から応用まで体系的に学び、今後の電子工学分野で活躍できる人材を育成する。具体的には、半導体デバイスの動作原理に基づく素子設計技術、ネットワーク制御や無線通信・電波の技術、音声信号処理や映像技術を修得し、エレクトロニクス分野のものづくりに貢献できるエンジニアを育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶電気数学 I ② ▶電気数学 II ② ▶電気回路基礎 ② ▶電気回路 I ②	▶電気回路 II ② ▶電気磁気学 I ④ ▶電子工学 ②	▶電気電子キャリアデザイン ① ▶電気回路 III ② ▶電気磁気学 II ② ▶電子回路 I ④ ▶電気電子プログラミング ②	▶過渡現象論 ② ▶電子計測 ② ■半導体工学基礎 ② ■情報通信システム ② ■音響・映像概論 ② □電気磁気学 III ② □電子回路 II ② □電気電子コンピュータ工学 ② □分布定数回路 ②	▶電子情報システム工学専門実験 A ② □自動制御 ② □半導体工学 ② □電子材料 ② □情報通信ネットワーク ② □情報伝送工学 ② □音響工学 ② □光情報工学 ② □電気製図 ①	▶電子情報システム工学専門実験 B ② □電子デバイス工学 ② □光・量子エレクトロニクス ② □電波工学 ② □通信工学 ② □音響・映像システム ② □電気通信法令 ②			60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目					▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程		その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1		—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2
										合計	124		

▶ 必修科目　■ 選択必修（2科目を選択して必修とする）　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

詳細は次ページへ

6-7 Department of Electronics and Information Systems Engineering 電子情報システム工学科［専門教育課程］

キーワード

半導体エレクトロニクス　通信ネットワーク・電波　音響・映像

学ぶ領域

情報を伝えたり、電気を制御したりするための「エレクトロニクス（電子工学）」について学習する。身近にあるスマートフォン、ディスプレイ、スピーカは、すべて電子回路を用いて信号を処理し情報を伝達している。回路をつくる技術や電気の取扱いなどを身につけ、製品に応用するための発展的な内容を学ぶことによって、家電など身近なテクノロジーから幅広い分野に応用される半導体デバイス、通信ネットワーク、映像・音響機器まで、広範なエレクトロニクス技術について学ぶ。

1 半導体エレクトロニクス

半導体工学基礎、電子材料、光・量子エレクトロニクスなどを学習する。

2 通信・電波

情報通信システム、情報通信ネットワーク、通信工学などを学習する。

3 音響・映像

音響・映像概論、音響工学、光情報工学などを学習する。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
電子情報システム工学分野に関する産業界の動向、求められる技術者像、就職環境などを正確に把握して、将来の進路を展望し、自らの進むべき方向を決定できる。

電気電子工学基礎能力（J）
電気電子工学分野に関連する基礎的な数学を学び、電気回路・電気磁気学・電子回路などの電気の基礎知識を修得し、物理的・数学的考察により、具体的な問題に適用できる。

プログラミング・制御工学基礎能力（K）
電気電子工学に関わるプログラミング・制御についての基礎知識を修得し、実際にプログラミング・制御を行うことができる。

電子情報システム工学実践能力（L）
電子情報システム工学に関わる計測・実験についての基礎知識を修得し、実際に測定・解析を行うことができる。

電子情報システム工学応用能力（M）
半導体エレクトロニクス技術とそれを用いた情報通信システムや音響・映像に関する基礎知識を修得し、それらを具体的に活用できる。

工学統合能力（N）
電子情報システム工学分野における新しい課題を自らが提案し、自らの知識・技術を用いてその課題を解決できる能力、および、電子情報システム工学以外の分野にも目を向け、創造的な発想に向けて挑戦できる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
		▶電気電子キャリアデザイン①		□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①		
▶電気回路基礎 ② ▶電気回路Ⅰ ② ▶電気数学Ⅰ ② ▶電気数学Ⅱ ②	▶電気回路Ⅱ ② ▶電気磁気学Ⅰ ④ ▶電子工学 ②	▶電気回路Ⅲ ② ▶電気磁気学Ⅱ ② ▶電子回路Ⅰ ④	□電気磁気学Ⅲ ② □電子回路Ⅱ ②				
		▶電気電子プログラミング ②	□電気電子コンピュータ工学 ② ▶過渡現象論 ②	□自動制御 ②			
			▶電子計測 ②	▶電子情報システム工学専門実験A ②	▶電子情報システム工学専門実験B ②		
			■半導体工学基礎 ② ■情報通信システム ② □分布定数回路 ② ■音響・映像概論 ②	□半導体工学 ② □電子材料 ② □情報通信ネットワーク ② □情報伝送工学 ② □音響工学 ② □光情報工学 ② □電気製図 ①	□電子デバイス工学 ② □光・量子エレクトロニクス ② □電波工学 ② □通信工学 ② □音響・映像システム ② □電気通信法令 ②		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	

▶ 必修科目　■ 選択必修（2科目を選択して必修とする）　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-7 Department of Civil and Environmental Engineering 環境土木工学科

工学部 環境土木工学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、環境土木工学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～M

I 環境土木工学技術者に向けての自己形成能力　J 構造物の設計・施工・維持管理に関する基礎的能力　K 自然環境の活用に関する基礎的能力
L 空間情報を計測・分析・評価する基礎的能力　M 環境土木工学の統合化能力

教育目標

激甚化する災害を防ぎながら、地域の自然・文化と調和する、安全で安心、健康で持続性のある環境づくりが求められている。本学科では、山・平野・海に恵まれた北陸を主な調査・実践のフィールドとし、ICTを取り入れた次世代型の土木技術を活用しながら、道路・鉄道・港などのインフラの整備とともに、地域の自然や文化と共生する環境の構築について学習し、グローバル時代の国際開発も意識した、幅広い計画・設計・施工・メンテナンス・運営できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照 □環境系数理 ②	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ②	□技術者のための統計 ② ※1					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目		▶環境土木工学入門とキャリアデザイン ② ▶測量学 I ② ▶構造力学 I ② □土木数理 ②	▶環境土木工学設計 I ② ▶測量学 II ② ▶アカデミックライティング ① ▶構造力学 II ② ▶アカデミックドローイング ①	▶環境材料学 ② ▶土質力学 I ② ▶水理学 I ② ▶測量実習・演習 I ②	▶環境土木工学設計 II ② ▶鉄筋コンクリート工学 ② ▶土質力学 II ② ▶水理学 II ②	▶環境土木専門実験・演習 A ③ ▶土木施工学 ② ▶測量実習・演習 II ② □交通工学 ② □構造設計学 ② □地盤工学 ② □空間情報工学 ② □環境工学 I ② □防災工学 I ② □建設マネジメント I ②	▶環境土木専門実験・演習 B ③ □地域環境デザイン ② □地盤工学演習 ② □空間情報工学演習 ② □構造設計演習 ② □環境工学 II ② □防災工学 II ② □建設マネジメント II ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目						▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程	その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①	※1			—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-7 Department of Civil and Environmental Engineering 環境土木工学科 ［専門教育課程］

キーワード

- 市民生活の安全・安心や「暮らしやすさ」を支えるインフラ
- 国土・地域と都市の計画・デザイン
- 地域の文化・環境の継承と構築

学ぶ領域

1 土木設計・施工・メンテナンス

生活に必要なインフラ（道路、鉄道、港湾、橋、地下空間など）の計画・設計・施工と、メンテナンス・運営のための技術と仕組みを学ぶ。

2 防災と自然環境の活用

土（山地・地盤）と水（海・川）に関わる災害を防ぎ、豊かな自然を活用する技術を学ぶ。

3 地理空間情報

高度情報化社会における環境の構築と運営を支えるための情報システムとして、GNSS・地理情報システム・電子地図の利活用などに必要な技術を学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

環境土木工学技術者に向けてのキャリアデザイン・自己形成能力（I）
講義、フィールド見学、社会人による講演などさまざまなアプローチにより、業種および職種が多岐にわたる建設業界を学び理解することができる。さらに環境土木工学の技術者になるための自己のキャリアパスを描くことで自己形成能力を身につけることができる。

構造物の設計・施工・維持管理に関する基礎的能力（J）
構造力学、コンクリート工学など構造物の基礎を学び、構造物の設計・施工・維持管理に関する基礎的能力を身につけることができる。

自然環境の活用に関する基礎的能力（K）
土質力学、水理学の基礎を学び、自然環境の活用に関する基礎的能力を身につけることができる。

空間情報を計測・分析・評価する基礎的能力（L）
情報通信工学を活用した空間情報工学・衛星測位など最新の計測手法を学び、環境情報を処理・解析および評価することができる。

環境土木工学の統合化能力（M）
環境土木工学の基礎知識を統合化した環境技術・防災技術・地域計画を学び、安全・安心で持続性のある地域環境を構築し運営できる能力を身につけることができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
▶環境土木工学入門とキャリアデザイン ②			□進路セミナーⅠ ①	□進路セミナーⅡ ①			
				□建設マネジメントⅠ ②	□建設マネジメントⅡ ②		
□土木数理 ②				□構造設計学 ②	□構造設計演習 ②		
	▶アカデミックライティング ①			▶環境土木専門実験・演習A ③	▶環境土木専門実験・演習B ③		
	▶アカデミックドローイング ①			▶土木施工学 ②			
▶構造力学Ⅰ ②	▶構造力学Ⅱ ②	▶環境材料学 ②	▶鉄筋コンクリート工学 ②				
		▶土質力学Ⅰ ②	▶土質力学Ⅱ ②	□地盤工学 ②	□地盤工学演習 ②	▶プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶水理学Ⅰ ②	▶水理学Ⅱ ②				
▶測量学Ⅰ ②	▶測量学Ⅱ ②	▶測量実習・演習Ⅰ ②		▶測量実習・演習Ⅱ ②			
				□空間情報工学 ②	□空間情報工学演習 ②		
				□環境工学Ⅰ ②	□環境工学Ⅱ ②		
				□防災工学Ⅰ ②	□防災工学Ⅱ ②		
	▶環境土木工学設計Ⅰ ②		▶環境土木工学設計Ⅱ ②	□交通工学 ②	□地域環境デザイン ②		
				▶イノベーション基礎 ①	▶専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

College of Architecture

建築学部

教育目標

豊かな生活や活動が営める持続可能な環境づくりを求められている。本学部の環境づくりでは、住宅やインテリアを含む建築環境、まちづくりや都市計画の地域環境など、ヒューマンスケールの空間から都市的スケールの環境に至る広い分野を対象とする。各分野はそれぞれ快適・便利・安全・美しさ・省エネルギー等について計画するだけでなく、金沢・北陸を学びのフィールドにしながら建築から都市までの連続的な環境構築が実践できる人材を育成する。

キーワード

- 環境づくり
- 持続可能性
- 環境形成の計画力
- 空間構築の実践力

6-8 Department of Architecture 建築学科

建築学部 建築学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、建築学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ R

I キャリアデザイン能力　J 建築エンジニアリングの基礎となる建築学全般の基礎的能力　K 建築図面・文章等の基礎的表現能力　L 建築設計・計画に関わる基礎的能力
M 都市デザイン・まちづくりに関わる基礎的能力　N 建築生産に関わる能力　O 建築・都市の環境・設備・GX に関わる能力　P 建築構造に関わる能力
Q 建築エンジニアリングの DX に関わる能力　R 分析・考察・提案能力

教育目標

建築のエンジニアリング分野において、建築や都市の安全性や快適性の観点から、建築・都市の計画・実現能力を習得させることを目的とする。具体的には、建築・都市の環境設備計画、構造計画及びその生産・維持管理ができる専門知識・技術を身につけた人材を主として養成する。さらには、急激な気候変動や多発する自然災害、ウェルビーイングなどに対応した次世代の建築エンジニアリングに関する知識・技術を修得し、持続可能な社会と環境を構築し運営できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	※3
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程	専門科目		▶建築基礎製図 ② ▶建築環境学 I ② ▶建築構造のしくみ ② ▶建築の計画とデザイン ②	▶建築構造力学 I ② ▶日本建築史 ② ■建築設備総論 ② □建築設計基礎 ②	▶建築設計演習 I ④ ▶建築構造力学 II ② ▶建築環境学 II ② ▶建築構法計画 ② ▶西洋建築史 ② ▶建築キャリアデザイン ①	▶建築設計演習 II ④ ▶建築構造計画 ② ▶建築設備学 ② ▶建築材料 ② ▶建築エンジニアリング情報演習 I ② ▶建築計画 ②	▶建築総合演習 A ③ ▶建築施工 ② ■鉄筋コンクリート構造 ② ■鉄骨構造 ② ■建築環境学 III ② ■建築環境設計 I ② ■建築エンジニアリング情報演習 II ② □建築デザイン論 ② □都市デザイン ②	▶建築総合演習 B ③ ▶建築法規 ② ■建築構造設計 ② ■建築安全工学 ② ■建築環境設計 II ② ■サステナブル都市・建築 ② □建築再生論 ② □都市・まちづくり ②			60		※3
専門教育課程	専門プロジェクト科目							▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程	その他					□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①		※1		—		—
全課程から提供	リベラルアーツ系科目		科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

▶ 必修科目　■ 選択必修（5科目を選択して必修とする）　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

卒業に必要な最低単位数 合計 124

詳細は次ページへ

6-8 Department of Architecture 建築学科 ［専門教育課程］

キーワード

建築構造 ／ 伝統木造 ／ 建築構法・材料 ／ 建築環境・設備 ／ 建築・都市環境デザイン ／ 建築環境心理

学ぶ領域

1 建築構造
安全で安心な建築を実現するために、建築に作用する力と建築構造に生じる力を理解し、設計実務に応用できる能力を涵養する。

2 伝統木造
伝統木造建築の構法や構造特性を理解し、長期保全に向けて文化的価値と耐震性能を両立するための技術と手法を学ぶ。

3 建築構法・材料
建築構法や建築材料の特性と応用技術を系統的に理解し、安全性、機能性を備えた持続可能な建築物を実現する手法を学ぶ。

4 建築環境・設備
建築環境や設備に関する知識と技術を学び、省エネルギーや快適性、環境負荷低減を重視した持続可能な建築づくりを追求する。

5 建築・都市環境デザイン
建築や都市の環境面からの設計・評価手法を理解し、自然環境や景観、持続可能性、GXを考慮した都市空間づくりを探求する。

6 建築環境心理
建築の音・光・熱・空気等の環境と人間との関連性を理解し、人間の生理・心理を考慮した快適な環境・空間を計画する。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
建築関連分野における実社会の動向を理解し、大学院進学も含めて将来の進路を幅広く展望した上で、自らの進むべき方向を決定することができる。

建築エンジニアリングの基礎となる建築学全般の基礎的能力（J）
建築エンジニアリングの基礎として求められる、安全性にかかわる建築構造、快適さや健康にかかわる建築環境、使いやすさや美しさにかかわる建築計画、の三つの領域を主に学ぶことにより、建築に対する理解を深めることができる。

建築図面・文章等の基礎的表現能力（K）
建築計画・建築構造・建築環境などで学んだ、建築や地域に求められる基本的な内容を、図面や文章等を使って的確に表現することができる。

建築設計・計画に関わる基礎的能力（L）
使いやすく美しい建築を実現するために、建築空間の用途に応じた計画・構成・意匠を理解することができる。

都市デザイン・まちづくりに関わる基礎的能力（M）
都市や地域を形成する建築単体やその集合体としての建築群の役割や特性を、歴史的な変遷を含めて理解することができる。

建築生産に関わる能力（N）
建築構法および材料の特徴を理解することができ、安全で快適な建築空間を実現するために合理的な施工方法やそれに関わる各種法令について理解し、持続可能な建築の計画・設計を行うことができる。

建築・都市の環境・設備・GXに関わる能力（O）
快適で健康的な建築を実現するために、建築の内外に形成される環境と人間との関係性を理解することができる。建築・都市における環境問題への対応をGX（グリーントランスフォーメーション）として捉え、その考え方を理解することができる。さらに、建築環境・設備・GXの知識を活かし、快適な空間を計画することができる。

建築構造に関わる能力（P）
建築を支える構造の特徴を力学的観点から理解することができ、安全な建築を実現するために構造種別に対応した設計の考え方やそれらの方法を理解し、建築の構造計画・設計を行うことができる。

建築エンジニアリングのDXに関わる能力（Q）
建築エンジニアリング分野における活動特性を踏まえた情報技術のかたちや活用方法を理解することができる。また、目的に応じた建築情報環境を構築し、設計・分析・コミュニケーション・ものづくり等に応用できる。

分析・考察・提案能力（R）
建築の基礎から応用までの学習過程で得られた知識・技術を確認し、それらを用いて問題を発見し、解決することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
		▶ 建築キャリアデザイン ①	□ 進路セミナーⅠ ①	□ 進路セミナーⅡ ①			
▶ 建築の計画とデザイン ②							
▶ 建築環境学Ⅰ ②							
▶ 建築構造のしくみ ②							
▶ 建築基礎製図 ②	□ 建築設計基礎 ②						
		▶ 建築設計演習Ⅰ ④	▶ 建築設計演習Ⅱ ④	□ 建築デザイン論 ②			
			▶ 建築計画 ②		□ 建築再生論 ②		
	▶ 日本建築史 ②	▶ 西洋建築史 ②		□ 都市デザイン ②	□ 都市・まちづくり ②		
		▶ 建築構法計画 ②	▶ 建築材料 ②	▶ 建築施工 ②	▶ 建築法規 ②	▶ プロジェクトデザインⅢ ⑧	
	■ 建築設備総論 ②	▶ 建築環境学Ⅱ ②	▶ 建築設備学 ②	■ 建築環境学Ⅲ ②	■ サステナブル都市・建築 ②		
				■ 建築環境設計Ⅰ ②	■ 建築環境設計Ⅱ ②		
	▶ 建築構造力学Ⅰ ②	▶ 建築構造力学Ⅱ ②	▶ 建築構造計画 ②	■ 鉄筋コンクリート構造 ②	■ 建築構造設計 ②		
				■ 鉄骨構造 ②	■ 建築安全工学 ②		
			▶ 建築エンジニアリング情報演習Ⅰ ②	■ 建築エンジニアリング情報演習Ⅱ ②			
				▶ 建築総合演習Ａ ③	▶ 建築総合演習Ｂ ③		
					▶ イノベーション基礎 ①		
					▶ 専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　■ 選択必修（5科目を選択して必修とする）　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

6-8 建築デザイン学科

Department of Architectural Design

建築学部 建築デザイン学科の卒業の認定に関する方針

大学で定めた卒業認定の要件を受けて、建築デザイン学科が示す以下の知識及び能力を有する者に学士（工学）の学位を授与する。
（各記号の説明はWEBに記載・各記号は科目のシラバス内「学科教育目標」として記載しています）

基礎教育部：A ～ H

A 自己啓発・自己管理能力　B 多様な価値観の理解と倫理的判断能力　C 外国語コミュニケーション能力　D 現象のモデル化と分析能力、論理的思考能力
E 図表を用いたコミュニケーション能力　F 基礎的な実験能力　G 問題発見・問題解決能力　H コンピュータリテラシー

専門教育課程：I ～ R

I キャリアデザイン能力　J 建築デザインの基礎となる建築学全般の基礎的能力　K 建築図面・文章等の基礎的表現能力　L 建築設計・計画に関わる能力
M 都市デザイン・まちづくりに関わる能力　N 建建築生産に関わる能力　O 建築・都市の環境・設備・GX に関わる基礎的能力　P 建築構造に関わる基礎的能力
Q 建築デザインの DX に関わる能力　R 分析・考察・提案能力

教育目標

建築のデザイン分野において、建築や都市の美しさや機能性の観点から、建築・都市の計画・実現能力を習得させること目的とする。具体的には、建築・住宅・インテリアからまちづくり・都市レベルに至る人間環境を計画・設計できる専門知識・技術を身につけた人材を主として養成する。さらには、ライフスタイルの多様化、伝統文化の活用、社会のデジタル化などに対応した次世代の建築デザインに関する知識・技術を修得し、持続可能な社会と環境を構築し運営できる人材を育成する。

課程区分	科目区分	科目群	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期	必修	選択	文理横断専門探究
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	▶修学基礎 A ②	▶修学基礎 B ②							4	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間形成基礎	▶実践ウェルビーイング ①		※1 ▶技術者と持続可能社会 ② ▶日本学（日本と日本人）A ① ▶日本学（日本と日本人）B ①	※1	▶科学技術者倫理 ②		※1		7	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	生涯スポーツ	▶健康・体力づくり ①	▶生涯スポーツ演習 ①							2	—	—
修学基礎教育課程	人間形成基礎科目	人間と自然	▶人間と自然								合格が卒業要件	—	—
英語教育課程	英語科目	英語	□イングリッシュベーシックス ② □イングリッシュトピックス 1 ② □イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ②	□イングリッシュトピックス 2 ② □イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② □ＴＯＥＩＣ初級 ② □ＴＯＥＩＣ中級 ② □インテンシブイングリッシュ ②	□イングリッシュトピックス 3 ② □イングリッシュトピックス 5 ② □アカデミックリーディング 2 ② □アカデミックプレゼンテーション ② □イングリッシュセミナー ②	□イングリッシュトピックス 4 ② □ビジネスコミュニケーション ② □アカデミックリーディング 1 ② □ライティングベーシックス ② □ＳＴＥＭイングリッシュ ② ※1					—	8	※3
数理・DS・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	▶技術者のための数理 I ② ▶技術者のための数理 II ②	▶線形代数学 ② ▶ＡＩ基礎 ① ▶データサイエンス基礎 I ① □データサイエンス物理 ② □アドバンスト数理 A ② 一部科目の記載はp.090参照	▶データサイエンス基礎 II ① □アドバンスト数理 B ② □技術者のための数理 III ② ※1	□技術者のための統計 ②					9	2	
PD基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	▶プロジェクトデザイン入門（実験） ② ▶ICT入門 ① ▶データサイエンス入門 ① 一部科目の記載はp.091参照	▶プロジェクトデザイン I ②	▶プロジェクトデザイン II ②	▶プロジェクトデザイン実践（実験） ②					10	—	—
専門教育課程		専門科目	▶建築基礎製図 ② ▶建築の計画とデザイン ② ▶建築環境学 I ② ▶建築構造のデザイン ②	▶日本建築史 ② ▶建築構造力学 I ② ■建築デザイン基礎 ② □建築設備総論 ②	▶建築デザイン演習 I ④ ▶西洋建築史 ② ▶建築構法計画 ② ▶建築環境学 II ② ▶建築構造力学 II ② ▶建築キャリアデザイン ①	▶建築デザイン演習 II ④ ▶建築計画 ② ▶建築デザイン情報演習 I ② ▶建築材料 ② ▶建築設備学 ② ▶建築構造計画 ②	▶建築デザイン総合演習 A ③ ▶建築施工 ② ■建築デザイン論 ② ■都市デザイン ② ■建築デザイン情報演習 II ② □建築環境学 III ② □建築環境設計 I ② □鉄筋コンクリート構造 ② □鉄骨構造 ②	▶建築デザイン総合演習 B ③ ▶建築法規 ② ■現代建築論 ② ■建築再生論 ② ■都市・まちづくり ② ■サステナブル都市・建築 ② □建築環境設計 II ② □建築構造設計 ②			60		※3
専門教育課程		専門プロジェクト科目						▶イノベーション基礎 ① ▶専門ゼミ ①	▶プロジェクトデザイン III ⑧		10		—
専門教育課程		その他				□進路セミナー I ①	□進路セミナー II ①		※1		—		—
全課程から提供		リベラルアーツ系科目	科目の記載はp.173-174参照								—	12	※2

卒業に必要な最低単位数

▶ 必修科目　■ 選択必修（5科目を選択して必修とする）　□ 選択科目

○付数字は単位数を表す。
※1 ： ゾーンの科目は学科によって開講学期が異なるので注意すること。
※2 ：「リベラルアーツ系科目」の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得すること。
※3 ：「専門探究」の単位数は、科目群「英語」「数理基礎」「専門」より卒業に必要な最低単位数を超えた単位数とする。

合計 124

詳細は次ページへ

6-8 建築デザイン学科［専門教育課程］

Department of Architectural Design

キーワード

建築設計 / 建築歴史・意匠 / 都市デザイン・まちづくり / 建築計画 / 建築情報 / 建築生産・再生

学ぶ領域

1 建築設計
使いやすく美しい建築を実現するために、建築空間の機能・構成・意匠等を理解し、自らの感性を活かした建築を設計する。

2 建築歴史・意匠
建築の計画や意匠における歴史的価値とその背景を理解し、建築物の文化的な評価と継承に取り組むための知識や手法を学ぶ。

3 都市デザイン・まちづくり
都市や地域の役割や特性について、歴史的な背景を含めて理解し、都市デザイン・まちづくりの構想や計画を立案する。

4 建築計画
建築計画に関する知識や手法を学び、機能性や快適性を備えた空間づくり、社会や地域のニーズに応える建築のあり方について学習する。

5 建築情報
建築・都市の計画・設計に必要な情報技術やその活用方法を理解し、目的に応じた建築情報環境を構築し、実践的に応用できる。

6 建築生産・再生
建築生産を支える組織や建築法規を理解し、持続可能な建築づくりを学ぶ。

ディプロマ・ポリシー（DP）

キャリアデザイン能力（I）
建築関連分野における実社会の動向を理解し、大学院進学も含めて将来の進路を幅広く展望した上で、自らの進むべき方向を決定することができる。

建築デザインの基礎となる建築学全般の基礎的能力（J）
建築デザインの基礎として求められる、使いやすさや美しさにかかわる建築計画、安全性にかかわる建築構造、快適さや健康にかかわる建築環境の三つの領域を主に学ぶことにより、建築デザインの基礎となる建築学に対する理解を深めることができる。

建築図面・文章等の基礎的表現能力（K）
建築計画・建築構造・建築環境などで学んだ、建築や地域に求められる基本的な内容を、図面や文章等を使って的確に表現することができる。

建築設計・計画に関わる能力（L）
建築空間の用途に応じた計画・構成・意匠を理解することができる。さらに、建築や都市空間を調査・分析・評価する能力を養い、建築の歴史および最先端の動向を踏まえた機能的で美しい建築を設計することができる。

都市デザイン・まちづくりに関わる能力（M）
都市や地域を形成する建築単体やその集合体としての建築群の役割や特性を、歴史的な変遷を含めて理解することができる。また、建築・都市を調査・分析し、都市デザインやまちづくりを構想・計画する手法を理解し実践することができる。

建築生産に関わる能力（N）
建築構法および材料の特徴を理解することができ、安全で快適な建築空間を実現するために合理的な施工方法やそれに関わる各種法令について理解し、持続可能な建築の計画・設計を行うことができる。

建築・都市の環境・設備・GXに関わる基礎的能力（O）
快適で健康的な建築を実現するために、建築の内外に形成される環境と人間との関係性を理解することができる。建築・都市における環境問題への対応をGX（グリーントランスフォーメーション）として捉え、その考え方を理解することができる。

建築構造に関わる基礎的能力（P）
建築を支える構造の特徴を力学的観点から理解することができ、安全な建築を実現するために構造種別に対応した設計の基礎的な考え方を理解することができる。

建築デザインのDXに関わる能力（Q）
建築デザイン分野における活動特性を踏まえた情報技術のかたちや活用方法を理解することができる。また、目的に応じた建築情報環境を構築し、設計・分析・コミュニケーション・ものづくり等に応用できる。

分析・考察・提案能力（R）
建築の基礎から応用までの学習過程で得られた知識・技術を確認し、それらを用いて問題を発見し、解決することができる。

カリキュラム

1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
		▶ 建築キャリアデザイン ①	□ 進路セミナーⅠ ①	□ 進路セミナーⅡ ①			
▶ 建築の計画とデザイン ②							
▶ 建築環境学Ⅰ ②							
▶ 建築構造のデザイン ②							
▶ 建築基礎製図 ②	■ 建築デザイン基礎 ②						
		▶ 建築デザイン演習Ⅰ ④	▶ 建築デザイン演習Ⅱ ④	■ 建築デザイン論 ②	■ 現代建築論 ②		
			▶ 建築計画 ②		■ 建築再生論 ②		
	▶ 日本建築史 ②	▶ 西洋建築史 ②		■ 都市デザイン ②	■ 都市・まちづくり ②		
						▶ プロジェクトデザインⅢ ⑧	
		▶ 建築構法計画 ②	▶ 建築材料 ②	▶ 建築施工 ②	▶ 建築法規 ②		
	□ 建築設備総論 ②	▶ 建築環境学Ⅱ ②	▶ 建築設備学 ②	□ 建築環境学Ⅲ ②	■ サステナブル都市・建築 ②		
				□ 建築環境設計Ⅰ ②	□ 建築環境設計Ⅱ ②		
	▶ 建築構造力学Ⅰ ②	▶ 建築構造力学Ⅱ ②	▶ 建築構造計画 ②	□ 鉄筋コンクリート構造 ②	□ 建築構造設計 ②		
				□ 鉄骨構造 ②			
			▶ 建築デザイン情報演習Ⅰ ②	■ 建築デザイン情報演習Ⅱ ②			
				▶ 建築デザイン総合演習A ③	▶ 建築デザイン総合演習B ③		
					▶ イノベーション基礎 ①		
					▶ 専門ゼミ ①		

▶ 必修科目　■ 選択必修（5科目を選択して必修とする）　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

Liberal Arts Courses

リベラルアーツ系科目

Program of interdisciplinary liberal arts, engineering science and technology

国際教養理工学課程

Teacher Training Course

教員免許状取得に関する科目

6-9 Liberal Arts Courses リベラルアーツ系科目

リベラルアーツ系科目の履修科目選択について

本学では、人文・社会科学から自然科学までの教養基礎を文理横断的に学ぶことに加え、異分野の専門科目や自分野の専門科目を深く学ぶことを「リベラルアーツ教育」として推奨しており、この自由選択科目（12単位以上）を、各自の志向により、「より広く」「より深く」学ぶ科目として「リベラルアーツ系科目」と呼んでいます。「リベラルアーツ系科目」の科目選択にはかなりの自由度がありますので、自分自身で養いたい能力のビジョンをもって履修科目選択を行ってほしいと思います。下記に、履修科目選択（12単位以上）のモデルを提示しますので、参考にしてください（これはあくまでも参考情報であり、リベラルアーツ系科目の科目選択は完全に自由です）。

（ステップ1）
まず、一般教養として、次ページの「人文社会」分野の科目、および、各分野の特別科目の中から、4単位程度を目安に履修する。

（ステップ2）
各自の志向に応じて、下記のカテゴリーから2つ程度を選び、各カテゴリーから4単位程度を目安に履修する。

■グローバルに活躍する技術者になりたい → 「文理横断」の国際教養理工学の授業科目
＊所定の単位を修得すれば、修了証が得られます（p.175参照）

■外国語コミュニケーション能力を養いたい → 英語教育課程の英語科目
（卒業に必要な単位数[8単位]を超えて修得：専門探究）

■数学・数理をより深く学びたい → 数理・データサイエンス・AI教育課程の数理基礎科目
（卒業に必要な単位数[11単位]を超えて修得：専門探究）

■所属学科の専門を究めたい → 所属学科の専門教育課程の専門科目
（卒業に必要な単位数[60単位]を超えて修得：専門探究）

■所属学科以外の専門（他分野）を学びたい → 他学科の専門教育課程の専門科目
＊サブメジャー制度にエントリーして所定の単位を修得すれば、「サブメジャー科目群修得の証」が授与されます。

■情報技術（AI, IoT, ICT）を使いこなせるようになりたい → 「文理横断」の「数理・情報」や「技術統合」の科目

例えば、ステップ1で4単位、ステップ2では2つのカテゴリーで4単位ずつ修得すれば、合計12単位となり、卒業に必要な単位数の条件は満たされます。より深く勉強したいカテゴリーがあれば、カテゴリーを1つに絞って、そこから12単位修得することでもかまいませんし、逆に、幅広い分野から少しずつ単位修得することもできます。また、12単位という単位数は最低単位数ですので、より多くの単位修得を目指すことを推奨します。いずれにしても、各自の志向に応じて、養いたい能力のビジョンをもって履修科目選択を行うことが重要です。

教育目標
人文・社会科学から自然科学までの幅広い教養基礎、もしくは、異分野の専門科目や自分野の専門科目をより深く学び、様々な場面で多面的に、より深く考える能力を身につける。

キーワード
文理横断　専門探究

卒業要件として本科目群から12単位修得必要

分野		科目名
文理横断	人文社会（修学基礎教育課程　提供科目）	□日本文学の世界 ②
		□人間と哲学 ②
		□法と社会 ②
		□経済と社会 ②
		□こころのはたらき ②
		□グローバル社会（ヨーロッパ） ②
		□グローバル社会（アジア） ②
		□芸術へのアプローチ ②
		□科学技術と社会 ②
		□技術者のためのコミュニケーション ②
		□企業の組織と戦略 ②
		□日本国憲法 ②
		□韓国語入門 ②
		□国際関係論 ②
		□危機管理論 ②
		□指定放送大学科目 ②
		□生涯学習特別科目 ※
		□コーオプ実習（生涯学習特別科目） ②
	外国語教養（英語教育課程　提供科目）	□外国語特別科目 ※
	数理・情報（数理・データサイエンス・AI教育課程　提供科目）	□ＡＩプログラミング入門 ①
		□ＡＩ応用Ⅰ ①
		□ＡＩ応用Ⅱ ①
		□ビジネスデータサイエンス ①
		□データサイエンス応用 ①
		□数理特別科目 ※
	技術統合（プロジェクトデザイン基礎教育課程　提供科目）	□ＩｏＴ基礎 ①
		□ＩｏＴプロトタイピング ①
		□ＩｏＴプログラミング入門 ①
		□ドローンプログラミング ①
		□ＩｏＴ応用 ①
		□ロボティクス基礎 ①
		□情報ネットワーク基礎 ①
		□ネットワークセキュリティ ①
		□プロジェクトデザイン特別科目 ※
	専門教養（各 専門教育課程　提供科目）	□専門教養特別科目 ※
	国際教養理工学（国際教養理工学課程　提供科目）	□グローバルＰＤ ②
		□未来学 ②
		□コンセプチュアル思考 ②
		□感性とデザイン ②
		□サステナブルイノベーション ②
		□科学技術と人・社会 ②
		□国際教養理工学特別科目 ※
専門探究科目（各課程ごとに定められた「卒業に必要な最低単位」を超えた単位数をこの区分で数える）		

□ 選択科目　○付数字は単位数を表す
科目により開講期が異なる

※科目により単位数が異なる。

6-10 国際教養理工学課程

Program of interdisciplinary liberal arts, engineering science and technology

「国際教養理工学課程」では、深い人間理解に基づく教養と理工学の専門力を活かし、グローバルに活躍できる人材を育成します。国際教養理工学課程が提供する科目を中心に、英語で開講されるリベラルアーツ系科目や専門科目を履修し、豊かな教養力の修得を目指します。

◎修得できる能力

- 問題の本質を見極める鋭い洞察力
- 深い人間理解と教養に基づく目標設定力
- グローバル（国際的・学際的）な視点からの判断力
- 柔軟な思考による課題解決力
- クリエイティブな発想による感性ある表現力
- 人と人をつなぐコミュニケーション力とコラボレーション力

	エントリー資格	履修申請方法	修了要件	修了証
国際教養理工学課程	特になし	1年次後学期以降 履修申請システムから申請	16単位以上修得	卒業時に授与

エントリーおよび履修申請については以下の手順で行ってください。
なお、エントリー以前に単位修得した科目も制度を利用した単位として認められます。詳しくは申請時に確認してください。

1. エントリー

教務課にて受付を行います。エントリー申請書及びエントリー期間は教務課ホームページに掲載されています。

2. 履修申請方法

1学期間の履修登録単位数が24単位を超える場合は、申請時の累積GPAが3.00以上かつ、「履修申請書（登録単位数の特例）」の提出が必要です。申請方法は教務課ホームページを確認してください。

3. 修了要件をクリア

卒業時に修了証が授与されます。

キーワード

グローバル人材 | 学際的な視点 | 豊かな教養と専門性 | 新しい価値創造

国際教養理工学課程
修了証取得には
16単位
修得必要

教育目標

現代社会で生じる問題を分析しその本質を見極める洞察力と、複雑な課題解決に果敢に挑戦する行動力を涵養する。また、深い人間理解に基づくリベラルアーツと理工学の専門力を活かし、グローバルかつ多角的な視点で物事を捉え、人々から共感される新しい価値や技術を創造できる人材を育成する。

【共通基礎科目】
開講科目のうち英語で開講されている科目
（別途学生ポータル等を通じて履修案内）から4単位以上を修得

【国際教養理工学課程が提供する科目】
対象科目から8単位以上を修得

科目名

実践ウェルビーイング	①
プロジェクトデザインⅠ	②
プロジェクトデザインⅡ	②
線形代数学	②
ＳＴＥＭイングリッシュ	②
インテンシブイングリッシュ	②
外国語特別科目 ※	
韓国語入門	②
グローバルＰＤ	②
未来学	②
コンセプチュアル思考	②
感性とデザイン	②
サステナブルイノベーション	②
科学技術と人・社会	②
国際教養理工学特別科目 ※	

その他、英語で開講される専門科目、海外留学プログラムへの参加実績等も修了証発行の単位数として加える。
（年度毎に運用が異なるため、教務課に確認すること。）

○付数字は単位数を表す　※特別科目の単位数・開講学期はその都度定める。

6-11 Teacher Training Course 教員免許状取得に関する科目

教員免許状取得を目指す場合は、4月に行われる教職ガイダンスに必ず出席し、教職課程で必要な科目等について確認すること。
（開講期は年度によって変更となる場合があります）

中学校教諭一種免許状（理科）または（数学）高等学校教諭一種免許状（工業）、（情報）、（数学）または（理科）

教科及び教職に関する科目	1年次 1期 前学期	1年次 2期 後学期	2年次 3期 前学期	2年次 4期 後学期	3年次 5期 前学期	3年次 6期 後学期	4年次 7期 前学期	4年次 8期 後学期
教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		▶ 教師入門セミナー ② ▶ 教育原理 ②	▶ 教育心理学 ②	□ 学習・発達論 ② ▶ 教育課程論 ②	▶ 教育制度論 ②		□ 教職概論 ②	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 道徳の理論及び指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			□ 道徳教育の理論と実践 ※1 ② ▶ 特別支援教育概論 ① ▶ 特別活動の指導法 ②		▶ 教育方法・技術論 ②（情報通信技術の活用を含む） ▶ 総合的な学習の時間の指導法 ① ▶ 教育相談 ②	▶ 生徒・進路指導論 ③		
教育実践に関する科目 教育実習 教職実践演習							▶ 教育実習（事前・事後指導） ① ▶ 教育実習Ⅰ ② □ 教育実習Ⅱ ※1 ② ▶ 教職実践演習（中学校及び高等学校） ②	
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			□ 工業概論 ※2 ② □ 地学基礎実験 ① □ 介護等体験（事前・事後指導） ※1 ①	□ 物理学基礎実験 ①	□ 数学科教育法Ⅰ ※4 ④ □ 理科教育法Ⅰ ※6 ④	□ 地球環境学 ② □ 環境計測学 ② □ 工業科教育法 ※2 ④ □ 情報科教育法 ※3 ④ □ 数学科教育法Ⅱ ※5 ④ □ 理科教育法Ⅱ ※7 ④	□ 職業指導 ※2 ②	
大学が独自に設定する科目								

▶ 必修科目　□ 選択科目　○付数字は単位数を表す

※1 中学校の教員免許希望者は必修とする　※2 高等学校（工業）の教員免許希望者は必修とする　※3 高等学校（情報）の教員免許希望者は必修とする
※4 中学校（数学）、高等学校（数学）の教員免許希望者は必修とする　※5 中学校（数学）の教員免許希望者は必修とする
※6 中学校（理科）、高等学校（理科）の教員免許希望者は必修とする　※7 中学校（理科）の教員免許希望者は必修とする

Graduate School of Engineering

工学研究科

大学院および研究科の目的

金沢工業大学大学院は、金沢工業大学の建学綱領と人材育成の使命に従い、専門的な学術の理論および応用を教授研究し、創造性豊かで優れた研究・開発能力を有する研究者等の養成と高度な専門的知識・能力を有する専門職業人の養成を行い、我が国の科学技術並びに文化の進展に寄与することを目的とする。

工学研究科は、工学諸分野に関する解析能力と実践能力を有する創造性豊かな研究者または高度な専門技術者を養成することを目的とする。

大学院工学研究科におけるポリシー

○博士前期課程・修士課程

・ディプロマ・ポリシー

工学研究科では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士の学位を授与する。

①地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、それらを解決できる能力
②創造性を発揮する専門的能力とイノベーション創出能力
③世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④高い倫理観を持ち、技術者として活躍できる能力

・カリキュラム・ポリシー

工学研究科の各専攻ではDPの達成のため、リサーチワークとしての「専修科目」とコースワークとしての「関係科目」によって教育課程を編成する。

工学研究科では、「専修科目」において研究室でのリサーチワークやゼミ活動をはじめ、産官学連携や地域連携の活動、専門学協会や学内審査会での成果発表などを通じて、学位授与方針で求める能力の育成を図る。その成果としての修士論文公聴会において、学位授与方針で求める全ての能力の修得を確認する。

また、学位授与方針で求める能力をより一層高めるために各専攻における「関係科目」、および「専攻共通科目」を配置し、それらの学修成果を厳正に評価して単位を認定する。

○博士後期課程

・ディプロマ・ポリシー

工学研究科では、以下の能力を身につけた大学院生に博士の学位を授与する。

①国際社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決し、社会実装できる能力
②創造性を発揮し、学問分野をリードできる高度な専門的能力とイノベーション創出能力
③世代・分野・文化を超え、高度な専門知識に裏づけられたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④国際社会の中で高い倫理観を持ち研究者として活躍できる能力

・カリキュラム・ポリシー

工学研究科の各専攻ではDPの達成のため、リサーチワークとしての「特殊研究」とコースワークとしての「主要科目」と「特別科目」によって教育課程を編成する。

工学研究科では、「特殊研究」において研究室でのリサーチワーク、産官学連携、国際会議や専門学協会での成果発表などを通じて、学位授与方針で求める能力の育成を図る。その成果としての博士論文公聴会および最終試験において、学位授与方針で求める全ての能力の修得を確認する。

また、高度な専門能力、イノベーション創出能力を修得するために「主要科目（企業価値とイノベーション）」を配置する。さらに、産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力を、実践活動を通してより一層高めるために、「特別科目（リサーチインターンシップ）」を配置し、それらの学修成果を厳正に評価して単位を認定する。

6-12 Graduate Program in Mechanical Engineering 工学研究科 機械工学専攻

工学研究科　機械工学専攻の学位授与に関する方針

機械工学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、機械工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する機械工学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 機械工学の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、機械工学技術者として活躍できる能力

教育目標

国内外における機械分野の技術革新に積極的に貢献することのできる高度専門能力に加えて、幅広い技術分野へ展開できる統合能力と人間力を修得し、機械工学の学問分野を基幹とした研究開発分野または先進的専門領域で活躍できる、人間力豊かで行動する高度専門機械技術者・研究者を育成する。

科目群の主な学習・教育目標

高度システム化能力
関連分野あるいは異分野に関する技術分野にも積極的に挑戦し得る能力を身につけ、当該分野にて本専攻で修得した高度専門関連技術を応用でき、それを通じて新規技術の創成・開拓を可能にする能力を修得する。

高度専門応用能力
アドバンストマシニング工学、エナジー&メカニクス工学、ビークルシステム工学、ロボット工学、ものづくり工学をベースとした総合的高度専門関連知識ならびに技術を吸収・修得するとともに、将来における機械工学の発展に寄与・貢献できる。

技術分野および問題発見・解決能力
工学的諸問題に対して工学設計能力と研究開発能力を発揮しつつ、技術的課題を分析し、課題を設定・解決できるとともに成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

プロジェクト遂行能力
プロジェクト計画管理能力を養うとともにリーダーシップ能力を身につけることによって、多様な価値観を有する集団においても、その取りまとめや最終解を見出すことができる。

社会・人間関係スキルを修得した専門応用能力
技術者としての倫理観を養うとともに、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を修得し、それに基づいた高度専門能力を発揮できる。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 材料力学特論 ①	● 流体力学特論 ①
	● 熱力学特論 ①	● 統合システムデザイン特論 ②
	● モデルベースデザイン特論 ②	● 制御工学特論 ②
	● AIロボティクス特論 ①	
	● 深層学習特論 ①	
	● 飛行力学特論 ①	
	● 自動車パワートレイン特論 ①	● ジェットエンジン特論 ①
	● ドローン設計特論 ①	● 位置姿勢制御特論 ①
	● 飛行制御特論 ①	● 熱機関特論 ①
	● 自動運転設計特論 ①	
	● 再生可能エネルギー特論 ①	● エネルギー変換工学特論 ①
	● 生体力学特論 ①	● エネルギーマネジメント特論 ①
	● 支援機器デザイン特論 ①	● エネルギー供給システム特論 ①
	● 工学のための解剖学 ①	● 生体信号計測特論 ①
	● 振動応用工学特論 ①	● 生体材料特論 ①
	● 超精密加工プロセス特論 ①	● 生体応用モビリティ特論 ①
	● アディティブ・マニュファクチャリング特論 ①	● 工学のための生理学 ①
	● スマートマニュファクチャリング特論 ①	● 先端切削加工学特論 ①
	● 工作機械の知能化技術特論 ①	● 先進射出成形特論 ①
	● 複合材料力学特論 ①	● 先端塑性加工特論 ①
	● ロケットエンジン特論 ①	● 機能性金属材料特論 ①
	● 革新飛翔体特論 ①	● 極限環境材料特論 ①
	● ロボット制御特論 ①	● ファインセラミックス特論 ①
	● 確率ロボティクス特論 ①	● 計算材料学特論 ①
	● 強化学習特論 ①	● 環境表面工学特論 ①
	● 最適制御特論 ①	● システム同定特論 ①
	● 海洋機械工学特論 ①	● マルチエージェントシステム特論 ①
		● グローバルイノベーション特論 ④
	● コーオププログラム ④	● コーオププログラム ④
	● コーオッププロジェクト ②	● コーオッププロジェクト ②
	● 機械工学専攻特別講義Ⅰ ②	● 機械工学専攻特別講義Ⅲ ②
	● 機械工学専攻特別講義Ⅱ ②	
1年次・2年次	● モビリティ工学研究 ⑫	
	● 動力・エネルギー工学研究 ⑫	
	● 医療・ヘルスケア工学研究 ⑫	
	● 生産システム工学研究 ⑫	
	● マテリアルデザイン工学研究 ⑫	
	● EARTH&SPACE環境機械工学研究 ⑫	
	● 知的システム制御工学研究 ⑫	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● モビリティ工学特論 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● 動力・エネルギー工学特論 ②	
	● 医療・ヘルスケア工学特論 ②	
	● 生産システム工学特論 ②	
	● マテリアルデザイン工学特論 ②	
	● EARTH&SPACE環境機械工学特論 ②	
	● 知的システム制御工学特論 ②	
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● モビリティ工学特殊研究 ④	
	● 動力・エネルギー工学特殊研究 ④	
	● 医療・ヘルスケア工学特殊研究 ④	
	● 生産システム工学特殊研究 ④	
	● マテリアルデザイン工学特殊研究 ④	
	● EARTH&SPACE環境機械工学特殊研究 ④	
	● 知的システム制御工学特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Civil and Environmental Engineering 工学研究科 環境土木工学専攻

工学研究科　環境土木工学専攻の学位授与に関する方針

環境土木工学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、環境土木工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する環境土木工学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 環境土木工学の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、環境土木工学技術者として活躍できる能力

教育目標

自然環境と調和を図りながら、国内外の社会基盤を効率的に計画・設計・施工し、それらを適切に維持管理することができ、整備効果についても評価することができる総合的な実践的能力を持った高度な環境土木技術者・研究者を育成する。さらに社会状況の変化を的確に判断し、国民に安全・安心で快適な社会生活を提供するために、自ら考え行動する高度な環境土木技術者・研究者としての人間力も養成する。

科目群の主な学習・教育目標

環境土木工学専攻における学習・教育目標
①環境土木工学分野の深い知識と応用力が身につく。
②環境土木工学分野の技術的問題に対し、課題を抽出・設定し、それを解決する能力が身につく。
③文献調査・実地調査など、従来技術の調査手法が身につく。
④国内外のコミュニケーション能力、技術者・研究者としてのリーダーシップ能力など、社会における人間力が身につく。

構造物設計工学研究系の学習
各種材料を用いた構造物の合理的な設計手法およびその施工法や適切な保全方法について学び、構造工学・地盤工学に関するより高度な構造物設計に対応できる能力が身につく。

水環境工学研究系の学習
流域の水循環機構とその地域特性、最近の地球環境変動と豪雨・洪水の関係とその予測、水災害危険度の将来予測、地下水汚染に係わる地下水の流動機構、海岸の環境保全、海浜流の発生機構・漂砂機構とその防止などについて学び、高度な水環境問題に対応できる能力が身につく。

情報計画研究系の学習
ＩＴおよびＩＣＴを駆使したSociety 5.0の創生に関する技術、位置情報と時間をコアとした二次元、三次元および時間軸を加えた四次元の地形および建物デジタルデータを作成し、効率的な社会基盤の構築と維持およびリアルタイム更新手法を学び、高度な地理空間情報社会の構築・更新に対応できる能力が身につく。

建設マネジメント研究系の学習
国内外にある社会基盤整備の計画・施工・維持管理および防災を効率的に進めるためのマネジメント手法を学び、建設事業の各段階における問題点を把握し、それらに対する解決策を提案できる能力が身につく。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 環境土木のフロンティア ②	
	● Advanced civil engineering ②	
	● 構造力学特論 ②	● 地盤工学特論 ②
		● 建設材料学特論 ②
		● 水環境特論 ②
		● 空間情報工学特論 ②
	● 環境土木工学統合特論Ⅱ ④	● 環境土木工学統合特論Ⅰ ④
	● 環境土木工学統合特論Ⅳ ④	● 環境土木工学統合特論Ⅲ ④
	● コーオッププログラム ④	● コーオッププログラム ④
	● コーオッププロジェクト ②	● コーオッププロジェクト ②
	● 環境土木工学専攻特別講義Ⅰ ※	
	● 環境土木工学専攻特別講義Ⅱ ※	
	● 環境土木工学専攻特別講義Ⅲ ※	
	※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	
1年次・2年次	● 構造物設計工学研究 ⑫	
	● 水環境工学研究 ⑫	
	● 情報計画研究 ⑫	
	● 建設マネジメント研究 ⑫	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● 環境土木工学特論 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● 構造物設計工学特殊研究 ④	
	● 水環境工学特殊研究 ④	
	● 情報計画特殊研究 ④	
	● 建設マネジメント特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Information and Computer Engineering 工学研究科 情報工学専攻

工学研究科　情報工学専攻の学位授与に関する方針

情報工学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、情報工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する情報工学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 情報工学の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、情報工学技術者として活躍できる能力

教育目標

情報化社会の進展に伴い社会基盤としてますます重要性を増している情報技術分野・ネットワークサービス分野の技術革新に積極的に貢献できる専門知識と幅広い技術力を修得する。大学で修得した情報工学分野における基礎技術を基にして、幅広い応用分野へ展開できる統合力、先進的技術力、研究開発能力、さらに実践的能力を修得する。コンピュータ、ソフトウェア、ネットワークに関する基盤技術、これらを統合的に活用した情報システムとその構築技術に関する先進的専門知識と研究開発力を修得する。これにより、情報通信産業界をはじめとして、幅広い産業界において活躍できる高度専門情報技術者ならびに研究者を育成する。

科目群の主な学習・教育目標

概要： 情報工学分野における学部専門科目群の学習内容から大学院博士前期課程の基盤・応用科目群の学習内容へのスムーズなステップアップを目的に、情報の表現、処理、伝達などに関する基礎技術、情報系数学に関する幅広い専門基礎能力を強化する。
目標： 情報の表現、処理、伝達などに関する基礎技術、情報系数学において基礎となる理論を数理／論理／物理モデルに基づき説明できる。

概要： 情報システムの基盤をなすコンピュータ、ソフトウェア、ネットワークにおいて、効率的に情報の表現、処理、伝達などを行うための実用的な手法と手段、それに伴う理論を学び、情報システムの開発、応用、高度化を行うための基盤的能力を強化する。
目標： 情報の表現、処理、伝達などを効率化するための原理、実用的方法、効果について説明できる。

概要： コンピュータ、ソフトウェア、ネットワークまたはこれらを複合的に応用した情報処理・情報システムに関する先端的技術と動向を学び、情報システム研究開発能力を強化する。
目標： コンピュータ、ソフトウェア、ネットワーク、これらを複合的に応用した情報処理および情報システムに関する先端技術の内容と動向について説明できる。

概要： 情報システムの3つの柱であるソフトウェア、組み込みシステム、ネットワーク・セキュリティに関する実践的開発技術をPBL型演習を中心として学ぶ。各分野のシステム開発プロセスを概観する導入講義、実用システムに求められる条件、現状、課題に関する講義、システムの企画・設計に関して机上演習を行う。さらに、上記のシステム企画・設計をベースに受講生自らが具体的なシステム開発課題を設定し、実際に開発・検証・評価のプロセスを進め、プレゼンテーションによる企画・設計内容の相互評価を行う。
目標： 情報通信産業界のニーズに直結した情報システムの実践的開発能力を修得する。あわせて情報化社会の発展と秩序維持に寄与し得る倫理的判断能力を修得する。

概要： 特別講義では産業界で活躍する高度情報技術者・研究者による最先端技術に関する講義、インターンシップでは連携先企業の業務内容の事前研究と業務体験を行う。副専修セミナーでは、必要により他の専修科目において開催されるセミナーに参加し、専門領域を広げることを目指す。
目標： 高度専門職業人としての技術応用能力、コミュニケーション能力、倫理的判断能力を強化する。

●専修科目：
概要： 専修科目は、博士前期課程の2年間（4期）にわたる所属研究室での修士研究活動である。研究テーマ設定にあたっては、研究の背景、目的、解くべき課題、具体的な到達目標、得られるメリットについて十分に吟味する。研究課題を解決するための方策を複数の対案をあげつつ発案し検証する。必要となるプログラミングなどの手法を自ら学び、その能力を向上させる。達成した研究成果を論文などにまとめ対外発表する。また、自ら修得した技術を学部学生に指導するなどによりコミュニケーション能力と研究者／技術者としての倫理的判断能力を強化する。
目標： 情報工学を中心とした工学全般に対する深い興味と理解力をもち、未知の分野に対しても積極的に行動できる。情報工学の基礎知識、専門知識を十分に身につけ、自らの研究内容に関する新規性、有効性、信頼性を技術的／学術的観点から議論できる。あわせて国際的に通用する技術者・研究者としての視野を磨く。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 通信工学特論 ② ● ＩｏＴ特論 ③	● 量子コンピューティング特論 ②
1年次	● コンピュータグラフィックス特論 ② ● オペレーティングシステム特論 ②	● ネットワーク設計構築特論 ② ● 高性能並列処理特論 ②
1年次	● インターフェースデザイン特論 ③	● リコンフィギャラブルシステム特論 ② ● 人間知性探究特論 ② ● 自然言語処理特論 ② ● ウェブ情報システム特論 ② ● ウェアラブルコンピューティング特論 ②
1年次	● ネットワーク・セキュリティ統合特論 ④	● グローバルイノベーション特論 ④
1年次	● コーオププログラム ④ ● コーオッププロジェクト ② ● 情報工学専攻特別講義Ⅰ ※ ● 情報工学専攻特別講義Ⅱ ※ ● 情報工学専攻特別講義Ⅲ ※ ※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	● コーオププログラム ④ ● コーオッププロジェクト ②
1年次・2年次	● アンコンベンショナルコンピューティング研究 ⑫ ● 情報通信研究 ⑫ ● ハイパフォーマンスコンピューティング研究 ⑫ ● ソフトウェア創造学研究 ⑫ ● 知能情報システム研究 ⑫	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● メディア情報数理特論 ② ● 情報通信特論 ② ● ハイパフォーマンスコンピューティング特論 ② ● ソフトウェア創造学特論 ② ● 知能情報メディア特論 ② ● リサーチインターンシップ ④	● 企業価値とイノベーション ②
1年次・2年次・3年次	● アンコンベンショナルコンピューティング特殊研究 ④ ● 情報通信特殊研究 ④ ● ハイパフォーマンスコンピューティング特殊研究 ④ ● ソフトウェア創造学特殊研究 ④ ● 知能情報システム特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Electrical Engineering and Electronics 工学研究科 電気電子工学専攻

工学研究科　電気電子工学専攻の学位授与に関する方針

電気電子工学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、電気電子工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する電気電子工学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 電気電子工学の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、電気電子工学技術者として活躍できる能力

教育目標

「電気」は最もクリーンで制御しやすいエネルギーであり、「電気」の発生から応用までを幅広く学ぶ電気電子工学分野は、地球環境と調和した高度技術化社会を形成する上での根幹をなす重要な学問領域である。本専攻では、「電力・エネルギー」、「電気機器・制御」、「エネルギー材料・デバイス」、「光・電子デバイス」、「通信・電波」、「音響・映像」の6つの学問領域を中心として基礎、応用を学び、新しい技術について研究する。電気電子工学分野に関する高度な学識レベルと豊かな人間性を備えた、創造性に富む国際的に活躍できる研究者、技術者を育成する事を目標とする。

科目群の主な学習・教育目標

①電気電子工学分野の原理・原則に関する深い知識と応用力
電気電子工学分野の重要基礎科目である電気応用数学、電気磁気学、電気電子回路を学び、それらをベースとした応用力を身につけ、さらに社会の中で極めて幅広く活用される電気電子工学の先端技術について学び、将来の技術革新に対応できる見識と学術基盤を形成できる。

②関連分野あるいは異分野に関する幅広い知識を活かしたイノベーション創出能力
電気電子工学分野あるいは異分野に対して相互に応用できる能力を身につけ、社会における高度な専門関連技術としてそれらを積極的に活用でき、最先端技術の創成・開拓を可能にする能力を有することができる。

③直面する問題から本質的技術課題を抽出し、電気電子工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
従前の技術および現状における技術的問題を分析し、将来的な課題を設定・解決できるとともに、電気電子工学的諸問題に対して問題発見の能力、問題解決の能力を有効に発揮し、幅広い分野での技術の応用を推進することができる。

④文献・実地調査、仮説の設定と検証などを行う能力、プロジェクト遂行能力
電気電子工学の最先端技術を研究するにあたり、文献・実地調査などを実施する調査能力、分析能力を有し、将来的な技術の方向性を的確に推察し、プロジェクトの方向性を見極めるとともに確実に遂行する能力を有することができる。

⑤コミュニケーション能力、リーダーシップ能力などの社会・人間関係スキルに基づく専門応用能力
技術者としての高い倫理観を養うとともに、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を有し、それに基づいた高度専門応用能力を社会・人間関係の中で十分に発揮し、地域及び地球規模の視点から人間性豊かなエンジニアとして活躍できる。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 電気磁気学特論 ②	
	● 電気電子回路特論 ②	
	● 電気応用数学特論 ②	
	● コンピュータ応用工学特論 ②	
		● 電力システム工学特論 ②
		● システム制御工学特論 ②
		● エネルギーデバイス工学特論 ②
		● 量子力学特論 ②
		● 無線通信工学特論 ②
		● 信号処理特論 ②
	● 電力・エネルギー統合特論 ④	● 光・電子デバイス統合特論 ④
	● 電気機器・制御統合特論 ④	● 音響・映像統合特論 ④
	● エネルギー材料・デバイス統合特論 ④	
	● 通信・電波統合特論 ④	
	● コーオププログラム ④	● コーオププログラム ④
	● コーオププロジェクト ②	● コーオププロジェクト ②
	● 電気電子工学専攻特別講義Ⅰ ※	
	● 電気電子工学専攻特別講義Ⅱ ※	
	● 電気電子工学専攻特別講義Ⅲ ※	
	※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	
1年次・2年次	● 電力・エネルギー工学研究 ⑫	
	● 電気機器・制御工学研究 ⑫	
	● エネルギー材料・デバイス工学研究 ⑫	
	● 光・電子デバイス工学研究 ⑫	
	● 通信・電波工学研究 ⑫	
	● 音響・映像工学研究 ⑫	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● 電気電子工学特論 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● 電力・エネルギー工学特殊研究 ④	
	● 電気機器・制御工学特殊研究 ④	
	● エネルギー材料・デバイス工学特殊研究 ④	
	● 光・電子デバイス工学特殊研究 ④	
	● 通信・電波工学特殊研究 ④	
	● 音響・映像工学特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in System Design Engineering 工学研究科 システム設計工学専攻

工学研究科　システム設計工学専攻の学位授与に関する方針

システム設計工学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、システム設計工学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮するシステム設計工学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ システム設計工学の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、システム設計工学に関わる技術者として活躍できる能力

教育目標

デザイン工学の視点から人を中心としたシステムテクノロジーを学ぶことができる。人とものとの親和的関係を構築するための基礎的・応用的研究を通して、情報コンテンツを含む新たな商品を創造するためのテクノロジーを修得し、もの・人・環境の相互関係をシステム的に捉えて、人と社会に役立つ商品を創造することのできる高度専門技術者・研究者を養成する。情報科学・心理学という異分野の融合の下で、複合的視点を持って問題解決のできる能力を養成する。実験・実習を通して先進的なテクノロジーを修得して、実際のものづくりに直接関わる活動ができる。企業などとの連携を通してプロジェクトを構成し、実社会との関係を持ちながら幅広く学び、人を中心においたものづくりのシステムを修得して、新たなテクノロジーを開発する研究開発能力を養成する。

科目群の主な学習・教育目標

博士前期課程

科目群の主な学習・教育目標		前学期	後学期
必要なときに必要な情報をデータベースからジャスト・イン・タイムで取り出し提示が可能となるWebアプリケーション開発手法と、人間工学の視点から3Dコンテンツの作成手法とを学び、マルチメディアによるコミュニケーションに必要なメディア情報環境を構築するためのテクノロジーを修得する。	1年次・2年次	● ＣＧ特論 ②	● ネットワークセキュリティー ②
		● メディア情報研究 ⑫	
人・もの・環境をシステム的に捉えるために必要な知識を学び、メディア情報環境と人との関係を空間情報学の視点から解析して、よりよいシステムを構築するためのテクノロジーを修得する。	1年次・2年次	● 画像情報処理特論 ②	● メディアデザイン特論 ②
		● データ解析法 ②	
視聴触味嗅の五感のモダリティー特性を学び、これらに対応した情報コンテンツの提示方法とこれらを組み合わせたコンテンツの作成に必要な技術を、訓練・支援システムを通じて学び、コミュニケーションの受け手としての人の特性を理解して、メディアデザインができるためのテクノロジーを修得する。	1年次・2年次	● 認知・感情心理学特論 ②	● 認知科学 ②
		● デザインサイエンス研究 ⑫	
もっと使っていたいと感じるような、人がものとの距離を感じない、情報コンテンツをはじめとした親和型商品の開発に必要な知識を、人間工学、生理学、認知科学、心理学の視点から学び、高品位な商品を開発するために、人の特性を活かした、人ともの、人と機器のインタフェースを具現化するためのテクノロジーを修得する。	1年次・2年次	● 心理実験・測定法 ②	● 知覚メカニズムと応用技術 ②
		● 質的データ分析特論 ②	● 音声工学特論 ②
		● ベイズ統計モデリング入門 ②	● ベイズ統計モデリング実践 ②
		● 認知科学研究 ⑫	
	1年次	● コーオププログラム ④	● コーオププログラム ④
		● コーオププロジェクト ②	● コーオププロジェクト ②
		● システム設計工学専攻特別講義Ⅰ ※	
		● システム設計工学専攻特別講義Ⅱ ※	
		● システム設計工学専攻特別講義Ⅲ ※	
		※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● メディア情報学 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● 認知科学 ②	
	● デザインサイエンス ②	
	● 情報マネジメント ②	
	● 共創イノベーション ②	
	● 知的創造システム ②	
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● メディア情報特殊研究 ④	
	● 認知科学特殊研究 ④	
	● デザインサイエンス特殊研究 ④	
	● 知的創造システム特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Bioscience and Chemistry 工学研究科 バイオ・化学専攻

工学研究科　バイオ・化学専攻の学位授与に関する方針

バイオ・化学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（理工学）の学位を授与する。
① 地域における生活環境から地球環境までの多面的な視野のもと、社会の諸問題を発見し、バイオ・化学分野の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② バイオ・化学分野の創造性を備えた専門的能力とイノベーション創出能力
③ バイオ・化学分野の知識を基盤とした世代・分野・文化を超えるコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観のもと、バイオ・化学分野の研究者・技術者として活躍できる能力

教育目標

ライフサイエンス、医療、バイオテクノロジーおよびナノテクノロジーを基盤とする分野においては、個人の多様性、年齢層の拡がり、価値観の拡がりなどに対応した、従来の工学とは異なる基準に基づく製品やサービスの開発が求められている。さらには、これらの製品やサービスは、我が国国内のみを対象とするものではなく、広く地球規模において複数の国や地域をその対象とするものである。このような背景の下、ライフサイエンス、医療、バイオテクノロジーおよびナノテクノロジーを基盤とする応用バイオおよび応用化学の分野において、従来の工学の枠を超えた発想を持ち、新規な産業を立ち上げていくことができる技術者の育成が求められている。バイオ・化学専攻では、応用バイオ学および応用化学の基盤を修得した上で、深く自らの研究を探究することにより基礎学力および応用・実践力をバランス良く身につけ、従来の工学の枠組を超えて、広く社会において活躍する応用バイオあるいは応用化学技術者の育成を目標とする。

科目群の主な学習・教育目標

応用バイオ学および応用化学を大学院において学んでいく基礎となる知識の修得を目標とする。それぞれの科目において基礎となる知識を修得し、基盤科目あるいは応用科目の学習に生かすことができるとともに、専修科目（修士研究）に応用・実践していくことができる。

応用バイオ学および応用化学における基盤となる知識の修得を目標とする。それぞれの科目において大学院における学習および研究の基盤となる知識を修得し、これを応用科目および専修科目（修士研究）に実践していくことができるとともに、社会において化学あるいはバイオ技術者・研究者として活動していくための基盤とすることができる。

さまざまな研究分野における最先端とその技術的・社会的背景、および周辺知識を学ぶことで、科学技術研究の全体的な流れの中における自らの研究の位置づけとその社会的な意義を理解し、説明することができる。専修科目（修士研究）にこれらの知見を活かすことができる。

講義と実験・演習を連関させながら、自らの知識を深めることができるとともに、深く応用バイオ学あるいは応用化学を探究するために、知識と知恵を応用力および実践力として専修科目（修士研究）に生かしていくことができる。

●専修科目：
各研究科目において、深く応用バイオ学あるいは応用化学を研究していくことを目標とする。
①応用バイオ学あるいは応用化学の領域における自らの専門を深く探究できる。
②自らの研究の社会における位置づけを理解し、これを説明することができる。
③自ら研究計画を立案し、研究を進め、その成果を評価していくことができる。
④研究の遂行に必要な機器の操作や実験操作ができる。
⑤自らの研究の位置づけ、研究内容および成果を包括的に社会に対して公表していくことができる。

博士前期課程

1年次

前学期		後学期	
● 基礎生物機能学特論	②	● 基礎生化学特論	②
● 基礎バイオ情報特論	②	● 基礎無機・物理化学特論	②
● 基礎有機・高分子化学特論	②	● 基礎分析化学特論	②
● 分子生物学特論	②	● バイオ工学特論	②
● 無機機能化学特論	②	● ゲノム科学特論	②
● 量子化学特論	②	● 環境化学特論	②
● センシングマテリアルズ特論	②	● 有機・高分子機能化学特論	②
		● 有機化学特論	②
		● 材料化学特論	②
		● 環境化学工学特論	②
		● 細胞情報特論	②
● 酵素工学統合特論	④	● 細胞生物学特論	②
● 応用化学統合特論	④		
● コーオッププログラム	④	● コーオッププログラム	④
● コーオッププロジェクト	②	● コーオッププロジェクト	②
● バイオ・化学専攻特別講義Ⅰ	※		
● バイオ・化学専攻特別講義Ⅱ	※		
● バイオ・化学専攻特別講義Ⅲ	※		

※特別講義の単位数・開講期はその都度定める

1年次・2年次

● バイオ工学研究	⑫
● 生命情報システム研究	⑫
● 環境化学研究	⑫
● 有機・高分子機能化学研究	⑫
● 無機機能化学研究	⑫

博士後期課程

1年次

前学期		後学期	
● フロンティアバイオ・化学	②	● 企業価値とイノベーション	②
● リサーチインターンシップ	④		

1年次・2年次・3年次

● バイオ工学特殊研究	④
● 生命情報システム特殊研究	④
● 環境化学特殊研究	④
● 有機・高分子機能化学特殊研究	④
● 無機機能化学特殊研究	④

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Architecture 工学研究科 建築学専攻

工学研究科　建築学専攻の学位授与に関する方針

建築学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、建築学の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する建築学に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 建築学の知識を基盤とした、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、建築学分野の技術者として活躍できる能力

教育目標

建築学の広範な領域に関する知識を修得するとともに、建築学における主要領域である設計・意匠、都市・地域計画、空間構築、構造、環境・設備の中から、いずれかにおける高度な専門的知識を深め、人間社会と密接な関係を持つ建築学において、さまざまな視点から問題解決に適切に対処でき、社会の発展に貢献できる高度な建築技術者および研究者を育成する。

●建築学の広範な領域（設計・意匠、都市・地域計画、空間構築、構造、環境・設備）の知識を横断的に修得することにより、さまざまな視点から総合的に建築を分析し、考察する基礎的能力を身につけることができる。
●建築学の専門化された分野のいずれかにおける高度な専門的知識や技術を深めることにより、建築界の発展に貢献できる高度な技術者および研究者となるための専門的能力を高めることができる。
●広範な領域の知識の修得と専門分野の研究を同時に行うことにより、建築学の全体像が理解できるバランスの取れたスペシャリストとして、さまざまな視点から問題解決に適切に対処できる総合的能力を養うことができる。
●各授業での学習・研究成果の発表を、論理的かつ魅力的に行う努力を続けることにより、社会で求められるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を高めることができる。
●建築に関わるさまざまな知識や技術を総合化し、専門領域の異なる技術者とのコラボレーションで建築をつくり上げる能力を身につけるとともに、建築技術者の職能とその社会的使命を理解することができる。

科目群の主な学習・教育目標

●建築の立地条件の特徴を活かし、計画コンセプト・施設プログラムを組み立て、適切な空間構成や建築形態に発展させることができる。
●都市計画とその実践プロセスに関する知識を修得し、都市的視点で建築を考察し、設計・計画することができる。
●生態学的持続可能性の重要性を理解し、環境保全、修復、保存再生に関する知識を得ることができる。
●建築施工技術を包括的に理解し、建築構法に関する知識を得ることができる。
●プロジェクトを推進するために求められる環境計画、構造計画、施工技術、その他関連する技術の理解を深めることができる。
●人間と建築、建物相互、および周辺環境の空間を理解し、これらに適切なスケールと空間の質を与えることができる。

●建築の歴史、設計理論、また建築に関連する芸術・工学・人文科学などに関する知識を得ることができる。
●快適で安全な建築環境を実現するための建物性能技術に関する知識を得ることができる。
●建築関連産業、予算、法的制約等を理解し、総合的な視点で建築を設計し工事費管理を行う基礎的知識を得ることができる。
●文献・実地調査により、総合的に建築を分析・考察する能力を身につけることができる。
●さまざまな知識や技術を総合化し、社会が求める課題に対して建築的提案をすることができる。
●機能性・居住性・意匠性・維持管理性など、建築に求められる諸要求に応えた設計・計画をすることができる。
●研究成果を論文や作品にまとめ、その内容を論理的かつ魅力的に説明することができる。
●協働社会の一員として、建築の設計・計画全般を推進し調整する能力を養うことができる。
●建築設計・計画の職能とその社会的使命を理解することができる。
●学生・教員相互のコミュニケーションにより学習・研究・教育方法について研鑽を行う。
●学習・研究・教育方法について、学生・教員双方がそのプロセスや成果について意見交換を行い、教育研究プログラムの特徴が活かされるよう継続的な内容の見直しを行う。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 建築計画設計演習 ④	
	● 都市・空間デザイン特論 ②	
	● 建築情報特論 ②	
	● 建築生産特論 ②	● 建築意匠特論 ②
	● 建築環境設計演習 I ②	● 建築史特論 ②
	● 空間情報特論 ②	● 建築再生特論 ②
		● 景観論特論 ②
	● 建築構造計画演習 ④	● 建築環境設計演習 II ②
	● 建築構造解析特論 ②	
	● 建築設備特論 ②	● 建築構造設計演習 ③
	● 都市環境特論 ②	● 建築動的設計特論 ②
	● 木質構造特論 ②	● 建築材料特論 ②
		● 都市史特論 ②
	● コーオププログラム ④	● コーオププログラム ④
	● コーオププロジェクト ②	● コーオププロジェクト ②
	● 建築学専攻特別講義 ②	● 建築学専攻特別講義 ②
1年次・2年次	● 建築インターンシップ A ③	
	● 建築インターンシップ B ⑦	
	● 建築設計・意匠研究（修士設計） ⑫	
	● 建築設計・意匠研究（修士論文） ⑫	
	● 都市・地域計画研究 ⑫	
	● 空間構築研究 ⑫	
	● 建築構造研究 ⑫	
	● 建築環境・設備研究 ⑫	

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● 建築学特論 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● 建築設計・意匠特殊研究 ④	
	● 都市・地域計画特殊研究 ④	
	● 空間構築特殊研究 ④	
	● 建築構造特殊研究 ④	
	● 建築環境・設備特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Synthesized Engineering 工学研究科 高信頼ものづくり専攻

工学研究科　高信頼ものづくり専攻の学位授与に関する方針

高信頼ものづくり専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、総合工学（ものづくり）の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する総合工学（ものづくり）に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 総合工学（ものづくり）の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、総合工学（ものづくり）技術者として活躍できる能力

教育目標

産学連携を教育システムの中で体系化し、工学技術者として具体的な技術分野における調査・分析力、企画・立案能力、検証・解決能力、開発マネジメント力の４つの能力の向上を図る。これにより、「安全安心なものづくり」のプロフェッショナル・マネージャーとして、広い視野のもとでプロジェクト研究開発ができる高度専門技術者・研究者の養成を目指す。

科目群の主な学習・教育目標

高度専門応用能力
複合材料工学をベースとした総合的高度専門関連知識ならびに技術を吸収・修得するとともに、将来における「安全安心なものづくり」の発展に寄与・貢献できる。

高度システム化能力
関連分野あるいは異分野に関する技術分野にも積極的に挑戦し得る能力を身につけ、当該分野にて本専攻で修得した高度専門関連技術を応用でき、それを通じて新規技術の創成・開拓を可能にする能力を修得する。

技術分野および問題発見・解決能力
工学的諸問題に対して工学設計能力と研究開発能力を発揮しつつ、技術的課題を分析し、課題を設定・解決できるとともに成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

プロジェクト遂行能力
プロジェクト計画管理能力を養うとともにリーダーシップ能力を身につけることによって、多様な価値観を有する集団においても、その取りまとめや最終解を見出すことができる。

社会・人間関係スキルを修得した専門応用能力
技術者としての倫理観を養うとともに、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力を修得し、それに基づいた高度専門能力を発揮できる。

博士前期課程

	前学期	後学期
1年次	● 基礎有機・高分子化学特論 ②	● 基礎材料力学特論 ②
	● 複合材料生産技術 ②	● 複合材料工学特論 ②
	● 複合材料評価技術 ②	● 複合材料マトリックス総論 ②
	● データ解析特論−事例研究− ②	
		● 複合材料数値計算 ②
		● 分子シミュレーション ②
	● 高信頼ものづくり専攻統合特論 ④	
	● コーオッププログラム ④	● コーオッププログラム ④
	● コーオッププロジェクト ②	● コーオッププロジェクト ②
	● 高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅰ ②	
	● 高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅱ ②	
	● 高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅲ ※	
	※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	
1年次・2年次	● 革新的高信頼複合材料・構造システム基盤研究 ⑫（⑥）	
	● 安全安心な社会・システムに向けた計測技術研究 ⑫（⑥）	
	● 革新的高信頼複合材料プロセス基盤研究 ⑫（⑥）	
		1年制コース：6単位　2年制コース：12単位

博士後期課程

	前学期	後学期
1年次	● 高信頼ものづくり特論 ②	● 企業価値とイノベーション ②
	● リサーチインターンシップ ④	
1年次・2年次・3年次	● 革新的高信頼複合材料・構造システム特殊研究 ④	
	● 安全安心な社会・システムに向けたデバイス技術特殊研究 ④	
	● 安全安心な社会・システムに向けた計測技術特殊研究 ④	
	● 革新的高信頼複合材料プロセス特殊研究 ④	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　● 主要科目　● 特別科目　● 特殊研究 いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Graduate Program in Business Architecture 工学研究科 ビジネスアーキテクト専攻

工学研究科　ビジネスアーキテクト専攻の学位授与に関する方針

ビジネスアーキテクト専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（工学）の学位を授与する。
① 地域及び地球規模の視点から社会の諸問題を発見し、経営工学関連の分野の知識・技術を活用してそれらを解決できる能力
② 創造性を発揮する経営工学関連の分野に関する専門的能力とイノベーション創出能力
③ 経営工学関連の分野の知識を基盤として、世代・分野・文化を超えたコミュニケーション能力とリーダーシップ能力
④ 高い倫理観を持ち、経営工学関連の分野の専門家として活躍できる能力

教育目標

下記分野についてデータ収集・解析・仮説立案、実証研究を通して、経営システムおよび経営戦略を検討・立案でき、柔軟な発想を持ち、経営の知識があり、国際的に活躍することができる。
●市場動向を分析し、マーケティング戦略を立案することができる。
●ファイナンス分野の研究を進めることにより、企業の利益計画を策定することができる。
●IT技術をビジネスに活用し、Webシステムを活用したビジネスモデルを設計することができる。
●国際的なサプライチェーンを理解し、顧客価値の最大化とコスト最小化のためのサプライチェーンマネジメントシステムを企画・設計・運用管理することができる。

科目群の主な学習・教育目標	修士課程	前学期	後学期
経営活動を目標とプロセスおよび経営資源との関係から認識・分析し、目標達成のための計画法と実行法および計画実施結果の評価法を理解し、応用や運用することができる。	1年次	● 因果推論入門特論 ② ● 地理情報科学特論 ②	● 社会環境システム特論 ② ● 会計情報特論 ②
既存の経営活動を知識化し、Information and Communication Technology（ICT）を効果的に応用したり、ICTの特徴を活かした新たな経営活動をビジネスモデルとして創造することができる。	1年次	●分散コンピューティング特論1 ② ● 時空間情報システム特論 ②	● グローバル・テクノロジー特論 ② ● サプライチェーンマネジメント特論 ② ● 分散コンピューティング特論2 ② ● マーケティング戦略特論 ②
特定の経営課題を各分野の専門的視点で論理的に問題規定し、自らの創意工夫で挑戦的かつ創造的な解決法を提案し、口頭発表や論文で第三者を納得させることができる。	1年次	● サステナビリティ・ウェルビーイング特論 ② ● コーオププログラム ④ ● コーオププロジェクト ② ● ビジネスアーキテクト専攻特別講義Ⅰ ※ ● ビジネスアーキテクト専攻特別講義Ⅱ ※ ※特別講義の単位数・開講期はその都度定める	● コーオププログラム ④ ● コーオププロジェクト ②
	1年次・2年次	● マーケティング研究 ⑫ ● ファイナンス研究 ⑫ ● ネットビジネス研究 ⑫ ● サプライチェーンマネジメント研究 ⑫	

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）いずれか1科目を選択し、必修とする　○付数字は単位数を表す

6-12 Liberal Arts and Professional Development Program 工学研究科 専攻共通

教育目標

工学専門領域の枠を超えて、高度専門職業人として必要な広範な教育（教養教育やビジネス・経済関連教育を含む）、人間力の育成、および専門能力開発（Professional Development）を行うとともに、工学研究科における修学・研究に資する基礎科学・自然科学領域の教育を行う。また、必要に応じて、専攻に共通して関心の高い先端技術、複合領域、最新の研究開発状況などに関する教育を実践する。

科目群の主な学習・教育目標

科学技術倫理科目
科学技術者が研究・開発・実践において重視すべき価値について説明でき、科学技術に関連する倫理問題について具体的な例をあげながら、解説できる。

ビジネス系科目
金利などにかかわる理論、金融政策、資金調達と運用の理論など、エンジニアとして必要な金融知識を持ち、説明できる。また、企業の価値生産活動の過程において、原価を認識・測定・記録・報告できるとともに、対処方法について検討できる。技術者の素養として、国際的な視野に立ち企業およびビジネス活動を理解することができる。

一般科目
科学技術に関する諸問題を数学的な手法を用いて解析し理解できる。また、確率統計的な概念を身につけ実際的問題に適用できる。
さらに、日本語または英語で論理的かつ正式な書式に則った文章で研究の成果を表現できる。

博士前期（修士）課程

	前学期	後学期
1年次	プロフェッショナルとしての倫理と行動設計A ①	
	プロフェッショナルとしての倫理と行動設計B ①	
	エンジニアのための簿記実践特論 ②	エンジニアのための簿記実践特論 ②
		イノベーション特論Ⅰ ①
		ビジネス戦略特論Ⅰ ①
		ビジネス戦略特論Ⅱ ①
	工学のための確率・統計Ⅰ ①	基礎解析学特論A ①
	工学のための確率・統計Ⅱ ①	基礎解析学特論B ①
	日本語テクニカルコミュニケーション ②	先端技術と科学A ①
	イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅠ ①	先端技術と科学B ①
	イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅡ ①	日本語テクニカルコミュニケーション ②
	専攻共通特別講義Ⅰ ①	イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅠ ①
		イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅡ ①
		国際標準化概論Ⅰ ①
		国際標準化概論Ⅱ ①

○付数字は単位数を表す

高信頼ものづくり専攻　博士前期課程（1年制コース）は除く。

大学院のカリキュラム

The Graduate School of Psychology

心理科学研究科

大学院および研究科の目的

金沢工業大学大学院は、金沢工業大学の建学綱領と人材育成の使命に従い、専門的な学術の理論および応用を教授研究し、創造性豊かで優れた研究・開発能力を有する研究者等の養成と高度な専門的知識・能力を有する専門職業人の養成を行い、我が国の科学技術並びに文化の進展に寄与することを目的とする。

心理科学研究科は、人間の精神健康の保持・増進に貢献し得る研究者または心理臨床家を養成することを目的とする。

大学院心理科学研究科におけるポリシー

KIT大学院心理科学研究科の教育・研究に関する基本理念は、人間力豊かで「臨床実践力の基礎を身につけ、臨床心理学的諸現象を科学的に捉える力を持った社会に役立つ心理臨床家」を育成することにあり、そのための各ポリシーは以下の通りです。

○修士課程

・ディプロマ・ポリシー

心理科学研究科では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士の学位を授与する。

①保健医療、福祉、教育その他の分野において必要とされる、臨床実践の基礎的能力
②臨床心理学的諸現象を包括的に捉える能力
③臨床心理学の知識を基盤とした、あらゆる人とのコミュニケーション能力
④支援を必要とする者、関係者、組織および社会のニーズを捉える能力
⑤高い倫理観を持ち、自己研鑽を継続できる能力

・カリキュラム・ポリシー

心理科学研究科ではDPの達成のため、リサーチワークとしての「専修科目」とコースワークとしての「関係科目」によって教育課程を編成する。

心理科学研究科では「専修科目」において研究室でのリサーチワークやゼミ活動をはじめ、産官学連携や地域連携の活動、専門学協会や学内審査会での成果発表などを通じて、学位授与方針で求める能力の育成を図る。その成果としての修士論文公聴会において、学位授与方針で求める全ての能力の修得を確認する。また、学位授与方針で求める能力をより一層高めるために「関係科目」を配置し、それらの学修成果を厳正に評価して単位を認定する。関係科目には、実習科目をはじめとする心理専門職養成に必要な科目群が含まれている。

6-13 Graduate Program in Clinical Psychology 心理科学研究科 臨床心理学専攻

心理科学研究科　臨床心理学専攻の学位授与に関する方針

臨床心理学専攻では、以下の能力を身につけ、修了要件を満たした大学院生に修士（心理学）の学位を授与する。
① 保健医療、福祉、教育その他の分野において必要とされる、臨床実践の基礎的能力
② 臨床心理学的諸現象を包括的に捉える能力
③ 臨床心理学の知識を基盤とした、あらゆる人とのコミュニケーション能力
④ 支援を必要とする者、関係者、組織および社会のニーズを捉える能力
⑤ 高い倫理観を持ち、自己研鑽を継続できる能力

教育目標

社会に役立つ心理臨床家、および、科学的素養を有した心理臨床家を育成することを目標にしている。そのため、臨床心理学や関連科学の知識の修得と同時に、専修科目における修士論文の作成、さらに、カウンセリングや心理療法（臨床心理学的介入）の基礎、心理検査の実施と解釈を含む臨床心理査定の基礎、臨床心理学的地域援助の実際を、役割演技や、付属の臨床心理センターをはじめとする学内外の実習施設において修得することが課せられる。

修士課程

	前学期		後学期	
1年次	● 臨床心理学の心構え	②	● 臨床心理面接特論Ⅱ	※②
	● 臨床心理学特論Ⅰ	※②	● 臨床心理学特論Ⅱ	※②
	● 臨床心理面接特論Ⅰ	※②	● 臨床心理査定演習Ⅱ	※②
	● 認知心理学特論	②	● 産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	②
	● 臨床心理査定演習Ⅰ	※②	● 心理療法特論Ⅰ	②
	● 心理学研究法特論	②	● 学習心理学特論	②
	● 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ）	②	● 精神薬理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ）	②
	● ポジティブ心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	②		
	● 臨床心理基礎実習	※②		
	● 臨床心理実習（心理実践実習）Ⅰ	⑤		
2年次	● 臨床心理実習（心理実践実習）Ⅱ	⑩		
	● 臨床心理実習Ⅲ	※②		
	● 臨床心理査定演習Ⅲ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	②	● 心理療法特論Ⅲ（心理支援に関する理論と実践）	②
	● 心理療法特論Ⅱ	②	● 臨床心理地域援助特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	②
	● 社会病理学特論	②	● 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	②
	● 親子関係特論	②	● 司法心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	②
	● 福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	②		
1年次・2年次	● 臨床心理学研究	⑧		

● 関係科目　● 専修科目（修士研究）　○付数字は単位数を表す

臨床心理士養成カリキュラムの主要科目（表中の※印を付した科目）について、他の専攻の学生は履修できない。

CHAPTER 7
規則集

7-1 学部

金沢工業大学学則

第1章　目的

(大学の目的)

第1条　金沢工業大学(以下「本学」という。)は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める本学園の建学の精神並びに教育基本法及び学校教育法に基づき、工業に関する深い専門的教育を授け、教養と識見の豊かな人材を養成することを目的とするとともに、我が国の工業の発展と地域社会の開発に寄与するものとする。

(自己点検評価及び研修等)

第1条の2　本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命の達成と、学修者本位の教育の実現に向けた教育研究活動等の状況について3つのポリシー(学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受け入れの方針)に基づく自己点検・評価、第三者評価並びに積極的な情報公開を通じて授業の内容及び方法の改善と組織的な研修及び研究を行うものとする。

第2章　学部、学科、収容定員及び目的

(学部、学科及び収容定員)

第2条　本学の学部、学科及び収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
情報デザイン学部		
経営情報学科	60名	240名
環境デザイン創成学科	40名	160名
計	100名	400名
メディア情報学部		
メディア情報学科	140名	560名
心理情報デザイン学科	60名	240名
計	200名	800名
情報理工学部		
情報工学科	120名	480名
知能情報システム学科	120名	480名
ロボティクス学科	80名	320名
計	320名	1,280名
バイオ・化学部		
環境・応用化学科	70名	280名
生命・応用バイオ学科	70名	280名
計	140名	560名
工学部		
機械工学科	120名	480名
先進機械システム工学科	60名	240名
航空宇宙工学科	60名	240名
電気エネルギーシステム工学科	100名	400名
電子情報システム工学科	100名	400名
環境土木工学科	80名	320名
計	520名	2,080名
建築学部		
建築学科	100名	400名
建築デザイン学科	100名	400名
計	200名	800名
合計	1,480名	5,920名

(学部・学科の目的)

第2条の2　第1条の目的にかんがみ、本学の教育目標を「自ら考え行動する創造的探究・実践人材の育成」に定め、設置する学部及び学科にあっては、次項から第7項までに定めるところに従い、社会において確かな技術者としての高い倫理観を備えた人材を養成する。

2 情報デザイン学部は、情報技術から社会環境へアプローチするDXやGXを推進し、持続可能な社会や環境の在り方をデザインできる人材を養成する。さらに、工学的・技術的、生活者視点でのアプローチから社会・地域・環境などに関する課題に対して、多様な課題を俯瞰的かつ具体的に捉え直して、合意形成に導けるグランドデザインを描き、実行計画を立案して実施できる人材を養成する。

(1) 経営情報学科は、社会の構成要素である人の多面性に起因する様々な課題、特に工学的・技術的視点だけでは十分には解決できない課題に対して、人・もの・カネ・情報の関係性をもとに本質的な特徴や構造を見抜き、情報技術やデータを活用して課題解決に向けた活動を継続実行できる人材を養成する。

(2) 環境デザイン創成学科は、地域から地球規模に及ぶ様々な課題、特に工学的・技術的視点だけでは十分には解決できない課題に対して、ステークホルダーの背景にある多様な文化・歴史なども含めた深い探究を行い、文理融合と探究の視点から実現可能かつ持続可能な解決策をデザインすることによって、地域の身近な問題を具体的に解決することができる人材、さらには、望ましい社会システムの制度設計ができる人材、様々な環境に関する複合的な課題の解決が可能であるような新しいビジネスをデザインできる人材などを養成する。

3 メディア情報学部は、情報テクノロジーを基盤とし、メディアとデザイン及びアートを融合したコンテンツやサービス及びシステムを創出するメディア情報学とシステム設計、それらを通して人の心のはたらきや感性を科学的に測定・評価するための技術としてデータサイエンスなどの情報技術を用いて、もの・コトづくりへ応用する心理情報学によるアプローチから、人を中心とした社会で希求される新たな価値を創出できる人材を養成する。

(1) メディア情報学科は、情報テクノロジー、メディアとデザイン及びアートを融合したコンテンツやWebサービス、それらを提供するシステムを企画・開発できる人材を養成する。

(2) 心理情報デザイン学科は、心の測定・評価技術、脳における情報処理と神経の仕組みから心のはたらきを学び、デザインと感性の観点から、もの・コトづくりや臨床場面に応用できる人材を養成する。

4 情報理工学部は、コンピュータサイエンスを基盤とした情報工学、AI(人工知能)・データサイエンス・数理工学を基盤とした知能情報システム、加えて情報工学と知能情報システムを活用しながら、もの・コトづくりを実現するロボティクスを幅広く学び、高度情報化社会を支えさらに発展させることができる人材を養成する。

(1) 情報工学科は、コンピュータサイエンスを十分に理解した上で、ハードウエア・ソフトウエアの技術やネットワーク関連技術等を探究・活用し、それらの技術を応用することで高度情報化社会を支え発展させる人材を養成する。

(2) 知能情報システム学科は、AI(人工知能)・データサイエンス・数理工学を基盤とした知能情報システムに関する技術を探究・活用し、人と知的な情報システムが共存する高度情報化社会の実現に寄与できる人材を養成する。

(3) ロボティクス学科は、情報技術からものづくり技術まで総合的に修得し、制御技術やAI技術を活用できるロボティクス技術者として、分野横断的に高度情報化社会において活躍できる人材を養成する。

5 バイオ・化学部は、生命科学、生命情報、バイオテクノロジー、地球環境、人間環境、機能素材などを基盤とした新しい産業分野を支え、その未来を切り拓くことができる人材を養成する。

(1) 環境・応用化学科は、環境化学及び有機・バイオ物質化学と無機物質化学とを融合した機能化学の分野において、持続成長可能な未来を切り拓いていくことができる人材を養成する。

(2) 生命・応用バイオ学科は、生命情報、生命科学及びバイオ工学を基盤とした新しい産業構造を支える人材を養成する。

6 工学部は、機械・電気電子・土木の基盤と技術をそれぞれ学び、情報技術(DX)の活用方法を修得し、脱炭素社会への実現(GX)を目指し、カーボンニュートラルを実現できる、これからのものづくり人材を養成する。

(1) 機械工学科は、ものづくりの基盤となる機械工学・材料工学・機械設計分野を中心とする産業において、グリーン社会の実現に貢献できるものづくり人材を養成する。

(2) 先進機械システム工学科は、機械工学と材料力学、流体力学、熱力学、機械設計等の基礎を学び、情報技術(DX)を活用して、新しい生産システム技術、加工プロセス技術等、スマートな生産システムと先進的な製造技術を開発できる人材を養成する。

(3) 航空宇宙工学科は、機械系技術者として、航空宇宙工学に係わる分野において活躍できる人材を養成する。

(4) 電気エネルギーシステム工学科は、社会を支える電気、エネルギー分野において、電気工学を基盤とした脱炭素社会の実現(GX)のため、電気の基礎から応用、さらに発電・送電技術から電気機器開発に至る過程で、情報技術(DX)が活用できる人材を養成する。

(5) 電子情報システム工学科は、カーボンニュートラルの実現に向けたエレクトロニクス分野において、電子工学及び情報通信工学を基盤とした脱炭素社会の実現(GX)のため、通信・電波技術の基礎から応用、さらに半導体エレクトロニクス分野で活躍できる人材を養成する。

(6) 環境土木工学科は、地域から国土に至る環境を構築し、市民生活の持続的な発展を創造できる人材を養成する。

7 建築学部は、インテリア・住居から都市スケールまでを対象に、地域特性を踏まえ、安全で快適かつ持続可能な建築・都市空間を計画・提案できる人材を養成する。

(1) 建築学科は、安全で快適な構造を追究した建築や都市を計画し、建築DXの活用と持続可能な社会の実現(GX)を目指して、人と建築、建築と環境・社会との調和と共生に貢献できる人材を養成する。

(2) 建築デザイン学科は、美しく機能的なデザインを追究した建築や都市を計画し、建築DXの活用と持続可能な社会の実現(GX)を目指して、人と建築、建築と環境・社会との調和と共生に貢献できる人材を養成する。

第3章　教職員組織

(教職員)

第3条　本学には学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務局長、事務職員を置き、すべての教職員が協働するものとする。

2 本学には前項のほか、副学長、基礎教育部長、学長補佐、その他必要な教職員を置くことができる。

3 学長は、学務を統括し、教員の服務についてこれを統督する。

4 副学長は、学長を助け、命を受けて学務をつかさどる。

5 学部長は、学部に関する学務を掌理する。

6 基礎教育部長は、第17条に定める修学基礎教育課程、英語教育課程、数理・データサイエンス・AI教育課程及びプロジェクトデザイン基礎教育課程に属する教員をもって組織する基礎教育部に関する学務を掌理する。

7 学長補佐は、学長から依頼された業務をつかさどる。

8 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

9 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

10 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

11 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

12 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

13 事務局長は、学長を補佐し、学務に関する事務を統理する。

14 事務職員は、事務局長の命を受けて事務を行う。

(教育研究会議)

第4条　本学に教育研究の重要事項を審議する機関として教育研究会議(以下「会議」という。)を置く。

2 会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 副学長

(3) 学部長、基礎教育部長、研究科長、学長補佐、その他の重要な教育研究組織の長又はこれに準ずる者のうちから、学長が指名する者

(4) その他学長が指名する職員

3 会議は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 教育研究の質の向上に係る基本的な計画に関する事項

(2) 学則その他教育研究に係る重要な規則等の制定又は改廃に関する事項

(3) 教学マネジメントに関する事項

(4) 教員の教育研究業績の審査及び教員人事に関する事項

(5) 学位授与の方針に関する事項

(6) 教育課程の編成・実施の方針に関する事項

(7) 入学者受け入れの方針に関する事項

(8) 卒業又は課程の修了その他学生の在籍に係る方針に関する事項

(9) 学生の厚生及び補導に関する方針に係る事項

(10) 教育研究の状況について、本学が行う点検及び評価に関する事項
(11) 理事会から付議又は諮問された事項
(12) その他学長が必要と認める事項
4 会議の運営については、別に定める金沢工業大学教育研究会議運営規則による。
(教授会)
第4条の2　本学に教授会を置く。
2 教授会は、本学の専任教授の全員をもって構成する。
3 教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(2) 学位の授与に関する事項
(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
4 教授会は、前項に定めるもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
5 教授会の運営については、別に定める金沢工業大学教授会運営規則による。
第4条の3　削　除

第4章　修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限及び在学期間等)
第5条　学部の修業年限は、4年とする。
2 在学期間は、8年を超えてはならない。
3 現に学部に在籍する者は、その間、他の大学、大学院等に在籍することはできない。
(学年及び学期)
第6条　学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
2 学年は、次の2学期に分ける。
前学期　4月1日から9月30日まで
後学期　10月1日から翌年3月31日まで
3 前項の学期の開始日及び終了日については、学長は臨時に変更することができる。
4 各学期の授業実施日等は、別に定める学年暦による。
5 学長は、自然災害や感染症等のやむを得ない事由により長期にわたり授業の実施が困難な場合は、授業実施日等を臨時に変更することができる。
(休業日)
第7条　休業日は、次のとおりとする。ただし、必要あるときは、学長は臨時に休業日を設けることができる。
(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律に定める休日
(2) 創立記念日　6月1日
(3) 夏期休業
(4) 冬期休業
(5) 春期休業
2 前項の第3号から第5号の休業日については、学年暦により定める。
3 前各項の休業日については、学長は臨時に変更することができる。

第5章　入学、休学、転学部・転学科、留学、退学及び除籍

(入学の時期)
第8条　入学の時期は、学年の始めとする。
(入学の資格)
第9条　本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
(3) 文部科学大臣の定めるところにより、前2号と同等以上の学力があると認められた者
(4) 文部科学大臣の定めるところにより、高等学校に2年以上在学した者(これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。)であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認める者
(入学出願及び入学者の選考)
第10条　入学を志願する者は、入学願書に所定の書類と検定料を添えて、所定の期間内に学長に願い出なければならない。
2 前項の入学志願者については、入学者受け入れの方針に基づき別に定めるところにより選考を行う。
(再入学及び編入学)
第11条　本学に再入学又は編入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、相当年次への入学を許可することができる。
2 前項の再入学及び編入学については、別に定める金沢工業大学再入学及び編入学に関する規則による。
(入学許可)
第12条　合格の通知を受けた者は、指定された期日までに入学金を納入しなければならない。
2 学長は、入学金の納入を完了した者に入学を許可する。
3 入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書及びその他所定の書類を提出しなければならない。
(休学及び復学)
第13条　病気その他やむを得ない理由により、修学を中断しようとする者は、学長の許可を得て休学することができる。
2 休学は学期単位とし、休学しようとする者は、学期ごとに理由を付して学長に願い出なければならない。
3 休学期間は、通算して2学期間を超えることはできない。ただし、特別な理由により学長が許可した場合はこの限りでないが、通算して6学期間を超えることはできない。
4 休学期間は、在学期間に算入しない。
5 学長は、特殊な病気又はその他の理由によって、修学することが適当でないと認められる者には、休学を命ずることができる。
6 休学期間が満了した者は、学長の許可を得て復学することができる。
7 休学及び復学の取扱いについては、別に定める休学・復学の手続に関する規程による。
第14条　削　除

(転学部・転学科)
第14条の2　所属学部、学科から他の学部、学科又は同一学部の他の学科へ転学部、転学科を志願する者があるときは、学長は、選考の上、相当年次に転学部、転学科を許可することができる。
2 前項の転学部及び転学科については、別に定める金沢工業大学転学部・転学科に関する規程による。
(留学)
第14条の3　外国の大学へ留学を志願する者は、本学が教育上有益と認めたときに限り、休学することなく、留学することができる。
2 前項による留学に関する必要な事項は、別に定める金沢工業大学派遣留学規程による。
(退学)
第15条　退学しようとする者は、理由を付して学長に許可を願い出なければならない。
(除籍)
第16条　次の各号のいずれかに該当する学生は除籍する。
(1) 第27条に定める学校納入金を滞納し、督促を受けても納入しない者
(2) 第5条第2項に定める在学期間を超えた者及び同条第3項の定めに従わない者
(3) 病気又はその他の理由により、成業の見込みがないと認められる者
(4) 第13条第3項に規定する休学期間を超えた者
(5) 休学期間満了の後、所定の手続をしない者
(6) 長期間にわたり行方不明の者

第6章　教育課程

(教育課程の編成)
第17条　本学の教育課程は、修学基礎教育課程、英語教育課程、数理・データサイエンス・AI教育課程、プロジェクトデザイン基礎教育課程、専門教育課程及び国際教養理工学課程に分け編成する。
(科目区分の構成)
第17条の2　本学の授業科目は、修学基礎教育課程から提供する「修学基礎科目」「人間形成基礎科目」、英語教育課程から提供する「英語科目」、数理・データサイエンス・AI教育課程から提供する「数理基礎科目」、プロジェクトデザイン基礎教育課程から提供する「基礎プロジェクト科目」、専門教育課程から提供する「専門科目」「専門プロジェクト科目」及び「その他」、並びに前記の全ての教育課程及び国際教養理工学課程から提供する「リベラルアーツ系科目」をもって構成する。
(授業科目の区分及び教育課程表)
第18条　授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、原則として全学年にわたって配列するものとする。
2 授業科目の単位数と週授業時間数は、別表第1の教育課程表にこれを掲げる。
(教育職員免許状)
第18条の2　教育職員免許状の取得を希望する者のために、教育職員免許法に基づき、別表第2の教職に関する科目を置く。
2 各学部の学科において教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得すれば、それぞれ次の教育職員免許状授与の所要資格を取得することができる。

学部	学科	教育職員免許状の種類及び教科
情報デザイン学部	経営情報学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(情報)
	環境デザイン創成学科	高等学校教諭一種免許状(情報)
メディア情報学部	メディア情報学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(情報)
	心理情報デザイン学科	高等学校教諭一種免許状(情報)
情報理工学部	情報工学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(情報) 中学校教諭一種免許状　(数学)
	知能情報システム学科	高等学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(情報) 中学校教諭一種免許状　(数学)
	ロボティクス学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
バイオ・化学部	環境・応用化学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(理科) 中学校教諭一種免許状　(理科)
	生命・応用バイオ学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(理科) 中学校教諭一種免許状　(理科)
工学部	機械工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	先進機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	航空宇宙工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	電気エネルギーシステム工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	電子情報システム工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	環境土木工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
建築学部	建築学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	建築デザイン学科	高等学校教諭一種免許状(工業)

第7章　履修及び単位

(履修要件)
第19条　授業科目の履修については、第17条の2に定める各課程に提供される次の各号に示す科目区分ごとに所定の単位数を履修し、全ての必修科目を含め、124単位以上を修得しなければならない。
(1) 修学基礎科目については、4単位
(2) 人間形成基礎科目については、9単位
(3) 英語科目については、8単位
(4) 数理基礎科目については、11単位
(5) 基礎プロジェクト科目については、10単位
(6) 専門科目については、60単位
(7) 専門プロジェクト科目については、10単位
(8) リベラルアーツ系科目については、12単位
(単位計算の基準)
第20条　1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
(1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
(2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
(3) 各授業科目の授業は、15週の期間にわたって行われるものとす

る。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この限りではない。

(履修方法)

第21条　学生は、授業時間割等により、各自の履修すべき科目を定め、指定された期間内に、所定の履修申請手続により履修許可を得なければならない。

(履修科目の登録の上限)

第21条の2　卒業の要件として修得すべき単位数について、学生が各年次にわたり適切に授業科目を履修することができるようにするため、1年間又は1学期に登録することができる履修科目の単位数(以下「登録単位数」という。)の上限は、別に定める。

2　前項の規定にかかわらず、優れた成績をもつて単位を修得した学生等については、別に定めるところに従い、登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

3　前2項について必要な事項は、別に定める履修科目の登録の上限に関する規程による。

第22条　削　除

(大学院科目の履修)

第22条の2　学生は、必要に応じ許可を得て金沢工業大学大学院修士課程及び博士前期課程の授業科目(以下「大学院科目」という。)を履修することができる。

2　履修することができる大学院科目は、金沢工業大学大学院学則第22条に定める別表(1)の関係科目とする。ただし、関係科目に含まれる科目であっても、履修することができる科目を制限することがある。

3　大学院科目の履修を許可された学生は、金沢工業大学大学院において科目履修学部生という。

4　科目履修学部生として修得した大学院科目の単位は、卒業に必要な単位数に含めない。

(教室等以外の場所での履修)

第22条の3　第20条に定める講義、演習、実験、実習及び実技による授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。

2　前項に規定する授業方法により修得する単位は、60単位を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

第8章　成績評価及び単位認定

(成績評価)

第23条　成績は、100点を満点とする総合評価点数により評価するものとし、総合評価点数と評語の対応及び判定は、別表第4のとおりとする。

2　前項の規定にかかわらず、成績の評価を前項の規定により行うことが適当でない授業科目については、成績の評価を合格及び不合格の判定のみで行うものとし、この場合において、合格は合、不合格は否の評語を用いることができるものとする。

3　第24条の2、第24条の3及び第24条の4の規定により単位を認定された場合の成績の評語はNとする。

(単位認定)

第24条　履修科目の成績が合格と評価された者には、その科目の修了を認め、所定の単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第24条の2　本学が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第24条の3　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修並びに本学が認める語学学校での学修を本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第24条の4　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目により修得したものとみなすことができる。

2　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより、単位を与えることができる。

3　前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、再入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第24条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本学で修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第9章　卒業

(卒業要件及び学士の学位)

第25条　本学を卒業するには、学位授与の方針を満たすために、4年在学し、かつ、第19条に定める単位を修得し、人間と自然科目に合格をしなければならない。

2　前項の卒業要件を満たした者には、教授会の意見を聴いて、学長が学士の学位を授与する。

3　前項の学位には、学部ごとに次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。

情報デザイン学部	学士(情報)
メディア情報学部	学士(情報)
情報理工学部	学士(工学)又は学士(理工学)
バイオ・化学部	学士(理工学)
工学部	学士(工学)
建築学部	学士(工学)

4　前2項の学位及び学位の授与については、本学則のほか、別に定める金沢工業大学学位規則による。

(早期卒業)

第25条の2　本学に3年以上在学(学校教育法施行規則第149条の規定に該当する者を含む。)し、卒業の要件として学部の定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者について、第5条第1項及び前条第1項の規定にかかわらず、学長は教授会の意見を聴いて卒業を認めることができる。

2　前項の早期卒業に関する事項は、別に定める。

第10章　修学規程

(修学規程)

第26条　教育課程、履修と単位、成績評価と単位認定及び卒業等については、本学則で定めるほか、金沢工業大学修学規程の定めるところによる。

第11章　検定料、入学金及び授業料等学校納入金

(学校納入金)

第27条　本学則において学校納入金とは、検定料、入学金、授業料、履修料及び在籍料をいう。

2　本学則に定めるもののほか、学校納入金の取扱いについては、学校法人金沢工業大学学校納入金収納取扱規程の定めるところによる。

(検定料)

第28条　入学を志願する者の検定料は、3万円とする。ただし、本学の入学試験を複数回にわたり受験する場合にあっては、検定料を一部減額することがある。

2　前項の規定にかかわらず、大学入学共通テストを利用し入学を志願する者の検定料は、2千円とする。

(入学金)

第29条　入学金は、別表第7に掲げるとおりとする。

(授業料及び在籍料)

第30条　授業料は、別表第5に掲げるとおりとし、在学する学期に該当する額を、第6条第2項に規定する学年の学期ごとに、次に定める期日までに納入しなければならない。ただし、前学期分の納入時に年額を一括して納入することができる。

前学期　4月1日
後学期　10月1日

2　休学を認められた者の当該休学期間に相当する学期の授業料は、これを徴収しない。ただし、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。

3　在籍料は1学期につき3万円とする。

4　休学した者が復学するときの授業料は、その者の入学時に定められた当該学期の授業料の額とする。

第31条　削　除

(学校納入金の返還)

第32条　納入された全ての学校納入金は、返還しない。

2　前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料を返還する。

(1) 入学を許可された者が、所定の手続により3月31日までに入学辞退を申し出、かつ既に授業料を納入している場合
(2) 休学を認められた者が、休学する学期の授業料を既に納入している場合
(3) 退学又は除籍となった者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合
(4) 年度の途中で卒業を認定された者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合

(特別の場合の学校納入金)

第33条　学期の途中での退学又は除籍となった者の当該学期の授業料は、これを徴収する。

2　協定校との交換留学が認められた者の留学期間中の学校納入金は、当該協定校との協定に基づき取り扱うものとする。

3　停学を命ぜられた者の停学期間中の授業料は、これを徴収する。

4　災害により経済的に修学が困難となった学生に対しては、別に定めるところに基づき授業料を減免することができる。

第12章　削　除

第34条～第44条　削　除

第13章　大学院、図書館及び研究所

(大学院)

第45条　本学に大学院を置く。

2　大学院については、別に定める。

(図書館、研究所及び付属施設)

第45条の2　本学に図書館、研究所及びその他教育研究に必要な施設を置く。

2　図書館、研究所及びその他教育研究に必要な施設については、別に定める。

第14章　科目等履修生、特別聴講学生、研究生、外国人留学生及び社会人共学者

(科目等履修生)

第46条　本学の学生以外の者が、特定の授業科目について履修することを希望するときは、本学の教育研究に支障のない限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

2　科目等履修生のうち、履修する授業科目について単位の取得を希望しない者を聴講生という。

3　科目等履修生について必要な事項は、金沢工業大学科目等履修生規程に定めるところによる。

(特別聴講学生)

第46条の2　本学の学生以外の者が、協定等に基づき特定の授業科目について履修することを希望するときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、特別聴講学生として受け入れることができる。

2　特別聴講学生に関する取扱いその他必要な事項については、当該協定又は関係諸規則等の定めるところによる。

（研究生）
第47条　本学の学生以外の者が、本学において、特定の専門事項について研究することを希望するときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
2　研究生について必要な事項は、金沢工業大学研究生規程に定めるところによる。
（外国人留学生）
第48条　外国人であって、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を希望するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。
2　外国人留学生について必要な事項は、金沢工業大学外国人留学生規程に定めるところによる。
（社会人共学者）
第49条　本学の学生以外の者で、科目担当者又は企業等から推薦された者が特定の授業科目について参加することを希望するときは、選考の上、社会人共学者として受け入れることができる。
2　社会人共学者について必要な事項は、金沢工業大学社会人共学者規程に定めるところによる。
3　社会人共学者のうち、履修する授業科目について単位の取得を希望する者は、金沢工業大学科目等履修生規程に定めるところによる。
第50条　削　除
第51条　削　除
第52条　削　除

第15章　賞罰

（表彰）
第53条　学長は、学生として表彰に価する行為があった者について表彰する。
（懲戒）
第54条　学長は、本学の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者について懲戒する。
2　前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
3　次の各号のいずれかに該当する者は、退学に処するものとする。
(1) 性行不良で改善の見込みがない者
(2) 学業を怠り、成業の見込みがない者
(3) 正当な理由なくして出席が常でない者
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第16章　公開講座

（公開講座）
第55条　本学に公開講座を開講することができる。

附　則

1　この学則は昭和40年4月1日から施行する。
2　この学則改正条項は昭和42年4月1日から施行する。
（3～56は省略する）
57　この学則は、令和3年4月1日から改正施行する。
58　この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
59　この学則は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。
60　この学則は、令和6年4月1日から改正施行する。
61　この学則は、令和7年4月1日から改正施行する。
62　この学則は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表第1　教育課程表（第18条関係）
別表第2　教職に関する科目（学部共通）（第18条の2関係）
以上の別表第1～2については、p.253からの「教育課程表」の項を参照。

別表第3　削　除

別表第4　総合評価点数と評語の対応及び判定（第23条関係）

総合評価点数	評語	判定
100点～90点	S（秀）	合格
89点～80点	A（優）	
79点～70点	B（良）	
69点～60点	C（可）	
59点～0点	D（成績不良）	不合格
―	F（出席不良等）	

別表第5　授業料（第30条関係）

授業料（1学期当たり）	入学後の8学期	入学後の8学期を超えて在学する学期
情報デザイン学部 メディア情報学部	657,500円	328,750円
情報理工学部 バイオ・化学部 工学部 建築学部	757,500円	378,750円

別表第6　削　除

別表第7　入学金（第29条関係）

入学金（右各欄の場合を除く）	金沢工業高等専門学校及び国際高等専門学校卒業生	再入学
200,000円	100,000円	0円

金沢工業大学修学規程

（趣旨）
第1条　この規程は、金沢工業大学学則（以下「学則」という。）第26条の規定に基づき、修学に関して必要な事項を定める。
第2条　削　除
第2条の2　削　除
（授業時間割）
第3条　授業時間割は、毎学期の始めに発表する。
（授業科目の履修）
第4条　授業科目を履修しようとする者は、所定の手続により、指定された期日までに履修の申請を行ない、当該授業科目についての履修の許可を得なければならない。不合格その他の理由により、再度同じ授業科目を履修するときも同様とする。
2　一の授業科目について、予定する人数を超える履修の申請があった場合は、履修許可を制限することがある。
3　学則別表第1教育課程表において上位学年に配当されている授業科目は履修することができない。ただし、前の学期までの累積GPAが3.00以上の者は、教務部長の許可を得て履修することができる。
4　他の学科の専門教育課程（専門プロジェクト科目は除く。）の授業科目の履修を希望するときは、当該授業科目の担当教員の許可がある場合に限り履修の申請を行うことができる。
5　履修の申請は、既に単位を修得した授業科目についても行うことができる。ただし、履修を許可された時点で当該授業科目についての既修得単位と成績評価は取り消される。
（大学院授業科目の履修）
第4条の2　学則第22条の2に基づく大学院科目（各専攻の関係科目及び専攻共通科目）の履修は、プロジェクトデザインⅢの指導教員が認めたものに限り履修することができる。
2　大学院科目の履修を希望する者は、所定の手続により、指定の期日までにプロジェクトデザインⅢの指導教員の承認を得て履修申請を行わなければならない。ただし、当該授業科目に予定する人数を超える履修の申請があった場合は、履修の許可を制限することがある。
3　履修することができる大学院科目は、16単位以内とする。
4　大学院科目の単位を修得した者が、金沢工業大学大学院修士課程又は博士前期課程に進学したときは、所定の手続により、当該大学院科目の単位の全部又は一部について、大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
（進級）
第4条の3　別表第1に掲げる進級条件を満たさない者は、現年次に留めおく。
2　別表第1に掲げる修得単位数には、学則別表第1教育課程表の専門教育課程「その他」及び学則別表第2教職に関する科目の単位は含めない。
3　4年次に進級できない者は、再度「専門ゼミ」を履修しなければならない。
第5条　削　除
第5条の2　削　除
（出席）
第6条　学生は、授業に出席するときは、常に学生証を携帯しなければならない。
2　次の各号による欠席は、公認された事由による欠席（以下「公認欠席」という。）として出席とみなす。
(1) 忌引
父母：7日間
祖父母又は兄弟姉妹：3日間
おじおば：1日間
(2) 就職活動
(3) 対外試合又は行事などへの参加
(4) 学校保健安全法に定める伝染病
(5) 公共交通機関の途絶及び遅延
(6) 教育職員免許状取得のための実習などへの参加
(7) 学協会等での成果発表
(8) その他学長が認めた事由
3　公認欠席の取扱いについて必要な事項は、別に定める公認された事由による欠席の取扱いに関する内規による。
4　公認欠席を認められた者は、当該授業科目の成績評価に係る試験・課題その他について配慮される。
（成績評価）
第7条　学則第23条に定める成績の評価は、授業回数の3分の2以上出席した者について行う。ただし、専門教育課程の「プロジェクトデザインⅢ」と修学基礎教育課程の人間と自然科目を除く。
2　学則第23条第1項に定める総合評価点数は、学習支援計画書に示す基準と別表第3により算出する。
3　修学基礎教育課程の「生涯スポーツ演習」については、金沢工業大学学友会体育部会のクラブに所属する者の部活動の成果を成績の評価対象とすることができる。
第8条　削　除
（リベラルアーツ系科目、指定放送大学科目及び特別科目の取扱い）
第9条　指定放送大学科目の履修により修得した単位は、学則第24条の2第1項の規定に基づき、リベラルアーツ系科目の「文理横断」の単位として認定する。
2　特別科目として、修学基礎教育課程に生涯学習特別科目、英語教育課程に外国語特別科目、数理・データサイエンス・AI教育課程に数理特別科目、プロジェクトデザイン基礎教育課程にプロジェクトデザイン特別科目、各専門教育課程に専門教養特別科目、国際教養理工学課程に国際教養理工学特別科目を配置することができる。なお、単位数及び開講時期は教授会の審議を経て学長が定める。
（英語教育課程の英語・上級科目及び日本語教育科目の取扱い）
第9条の2　英語教育課程の英語・上級科目及びその他の日本語教育科目は、学則第48条に定める外国人留学生又は学長が認める学生に限り履修することができるものとする。
2　日本語教育科目の履修により修得した単位は、学則第19条第3号の履修要件に該当する単位として認めることができる。当該授業科目と単位数は、別表第4のとおりとする。
3　英語・上級科目の履修により修得した単位は、学則第19条第3号の履修要件に該当する単位として認めることができる。
（人間と自然科目の取扱い）
第9条の3　人間形成の重要性にかんがみ、学生は卒業までに人間と自

然科目を履修し、かつ、合格しなければならない。
2　人間と自然科目の成績評価は、合格又は不合格の判定のみで行うものとし、単位の付与は行わない。
第10条　削　除
第11条　削　除
(卒業に必要な最低単位数)
第12条　学則第19条に定めるそれぞれの科目区分ごとの履修要件について、科目区分及び科目群ごとの卒業に必要な最低単位数は、別表第5のとおりとする。
2　別表第5に掲げる卒業に必要な最低単位数には、学則別表第1教育課程表の必修科目及び選択必修科目の単位が含まれていなければならない。
3　別表第5に掲げる専門教育課程における卒業に必要な最低単位数は、所属する学科の授業科目の履修により修得していなければならない。
4　リベラルアーツ系科目の12単位については、科目群「文理横断」と「専門探究」から合計12単位を修得していなければならない。
第13条　削　除
(他の学科の専門教育課程の授業科目の履修により修得した単位)
第14条　他の学科の専門教育課程の授業科目の履修により修得した単位は、リベラルアーツ系科目における「専門探究」の単位として卒業に必要な単位数に算入する。ただし、学則別表第1教育課程表の専門教育課程「その他」の科目の単位は除く。
(授業科目の開講)
第15条　授業科目のうち、履修申請者数が15名に満たない選択科目(学則第18条の2に定める教職に関する科目を除く。)については、開講しないことができる。
(GPA)
第16条　成績の客観的評価を示す指標としてグレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)を用いる。
2　GPAは、学則第23条に定める個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの評価ポイントの平均値を表す。評語とその評価ポイントは別表第6のとおりとする。
3　GPAの算出方法は次のとおりとする。
GPA=(評価ポイント×単位数)の総和／履修科目の総単位数
4　第2項の規定にかかわらず、評語が「合」「否」「N」評価の科目、学則別表第1教育課程表の専門教育課程「その他」及び学則別表第2教職に関する科目はGPA算出の対象外とする。
(正課学修ポイント)
第17条　正課授業における学修の積分値として正課学修ポイントを用いる。
2　正課学修ポイントは「GPA×修得単位数」で算出され、「修得単位数」には「合」「否」で成績を判定する科目及び認定科目(成績評価が「N」の科目)の単位も含める。ただし、進級や卒業に必要な単位数に含まれない科目は含まない。
3　正課学修ポイントは学長表彰、大学院進学時の特待生等の選考に用いることができる。

附　則

1　この規程施行に必要な内容は別にこれを定める。
2　この規程は昭和40年4月1日から施行する。
(3～45は省略する)
46　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
47　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。
48　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。
49　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。
50　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表第1(進級条件)(第4条の3関係)

年次	進級条件
2年次	1年次に1年以上在学し、かつ、修得単位数が30単位以上であること。
3年次	2年次に1年以上在学し、かつ、修得単位数が62単位以上であること。
4年次	3年次に1年以上在学し、かつ、「専門ゼミ」を含む修得単位数が110単位以上であること。

「○年次に1年以上」とは、当該年次の前学期と後学期に履修歴があることとする。

別表第2　削　除

別表第3(成績評価)(第7条関係)

(総合評価点数)

評価項目	総合評価割合	評価項目点数	総合評価点数
試験	学習支援計画書に示す基準ただし、試験は40%以下とする。	各評価項目を100点満点で評価した点数	評価項目点数に総合評価割合を乗じた点数
クイズ・小テスト			
レポート			
成果発表(口頭・実技)			
作品			
ポートフォリオ			
その他			
合計	100%	−	100点

別表第4(日本語教育科目)(第9条の2関係)

授業科目	単位数
Japanese Communication 1	4
Japanese Communication 2	4
Japanese Communication 3	4
Japanese Communication 4	4
Japanese Seminar	4
College Japanese 1	2
College Japanese 2	2
Japanese for Science and Technology 1	2
Japanese for Science and Technology 2	2
Japanese Basics 1	2
Japanese Basics 2	2
Japanese Basics 3	2

別表第5(卒業に必要な最低単位数)(第12条関係)

課程区分	科目区分	科目群	卒業に必要な最低単位数
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	4
	人間形成基礎科目	人間形成基礎	7
		生涯スポーツ	2
		人間と自然	−
英語教育課程	英語科目	英語	8
数理・データサイエンス・AI教育課程	数理基礎科目	数理基礎	11
プロジェクトデザイン基礎教育課程	基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	10
専門教育課程	専門科目	専門	60
	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト	10
(全課程から提供)	リベラルアーツ系科目	文理横断	12
		専門探究	
合計			124

別表第6(GPA算出に係る評語とその評価ポイント)(第16条関係)

評語	評価ポイント
S(秀)	4ポイント
A(優)	3ポイント
B(良)	2ポイント
C(可)	1ポイント
D(成績不良)、F(出席不良等)	0ポイント
N(認定)、合(合格)、否(不合格)	対象外

履修科目の登録の上限に関する規程

(趣旨)
第1条　この規程は、金沢工業大学学則第21条の2第3項に基づき、金沢工業大学の卒業の要件として修得すべき単位数について、1年間又は1学期に登録することができる履修科目の単位数(以下「登録単位数」という。)の上限及びその特例に関し必要な事項を定める。
(登録単位数の上限)
第2条　登録単位数の上限は、1年間において48単位、1学期において24単位とする。
2　次の各号に掲げるものについては、登録単位数の上限から除くものとする。
(1)教職に関する科目
(2)専門教育課程のその他の科目
(3)春期休業中又は夏期休業中に開講する集中講義科目
(4)学長が認めた科目
(登録単位数の特例)
第3条　前条の規定にかかわらず、次の者は教務部長の許可を得て登録単位数の上限を超えて履修科目の登録をすることができる。
(1)履修科目を登録する時点での累積GPAポイントが3.00以上の者
(2)相当な理由により、学長が特に認めた者
(許可の願い出)
第4条　登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を希望する者は、所定の書類により、指定された期日までに教務部長に願い出なければならない。
(許可の通知)
第5条　教務部長は、登録単位数の上限を超えて登録することができる履修科目を決定し、当該願出者に通知する。

附　則

1　この規程は、平成21年4月1日から施行する。
(2は省略する)
3　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。

大学以外の教育施設等における学修の取扱いに関する規程

(趣旨)

第1条　この規程は、金沢工業大学学則第24条の3に基づき、金沢工業大学(以下「本学」という。)の学生が行う大学以外の教育施設等における学修の取扱いに関して必要な事項を定める。

(学修単位の認定)

第2条　学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修並びに本学が認める語学学校での学修を本学における授業科目の履修とみなし、この規程の定めるところにより単位(以下「学修単位」という。)を与えることができる。

2　前項により単位を与えることができる学修、認定基準、対応する本学の授業科目及び単位数は別表1、別表2及び別表3のとおりとする。

3　別表は、教務部委員会及び教育研究会議の審議を経て、学長が決定する。

(単位認定の願出)

第3条　本学において学修単位の認定を希望する学生は、指定された期日までに次の各号の書類を付して学長に願い出なければならない。

(1) 学修単位認定申請書(別紙様式)

(2) 学修の成果を証明する書類(級数又はスコアを含む。)

(単位付与の決定)

第4条　前条による願い出があったときは、学長は、教務部委員会による審査を経て、単位付与を決定する。

2　単位認定の可否については、教務部委員会で決定し、速やかに教授会に報告するものとする。

附　則

1　この規程は、平成20年4月1日から施行し、各種検定試験合格による授業科目の単位認定の取扱いに関する規程(平成13年12月14日施行)は廃止する。

2　この規程は、平成24年4月1日から改正施行する。

3　この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。

4　この規程は、平成28年4月1日から改正施行する。

5　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

6　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。

7　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

8　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。

入学年度、認定基準、対応する本学の授業科目及び単位数

別表1　TOEIC、TOEFL及びIELTSによる学修の認定基準等

入学年度	認定基準			対応する本学の授業科目	単位数
	TOEIC※1	TOEFL※2	IELTS※3		
平成28年度～令和元年度入学生	470点以上	=	=	イングリッシュトピックスⅠ イングリッシュトピックスⅡ	4
令和2年度～令和5年度入学生	600点以上	=	=	インテンシブイングリッシュ(注)	2
令和6年度以降入学生	600点以上	70点以上	5.5点以上	インテンシブイングリッシュ(注)	2

※1:TOEIC®Listening & Reading Testによる英語能力の成果に係る学修(主催:国際ビジネスコミュニケーション協会)

※2:Test of English as a Foreign Languageによる英語能力の成果に係る学修(主催:ETS Japan合同会社)

※3:International English Language Testing Systemによる英語能力の成果に係る学修(主催:日本英語検定協会)

(注)3,4年次生については、卒業に必要な最低単位数における英語8単位を修得していない者は申請できない。

別表2　語学学校による学修の認定基準等

入学年度	認定基準		対応する本学の授業科目	単位数
	ELTU ※4	EF ※5		
令和2年度～	C評価以上	C評価以上	インテンシブイングリッシュ	2

※4:ELTU(レスター大学付属の語学学校)が提供する英語研修プログラムの評価

※5:EF(Education First Ltd)が提供する英語研修プログラムの評価

別表3　国家資格による学修の認定基準等

入学年度	認定資格名称	対応する本学の授業科目(電気エネルギーシステム工学科、電子情報システム工学科の所属学生のみとする)	単位数
令和7年度～	第一種・第二種・第三種電気主任技術者試験 ※6 (試験合格または理論科目合格)	電気数学Ⅰ	2
		電気回路基礎	2
		電気回路Ⅰ	2
		電子回路Ⅰ	4
	第一種・第二種電気工事士試験 ※7 (技能試験合格)	電気数学Ⅰ	2
		電気回路基礎	2

(対象学科:電気エネルギーシステム工学科、電子情報システム工学科)

※6:電気主任技術者試験は電気事業法に基づく国家試験

※7:電気工事士試験は電気工事士法に基づく国家試験

指定放送大学科目の取扱要領

(目的)

1　この取扱要領は、金沢工業大学修学規程(以下「修学規程」という。)第9条の規定に基づく指定放送大学科目の取扱いについて定める。

(協定書の締結)

2　単位互換の実施に当たっては、放送大学との協議に基づき、協定書及びその覚書を締結するものとする。

(指定放送大学科目)

3　放送大学が開講する科目のうち、金沢工業大学(以下「本学」という。)が指定する授業科目は、別に定める。

(受入れ学生数)

4　放送大学が受け入れる本学学生の数は、放送大学との協議により定める。

(学生の身分)

5　単位互換の協定により放送大学の授業科目を履修する本学の学生は、放送大学の「特別聴講学生」として受け入れられるものとする。

(出願手続)

6　放送大学への出願手続は、放送大学が定める手続・様式により行い、本学大学事務局学務部教務課で取りまとめて、放送大学へ提出する。

(受講料)

7　指定放送大学科目を履修するに当たっての受講料については、次のとおりとする。

(1) 学生は、所定の手続により受講料(放送大学授業料)を負担するものとする。ただし、指定放送大学科目のうち1科目分については、本学が負担する。

(2) 受講料については放送大学に規定する金額を納入するものとする。

(3) 納入された受講料は放送大学への手続が完了したのちは返還しない。

8　削　除

附　則

1　この取扱要領は、平成4年4月1日から施行する。ただし、7及び8のただし書きについては、平成3年度以前入学生には適用しない。

(2～8は省略する)

9　この取扱要領は、令和2年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学再入学及び編入学に関する規則

(趣旨)

第1条　この規則は、金沢工業大学学則(以下「本学学則」という。)第11条第2項の規定に基づき、再入学及び編入学に関して必要な事項を定める。

(再入学資格)

第2条　金沢工業大学(以下「本学」という。)に再入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 本学を卒業した者

(2) 本学を中途退学した者。ただし、懲戒による退学者は除く。

(編入学資格)

第3条　本学に編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 他の大学を卒業した者

(2) 他の大学の学生で、本学に転入学を志願する者

(3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(4) 文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の定めるところにより、前2号と同等以上の学力があると認められた者

(時期)

第4条　再入学及び編入学の時期は、毎学年の始めとする。

(出願)

第5条　再入学又は編入学を志願する者は、入学願書に所定の書類と検定料3万円を添えて、所定の期間内に学長に願い出なければならない。

(選考)

第6条　入学志願者の選考に当たっては、金沢工業大学入学者選考規程を準用するものとする。

(手続及び許可)

第7条　合格の通知を受けた者は、所定の期間内に誓約書、保証書及びその他所定の書類を提出する。入学金は、本学学則第29条に定める。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(既修得単位の認定)

第8条　再入学又は編入学した学生が既に修得した授業科目の全部又は一部については、教務部委員会の確認又は審査を経て、学長は、本学の単位として認定することができる。

(入学年次)

第8条の2　再入学及び編入学の入学年次は、認定が見込まれる単位数を基に次のように定める。

(1)30単位以上62単位未満　　2年次

(2)62単位以上　　3年次

第8条の3　削　除

第9条　削　除

（在学期間）
第10条　再入学又は編入学した学生の在学期間は、再入学又は編入学を許可された年次以後の修業年限の2倍に相当する年数を超えることはできない。
（諸規則の適用）
第11条　再入学又は編入学した学生については、本規則によるほか、再入学又は編入学を許可された年次の学生に適用する諸規則を適用する。

附　則

1　この規則は、昭和43年3月1日から施行する。
2　この規則の改正条項は、昭和47年4月1日から施行する。
（3～17は省略する）
18　この規則は、令和4年4月1日から改正施行する。
ただし、再入学又は編入学を許可された年次の学生に適用する諸規則を適用する。
19　この規則は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。

金沢工業大学 転学部・転学科に関する規程

（趣旨）
第1条　この規程は、金沢工業大学学則第14条の2第2項の規定に基づき、転学部、転学科に関して必要な事項を定める。
（時期）
第2条　転学部、転学科の時期は、学年の初めとする。
第2条の2　削　除
（手続）
第3条　転学部、転学科を志願する者は、所定の願書に必要事項を記載し、所属学科主任を経て、大学事務局学務部修学支援課へ提出しなければならない。その出願時期は、1月中旬とし、別に公示する。
（選考）
第4条　前条の規定により、学生から願い出があったときは、教務部委員会による審査を経て、学長は、転学部、転学科の許可を決定する。
（既修得単位の処置）
第5条　転学部、転学科を許可された者の既修得単位については、教務部委員会による審査を経て、学長は、転学部、転学科先の学科の卒業に必要な単位として認めることができる。
（年次の決定）
第6条　学長は、前条の規定により認められた単位数に基づき、転学部、転学科先の学科の年次を決定する。
（通知）
第7条　選考の結果は、3月末日までに本人及び父母等に通知する。
第8条　削　除

附　則

1　この規程は、昭和60年4月1日から施行する。
2　この規程の改正条項は、平成4年4月1日から施行する。
3　この規程の改正条項は、平成7年4月1日から施行する。ただし、平成6年度以前の入学生については従前のとおりとする。
4　この規程の改正条項は、平成10年4月1日から施行する。
ただし、平成6年度以前の入学生については従前のとおりとする。
5　この規程の改正条項は、平成16年4月1日から施行する。ただし、平成15年度以前入学生については改正前の金沢工業大学転学科に関する規程第2条の2、第3条、第4条、第5条は、なおその効力を有する。
6　この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。
7　この規程は、平成30年4月1日から改正施行する。
8　この規程は、平成31年4月1日から改正施行する。
9　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
10　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。
11　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学 早期卒業に関する規程

（目的）
第1条　この規程は、金沢工業大学学則（以下「学則」という。）第25条の2第2項の規定に基づき、金沢工業大学（以下「本学」という。）における早期卒業に関し必要な事項を定める。
（対象学生）
第2条　早期卒業の対象となる学生は、本学の学部に3年以上在学（学校教育法施行規則第149条の規定に該当する者を含む。）し、3年次修了時に正課学修ポイントが420以上であって、プロジェクトデザインⅢの単位修得を除く卒業要件を満たしており、かつ本学大学院工学研究科に進学する者とする。ただし、学則第11条（再入学及び編入学）及び第14条の2（転学部・転学科）に該当する者は対象としない。
（早期卒業希望者の登録）
第3条　早期卒業を希望する学生は、3年次の6月下旬に、早期卒業希望者登録を行わなければならない。
2　早期卒業希望者登録の要件は、2年次修了時に正課学修ポイントが320以上あることとする。
（確認及び選考）
第4条　早期卒業希望者登録を行った学生に対しては、3年次の7月中旬までに、第2条に規定する早期卒業の対象となる学生として適格であるかを確認し、その結果を当該学生に速やかに通知するとともに、事後に選考を行う。
2　前項に規定する確認及び選考を行うため、学長を委員長とする金沢工業大学早期卒業選考委員会（以下「選考委員会」という。）を組織する。
3　選考委員会の委員は、金沢工業大学部長会の構成員、専攻主任及びその他学長が指名する者とする。
4　確認及び選考された学生を「早期卒業候補学生」という。
（選考等の取消）
第4条の2　早期卒業希望者登録を行った学生が当該登録の取り下げを願い出たとき又は早期卒業候補学生が3年次修了時において第2条に規定する要件を満たすことができなかったときは、当該学生に係る登録、確認及び選考は取り消す。
2　早期卒業候補学生の4年次前学期までのプロジェクトデザインⅢの実績が不十分と指導教員及び学科主任が判断した場合、学科主任は選考委員会へ報告し、選考委員会は、当該学生の早期卒業候補学生を取り消すことができる。
（プロジェクトデザインⅢの履修）
第5条　早期卒業候補学生は、金沢工業大学修学規程第4条第3項の規定にかかわらず、3年次後学期からプロジェクトデザインⅢを履修することができる。
2　前条第1項の規定に基づき早期卒業候補学生を取り消された学生は、進級後の4年次前学期からプロジェクトデザインⅢを再度履修することができる。
3　前条第2項の規定に基づき4年次前学期までに早期卒業候補学生を取り消された学生のプロジェクトデザインⅢの履修期間は後学期まで延長するものとする。
第6条　削　除
（学習指導）
第7条　各学部学科は、早期卒業候補学生の授業計画等に当たっては、適切な措置及び学習指導を行う。
（早期卒業の要件）
第8条　早期卒業候補学生が早期卒業するためには、第2条に規定するもののほか、次の各号に掲げる要件を満たさなければならない。
(1) 学則で定める卒業に要する単位を124単位以上修得していること。
(2) 4年次において、本学大学院の秋入学試験に合格し、かつ本学大学院への進学の意思が明確であること。
（早期卒業の時期）
第9条　早期卒業の時期は、4年次の9月とする。
（事務）
第10条　この規程に関する事務は、大学事務局学務部修学支援課が行う。

附　則

1　この規程は、平成30年4月1日から施行する。
2　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。ただし、令和2年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。
3　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。
5　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。ただし、令和7年3月31日に現に在学する者については、改正後の第4条の2及び第5条の適用を除き、なお従前の例による。
6　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学特別奨学金給付規程

(制度の趣旨)
第1条　金沢工業大学(以下「本学」という。)は、金沢工業大学特別奨学生制度(KITリーダーシップアワード)を実施するため、「学園共同体が共有する価値」に基づく信条(行動規範)(通称「KIT−IDEALS」)を遵守し、高い目的意識と勉学意欲を有する者を特別奨学生とし、特別奨学金を給付するものとする。
(目的)
第2条　この規程は、前条の趣旨に基づき、学校法人金沢工業大学特別奨学金規則第5条の規定により本学に配分された特別奨学金の給付に関して必要な事項を定める。
(対象)
第3条　特別奨学生は、次の各号に定める者を対象に選考し決定する。
(1) 入学年次においては、特別奨学生制度対象入学試験に合格し入学した者
(2) 2年次以降においては、特別奨学生制度の継続審査に合格した者又は大学院進学支援等の選考に合格した者
(人数及び期間)
第4条　特別奨学生の人数は、概ね各年次130名とする。
2　特別奨学生としての期間は1年間とする。ただし、各年次の継続審査によりその後1年ごとの継続を認めることができる。
(名称)
第5条　学長は、特別奨学生に対し、リーダーシップアワード生の名称を付与する。
(区分)
第6条　特別奨学生の区分は、次の各号に定めるとおりとする。
(1) スカラーシップフェロー　特別奨学生のうち、人物、成績が特に優秀と認められた者
(2) スカラーシップメンバー　特別奨学生のうち、スカラーシップフェロー以外の者
2　前項第1号に定めるスカラーシップフェローは、各年次において56名を超えないものとする。
(給付額)
第7条　特別奨学金は、本学の授業料に充当するものとし、その額は特別奨学生の区分により次の各号に定めるとおりとする。
(1)スカラーシップフェロー
①情報デザイン学部及びメディア情報学部
入学年次　年額697,200円(1学期当たり　348,600円)
2年次以降　年額779,200円(1学期当たり　389,600円)
② 情報理工学部、バイオ・化学部、工学部及び建築学部
入学年次　年額897,200円(1学期当たり　448,600円)
2年次以降　年額979,200円(1学期当たり　489,600円)
(2) スカラーシップメンバー
年額250,000円(1学期当たり　125,000円)
2　前項第1号に定めるスカラーシップフェローの特別奨学金の給付額は、国立大学の入学金、授業料等の標準額の変動に応じ変更することができる。
(選考)
第8条　特別奨学生を選考するため、学長を委員長、入試部長を副委員長とする金沢工業大学特別奨学生選考委員会(以下「選考委員会」という。)を設置する。
2　選考委員会は、委員長及び副委員長のほか次の者をもって構成する。
(1) 教務部長
(2) 学生部長
(3) その他委員長が指名する者
3　選考委員会は、選考条件及び継続条件を定める。
4　選考委員会の委員長は、選考委員会の選考結果について、速やかに理事長に報告しなければならない。
(特別奨学生の決定)
第9条　理事長は、選考委員会の委員長から報告があった選考結果に基づき特別奨学生を決定する。
(資格の喪失)
第10条　特別奨学生が次の各号のいずれかに該当するときは、特別奨学生の資格を喪失するものとする。
(1) 特別奨学生を辞退したとき。
(2) 入学を辞退したとき。
(3) 留年したとき。
(4) 休学したとき。
(5) 退学したとき。
(6) 除籍となったとき。
(7) 懲戒処分を受けたとき。
(8) 特別奨学生制度の継続条件を満たさなかったとき。
(9) その他学長が特別奨学生として不適当と認めたとき。
2　学長は、前項各号の理由により特別奨学生の資格を喪失した者に対して、既に給付した特別奨学金の一部又は全部の返還を求めることができる。
(特別奨学生の留学)
第10条の2　学長は、特別奨学生であって、金沢工業大学学則第13条に基づき休学して留学することを許可した者については、前条第1項第3号、第4号及び第8号の規定にかかわらず、特別奨学生の資格を喪失させることなく、第4条第2項に定める特別奨学生としての期間は、当該留学期間及び復学後において、なおその資格を引き続き保有させることができる。ただし、特別奨学金は、復学後の特別奨学生としての期間について給付するものとし、特別奨学生の資格を保持している場合においても、その支給期間は最長8学期間までとする。
2　学長は、特別奨学生であって、金沢工業大学学則第14条の3第1項に基づき休学することなく留学することを許可した者については、第4条第2項に定める特別奨学生としての期間は、その資格を引き続き保有させることができる。ただし、特別奨学金の支給期間は最長8学期間までとする。
(特別奨学生の休学)
第10条の3　学長は、特別奨学生の休学が真にやむを得ない特別な事由によるものであると認めるときは、第10条第1項第4号の規定にかかわらず、特別奨学生としての期間に限って特別奨学生の資格を喪失させることなく、なおその資格を引き続き保有させることができる。ただし、特別奨学金は、復学後の特別奨学生としての期間について支給するものとし、支給期間は最長8学期間までとする。
(事務)
第11条　この規程に関する事務は、アドミッション修学支援機構アドミッション・キャリア教育センター学生活動支援室オナーズプログラム推進課が行う。
(改廃)
第12条　この規程の改廃は、学生募集委員会の議を経て、常任理事会が行う。

附　則
1　この規程は、平成21年9月1日から施行し、平成22年度入学生から適用する。
(2〜7は省略する)
8　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
9　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。ただし、改正後の第3条、第5条及び第6条の2は令和5年4月1日から適用する。
10　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。
11　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。
12　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。
13　この規程は、令和7年9月1日から改正施行する。
14　令和7年4月1日改正施行前の第7条(給付額)は、令和7年3月31日現在において現に在学した者について、なおその効力を有する。
15　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学奨学金給付規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学(以下「本学」という。)が、文理探究分野及び理工系分野への女子の進学、出身地域や企業との連携、大学院進学等を目指す者を奨学生とし、その修学を支援するための奨学金の給付等について必要な事項を定めることを目的とする。
(形態と目標)
第2条　この規程における奨学生は、「女子奨学生」、「都道府県選抜奨学生」、「Uターン型奨学生」及び「大学院進学奨学生」とし、奨学生ごとに次の各号に定める目標の達成を目指すものとする。
(1) 女子奨学生　女子の進学を積極的に支援することにより、文理探究分野及び理工系分野に幅広い視点や感性を取り入れ、多様な学生が学びあう環境のもと、新たな学びの創出を目指す。
(2) 都道府県選抜奨学生及びUターン型奨学生　出身地域や企業と連携する人材を目指す。
(3) 大学院進学奨学生　入学時から大学院への進学を目指す。
(対象入学試験)
第3条　この規程が対象とする本学の入学試験は、次の各号に定める奨学生ごとに、同号に定める試験とする。
(1) 女子奨学生　総合選抜(女子奨学生)
(2) 都道府県選抜奨学生　都道府県選抜試験
(3) Uターン型奨学生　総合選抜(Uターン型)
(4) 大学院進学奨学生　一般試験A・共通テストプラス(大学院進学)
(資格対象者)
第4条　奨学生の資格を得ることができる対象者は次の各号に定める奨学生ごとに、同号に定める者とする。
(1) 女子奨学生　総合選抜(女子奨学生)の合格者
(2) 都道府県選抜奨学生　都道府県選抜試験の合格者
(3) Uターン型奨学生　総合選抜(Uターン型)の合格者
(4) 大学院進学奨学生　一般試験A・共通テストプラス(大学院進学)の合格者
(選抜人数の基準)
第5条　奨学生の対象となる人数の基準は、次の各号に定める奨学生ごとに、同号に定める人数とする。
(1) 女子奨学生　84名
(2) 都道府県選抜奨学生　94名
(3) Uターン型奨学生　84名
(4) 大学院進学奨学生　一般試験A・共通テストプラス(科目高得点型)及び一般試験A・共通テストプラス(大学院進学)の募集人数人員55名を両試験の志願者数により案分し、一般試験A・共通テストプラス(大学院進学)の合格人数として算出される人数
(給付額)
第6条　奨学金の給付額は、年額250,000円(1学期当たり125,000円)とする。
(給付期間)
第7条　奨学金の給付期間は、入学年次(1年次)から4年間を限度とする。ただし、金沢工業大学学則第25条の2に基づき早期卒業が認められたときは、入学年次(1年次)から3.5年間を限度とする。
(給付方法)
第8条　奨学金は、本学の授業料に充当するものとし、学期ごとに給付する。
(給付の取止め)
第8条の2　奨学生が、2年次以降に金沢工業大学特別奨学金給付規程に基づく特別奨学生として特別奨学金を給付される場合は、当該奨学生は奨学生を辞退するものとし、奨学金は給付しない。当該特別奨学生が、後年度において特別奨学生に決定されず、特別奨学金が給付されない場合も奨学金は給付しない。
(資格の喪失)
第9条　奨学生が次の各号のいずれかに該当するときは、奨学生の資格を喪失するものとする。
(1) 奨学生を辞退したとき。(前条の場合を除く。)
(2) 入学を辞退したとき。
(3) 留年したとき。
(4) 休学したとき。
(5) 退学したとき。
(6) 除籍となったとき。
(7) 懲戒処分を受けたとき。
(8) その他学長が奨学生として不適当と認めたとき。
2　学長は、前項各号の理由により奨学生の資格を喪失した者に対して、既に給付した奨学金の一部又は全部の返還を求めることができる。
(奨学生の留学)
第9条の2　学長は、奨学生であって、金沢工業大学学則第13条に基づき休学して留学することを許可した者については、前条第1項第3号及び第4号の規定にかかわらず、奨学生としての資格を喪失させることなく、当該留学期間及び復学後においては、なおその資格を引き続き保有させることができる。ただし、奨学金は、復学後の奨学生としての期間について支給するものとし、支給期間は最長8学期間までとする。
2　学長は、奨学生であって、金沢工業大学学則第14条の3第1項に基づき休学することなく留学することを許可した者については、奨学生としての資格を喪失させることなく、なおその資格を引き続き保有させることができる。ただし、奨学金の支給期間は最長8学期間までとする。
(奨学生の休学)
第9条の3　学長は、奨学生の休学が真にやむを得ない特別な事由によるものであると認めるときは、第9条第1項第4号の規定にかかわらず、奨学生としての資格を喪失させることなく、当該休学期間及び復学後においては、なおその資格を引き続き保有させることができる。ただし、奨学金は、復学後の奨学生としての期間について支給するものとし、支給期間は最長8学期間までとする。
(指導)
第10条　本学は、奨学生の資質の向上を図るため、学業成績及び研究(課題)活動に適切な指導を行い、各年次の学期ごとに支援講座を行う。
(事務)
第11条　この規程に関する事務は、アドミッション修学支援機構アドミッション・キャリア教育センター学生活動支援室オナーズプログラム推進課が行う。
(改廃)
第12条　この規程の改廃は、学生募集委員会の議を経て、常任理事会が行う。

附　則
1　この規程は、令和7年4月1日から施行する。
2　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

7-2 大学院

金沢工業大学大学院学則

第1章　総則

（趣旨）

第1条　この学則（以下「本学則」という。）は、金沢工業大学学則第45条第2項の規定に基づき、大学院について必要な事項を定める。

（大学院の目的）

第2条　金沢工業大学大学院（以下「大学院」という。）は、金沢工業大学（以下「本学」という。）の建学綱領と人材育成の使命に従い、専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、創造性豊かで優れた研究・開発能力を有する研究者等の養成と高度な専門的知識・能力を有する専門職業人の養成を行い、我が国の科学技術並びに文化の進展に寄与することを目的とする。

（自己点検評価及び研修等）

第2条の2　大学院は、教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命の達成と、学修者本位の教育の実現に向けた教育研究活動等の状況について3つのポリシー（学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく自己点検・評価、第三者評価並びに積極的な情報公開を通じて授業の内容及び方法の改善と組織的な研修及び研究を行うものとする。

（大学院の課程）

第3条　大学院における課程は、修士課程及び博士課程とする。

（修士課程）

第3条の2　修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

2　修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、教育上支障を生じない専攻にあっては標準修業年限を1年とすることができる。

（博士課程）

第3条の3　博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

2　博士課程の標準修業年限は、5年とする。

3　博士課程は、これを博士前期課程（前期2年）及び博士後期課程（後期3年）の課程に区分し、博士前期課程を修士課程として取り扱うものとする。

第2章　研究科の組織及び定員

（研究科）

第4条　大学院に工学研究科、心理科学研究科及びイノベーションマネジメント研究科を置く。

第4条の2　削　除

（研究科の専攻及び課程）

第5条　各研究科にそれぞれ次の専攻、課程を置く。

工学研究科		
機械工学専攻	博士前期課程	博士後期課程
環境土木工学専攻	博士前期課程	博士後期課程
情報工学専攻	博士前期課程	博士後期課程
電気電子工学専攻	博士前期課程	博士後期課程
システム設計工学専攻	博士前期課程	博士後期課程
バイオ・化学専攻	博士前期課程	博士後期課程
建築学専攻	博士前期課程	博士後期課程
高信頼ものづくり専攻	博士前期課程	博士後期課程
ビジネスアーキテクト専攻	修士課程	
心理科学研究科		
臨床心理学専攻	修士課程	
イノベーションマネジメント研究科		
イノベーションマネジメント専攻	修士課程	

2　工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程には、標準修業年限を1年とする1年制コースを併せ置くこととし、主として実務の経験を有する者に対して、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は期間において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う。

3　イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程は、標準修業年限を1年とし、主として実務の経験を有する者に対して、昼間と併せて夜間その他特定の時間又は期間において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行う。

（研究科・専攻の目的）

第5条の2　第2条の目的にかんがみ、設置する研究科及び専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次項から第4項までに定めるとおりとする。

2　工学研究科は、工学諸分野に関する解析能力と実践能力を有する創造性豊かな研究者又は高度な専門技術者を養成することを目的とする。

(1) 機械工学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、ものづくりの基盤ともいえる機械関連分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(2) 環境土木工学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、地域から国土に至る環境を構築し、市民生活の持続的な発展を創造できる人材を養成することを目的とする。

(3) 情報工学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、産業界の重要基盤である情報工学分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(4) 電気電子工学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、社会のあらゆる分野で重要性が高い電気電子工学分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(5) システム設計工学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、芸術的感性と情報テクノロジーを結びつけたコンテンツ、サービス、システムを開発・運用できる人材や、心の働きを測定・評価する技術と情報技術とを活用し、製品やサービスなどの企画・開発ができる人材を養成することを目的とする。

(6) バイオ・化学専攻博士前期課程は、環境化学、有機物質化学、無機物質化学、生命情報、生命科学、バイオ工学とその関連分野において高度な専門知識と研究能力を身につけ、持続成長可能な未来を切り拓き、新しい産業構造を支える人材を養成することを目的とする。

(7) 建築学専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、安全で美しく快適な建築やまち・都市、地域を計画・実現し、人間社会と地域環境に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(8) 高信頼ものづくり専攻博士前期課程は、高度な知識と研究能力を有し、ものづくりの基盤ともいえる機械関連分野・航空機工学に係わる分野・社会のあらゆる分野で重要性が高い電気電子工学分野並びに情報化社会の基盤である情報通信工学との融合分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(9) ビジネスアーキテクト専攻修士課程は、高度な知識と研究能力を有し、情報技術を活用して、社会に有益なビジネスを創生し、効率的に運用管理することができる人材を養成することを目的とする。

(10) 機械工学専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、ものづくりの基盤ともいえる機械関連分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(11) 環境土木工学専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、地域から国土に至る環境を構築し、市民生活の持続的な発展を創造できる人材を養成することを目的とする。

(12) 情報工学専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、産業界の重要基盤である情報工学分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(13) 電気電子工学専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、社会のあらゆる分野で重要性が高い電気電子工学分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

(14) システム設計工学専攻博士後期課程（専攻分野：工学）は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、芸術的感性と情報テクノロジーを結びつけたコンテンツ、サービス、システムを開発・運用できる人材や、心の働きを測定・評価する技術と情報技術とを活用し、製品やサービスなどの企画・開発ができる人材を養成することを目的とする。

(15) システム設計工学専攻博士後期課程（専攻分野：学術）は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、情報技術の著しい発展に伴って進展する、発明、ソフトウェア、コンテンツ等といった付加価値の高い知的創造物（知的財産）の創造・保護・活用の実現のために必要な研究を行い、製品やサービスなどの企画・開発ができる人材を養成することを目的とする。

(16) バイオ・化学専攻博士後期課程は、環境化学、有機物質化学、無機物質化学、生命情報、生命科学、バイオ工学とその関連分野において、高度な専門知識と深遠な学識と研究能力を身につけ、持続成長可能な未来を切り拓き、研究者として自立して、新しい産業構造を支える人材を養成することを目的とする。

(17) 建築学専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、安全で美しく快適な建築やまち・都市、地域を計画・実現し、人間社会と地域環境に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(18) 高信頼ものづくり専攻博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有し、ものづくりの基盤ともいえる機械関連分野・航空機工学に係わる分野・社会のあらゆる分野で重要性が高い電気電子工学分野並びに情報化社会の基盤である情報通信工学との融合分野において活躍できる人材を養成することを目的とする。

3　心理科学研究科は、人間の精神健康の保持・増進に貢献し得る研究者又は実践家を養成することを目的とする。

(1) 臨床心理学専攻修士課程は、教養、倫理的観点、専門的知識をもって、人の「より良い状態（Well-being）」の保持・増進に貢献し得る実践家を養成することを目的とする。

4　イノベーションマネジメント研究科は、我が国の国際的な産業競争力の強化に資する、真のイノベーションを実現できる「知的財産のわかる経営者」や「経営のわかる知的財産マネジメント人材」の養成を目的とする。

(1) イノベーションマネジメント専攻修士課程（専攻分野：経営管理）は、我が国の国際的な産業競争力の強化に資する、真のイノベーションを実現できる「知的財産のわかる経営者」や「経営のわかる知的財産マネジメント人材」の養成を目的とする。

(2) イノベーションマネジメント専攻修士課程（専攻分野：知的財産マネジメント）は、我が国の国際的な産業競争力の強化に資する、真のイノベーションを実現できる「知的財産のわかる経営者」や「経営のわかる知的財産マネジメント人材」の養成を目的とする。

(収容定員)

第6条　各研究科の収容定員は次のとおりとする。

(単位 名)

	専攻名	博士前期(修士)課程		博士後期課程		合計収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
工学研究科	機械工学専攻	18	36	5	15	51
	環境土木工学専攻	10	20	5	15	35
	情報工学専攻	40	80	5	15	95
	電気電子工学専攻	18	36	6	18	54
	システム設計工学専攻	17	34	6	18	52
	バイオ・化学専攻	18	36	6	18	54
	建築学専攻	16	32	5	15	47
	高信頼ものづくり専攻	7	10	5	15	25
	ビジネスアーキテクト専攻	6	12	−	−	12
	計	150	296	43	129	425
心理科学研究科	臨床心理学専攻	6	12	−	−	12
	計	6	12	−	−	12
イノベーションマネジメント研究科	イノベーションマネジメント専攻	40	40	−	−	40
	計	40	40	−	−	40
合計		196	348	43	129	477

2　前項に掲げる工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程の入学定員のうち、第5条第2項に定める1年制コースの入学定員は4名とする。

第3章　教職員組織

(教職員)

第7条　大学院には必要な教職員を置き、本学の教職員をもって充てる。

第4章　大学院委員会

(大学院委員会)

第8条　大学院に大学院委員会を置く。

2　大学院委員会は、大学院担当の専任教授の全員をもって構成する。

3　大学院委員会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、大学院委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

4　大学院委員会は、前項に定めるもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5　大学院委員会の運営については、別に定める金沢工業大学大学院委員会運営規則による。

第5章　在学期間、学年、学期及び休業日

(在学期間及び在籍条件)

第9条　大学院における在学期間は、修士課程及び博士前期課程にあっては4年、博士後期課程にあっては6年を超えてはならない。ただし、工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース及びイノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の在学期間は、3年を超えてはならない。

2　現に大学院に在籍する者は、その間、他の大学院、学部等に在籍することはできない。

(長期履修)

第9条の2　イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程は、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了すること(以下「長期履修」という。)を志願する者があるときは、審査の上、長期履修を許可することができる。ただし、前条に定める在学期間を超えることはできない。

2　前項に定める長期履修の取扱いについては、金沢工業大学大学院長期履修に関する規程の定めるところによる。

(学年及び学期)

第10条　学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。ただし、後学期から入学する者(以下「秋入学者」という。)は、10月1日に始まり翌年9月30日に終わる。

2　学年は次の2学期に分ける。

前学期　4月1日から9月30日まで

後学期　10月1日から翌年3月31日まで

3　前項の規定にかかわらず、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の学年は次の4学期に分ける。

1学期　4月1日から6月15日まで

2学期　6月16日から8月31日まで

3学期　9月1日から11月15日まで

4学期　11月16日から翌年3月31日まで

4　前2項の学期の開始日及び終了日については、学長は臨時に変更することができる。

5　各学期の授業実施日等は、別に定める学年暦による。

6　学長は、自然災害や感染症等のやむを得ない事由により長期にわたり授業の実施が困難な場合は、授業実施日等を臨時に変更することができる。

(休業日)

第11条　休業日は次のとおりとする。ただし、必要があるときは、学長は臨時に休業日を設けることができる。

(1) 日曜日(イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程にあっては月曜日)及び国民の祝日に関する法律に定める休日

(2) 創立記念日　6月1日

(3) 夏期休業

(4) 冬期休業

(5) 春期休業

2　前項の第3号から第5号の休業日については、学年暦により定める。

3　前各項の休業日については、学長は臨時に変更することができる。

第6章　入学、休学、復学、留学、退学及び除籍

(入学の時期)

第12条　大学院入学の時期は、学年の前学期の始めとする。ただし、秋入学者については学年の後学期の始めとする。

(入学資格)

第13条　修士課程及び博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 文部科学大臣の定めるところにより、前号と同等以上の学力があると認められた者

(3) 文部科学大臣の定めるところにより、大学に3年以上在学した者(これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。)であって、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの

2　博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者

(2) 文部科学大臣の定めるところにより、前号と同等以上の学力があると認められた者

(再入学)

第13条の2　大学院に再入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、入学を許可することができる。

(転入学)

第13条の3　他の大学院の学生で転入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、入学を許可することができる。

(出願手続)

第14条　入学を志願する者は、入学願書に所定の書類と検定料を添えて、所定の期間内に学長に願い出なければならない。

(入学者の選考)

第15条　前条の志願者については、入学者受け入れの方針に基づき別に定めるところにより選考を行う。

(入学許可)

第16条　合格の通知を受けた者は、指定された期日までに入学金を納入しなければならない。

2　学長は、入学金の納入を完了した者に入学を許可する。

3　入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書及びその他所定の書類を提出しなければならない。

(休学及び復学)

第17条　病気その他やむを得ない理由により、修学を中断しようとする者は、学長の許可を得て休学することができる。

2　休学は学期単位とし、休学しようとする者は、学期ごとに理由を付して学長に願い出なければならない。

3　修士課程及び博士前期課程の休学期間は、通算して4学期間を超えることはできない。ただし、工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コースにおいては、通算して2学期間を超えることはできない。

4　博士後期課程の休学期間は、通算して6学期間を超えることはできない。

5　休学期間は、在学期間に算入しない。

6　学長は、特殊な病気又はその他の理由によって、修学することが適当でないと認められる者には、休学を命ずることができる。

7　休学期間が満了した者は、学長の許可を得て復学することができる。

8　休学及び復学の取扱いについては、別に定める休学・復学の手続に関する規程による。

(転研究科・転専攻)

第17条の2　所属研究科、専攻から他の研究科、専攻又は同一研究科の他の専攻へ転研究科、転専攻を志願する者があるときは、学長は、選考の上、転研究科、転専攻を許可することができる。

2　前項の転研究科及び転専攻については、別に定める金沢工業大学大学院転研究科・転専攻に関する規程による。

第18条　削　除

(留学)

第18条の2　外国の大学へ留学を志願する者は、大学院が教育上有益と認めたときに限り、休学することなく、留学することができる。

2　前項による留学に関する必要な事項は、別に定める金沢工業大学派遣留学規程による。

(退学)

第19条　退学しようとする者は、理由を付して、学長に許可を願い出なければならない。

(除籍)

第20条　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

(1) 第38条に定める学校納入金を滞納し、督促を受けても納入しない者

(2) 第9条第1項に定める在学期間を超えた者及び同条第2項の定めに従わない者

(3) 病気又はその他の理由により、成業の見込みがないと認められる者

(4) 第17条第3項及び第4項に定める休学期間を超えた者

(5) 休学期間満了の後、所定の手続をしない者

(6) 長期間にわたり行方不明の者

第7章　教育方法等

(教育方法)

第21条　大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)により行う。

(授業科目及び単位数)

第22条　大学院における授業科目及び単位数は、別表(1)のとおりとする。

(単位計算の基準)

第23条　授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の授業科目の授業は、8週にわたる期間を単位として行うものとする。

2　1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この限りではない。

(1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。
(教室等以外の場所での履修)
第23条の2　前条第2項に定める講義、演習、実験及び実習等による授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。
2　前項に規定する授業方法により修得する単位は、30単位を上限として、修了に必要な単位とすることができる。
(専修科目等)
第24条　学生は入学の際、所属の専攻に設けられている専修科目又は特殊研究から1授業科目を選択し、これを課題研究科目とする。
2　課題研究科目を担当する教員は、当該学生の指導教員となるものとする。
(授業及び指導教員)
第25条　大学院の授業及び研究指導は、大学院の教員資格を有する教員がこれにあたる。
2　大学院が教育研究上有益と認めるときは、学生は他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。ただし、修士課程の学生については、当該指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。
3　前項について必要な事項は、その都度定める。
(教育職員免許状授与の所要資格の取得)
第26条　工学研究科の学生のうち、中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状授与の所要資格を有する者であって、当該免許教科に係る中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得しようとするものは、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。
2　工学研究科において高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得できる免許教科の種類は、機械工学専攻、環境土木工学専攻、電気電子工学専攻及び建築学専攻にあっては工業とし、中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状授与の所要資格を取得できる免許教科の種類は、バイオ・化学専攻にあっては理科とする。

第8章　履修方法

(履修方法)
第27条　学生は、その学期に履修しようとする授業科目について、指導教員の承認を受け、指定された期日までに履修の申請を行わなければならない。
(必要修得単位数)
第28条　修士課程又は博士前期課程及び博士後期課程の学生は、別表(2)に定める当該専攻の科目区分ごとに必要とされる単位数を修得しなければならない。
2　前項の規定にかかわらず、本学が他の大学院との間に締結する協力協定に基づき実施するデュアルディグリープログラムに参加する学生の必要修得単位数は、当該協力協定に規定するところによる。
(他の大学院における履修)
第29条　大学院が教育上有益と認めるときは、学生は、他の大学院の授業科目を履修することができる。
2　前項について必要な事項は、その都度定める。
3　学生が第1項の規定により修得した授業科目の単位については、10単位を超えない範囲で大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
4　前項の規定にかかわらず、前条第2項に規定する必要修得単位数のうち、本学が協力協定を締結する他の大学院において取得する単位数は15単位を超えない範囲とする。
(入学前の既修得単位等の認定)
第29条の2　大学院は、教育上有益と認めるときは、学生が大学院に入学する前に大学院又は他の大学院において修得した授業科目の単位を大学院に入学した後の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　前項により修得したものとみなす単位数は、大学院において修得した単位以外のものについては、第29条により大学院で修得したものとみなす単位数と合わせて10単位を超えないものとする。
(他の専攻における履修)
第29条の3　指導教員が学生の教育上特に必要と認めるときは、当該研究科の他の専攻の関係科目を履修させることができる。
(学部の授業科目の履修)
第29条の4　学生は、指導教員が必要と認める場合は、科目担当教員の許可を得て学部の授業科目を履修することができる。
2　前項により修得した授業科目の単位は、修了に必要な単位数に含めない。
(大学院の博士後期課程授業科目の履修)
第29条の5　修士課程及び博士前期課程の学生は指導教員が必要と認める場合は、博士後期課程主要科目の授業科目を履修することができる。
2　前項により博士後期課程の授業科目の履修を認められた者を、科目履修大学院生という。
3　科目履修大学院生として修得した博士後期課程の授業科目の単位は、修士課程及び博士前期課程の修了に必要な単位数に含めない。
第30条　削　除
(単位の認定)
第31条　授業科目を履修した者には、試験の上、その合格者に所定の単位を与える。
(成績の評価)
第32条　成績は、100点を満点とする総合評価点数により評価するものとし、総合評価点数と評語の対応及び判定は別表(3)のとおりとする。
2　前項の規定にかかわらず、成績の評価を前項の規定により行うことが適当でない授業科目については、成績の評価を合格及び不合格の判定のみで行うものとし、この場合において合格は合、不合格は否の評語を用いることができるものとする。
3　第29条、第29条の2の規定により単位を認定された場合の成績の評語は認定とする。ただし、本学則第45条の3において修得した単位は除く。

第9章　課程修了の要件

(修士課程及び博士前期課程の修了要件)
第33条　修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、当該課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該修士課程の目的に応じ、大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
(博士後期課程の修了要件)
第34条　博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年(標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程又は博士前期課程を修了した者及び前条ただし書きの規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者にあっては、3年から当該修士課程における在学期間を減じた期間)以上在学すれば足りるものとする。

第10章　学位の授与

(学位の授与)
第35条　前2条に規定する課程の修了要件を満たした者には、大学院委員会の意見を聴いて、学長が修士又は博士の学位を授与する。
(学位の専攻分野の名称)
第35条の2　学位には、研究科又は研究科の専攻ごとに次のとおり専攻分野の名称を付記するものとする。
(1) 修士
工学研究科

機械工学専攻	工学
環境土木工学専攻	工学
情報工学専攻	工学
電気電子工学専攻	工学
システム設計工学専攻	工学
バイオ・化学専攻	理工学
建築学専攻	工学
高信頼ものづくり専攻	工学
ビジネスアーキテクト専攻	工学

心理科学研究科

臨床心理学専攻	心理学

イノベーションマネジメント研究科

イノベーションマネジメント専攻	経営管理又は知的財産マネジメント

(2) 博士
工学研究科

機械工学専攻	工学
環境土木工学専攻	工学
情報工学専攻	工学
電気電子工学専攻	工学
システム設計工学専攻	工学又は学術
バイオ・化学専攻	理工学
建築学専攻	工学
高信頼ものづくり専攻	工学

(論文提出による学位の授与)
第36条　第35条に定める者のほか、大学院に博士論文を提出し、大学院の行う博士論文の審査及び試験に合格し、かつ、大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者には、大学院委員会の意見を聴いて、学長が博士の学位を授与する。
(学位規則)
第37条　学位及び学位の授与については、本学則のほか、別に定める金沢工業大学学位規則による。

第11章　検定料、入学金、授業料等学校納入金

(学校納入金)
第38条　本学則において学校納入金とは、検定料、入学金、授業料、履修料及び在籍料をいう。
2　本学則に定めるもののほか、学校納入金の取扱いについては、学校法人金沢工業大学学校納入金収納取扱規程の定めるところによる。
(検定料)
第39条　入学を志願する者の検定料は、3万円とする。
(入学金)
第40条　入学金は別表(7)のとおりとする。
(授業料及び在籍料)
第41条　授業料(工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース及びイノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の授業料を除く。)は、別表(4)に掲げるとおりとし、在学する学期に該当する額を、第10条第2項に規定する学年の学期ごとに、当該学期の始め(4月1日及び10月1日)までに納入しなければならない。ただし、前学期分の納入時に年額を一括して納入することができる。
前学期　4月1日
後学期　10月1日
2　工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コースの授業料は、別表(5)に掲げるとおりとし、次に定める期日までに納入しなければならない。
前学期　4月1日
後学期　10月1日
3　イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の授業料は、別表(6)に掲げるとおりとし、在学する学期に要する基礎授業料及び単位授業料を、次に定める期日までに納入しなければならない。
1学期　4月1日
2学期　6月15日
3学期　8月31日
4学期　11月15日
4　休学を認められた者の当該休学期間に相当する学期の授業料は、これを徴収しない。ただし、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。
5　在籍料は1学期につき3万円とする。ただし、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の在籍料は、1学期につき1万5千円とする。
6　休学した者が復学するときの授業料は、その者の入学時に定められ

た当該学期の授業料の額とする。
第42条　削　除
(学校納入金の返還)
第43条　納入された全ての学校納入金は、返還しない。
2　前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料を返還する。
(1) 入学を許可された者が、所定の手続により、次に掲げる入学の時期の区分に応じて、当該区分に定める日までに入学辞退を申し出、かつ、既に授業料を納入している場合
4月入学　3月31日
9月入学　9月30日
(2) 休学を認められた者が、休学する学期の授業料を既に納入している場合
(3) 退学又は除籍となった者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合
(4) 年度の途中で修了を認定された者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合
(5) 単位授業料を既に納入している者が、指定された期日までに履修の取消を申し出た場合
(特別の場合の学校納入金)
第44条　学期の途中での退学又は除籍となった者の当該学期の授業料は、これを徴収する。
2　協定校との交換留学が認められた者の留学期間中の学校納入金は、当該協定校との協定に基づき取り扱うものとする。
3　停学を命ぜられた者の停学期間中の授業料は、これを徴収する。
4　災害により経済的に修学が困難となった学生に対しては、別に定めるところに基づき授業料を減免することができる。

第12章　科目等履修生、研究生及び外国人留学生

(科目等履修生)
第45条　本学の大学院の学生以外の者が、修士課程又は博士前期課程の特定の授業科目について履修することを希望するときは、大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。
2　科目等履修生のうち、履修する授業科目について単位の取得を希望しない者を聴講生という。
3　科目等履修生について必要な事項は、金沢工業大学科目等履修生規程に定めるところによる。
(特別聴講学生)
第45条の2　前条に定める者のほか、協定に基づき他の大学院等から派遣される学生を科目等履修生として受け入れることができる。この場合において、受け入れた科目等履修生を特別聴講学生という。
2　特別聴講学生について必要な事項は、大学院特別聴講学生規程に定めるところによる。
(科目履修学部生)
第45条の3　本学の学部学生が、修士課程又は博士前期課程の特定の授業科目について履修を希望するときは、履修を許可し、単位を与えることができる。この場合において履修を許可された者を科目履修学部生という。
(研究生)
第46条　本学の大学院の学生以外の者が、大学院において、特定の専門事項について研究することを希望するときは、大学院の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。
2　研究生について必要な事項は、金沢工業大学研究生規程に定めるところによる。
(外国人留学生)
第47条　外国人であって、大学において教育を受ける目的をもって入国し、大学院に入学を志願するときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。
2　外国人留学生について必要な事項は、金沢工業大学外国人留学生規程に定めるところによる。
(社会人共学者)
第48条　本学の大学院の学生以外の者で、科目担当者又は企業等から推薦された者が特定の授業科目について参加することを希望するときは、選考の上、社会人共学者として受け入れることができる。
2　社会人共学者について必要な事項は、金沢工業大学社会人共学者規程に定めるところによる。
3　社会人共学者のうち、履修する授業科目について単位の取得を希望する者は、金沢工業大学科目等履修生規程に定めるところによる。

第13章　賞　罰

(表彰)
第49条　学長は、学生として表彰に価する行為があった者について表彰する。
(懲戒)
第50条　学長は、大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者について懲戒する。
2　前項の懲戒の種類は、退学、停学、訓告とする。
3　次の各号のいずれかに該当する者は、退学に処するものとする。
(1) 性行不良で改善の見込みがない者
(2) 成業の見込みがない者
(3) 正当な理由がなくして出席が常でない者
(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第14章　雑則

第51条　削　除
第52条　削　除
第53条　削　除
(準用)
第54条　本学則に規定のない事項については、金沢工業大学学則を準用する。

附　則

1　大学院学則は、昭和53年4月1日から施行する。
2　この改正学則は、昭和54年4月1日から施行する。
(3～42は省略する)
43　この学則は、令和2年4月1日から改正施行する。
44　この学則は、令和2年4月10日から改正施行する。
45　この学則は、令和3年4月1日に改正し、改正後の第9条の2は、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の令和2年度入学者から適用する。
46　この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。
47　この学則は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、改正後の第28条の適用を除き、なお従前の例による。
48　この学則は、令和6年4月1日から改正施行する。
49　この学則は、令和7年4月1日から改正施行する。
50　この学則は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表(1)　授業科目及び単位数(第22条関係)

別表(1)については、p.275からの「教育課程表」の項を参照。

別表(2)　修士課程又は博士前期課程及び博士後期課程の修了に必要な最低単位数(第28条関係)

工学研究科博士前期(修士)課程(高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コースを除く。)

科目区分	修了に必要な最低単位数
専修科目	12
関係科目	18
合計	30

関係科目のうち、自専攻から10単位以上を修得すること。
関係科目のうち、本学以外の大学院等で修得した単位は、自専攻の単位と認めない。

工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース

科目区分	修了に必要な最低単位数
専修科目	6
関係科目	24
合計	30

心理科学研究科修士課程

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	必修	選択
専修科目	8	—
関係科目	34	2
合計	44	

イノベーションマネジメント研究科修士課程

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	修士(経営管理)	修士(知的財産マネジメント)
専修科目	8	
イノベーションマネジメント共通科目	4単位以上	
ビジネスマネジメント専門科目	8単位以上	—
知的財産マネジメント専門科目	—	8単位以上
特別科目	—	
合計	30	

工学研究科博士後期課程

科目区分	修了に必要な最低単位数
特殊研究	4
主要科目	2
特別科目	4
合計	10

別表(3)　総合評価点数と評語の対応及び判定(第32条関係)

総合評価点数	評語	判定
100点～90点	S(秀)	合格
89点～80点	A(優)	
79点～70点	B(良)	
69点～60点	C(可)	
59点～ 0点	D(成績不良)	不合格
―	F(出席不良等)	

別表(4)　授業料(第41条第1項関係)

博士前期課程(修士課程)(工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース及びイノベーションマネジメント研究科修士課程を除く。)

在学期間	入学後の4学期	入学後の4学期を超えて在学する学期
1学期当たり授業料	505,500円	252,750円

博士後期課程

在学期間	入学後の6学期	入学後の6学期を超えて在学する学期
1学期当たり授業料	522,000円	261,000円

別表(5) 授業料(第41条第2項関係)

工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース

在学期間	入学後の2学期	入学後の3学期を超えて在学する学期
1学期当たり授業料	1,011,000円	252,750円

別表(6)　授業料(第41条第3項関係)

イノベーションマネジメント研究科修士課程

基礎授業料	1学期	2学期	3学期	4学期
	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円

単位授業料	専修科目	70,000円/単位	
	専修科目以外	22単位までの履修	70,000円/単位
		22単位を超える履修	35,000円/単位

別表(7)　入学金(第40条関係)

入学金(右各欄の場合を除く)	イノベーションマネジメント研究科 イノベーションマネジメント専攻修士課程	本学の学部を卒業した者及び大学院の修士課程を修了した者	再入学
250,000円	60,000円	0円	0円

金沢工業大学大学院学位申請要項

1. 修士課程の学位申請
(1) 修士課程の修了要件に定める所定の単位及び在学期間を満たすこと。
(2) 論文又は特定の課題の内容を専門学協会や各種コンペ等において1回以上プレゼンテーションすること。ただし、デュアルディグリープログラム参加学生については、本学が他の大学院との間に締結する協力協定に規定するところによる。
(3) 在学期間中に論文又は特定の課題についての研究の成果(以下「研究成果」という。)の審査及び最終試験が完了すること。
(4) 論文計画又は研究成果計画に関する以下の書類を指定の期日までに指導教員を経て専攻主任に提出すること。
①論文計画書又は研究成果計画書　1通
(5) 学位申請に関する以下の書類を指定の期日までに指導教員を経て専攻主任に提出すること。
①学位申請書(所定用紙)　1通
②論文又は研究成果　2部
③論文又は研究成果の概要　2通

2. 課程博士の学位申請
(1) 博士課程の修了要件に定める所定の単位及び在学期間を満たすこと。
(2) 在学期間中に審査及び試験が完了するように論文を提出すること。
(3) 論文について、次の条件を満たしていること。
①主論文の内容の全部又は一部が、当該専門分野の学会の発行する論文誌(有審査)、又はそれに相当する学術論文誌(有審査)に掲載されており、その論文が在籍中2編以上あること。発行者の証明書又は本人宛の通知書により論文の掲載が決定されているときは、当該論文をこの数に含めることができる。
②主論文の内容の全部又は一部に関して、国際会議等において1回以上の口頭発表を実施していること。
③共著論文については、内容が主として当該学位申請者の業績であること。ただし、当該学位申請者がどの部分にどれほど貢献したかについて、共著者の証明を要するものとする。また、当該共著論文が共著者の博士論文の主要な内容となっているときは、①にいう論文数に算入しないものとする。
(4) 論文計画に関する以下の書類を指定の期日までに指導教員を経て専攻主任に提出すること。
①論文計画書　1通
②論文草稿　3部
③論文草稿の概要(所定用紙、和文2,000字程度)　3通
④その他学長が必要と認める資料
(5) 学位申請に関する以下の書類を指定の期日までに指導教員を経て学長(教務課)に提出すること。
①学位申請書(所定用紙)　1通
②論文　3部
③論文の概要(所定用紙、和文2,000字、英文500語程度) 各3通
④論文目録(所定用紙)　3通
⑤履歴書(所定用紙)　1通
⑥参考論文　3部

3. 論文博士の学位申請
(1) 次の申請資格のいずれかを満たしていること。
①大学院修士課程修了後、4年以上を経た者
②大学学部卒業後、7年以上を経た者
③国内外における学歴又は研究歴が、前2項と同等以上であると証明できる者
(2) 論文について、次の条件を満たしていること。
①主論文の内容の全部又は一部が、当該専門分野の学会の発行する論文誌(有審査)、又はそれに相当する学術論文誌(有審査)に掲載されており、その論文が3編以上であり、そのうち2編は単著又は第一執筆者として発表されたものであること。発行者の証明書又は本人宛の通知書により論文の掲載が決定されているときは、当該論文をこの数に含めることができる。
②主論文の内容の全部又は一部に関して、国際会議等において1回以上の口頭発表を実施していること。
③共著論文については、内容が主として当該学位申請者の業績であること。ただし、当該学位申請者がどの部分にどれほど貢献したかについて、共著者の証明を要するものとする。また、当該共著論文が共著者の博士論文の主要な内容となっているときは、①にいう論文数に算入しないものとする。
(3) 論文審査願の受付に関する以下の書類を指定の期日までに学長(教務課)に提出すること。
①論文の内審査願(所定用紙)　1通
②履歴書(所定用紙)　1通
③研究業績書　1通
④論文草稿　3部
⑤論文草稿の概要(所定用紙、和文2,000字程度)　1通
⑥論文目録(所定用紙)　1通
(4) 学位申請受理決定の通知後に以下の書類を指定の期日までに学長(教務課)に提出すること。
①学位申請書(所定用紙)　1通
②論文　3部
③論文の概要(所定用紙、和文2,000字、英文500語程度) 各3通
④論文目録(所定用紙)　3通
⑤履歴書(所定用紙)　1通
(5) 論文審査手数料を指定の期日までに学校法人金沢工業大学法人本部財務部会計課へ納入すること。

附　則

1　この要項は、平成20年4月1日から施行し、金沢工業大学大学院学位授与(修士)実施要領(昭和54年4月1日実施)、金沢工業大学大学院学位授与(課程博士)実施要領(平成11年4月1日実施)、金沢工業大学大学院学位授与(論文博士)実施要領(平成12年4月1日実施)及び学位授与(論文博士)に関する申合せ事項(昭和60年4月1日実施)は廃止する。
(2～4は省略する)
5　この要項は、令和3年4月1日から改正施行する。
6　この要項は、令和5年4月1日から改正施行する。
7　この要項は、令和6年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学大学院博士の学位申請に関する規程

第1条　金沢工業大学学位規則(以下「本学学位規則」という。)第4条第2項及び第3項に規定する学位授与の申請は、この規程に定めるところによる。
第2条　本学学位規則第4条第2項に基づき博士の学位授与を申請しようとする者は、次の各号の書類及び部数を金沢工業大学大学事務局学務部教務課(以下「教務課」という。)に提出するものとする。
(1) 学位申請書(甲)(別紙様式1−1)　1通
(2) 学位論文　3部
(3) 論文の概要(甲)(別紙様式2−1)　3通
(4) 論文目録(甲)(別紙様式3−1)　3通
(5) 履歴書(甲)(別紙様式4−1)　1通
(6) その他学長が必要と認める書類
第3条　本学学位規則第4条第3項に基づき博士の学位授与を申請しようとする者は、次の各号の書類及び部数を教務課に提出するものとする。ただし、審査手数料は学校法人金沢工業大学法人本部財務部会計課に納入する。
(1) 学位申請書(乙)(別紙様式1−2)　1通
(2) 学位論文　3部
(3) 論文の概要(乙)(別紙様式2−2)　3通
(4) 論文目録(乙)(別紙様式3−2)　3通
(5) 履歴書(乙)(別紙様式4−2)　1通
(6) 論文審査手数料　20万円
(7) その他学長が必要と認める書類
第4条　前2条に定める提出書類は、次項に定める共通原則によるほか、第3項から第6項に定めるところに従い作成するものとする。
2　共通原則
(1) 各書類は、原則としてパソコン等による活字印刷とする。
(2) 押印箇所は各々朱肉を用いる。印鑑は各書類とも同一のものを用いる。
(3) 手書きによる場合は、楷書で正確・丁ねいに記入し、あて字は使用しない。
(4) 誤字・脱字等のある場合は補正の上、当該箇所に押印する。ただし、補正の著しい場合は、あらためて作成するものとする。
3　学位論文
(1) 論文はA4判の大きさとし、パソコン等により活字印刷するものとする。
(2) 論文には、論文題目、西暦年月(審査)、氏名を記載する。ただし、職名、身分等は記載しない。
4　論文の概要
論文内容の要旨を和文2,000字及び英文500語程度で記載する。
5　論文目録
(1) 題目
イ　題目(副題を含む。)は提出論文のとおり記載する。ただし、英文の場合、用字(大文字・小文字)については、この限りでない。
ロ　題目を異にする数個の論文をまとめて1編の学位論文としたものは、その総合題目を記載し、個々の題目は記載しない。

(2) 公表の方法・時期

イ　公表は、単行の書籍又は学術雑誌等の公刊物（以下「公表誌」という。）に登載して行うもののほか、インターネットの利用により公表するものとする。

ロ　公表誌は、学術資料として大学、その他の学術機関に保存され、一般に随時閲覧し得るものとする。

ハ　公表は、原則として学位論文そのものを全文公表するものとする。ただし、若干の修正を加え、あるいは研究内容に直接影響しない部分を除外して発表することは差し支えない。学位論文の内容に相当する他の論文の公表をもって、公表したものとすることができる。

ニ　学位論文を編・章等その構成上の区分により、あるいは内容上研究事項別に分割公表することができる。

ホ　自費出版等によるもので、購読できる者が限定されている出版物であっても、最低100部以上を大学、その他の学術機関等に配布されたものについては、公表誌として扱うことができる。ただし、この場合は、その配布先の一覧を添付するものとする。

ヘ　論文全編をまとめて公表したものについては、その公表年月日、公表誌名（雑誌の場合は巻・号）、又は発行所名等を記載する。論文を編・章等の区分により公表したものについては、それぞれの区分ごとに公表の方法・時期を記載する。

ト　学位論文（編・章）とは別の題目で公表した論文をもって、公表したものとする場合については、その題目を（　）に付して併記する。

チ　未公表のものについては、その公表の方法、時期の予定を記載する。ただし、申請時において予定が定まっていない場合は「未定」とする。

リ　共著の場合、著者名欄の記載順序は、その論文における記載順序とし、本人名も含める。

6　履歴書

(1) 本籍地

イ　都道府県名を記載する。

ロ　外国国籍の場合においては国名を記載する。

(2) 現住所

イ　住民票に記載されている住所（公称地名・地番）を記載する。

ロ　学位授与式の通知、その他連絡上支障のないよう、団地名・宿舎名・番号等も記載する。

ハ　外国出張中の者で長期にわたり在住する予定である場合にあっては、その居住地を記載する。

(3) 氏名

イ　戸籍のとおり記載し、通称・雅号等は一切用いない。

ロ　氏名には、ふりがなを付する。

(4) 学歴

イ　高等学校（旧制中等学校）卒業後の学歴について年次を追って記載する。

ロ　入学、休学、復学、退学、卒業、修了その他在籍中における身分上の異動について、もれなく記載する。

ハ　金沢工業大学大学院博士課程を経た者にあっては、所定単位の修得（見込み）についても記載する。

ニ　在学中における学校の名称等の変更についても記載する。

(5) 職歴

イ　常勤の職について、その勤務先、職名等を年次を追って記載する。ただし、非常勤の職であっても、教育・研究に関するものについては記載することが望ましい。

ロ　現職については、当該職について記載した箇条に「現在に至る」と明示する。

(6) 研究歴

イ　学位申請上、特記すべきものと思われる研究歴について、年次を追って、又は事項別に記載する。

ロ　学術に関する研究歴として記載する事項は、次のようなものをいう。

①　研究課題（共同研究を含む。）に関するもの

②　研修に関するもの

③　学術調査に関するもの

④　研究発表（著書・論文等）に関するもの

⑤　学術奨励金に関するもの

⑥　学会に関するもの

⑦　その他学位審査の参考となるもの

ハ　学歴又は職歴として記載することが適当なものについては、研究歴の項に重複して記載しない。

(7) 賞罰

学位授与の申請上、特記すべきものと思われるものを記載する。

附　則

1　この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

（2～7は省略する）

8　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

9　この規程は、令和3年4月1日から改正施行する。

別紙様式1-1

別紙様式1-2

別紙様式3-1

別紙様式3-2

別紙様式2-1

別紙様式4-1

別紙様式4-2

別紙様式2-2

大学院特別聴講学生規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学大学院(以下「本大学院」という。)と他の大学院等との間で締結した単位互換に関する協定(以下「協定」という。)に基づき相互に派遣し、又は受け入れる学生について必要な事項を定める。
(特別聴講学生)
第2条　この規程において、金沢工業大学大学院学則(以下「本大学院学則」という。)第45条の2第1項の規定により他の大学院等から受け入れた特別聴講学生を受入特別聴講学生といい、協定に基づき本大学院が他の大学院等に派遣する学生を派遣特別聴講学生という。
(履修科目数と単位数)
第3条　受入特別聴講学生及び派遣特別聴講学生が履修することができる授業科目数及び単位数は、協定の定めるところによる。
(受入特別聴講学生の履修制限)
第4条　受入特別聴講学生が本大学院において履修することができる授業科目は、本大学院が開講する講義科目に限るものとする。
(受入特別聴講学生の成績通知)
第5条　本大学院は、受入特別聴講学生が履修した授業科目の成績評価を派遣側の大学院等に一括して通知する。
(派遣特別聴講学生の願出と決定)
第6条　派遣特別聴講学生となることを希望する学生は、指導教員の承認を得た上で、指定された期日までに学長に願い出なければならない。
2　学長は、派遣特別聴講学生を決定し、受入側の大学院等に通知する。
(単位授業料の特例)
第7条　本大学院において標準年限を1年とする課程に在学する学生が派遣特別聴講学生となったときは、受入側の大学院等において履修する授業科目の単位数に応じて、本大学院学則第41条第2項別表(5)に掲げる単位授業料を納入しなければならない。ただし、履修する授業科目の単位が0.5単位であるときの単位授業料は、30単位までの履修においては0.5単位当り30,000円、30単位を超える履修においては0.5単位当り15,000円とする。
(派遣特別聴講学生の単位認定)
第8条　派遣特別聴講学生が修得した授業科目に係る単位の認定は、本大学院学則第29条第3項の規定に従い行う。

附　則

1　本規程は、平成11年4月1日から実施する。
2　この規程は、平成24年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学大学院
転研究科・転専攻に関する規程

(趣旨)
第1条　この規程は、金沢工業大学大学院学則第17条の2第2項の規定に基づき、転研究科、転専攻に関して必要な事項を定める。
(時期)
第2条　転研究科、転専攻の時期は、学年の初めとする。
(手続)
第3条　転研究科、転専攻を志願する者は、所定の願書に必要事項を記載し、所属専攻主任を経て、大学事務局学務部修学支援課へ提出しなければならない。その出願時期は、1月中旬とし、別に公示する。
(選考)
第4条　前条の規定により、学生から願い出があったときは、教務部委員会による審査を経て、学長は、転研究科、転専攻の許可を決定する。
(既修得単位の処置)
第5条　転研究科、転専攻を許可された者の既修得単位については、教務部委員会による審査を経て、学長は、転研究科、転専攻先の専攻の修了に必要な単位として認めることができる。
(大学院教育課程の決定)
第6条　学長は、前条の規定により認められた単位数に基づき、転研究科、転専攻先に対応する当該学生の教育課程を決定する。
(通知)
第7条　選考の結果は、3月末日までに本人及び父母等に通知する。

附　則

1　この規程は、平成27年4月1日から施行する。
2　この規程は、平成31年4月1日から改正施行する。
3　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
5　この規程は、令和7年4月1日から改正施行する。
6　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学大学院特待生規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学大学院博士前期課程又は修士課程(以下この規程において「修士課程」という。)における優秀な学生(イノベーションマネジメント研究科の学生を除く。)の修学の奨励を目的とする特待生制度について、必要な事項を定めることを目的とする。
(特待生)
第2条　金沢工業大学(以下「本学」という。)は、本学の学部の卒業に引き続き修士課程への入学を強く希望する者であって、学業成績が優秀又は学業に対する取り組みが真摯で、かつ、高潔な人格を備えた学生を大学院特待生(以下「特待生」という。)とし、特待生給付金を給付する。
(総数)
第3条　特待生の総数は、各年次において概ね100名とする。
(特待生の種類)
第4条　特待生は、次の各号に掲げる2種に区分する。
(1) 特待生A　特待生のうち、人物、成績が特に優秀と認められた学生をいい、各年次において16名以内とする。
(2) 特待生B　特待生A以外の特待生をいう。
(給付額)
第5条　特待生給付金の給付額は、次の各号に掲げる特待生の区分に応じて、当該各号に掲げる額とする。
(1) 特待生Ａ　1学期当たり年間250,000円(年間500,000円)
(2) 特待生Ｂ　1学期当たり年間125,000円(年間250,000円)
(給付期間)
第6条　特待生給付金の給付の期間は、2年を限度とする。
(申請)
第7条　特待生になることを希望する学生は、大学院特待生申請書に必要事項を記入し、所定の書類を添えて、本学学部を卒業する学年の1月末までに学科主任を通じ学長に申請しなければならない。
2　本学学部の早期卒業候補学生については、卒業する学年の6月末までに学科主任を通じ学長に申請しなければならない。
(選考)
第8条　学長は、特待生を選考するため、学長を委員長とする大学院特待生選考委員会(以下「選考委員会」という。)を組織する。
2　選考委員会の委員は、金沢工業大学部長会の構成員をもって充てる。
3　選考委員会は、学長に提出された大学院特待生申請書に基づき選考する。
4　委員長は、選考結果について速やかに理事長に報告しなければならない。
(特待生の決定)
第9条　特待生の決定は、選考委員会の委員長からの選考結果の報告に基づき理事長が行う。
第10条　削除
(決定の取消及び給付額の返還等)
第11条　特待生が決定した後に、当該特待生の資格等が不適当と認められたときは、選考委員会は当該決定を取り消し、給付を停止若しくは給付額の一部又は全額の返還を求めることができる。特待生が入学辞退、休学又は退学した場合も同様とする。
(事務)
第12条　特待生に関する事務は、大学事務局学務部修学支援課が取り扱う。

附　則

1　この規程は、令和2年4月1日に制定し、令和3年1月1日から施行する。
2　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。
3　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学大学院修学奨励金規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学大学院博士前期課程又は修士課程(以下この規程において「修士課程」という。)及び博士後期課程(以下この規程において「博士課程」という。)における学生(イノベーションマネジメント研究科の学生を除く。)の修学を奨励するため、金沢工業大学修学奨励金(以下「修学奨励金」という。)の給付について、必要な事項を定めることを目的とする。
(種類及び対象者)
第2条　修学奨励金の種類及び給付の対象者は、次の各号に掲げる種類に応じて、当該各号に定める者とする。
(1) 第1種　修士課程に在籍する1年次生であって、経済的な支援を必要とする者。ただし、金沢工業大学大学院特待生規程に基づく特待生を除く。
(2) 第2種　修士課程及び博士課程に在籍する学生であって、各専攻が認める学協会等において研究成果(個人の研究成果か又は共同の研究成果かを問わない。以下同じ。)が評価された者
(3) 第3種　修士課程及び博士課程に在籍する学生であって、各専攻が認める学協会等において研究発表を行うために要する旅費を必要とする者
(4) 第4種　修士課程及び博士課程に在籍する学生であって、不測の事情により経済的な支援を急ぎ必要とする者
(給付額及び給付枠)
第3条　修学奨励金の給付額及び給付枠は、次の各号に掲げる種類に応じて、当該各号に定めるとおりとする。
(1) 第1種　給付額は1名当たり年間25万円とし、給付枠は年間5名以内とする。
(2) 第2種　給付額は研究成果1件につき10万円を上限とし、給付枠は年間150件以内とする。
(3) 第3種　給付額は研究発表1件につき3万円を上限とする。
(4) 第4種　給付額は1名当たり年間25万円を上限とし、給付枠は年間10名以内とする。
(受給資格)
第3条の2　修学奨励金の給付を受けることができる者は、学業成績が優秀又は学業に対する取り組みが真摯で、かつ、高潔な人格を備えた者に限るものとする。
(申請)
第4条　修学奨励金の給付を受けようとする者は、修学奨励金の種類に応じた大学院修学奨励金申請書に必要事項を記入し、所定の書類を添えて、次の各号に定める日までに専攻主任を通じ学長に申請しなければならない。
(1) 第1種　修士課程1年次生の学年の1月末
(2) 第2種及び第3種　研究成果が評価された日又は研究発表を行うことが確定した日(第2項において「評価又は確定の日」という。)の後3か月以内
(3) 第4種　随時
2　前項第2号の定めにかかわらず、修士課程及び博士課程の修了予定者であって、評価又は確定の日が2月以降となるときは、評価又は確定の日の前に申請することができる。
(給付回数)
第4条の2　第2種の給付は、一の者について、回数は制限しない。
2　第3種及び第4種の給付は、一の者について、1学年につき1回に限るものとする。
(受給者の選考)
第5条　学長は、修学奨励金の受給者を選考するため、学長を委員長とする大学院修学奨励金選考委員会(以下「選考委員会」という。)を組織する。
2　選考委員会の委員は、金沢工業大学部長会の構成員をもって充てる。
3　選考委員会は、学長に提出された大学院修学奨励金申請書に基づき受給者を選考する。
4　委員長は、選考結果について速やかに理事長に報告しなければならない。
(受給者の決定)
第5条の2　受給者の決定は、選考委員会の委員長からの選考結果の報告に基づき理事長が行う。
(修学奨励金の給付)
第6条　修学奨励金は、第1種については受給者決定後の直近の4月に給付し、その他の種類については受給者決定後30日以内に給付する。
(受給決定の取消及び給付額の返還等)
第6条の2　修学奨励金の受給が決定した後に、当該受給決定者の受給資格等が不適当と認められたときは、選考委員会は当該決定を取り消し、給付を停止若しくは給付額の一部又は全額の返還を求めることができる。当該受給決定者が休学又は退学した場合も同様とする。
(事務)
第7条　修学奨励金に関する事務は、大学事務局学務部修学支援課が取り扱う。

附　則
1　この規程は、平成6年6月1日から施行する。
2　この規程は、平成7年4月1日から改定施行する。
(3～11は省略する)
12　この規程は、令和2年4月1日に改正し、令和3年4月1日から施行する。ただし、改正前の第2条第1号及びこれに関係する規定は、令和2年4月に入学する者について、なおその効力を有する。
13　この規程は、令和3年4月1日から改正施行する。
14　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
15　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学大学院長期履修に関する規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第9条の2第2項の規定に基づき、長期履修について必要な事項を定めることを目的とする。
(対象)
第2条　この規程の適用対象は、イノベーションマネジメント研究科とする。
(申請資格)
第3条　長期履修の申請をすることができる者は、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程に入学又は在籍する者であって、標準修業年限内での修学が困難な事情のある次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1) 職業を有している者(自営業、アルバイト、パートタイム等を含む。)
(2) 出産、育児、介護等を行う者
(3) 前2号のほか病気その他やむを得ない事情を有し、学長が認めた者
(申請手続)
第4条　長期履修を志願する者は、指定された期日までに、次の各号に定める書類を学長に提出しなければならない。
(1) 長期履修申請書(所定様式)
(2) 申請理由を証明するために必要と認める書類
(許可等)
第5条　学長は、前条の規定に基づき提出された申請書類を審査の上、長期履修の許可又は不許可を申請者に速やかに通知する。
(期間の変更申請)
第6条　長期履修を許可された者(以下「長期履修学生」という。)が、履修期間を変更しようとする場合は、指定された期日までに必要な申請手続を行い、学長の許可を受けなければならない。
(授業料等)
第7条　長期履修学生に係る学校納入金の額は、大学院学則の定めるところによる。
(新設科目の履修)
第7条の2　長期履修学生は指導教員が必要と認める場合は、長期履修期間に新設された授業科目を履修することができる。
2　前項の規定に基づき、修得した授業科目の単位は、修了に必要な単位数に含める。
(その他)
第8条　この規程に定めるもののほか、長期履修に関して必要な事項は、別に定める。

附　則
1　この規程は、令和3年4月1日から施行し、令和2年度入学者から適用する。
2　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

7-3 学部・大学院共通

学園協議会規則

第1条　この規則は、学校法人金沢工業大学管理規則第5条に基づき、学園協議会(以下「協議会」という。)に関して必要な事項を定める。
第2条　協議会は、理事会、教授会、学友会、高専学務会議及び学生会の代表者をもって構成し、金沢工大学園における三位一体の協同精神の実現に努めるものとする。
第3条　協議会は理事長が主宰し、理事長が協議会の会議(以下「会議」という。)において議長を務める。
2　協議会の構成員は、理事会(理事長を除く。)、教授会、学友会、高専学務会議及び学生会の各組織から代表者に選出され、かつ議長の同意を得た者とする。ただし、各組織からの代表者は5名を超えてはならない。
3　前項の規定にかかわらず、議長が許可したときは、各組織の代表者以外の者を会議に陪席させることができる。
第4条　会議は、議長が招集する。
第5条　会議は、定例会議及び臨時会議とする。
2　定例会議は、各年度の始めに招集するものとし、開催日の10日前に招集を通知するものとする。
3　臨時会議は、各組織の代表者のいずれかの者から請求があったとき招集するものとし、直ちに招集を通知するものとする。
第6条　会議が合意に至らないときは、議長が決するところによる。
第7条　協議会に事務局を置き、会議の記録等のほか協議会に関して必要な事務を処理する。
2　事務局は会議の議事録を作成し、議長の承認を得た後、これを保管する。
3　事務局は、次の者をもって構成する。
(1) 法人本部法人部長
(2) 大学学務部長
(3) 大学学務部修学支援課長
(4) 大学学務部学生課学友会担当課長
(5) 高専学務部長
(6) 高専学務部庶務課長
(7) その他必要に応じて議長が指名する者
4　法人本部法人部長は、事務長として事務局を統括する。
第8条　この規則の改廃は、常任理事会の議を経て、理事会が行う。

附　則
1　この内規は、昭和55年4月1日より実施する。
(2～8は省略する)
9　この規則は、令和2年4月1日から改正施行する。
10　この規則は、令和5年4月1日から改正施行する。
11　この規則は、令和7年6月1日から改正施行する。

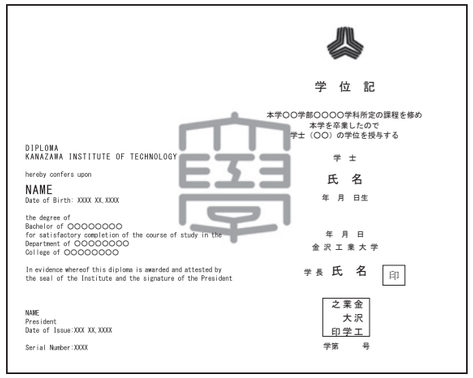
金沢工業大学学位規則

(目的)
第1条　この規則は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条第1項並びに金沢工業大学学則(以下「大学学則」という。)第25条第4項及び金沢工業大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第37条の規定に基づき、金沢工業大学(以下「本学」という。)において授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。
(学位)
第2条　本学において授与する学位及び学位に付記する専攻分野の名称は、学士(工学)、学士(情報)、学士(理工学)、修士(工学)、修士(理工学)、修士(心理学)、修士(経営管理)、修士(知的財産マネジメント)、博士(工学)、博士(理工学)及び博士(学術)とする。
(学位授与の要件)
第3条　学士の学位は、大学学則第25条に規定するところにより、本学の学部を卒業した者に授与する。
2　修士の学位は、大学院学則第33条に規定するところにより、本学大学院の修士課程及び博士前期課程(以下「修士課程」という。)を修了した者に授与する。
3　博士の学位は、大学院学則第34条に規定するところにより、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。
4　前項の規定にかかわらず、本学に論文を提出し、その審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力があると確認(以下「学力の確認」という。)された者には、博士の学位を授与することができる。
(修士及び博士の学位授与の申請)
第4条　前条第2項に規定する修士の学位授与を申請しようとする者は、論文及び論文概要又は特定の課題についての研究の成果(以下「研究成果」という。)及びその概要並びにその他本学が指定する書類を、指定された期日(以下「指定期日」という。)までに大学院委員会(以下「委員会」という。)に提出しなければならない。
2　前条第3項に規定する博士の学位授与を申請しようとする者は、所定の学位申請書に論文、論文概要及び論文目録並びに履歴書その他本学が指定する書類を添え、指定期日までに指導教員を経て、委員会に提出しなければならない。
3　前条第4項に規定する博士の学位授与を申請しようとする者は、所定の学位申請書に論文、論文概要及び論文目録並びに履歴書その他本学が指定する書類並びに審査手数料20万円を添え、指定期日までに学長に提出しなければならない。
4　第1項及び第2項に基づき学位授与の申請をしようとするときは、論文又は研究成果提出の指定期日の三月前までに指導教員を経て、論文計画書又は研究成果計画書を委員会に提出しなければならない。
5　前各項に基づき提出された論文等及び納入された審査手数料は、返還しない。
(論文又は研究成果の審査)
第5条　委員会又は学長に提出された論文又は研究成果の審査は委員会において行うものとし、委員会が選出した審査委員が行う。
2　論文又は研究成果の審査の結果は、委員会が指定する期日までに審査委員が委員会に報告しなければならない。
(審査委員)
第6条　委員会は、修士の論文又は研究成果の審査にあっては2名以上、博士の論文の審査にあっては4名以上の審査委員を選出し、それぞれ、そのうちの1名を主査に指名する。
2　主査が必要と認めたときは、委員会はその議を経て、本学の他の研究科又は他の大学の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に委嘱することができる。
3　審査委員の選出等について必要な事項は、別に定める大学院学位論文審査委員の選出等に関する規程に定めるところによる。
(最終試験又は試験)
第7条　第3条第2項の規定に基づく修士課程の修了のための最終試験は、当該専攻の教員が論文又は研究成果を中心としてこれに関連する科目について口述により行うものとする。
2　第3条第3項の規定に基づく博士後期課程の修了のための最終試験及び同条第4項に定める試験は、審査委員が、論文を中心としてこれに関連する専門分野について筆記又は口述により行うものとする。
3　最終試験又は試験を担当した教員又は審査委員の主査は、その結果を速やかに委員会に報告しなければならない。
(学力の確認)
第8条　第3条第4項に定める学力の確認は、論文に関連する専門分野について筆記又は口述により行うものとする。ただし、学位申請書に記載された学歴、研究業績等によって確認すべき学力が明らかな場合には、学力の確認を省略することができる。
2　学力の確認は、学位申請書の研究分野に関連のある授業科目の担当教員3名以上によって行い、うち1名が主査を務める。
3　主査は、学力の確認の結果を速やかに委員会に報告しなければならない。
(審査等の期間)
第9条　第3条第2項又は第3項の規定に基づく修士課程又は博士後期課程の修了のための論文又は研究成果の審査及び最終試験は、当該学位授与申請者が在学すべき所定の期間内において、委員会が指定する期日までに終了するものとする。
2　第3条第4項に定める博士の論文の審査、最終試験又は試験及び学力の確認は、論文が提出された日から起算して1年を超えない期間内において委員会が指定する期日までに終了するものとする。ただし、特別の事情があるときは、委員会の議を経て1年を超えることができる。
(学位授与の審議)
第10条　委員会は、論文又は研究成果の審査の結果、最終試験又は試験の結果並びに学力の確認の結果の報告に基づき、学位授与の可否を審議する。
2　学位授与の可否は、修士にあっては出席者の過半数、博士にあっては出席者の3分の2以上の多数をもって決するものとする。
3　委員会は、学位授与に関する審議の結果を速やかに学長に報告しなければならない。
(学位記)
第11条　学長は、学士の学位を授与すべき者に学士の学位記を授与する。
2　学長は、前条第3項の報告に基づき、修士又は博士の学位の授与を決定し、それぞれの学位を授与すべき者に修士又は博士の学位記を授与し、学位を授与できない者に対し、その旨を通知する。
3　学位記の様式は、それぞれ別記様式のとおりとする。
(学位授与の報告等)
第12条　学長は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から三月以内に、文部科学大臣に所要の報告をするとともに、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。
(論文の公表)
第13条　博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。
2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、学長は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
3　博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。
(論文の保管)
第14条　修士又は博士の学位を授与された者の論文又は研究成果は、金沢工業大学ライブラリーセンターにおいて保管する。
(学位の名称の使用)
第15条　学位を授与された者が、当該学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。
(学位授与の取消)
第16条　修士又は博士の学位を授与された者が、次の各号のいずれかに該当する事実が判明したときは、学長は委員会の意見を聴いて、学位の授与を取り消し、学位記を返付せしめ、かつ、その旨を公表する。
(1) 不正の方法により学位を授与されたとき。
(2) 授与された学位の名誉を汚す行為があったとき。
2　前項に定める委員会の審議の議決は、出席者の3分の2以上の多数をもって決するものとする。

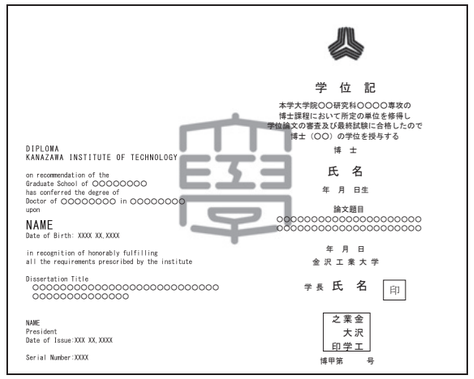
附　則
1　本規則は、昭和53年4月1日から施行する。
2　この改正規則は、昭和55年4月1日から施行する。
(3～18は省略する)
19　この規則は、令和2年4月1日から改正施行する。
20　この規則は、令和4年4月1日から改正施行する。
21　この規則は、令和6年4月1日から改正施行する。
22　この規則は、令和7年4月1日から改正施行する。

別記様式

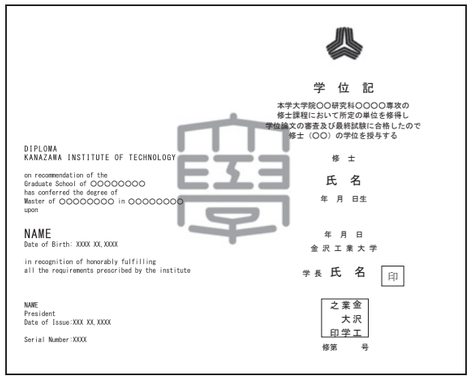
学士の学位記



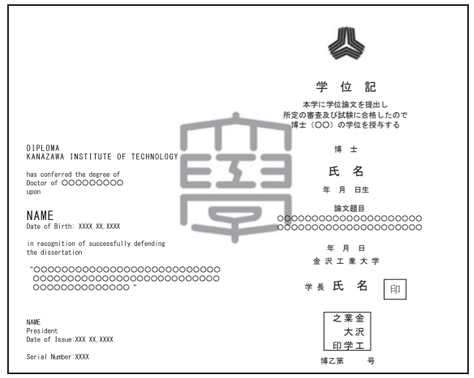
第3条第3項による博士の学位記



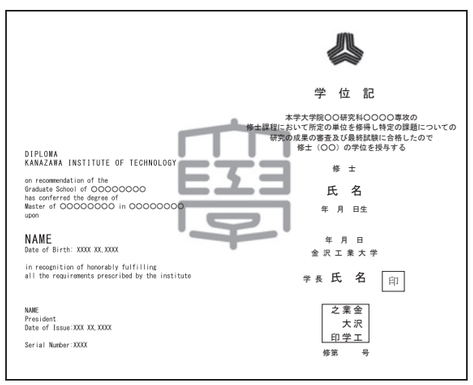
修士の学位記（論文の審査によるもの）



第3条第4項による博士の学位記



修士の学位記
（特定の課題についての研究の成果の審査によるもの）



休学・復学の手続に関する規程

（目的）

第1条　この規程は、金沢工業大学学則第13条及び金沢工業大学大学院学則第17条の規定に基づき、休学・復学について必要な事項を定める。

（申請）

第2条　休学・復学を希望するものは、所定用紙により定められた期間に申請しなければならない。

（休学）

第3条　休学の申請期間は次の各号のとおりとする。

(1) 前学期にあっては、前年度の3月21日から4月21日まで、後学期にあっては、9月21日から10月21日までの期間とする。

(2) 1学期にあっては、前年度の3月21日から4月21日まで、2学期にあっては、6月6日から7月6日まで、3学期にあっては、8月21日から9月21日まで、4学期にあっては、11月6日から12月6日までの期間とする。

(3) 申請期間の最終日が日曜日又は国民の祝日に関する法律に定める休日及び学年暦に定める休日の場合は、翌日を期間の最終日とする。

（復学）

第4条　復学の手続及び手続期間については、休学期間が満了する1ヵ月前までに通知する。

（審査）

第5条　学長は、休学・復学許可の可否について、その理由が修学継続の上で適正なものであるかを審査し決定する。

2　前項の審査は、学長が学生部長と教務部長並びに必要に応じてその他の意見を聴いて行う。

3　審査上必要な場合は、申請した学生から事情を聴取することがある。

（事務）

第6条　休学・復学の手続に関する事務は、大学事務局学務部学生課が行う。

附　則

1　この規程は、平成8年4月1日から施行する。

（2～6は省略する）

7　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

8　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学派遣留学規程

（趣旨）

第1条　この規程は、金沢工業大学学則第14条の3第2項及び金沢工業大学大学院学則第18条の2第2項の規定に基づき、金沢工業大学（以下「本学」という。）の学部学生又は大学院生（以下「学生」という。）の留学に関して必要な事項を定める。

（派遣留学）

第2条　この規程において派遣留学とは、学生が、本学を休学することなく、本学と学術交流協定等を締結している外国の大学及び学長が認めた教育研究機関等（以下「大学等」という。）において、授業科目を履修し、若しくは研究することをいう。

（出願手続）

第3条　派遣留学を志願する者は、指定された期日までに、次の各号の書類により学長に願い出なければならない。

(1) 留学願

(2) 留学先の大学等の入学許可書又は受入れに関する許可書の写し

(3) その他本学が必要と認める書類

2　学術交流協定に基づく派遣留学である場合は、前項第2号の書類の提出は不要とする。

（留学許可）

第4条　派遣留学の許可は、次条に定める派遣留学生選考委員会（以下「委員会」という。）で選考の上、学長が決定する。

2　選考は、面接及び書類による審査をもって行う。

（委員会の構成）

第5条　委員会は、次の者を委員として構成する。

(1) 教務部長

(2) 学生部長

(3) 留学支援・国際交流センター所長

(4) その他学長が指名する者

2　委員長は、教務部長がこれに当たる。

3　委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

（留学期間中の授業料徴収）

第6条　派遣留学の期間における本学の授業料は、これを徴収する。

（修学支援金の支給）

第7条　本学は、学生が派遣留学を修了したときは、修学支援金として25万円を支給することができる。

（留学修了手続）

第8条　派遣留学を修了して帰国したときは、速やかに留学修了届を学長に提出しなければならない。

（修得単位の取扱い）

第9条　派遣留学において履修した授業科目について修得した単位は、本学の学部又は大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（事務）

第10条　この規程に関する事務は、留学支援・国際交流センター国際交流室留学支援課が行う。

附　則

1　この規程は、平成20年4月1日から施行し、外国留学に関する規程（平成4年4月1日施行）及び交換留学プログラムに基づく派遣留学生の選考に関する内規（平成5年12月13日施行）は廃止する。

（2～4は省略する）

5　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

6　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

他大学等において修得した単位の取扱いに関する規程

（趣旨）

第1条　この規程は、金沢工業大学学則第24条の2及び金沢工業大学大学院学則第29条に基づき、金沢工業大学（以下「本学」という。）の学部学生又は大学院学生（以下「本学学生」という。）が、他の大学等において修得した授業科目の単位の取扱いに関して必要な事項を定める。

（修得単位の認定）

第2条　本学学生が、他の大学、短期大学又は大学院（以下「他大学等」という。）において修得した授業科目の単位は、この規程の定めるところにより本学における授業科目の履修により修得したもの（以下「修得単位」という。）とみなすことができる。ただし、次の各号のいずれかの要件を満たすものでなければならない。

(1) 本学と当該他大学等が単位互換に関する協定を締結し、又は合意していること。

(2) 学長が本学の教育上有益であると認めたものであること。

（単位認定の願出）

第3条　本学において修得単位の認定を希望する本学学生は、指定された期日までに次の各号の書類を付して学長に願い出なければならない。

(1) 修得単位認定申請書（別紙様式）

(2) 単位修得証明書又は成績証明書

2　修得した授業科目の単位が前条第2号によるものである場合は、前項の書類に次の各号の書類を添えなければならない。

(1) 当該他大学等の学生便覧

(2) 履修した授業科目に関する学習支援計画書（シラバス）

(3) 履修した授業科目において使用した教科書等

(4) その他必要に応じて学長が指定した書類

（単位付与の決定）

第4条　前条による願い出があったときは、学長は、教務部委員会による確認又は審査を経て、単位付与を決定する。

附　則

1　この規程は、平成9年4月1日から施行する。

2　この規程の改正条項は、平成16年4月1日から施行する。

3　この規程は、平成20年4月1日から改正施行する。

4　この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学科目等履修生規程

（趣旨）

第1条　この規程は、金沢工業大学学則（以下「大学学則」という。）第46条及び金沢工業大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第45条に定める科目等履修生について、必要な事項を定める。

（入学資格）

第2条　学部の科目等履修生の入学資格は、高等学校若しくは中等教育学校に在学中又は卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する者を含む。)又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

2　大学院の科目等履修生の入学資格は、大学を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

3　金沢工業大学（以下「本学」という。）への入学手続きを完了した科目等履修生は、科目等履修高校生といい、この取扱いについては別に定める。

4　学生交換に関する協定を締結する大学等からの科目等履修生の入学資格については、別に定める。

（期間と履修科目）

第3条　科目等履修生の在学期間は、履修を許可された授業科目の開講期間とし、1年以内とする。ただし、引き続き履修を志願することは妨げない。

2　科目等履修生が履修することができる授業科目数は、年間12科目以内とし、単位数の上限は12単位とする。

3　学部の科目等履修生が履修できる授業科目は、大学学則第18条第2項に定める別表第1の授業科目とする。ただし、プロジェクトデザイン入門（実験）、プロジェクトデザイン実践（実験）、グローバルPD、ICT入門及び専門プロジェクト科目は履修することができない。

4　大学院の科目等履修生が履修できる授業科目は、大学院学則第22条に定める別表（1）の修士課程及び博士前期課程の授業科目とする。ただし、専修科目は履修することができない。

5　前2項の規定にかかわらず、学部及び大学院の教育研究に支障を及ぼすと認められるときは、科目等履修生が履修することができる授業科目を制限することができる。

（出願手続）

第4条　科目等履修生として入学を志願する者は、入学願書に所定の書類と検定料1万円を添え、指定された期日までに学長に願い出なければならない。

（選考）

第5条　学長は、前条による願い出があった者について選考を行う。

（入学手続及び許可）

第6条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定された期日までに、所定の書類を学長に提出するとともに、履修料を納入しなければならない。

2　学長は、前項による手続を完了した者に入学を許可する。

（履修料）

第6条の2　履修料は、履修する授業科目の単位数によって算出するものとし、授業科目1単位当たりの額は、別表に定めるところによる。

2　本学大学院の課程を修了した者で、イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の授業科目を履修する科目等履修生として入学する場合に限り、履修料は前項に定める額の2分の1に相当する額とする。

（履修許可の取消）

第7条　学長は、科目等履修生において履修の成果が認められないとき、又は履修料の納入を怠ったときは、当該科目等履修生に対して履修の許可を取り消すことができる。

（単位修得証明）

第8条　学長は、科目等履修生で単位を修得した者に対し、本人の請求により、単位修得証明書を交付する。

（準用）

第9条　この規程に定めるもののほか、科目等履修生に必要な事項については、大学学則又は大学院学則の規定を準用する。

附　則

1　この規程は、平成4年4月1日から施行し、その施行日をもって、従前の「聴講生規程」は廃止する。

2　この規程の改正規定は、平成6年4月1日から施行する。

（3～15は省略する）

16　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

17　この規程は、令和3年4月1日から改正施行する。

18　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

19　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。

20　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

別表　授業科目1単位当たり履修料

授業科目の区分	学部	大学院	
		イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程	左記以外
講義・演習	24,000円	70,000円	30,000円
実験・実習	30,000円	—	—

金沢工業大学研究生規程

(趣旨)
第1条　この規程は、金沢工業大学学則(以下「大学学則」という。)第47条及び金沢工業大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第46条の規定に基づき、研究生に関して必要な事項を定める。
(入学資格)
第2条　金沢工業大学の学部(以下「本学学部」という。)の研究生の入学資格は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する者を含む。)又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。
2　金沢工業大学大学院(以下「本学大学院」という。)の研究生の入学資格は、大学を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。
3　学生交換に関する協定を締結する大学等からの研究生の入学資格については、別に定める。
(入学の時期)
第3条　入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の理由があるときは、この限りでない。
(出願手続)
第4条　研究生として入学を志願する者は、あらかじめ指導教員の内諾を得て、入学願書に所定の書類と検定料1万円を添えて、指定された期日までに学長に願い出なければならない。
(選考)
第5条　学長は、前条による願い出があった者について選考を行う。
(入学手続及び許可)
第6条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定された期日までに、所定の書類を提出するとともに、入学する日の属する月から研究の修了を予定する月までの月数に応じた授業料の全額を納入しなければならない。
2　学長は、前項による入学手続を完了した者に入学を許可する。
(研究期間)
第7条　研究期間は、入学後、1年以内とする。ただし、引き続き研究を希望する者は、指導教員の承諾を得た後、学長の許可を受け1年を限度として研究期間を延長することができる。
2　研究期間を延長するときは、延長する月数に応じた授業料の全額を納入しなければならない。
(授業科目の聴講)
第8条　研究生は、指導教員が必要と認める場合は、担当教員の許可を得て研究に関連する授業科目を聴講することができる。
第8条の2　削　除
(研究の修了)
第9条　研究生は、研究期間が終了したとき又は指導教員が研究の修了を認めたときは、指導教員を経て、研究成果の概要を記した研究修了届を学長に提出しなければならない。
(研究修了証明書)
第9条の2　学長は、研究を修了した研究生に対し、本人の請求により、研究修了証明書を交付する。
(授業料)
第10条　授業料は、月額5万6千円とする。
2　本学学部を卒業した者又は本学大学院の課程を修了(満期退学を含む。)した者の授業料の月額は、前項に定める額の2分の1に相当する額とする。
3　本学が他大学等と締結した合意書に基づく研究生の授業料は双方協議の上、取扱うものとする。
(授業料の返還)
第11条　納入された授業料は、返還しない。
2　前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料を返還する。
(1) 入学を許可された者が、所定の手続により、研究期間が始まる日の前日までに入学辞退を申し出たときは、既納の授業料の全額
(2) 退学、除籍、修了等の理由により、予定した研究期間のうち在籍しなかった月の授業料
(実験実習費)
第12条　実験実習に要する費用は、研究生の負担とする。
(規定の準用)
第13条　この規程に定めるもののほか、研究生に関して必要な事項については、大学学則又は大学院学則の規定を準用する。

附　則
1　この規程は、昭和55年4月1日から施行する。
2　この規程の改正規定は、昭和57年4月1日から施行する。
(3～15は省略する)
16　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
17　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
18　この規程は、令和8年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学外国人留学生規程

第1条　金沢工業大学(以下「本学」という。)における外国人留学生については、この規程の定めるところによる。
第2条　外国人留学生の区分は、次のとおりとする。
(1) 学部の学生
(2) 大学院の学生
(3) 研究生
(4) 学部の科目等履修生
(5) 大学院の科目等履修生
第3条　外国人留学生の入学資格は、前条の区分ごとに次表のとおりとする。

区分	入学資格
学部の学生、科目等履修生及び研究生	金沢工業大学学則(以下「大学学則」という。)第9条による。
大学院の学生、科目等履修生及び研究生	金沢工業大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第13条による。

第4条　外国人留学生の入学の時期は、原則として学期の始めとする。
第5条　外国人留学生として入学を志願する者は、入学願書に検定料及び日本国外務省在外公館又は出身国在日公館の発行する身分証明書その他所定の書類を添えて、学長に願い出なければならない。
第6条　前条の入学志願者についての選考は、志願者の履歴、人物、健康並びに修学に必要な日本語及び学力につき筆記、口述、その他適当と認める方法により行うものとする。
第7条　前条の選考結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、入学金を納付しなければならない。ただし、科目等履修生及び研究生については、入学金は不要とする。
2　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
第8条　外国人留学生に対しては、専門学科に関する知識と技能を修得させるとともに日本文化の一般をも理解させるよう留意すべきである。
第9条　学部及び大学院の学生に係る学校納入金の額は、大学学則及び大学院学則の定めるところによる。
2　研究生及び科目等履修生の学校納入金は、金沢工業大学研究生規程(以下「研究生規程」という。)及び金沢工業大学科目等履修生規程(以下「科目等履修生規程」という。)による。
第10条　納付した学校納入金は、返還しない。
第11条　この規則に定めるもののほか、外国人留学生に関し必要な事項は、それぞれ第2条の区分に従い、大学学則、大学院学則、研究生規程及び科目等履修生規程の定めるところによる。

附　則
1　この規程は、昭和55年4月1日から施行する。
2　この規程は、平成4年4月1日から改正施行する。
3　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学 社会人共学者規程

(趣旨)
第1条　この規程は、金沢工業大学学則(以下「大学学則」という。)第49条及び金沢工業大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第48条に定める社会人共学者について、必要な事項を定める。
(対象)
第2条　社会人共学者として金沢工業大学の学部及び大学院(以下「本学」という。)が受け入れることができる者は、次の各号に規定するすべてに該当しなければならない。
(1) 本学の学生以外の者であること。
(2) 本学の科目担当者又は企業等から推薦され、本学の特定の授業科目に参加することを希望していること。
(3) 本学の学生に対し、社会の状況や話題提供をするなどの支援を行うことができること。
(4) 自らも目的・目標を持ち、本学の学生と共に研鑽する意欲があると認められ、授業科目の運営に協力することができること。
2　本学卒業生は、前項第2号の規定に該当しない場合であっても、第3号及び第4号の規定に該当する場合には社会人共学者として本学が受け入れることができる者となることができる。
(期間)
第3条　社会人共学者として受け入れることができる期間は、1学年以内であって、科目担当者が指定する期間とする。
(手続)
第4条　社会人共学者として受入れを希望する者は、申請書に必要事項を記入し、指定された期日までに学長に申し出なければならない。
2　学長は、前項の申し出があったときは、第2条の規定に基づき選考の上、当該申出者を社会人共学者として受入れることができる。
(授業科目)
第5条　第2条第2号に規定する特定の授業科目は、大学学則第18条第2項別表第1(教育課程表)及び大学院学則第22条別表(1)(授業科目及び単位数)に定める授業科目とする。
2　社会人共学者が参加することができる授業科目数は、1学年において12科目以内とする。
(人数)
第6条　本学が受け入れる社会人共学者の人数は、本学の学生の学修の妨げとならない範囲内とする。
(費用)
第7条　社会人共学者として受け入れることに伴う費用は要しない。
(取消)
第8条　学長は、受け入れた社会人共学者が、第2条各号のいずれか一に該当しなくなったと認めるときは、当該社会人共学者の受け入れを取り消すことができる。
(諸規則の遵守)
第9条　社会人共学者は、本学の諸規則を遵守しなければならない。
2　社会人共学者が、本学の諸規則に反する行為又は社会人共学者としてふさわしくない行為を行ったときは、学長は当該社会人共学者の授業科目への参加を停止することができる。
(適用)
第10条　この規程に定めるもののほか、社会人共学者に必要な事項については、大学学則又は大学院学則を適用する。

附　則
1　この規程は、平成30年4月1日から施行する。
2　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
3　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学学長褒賞規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において優秀な成果を修めた学生に対する褒賞に関して必要な事項を定める。
(学長褒賞)
第2条　学長は、この規程の定めるところに従い、学生に褒賞(以下「学長褒賞」という。)を与えることができる。
(対象者)
第3条　この規程において学生とは、学部学生及び大学院生(博士後期課程に在籍する者を除く。)をいう。
(褒賞学生の選定基準)
第4条　学長褒賞の対象となる学生(以下「褒賞学生」という。)の選定基準は、別表のとおりとする。
(褒賞学生の決定)
第5条　褒賞学生は、別表に掲げる項目ごとの内容のいずれかに該当する者であって、教職員の推薦に基づき学長が決定する。
(褒賞の授与)
第6条　褒賞学生には、褒状及び副賞を授与する。
(褒賞の時期)
第7条　学長褒賞を与える方法、時期等については、学長がその都度定める。
(学長表彰への推薦)
第8条　褒賞学生のうち、特に優秀な成果を修めた者については、別に定める金沢工業大学学長表彰規程に基づく学長表彰に推薦するものとする。
(事務)
第9条　学長褒賞に係わる事務は、大学事務局学務部修学支援課において取り扱う。

附　則
1　この規程は、平成20年4月1日から施行し、金沢工業大学学部学長褒賞規程(昭和58年4月1日施行)及び金沢工業大学大学院学長褒賞規程(平成2年4月1日施行)は廃止する。
2　この規程は、平成28年4月1日から改正施行する。
3　この規程は、平成31年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
5　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
6　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

別表

項目	内容	コード
1 学業	1　学期間に2科目以上履修し、GPAポイントが3.30以上の者	A
	2　「プロジェクトデザインⅢ」「修士研究」の研究成果において顕著な成績をおさめた者	B
	3　教育補助員を含めた学びあいの促進に励み、学力向上に貢献した者	C
	4　学長が指定した資格を取得した者	D
2 課外活動	1　課外活動において取組みが真摯で他の模範となる者	E
	2　コンテスト等において優秀な成績をあげて本学の声価を高めた者	F
	3　課外活動で全国大会に出場する等顕著な成績をおさめた者	G
3 その他	1　学生として模範的行動によって本学の声価を高めた者	H
	2　心身、環境等の悪条件を克服して成果をおさめた者	I

金沢工業大学学長表彰規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学学則第53条及び金沢工業大学大学院学則第49条に基づき、学生として表彰するに値する行為があった者に対する表彰(以下「学長表彰」という。)に関して必要な事項を定める。
(対象)
第2条　この規程において学生とは、学部学生及び大学院生(博士後期課程に在籍する者を除く。)をいう。
(選定基準)
第3条　学長表彰の対象となる学生(以下「表彰学生」という。)の選定基準は、次のとおりとする。
(1) 学部学生にあっては、修業年限4年間における正課及び正課外の活動において、特に優秀な成果を収めた者であって、次のいずれかに該当するもの
イ　学長褒賞を18回以上受賞した者
ロ　各学科において正課学修ポイント(GPAポイント×修得単位数)による成績評価が最も優秀な者
ハ　課外活動を4年間継続し、顕著な活躍をした者
(2) 大学院生にあっては、標準修業年限内における研究成果について特に優れた評価を得た者
(3) その他、本学の名声を特に高めた者
(表彰学生の決定)
第4条　表彰学生は、教職員の推薦により、学長が決定する。
(授与)
第5条　表彰学生には、表彰状及び副賞を授与する。
(表彰の時期)
第6条　第3条第1号及び第2号による学長表彰は、学部卒業式又は大学院学位授与式において行う。
2　第3条第3号による学長表彰は、決定後その都度行う。

附　則
1　この規程は、平成14年2月1日から施行する。
(2～4は省略する)
5　この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。
6　この規程は、令和4年4月1日から改正施行する。
7　この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。ただし、令和5年3月31日に現に在学する者については、なお従前の例による。

学生懲戒に関する規程

(目的)
第1条　この規程は、金沢工業大学学則第54条並びに金沢工業大学大学院学則第50条の規定に関する学生の懲戒について必要な事項を定める。
(訓告)
第2条　訓告は書面をもって当該行為を戒めるものとする。
(停学)
第3条　停学の種類は、有期及び無期の2種とする。
(処分の軽減)
第4条　停学処分後において、「反省が顕著な者」については処分を軽減又は解除することができる。
(停学期間の取扱)
第5条　停学期間は在学期間に算入しない。
(再行為)
第6条　懲戒を受けたことのある者が、重ねて懲戒相当の行為を行った場合は、原則としてこれを退学に処することができる。
第7条　削除
(成績の取扱い)
第8条　懲戒処分を受けた学生の成績は、別表に定めるところにより取り扱うものとする。

附　則
1　この規程は、平成13年4月1日から施行する。
2　この規程は、平成30年4月1日から施行する。
3　この規程は、令和3年4月1日から改正施行する。
4　この規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

別表 懲戒に関する成績の取扱い

処分	成績の取扱い
訓告	当該学期の履修許可科目をF評価(出席不良等)とすることができる。
停学	当該学期の履修許可科目を全てF評価(出席不良等)とし、解除日まで履修登録申請を受け付けない。
退学	退学日をもって、当該学期(前学期又は後学期)の履修許可科目をすべて取り消す。

金沢工業大学就職あっ旋規程

(趣旨)
第1条　この規程は、金沢工業大学(以下「本学」という。)の学生又は卒業生に対して職業紹介(以下「就職あっ旋」という。)を行う場合の必要事項を定める。
2　本学における就職あっ旋は、職業安定法(昭和22年法律第141号)第33条の2に基づいて実施する。
(担当部署)
第2条　就職あっ旋の業務は、大学事務局進路開発センター(以下「進路開発センター」という。)及び進路部委員会が取り扱う。
2　前項にかかわらず、修学の余暇における勤労(いわゆる「アルバイト」)のあっ旋は、大学事務局学務部修学支援課が取り扱う。
(求人申込)
第3条　本学に対して求人しようとする者(以下「求人者」という。)は、求人申込をしなければならない。
2　求人申込は、所定の求人票により行うものとする。
3　求人票は、進路開発センターに提出するものとする。
4　求人票には賃金、労働時間、業務内容、その他の労働条件を明示し、その履行に関する責任の所在を明確にしなければならない。
(求人申込の受理と公開)
第4条　前条による求人申込は、すべてこれを受理し、公開する。ただし、申込の内容が次のいずれかに該当するときは、受理しないことができる。
(1) 法令に違反するとき。
(2) 労働条件が通常と比べ著しく不適当なとき。
(3) 職業が本学の教育課程に適切でないとき。
(進路登録)
第5条　本学に在学し、当該年度に卒業見込みの学生は、進路登録しなければならない。
2　進路登録は、所定の進路登録票により、進路開発センターに提出する。
3　進路登録を行った者は、就職あっ旋並びに求人に関する情報の提供を受けることができる。
(求職申込)
第6条　就職あっ旋を受けようとする者(以下「求職者」という。)は、求職申込をしなければならない。
2　求職申込は、所定の進路登録票により、指導教員を経て進路開発センターに提出する。ただし、本学の教育課程に適切でない職業に関する求職の申込みは受理しないことがある。
(求職者の心得)
第7条　前条により求職申込をした者は、別に定める「金沢工業大学就職あっ旋に関する学生心得」を遵守しなければならない。
(推薦)
第8条　求職者であって次の各号に該当する者については、求人先への推薦を行うことがある。
(1) 求人先に就職しようとする強い意思を持つ者
(2) 学業成績、人物ともに優秀であると認められる者
(3) その他、進路部委員会で推薦が適当と認められた者
2　推薦する求職者の選考は、指導教員の案に基づき、進路部委員会が行う。
3　推薦は、原則として一求人先とする。ただし、当該求人先において不採用となった場合には、他の求人先への推薦を行うことがある。
4　推薦された求職者は、当該求人先の選考試験(筆記試験、面接、実技など)を受けなければならない。
(就職あっ旋の停止)
第9条　この規程の各条項に定める事項を守らない求職者に対しては、就職あっ旋を停止することがある。
(守秘義務)
第10条　就職あっ旋の業務に従事する者は、求職者並びに求人者から得た個人にかかわる情報を他に洩らしてはならない。就職あっ旋の業務に従事しなくなった後も同様とする。
(その他)
第11条　この規程に定めのない就職あっ旋にかかわる業務については、進路部委員会の議を経て、進路開発センターがこれを行う。

附　則

1　この規程は、昭和63年4月1日から施行する。
(2～6は省略する)
7　この規程は、令和3年6月1日から改正施行する。
8　この規程は、令和7年6月1日から改正施行する。

金沢工業大学就職あっ旋に関する学生心得

1　趣旨
この心得は、金沢工業大学就職あっ旋規程(以下「規程」という。)により就職あっ旋を受けようとする学生の心得、並びに手続を定めたものである。
2　進路登録
(1) 当該年度に卒業見込みの学生は、所定の「進路登録票」により、進路開発センターに進路登録をしなければならない。
(2) 進路登録を行わない者は、求人情報の提供及び就職のあっ旋を受けることができない。
3　求職申込
(1) 就職を希望する学生は、所定の「進路登録票」により、指導教員を経て進路開発センターに求職申込をしなければならない。
(2) 求職申込を行わない者は、関係書類(卒業見込証明書、健康診断書等)の交付を受けることができない。
4　推薦申込
求人先に対する推薦を受けようとする者は、指導教員に申し出、その指示を受けなければならない。
5　受験心得
(1) 推薦を受けた者は、当該求人先の選考試験(筆記試験、面接、実技など)を必ず受けなければならない。
(2) 推薦による応募、自由応募、縁故応募のいかんを問わず、求人先に応募しようとする者は、次の事項を守らなければならない。
①求人先に就職しようとする積極的な強い意思を持つこと。
②応募する求人先は、原則として、一求人先とすること。
③平素の行動、交友関係など、本学学生としての品位を保つこと。
④求人先に対する連絡、応対並びに選考試験における服装、言葉づかい、態度などは、誠実で学生らしい節度を持つこと。
(3) 選考試験の受験を放棄してはならない。ただし、万一、やむを得ない事情により受験できなくなった場合には、必ず事前に指導教員まで申し出るとともに、求人先にも至急連絡の上、事情を説明し、了承を得なければならない。
(4) やむを得ない事情により、複数の求人先の選考を受けた場合、原則として、先に内定した求人先を優先させる。また、この場合、指導教員に連絡の上、他の求人先に対して辞退の手続をとらなければならない。
6　受験後の報告
推薦による応募、自由応募、縁故応募のいかんを問わず、求人先と接触し、また出頭した者は、次の報告をしなければならない。
(1) 何らかの選考試験を受けた者は、採否のいかんを問わず、試験内容を所定の「入社試験内容報告書」により、指導教員を経て進路開発センターに報告すること。
(2) 採否が判明した場合には、採否のいかんを問わず、その結果を、速やかに所定の「進路結果届」により、指導教員を経て進路開発センターに報告すること。
7　就職辞退
(1) 採用内定後就職を辞退することは、原則として、認められない。
(2) 万一、やむを得ない事情により就職を辞退しなければならなくなった場合には、次の手続を取らなければならない。
①指導教員に直ちに申し出、必要な処置の指示を受けること。
②原則として、保証人(保護者又は親戚)と同伴の上求人先に出頭し、辞退の意思を伝えるとともに、その理由を述べて陳謝し、了承を得ること。
8　就職あっ旋の停止
この心得に定める事項を守らなかった者に対しては、以後の就職あっ旋を停止することがある。
9　その他
(1) 提出書類の記入要領、手続上の手順並びに注意事項などの詳細は、「就職ノート」に記載されているので、これを熟読しておくこと。
(2) その他、判断に迷うような事態が生じた場合には、指導教員に申し出、その指示を受けること。

附　則

1　この心得は、平成13年8月1日就職委員会で決定した。
2　この心得は、平成30年4月1日進路部委員会で改正し、即日適用する。
3　この心得は、令和3年6月1日進路部委員会で改正した。

7-4 学友会

金沢工業大学学友会会則

第1章　総則

（趣旨）

第1条　この会則は、金沢工業大学学生団体活動規程第9条に基づき、金沢工業大学学友会（以下「本会」という。）の運営について、必要な事項を定める。

（目的）

第2条　本会は、金沢工業大学（以下「本学」という。）の学生の自発的な協同生活の充実及び人格並びに体位の向上を図る学生団体活動に資することを目的とする。

（事務所）

第3条　本会の事務所は、本学11号館に置く。

（会員）

第4条　本会は、本学に在籍するすべての学部学生（以下「会員」という。）をもって組織する。ただし、科目等履修生及び研究生を除く。

（会費）

第5条　会員は、本会の運営のため会費を負担しなければならない。

2　会費は、一学期につき5,100円とする。

3　会員が休学するときは、休学する学期の会費は徴収しない。

4　会費は、各学期の授業料と合わせて納入するものとする。

第2章　執行機関

第1節　役員

（役員）

第6条　本会に次の役員を置く。

(1) 会長　　1名
(2) 副会長　　2名
(3) 書記　　2名
(4) 会計　　2名
(5) 庶務　　8名

2　役員は、すべての会員による選挙により、会員の中から選出する。

3　役員は、この会則に定める他の役員又は委員を兼ねることはできない。

4　役員が欠けたときは、補欠選挙により直ちに補充しなければならない。ただし、会長以外の役員が欠けたときは、会長の判断により補充しないことができる。

（役員の任期）

第7条　役員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年とし、再任を妨げない。ただし、前条第4項に定める補欠選挙により選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選出されるまでは、なおその職務を行う。

3　前項の規定にかかわらず、4年次の役員にあっては、任期満了の前であっても、次期役員が選出されたときは、次期役員に職務を委任することができる。

（役員の解任と退任）

第8条　役員が次の各号のいずれかに該当するときは、役員総数の過半数が出席した役員会において、出席役員の過半数の議決により、これを解任することができる。

(1) 本会の会則及び学生宣言並びに本学の諸規則に違反したとき。
(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。
(3) 職務上の義務を怠ったとき。
(4) 本会の役員たるにふさわしくない非行があったとき。

（役員の職務）

第9条　会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した一方が会長の職務を行う。

3　書記は、本会の庶務に関する事務を行う。

4　会計は、本会の会計に関する事務を行う。

5　庶務は、会長の指示を受け本会の渉内外に関する事務を行う。

第2節　役員会

（役員会）

第10条　本会に、執行機関として、役員をもって組織する役員会を置く。

2　役員会は、本会の事務を処理し、第18条に定める全学議会に上程する審議事項のほか、本会の日常の業務について審議、決定する。

3　役員会は、会長が招集する。

4　会長は、役員会を主宰し、その秩序を維持する。

第3節　専門委員会

（専門委員会）

第11条　本会の事業を適切に実施するため、役員会の下に次の各号に定める専門委員会を置く。

(1) 工大祭実行委員会
(2) 交通安全対策専門委員会
(3) 広報委員会
(4) アルバム編集委員会
(5) 学生健康委員会
(6) 学生地域活動推進委員会
(7) 学生支援推進委員会

2　専門委員会の委員（以下「学生委員」という。）は、クラスごとに1年次にあっては2名、2年次にあっては1名を選出する。

3　学生委員の任期は、選出された日から翌年3月31日までの間とし、再任を妨げない。ただし、任期満了の後でも後任者が選出されるまでは、なおその職務を行う。

4　学生委員は、いずれかの専門委員会に所属し、属する専門委員会の事業を担当する。

5　第1項に定めるもののほか、新たに専門委員会を設置しようとするときは、全学議会の承認を得なければならない。

（専門委員会役員）

第12条　各専門委員会に次の各号に定める専門委員会役員を置き、当該専門委員会に所属する学生委員の互選により選出する。

(1) 委員長　　1名
(2) 副委員長　　2名
(3) 会計　　2名

2　専門委員会役員が欠けたときは、当該専門委員会は7日以内に後任者を選出しなければならない。後任者の任期は、前任者の残存期間とする。

3　専門委員会役員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期満了の後でも後任者が選出されるまでは、なおその職務を行う。

4　会長は、不適当と認める専門委員会役員を解任することができる。

5　委員長は、会長の同意を得て、不適当と認める専門委員会役員を解任することができる。

第4節　部会

（部会）

第13条　本会の部活動団体が行う課外活動の円滑化と適切な運営を図るため、役員会の下に体育部会及び文化部会を置く。

2　各部活動団体は、体育部会又は文化部会のいずれかに所属し、1名の部会委員を選出する。

3　部会委員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期満了の後でも後任者が選出されるまでは、なおその職務を行う。

（部会役員）

第14条　体育部会及び文化部会に、次の各号に定める部会役員を置き、部会委員の互選により選出する。

(1) 委員長　　1名
(2) 副委員長　　1名
(3) 書記　　2名
(4) 会計　　2名

2　会長は、不適当と認める部会役員を解任することができる。

3　委員長は、会長の同意を得て、不適当と認める部会役員を解任することができる。

4　委員長又は副委員長が欠けたときは、部会委員は互選により速やかに後任者を選出しなければならない。

第5節　選挙管理委員会

（選挙管理委員会）

第15条　第6条に定める役員の選挙を適正に実施するため、本会に12名の選挙管理委員（以下「選管委員」という。）で組織する選挙管理委員会を置く。

2　選管委員は、学生委員の互選により学年ごとに3名を選出し、全学議会の承認を得た後、会長が任命する。ただし、選管委員は、同一のクラスに属する者であってはならない。

3　選管委員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期満了の後でも新たに選管委員が承認され、任命されるまでは、なおその職務を行う。

4　選管委員が欠けたときは、会長は学生委員の中から速やかに後任の選管委員を任命しなければならない。ただし、会長は、任命後の最初に開催される全学議会において、その承認を得なければならない。

（選管委員長等）

第16条　選挙管理委員会に委員長1名及び副委員長2名を置き、選管委員の互選により選出する。

2　委員長は、会長の同意を得て、不適当と認める選管委員を解任することができる。

3　委員長又は副委員長が欠けたときは、選管委員は互選により後任者を選出しなければならない。

（役員選挙）

第17条　役員の選挙の実施について必要な事項は、別に定める。

第3章　全学議会

第1節　議会

（全学議会）

第18条　本会に、最高議決機関として、次の各号に掲げる者をもって組織する全学議会（以下「議会」という。）を置く。

(1) 各クラスから選出する者（「学年議員」という。）2名
(2) 体育部会の委員長及び副委員長（「体育部会議員」という。）
(3) 文化部会の委員長及び副委員長（「文化部会議員」という。）

2　議会は、次の各号に定める議案を審議し、議決する。

(1) 会則その他の必要な規則等の制定及び改廃に関すること。
(2) 予算及び決算に関すること。
(3) 予算の配分に関すること。
(4) 会費の決定及び徴収に関すること。
(5) 財産の取得、管理及び処分に関すること。
(6) その他議決を必要とする議案に関すること。

3　議会は、会長が招集する。

4　議会を招集するには、議会開会の7日前までに、開会する場所及び日時並びに議案を議員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、通知後直ちに招集することができる。

5　議会は、定例議会と臨時議会とし、定例議会は、毎年5月に開会する。

6　会長又は議会の議長が必要と認めたときは、臨時議会を招集することができる。

7　議員の3分の1以上から議案を付して議会の招集を請求された場合は、その請求があった日から7日以内に臨時議会を招集しなければならない。

8　監査委員会から議会招集の請求があったときは、その請求があった日から2週間以内に臨時議会を招集しなければならない。

9　議会は、議員総数の過半数の議員の出席（委任状を含む。以下同じ。）がなければ、議事を議決することができない。

10　議会の議事は、出席した議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（議長等）

第19条　議会に議長1名及び副議長2名並びに書記2名を置き、議員の互選により選出する。ただし、書記は、役員会の書記をもって充てるものとする。

2　議長は、議会の秩序を保持し、議会の運営を統理する。

3　副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるとき又は議長が欠けたときは、あらかじめ議長が指名した一方が議長の職務を行う。

4　書記は、議長又は副議長の命を受け、議会の事務を処理する。

（議事録の作成）

第20条　議長は、書記に命じて、議会の開会場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2　議事録は、議長及び出席した議員の中から互選された議員2名以上が記名押印又は署名押印し、常にこれを事務所に備えておかなければならない。

（特別委員会の設置）
第21条　議長は、議会の付議事項について、事前に審議する必要があると認めるときは、議会の同意を得て、議員による特別委員会を設置することができる。
2　特別委員会を設置するときは、議長は、特別委員会の構成及び設置期間並びに付託する事項について、議会の承認を得なければならない。
3　特別委員会は、議長から付託された事項について審議し、その結果を議長に報告しなければならない。
（参考人等）
第22条　議長は、必要に応じ議員以外の会員又はその他の者を参考人として議会に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

第2節　議員

（議員）
第23条　学年議員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、任期満了の後でも後任の議員が選出されるまでは、なおその職務を行う。
2　学年議員が欠けたときは、速やかに補欠の議員を選出しなければならない。ただし、選出された補欠の議員の任期は、前任者の残任期間とする。
3　体育部会議員及び文化部会議員は、体育部会又は文化部会の委員長又は副委員長の職を退いたときは、議員の職を失うものとする。
4　議員は、議会が招集されたときはこれに応じ、審議に専念しなければならない。
5　議員は、病気その他の事由により招集に応じられないときは、その理由を付して議長に欠席届を提出しなければならない。
6　議員は、議会で発言するときは、議長の許可を得なければならない。
（解任）
第24条　議員が次の各号の一に該当したときは、その職務を解くものとする。
(1) 議会で出席議員の過半数による不信任の議決があったとき。
(2) 議会で辞任が認められたとき。
(3) 本学の諸規則及び本会の学生宣言に違反し、又は学生の本分に反する行為があったとき。

第3節　監査委員会

（監査委員会）
第25条　本会の会計監査を行うため、議会に12名の監査委員で組織する監査委員会を置く。
2　監査委員は、1年次から3年次までの年次ごとに、学年議員の互選によりそれぞれ4名を選出する。ただし、専門委員会役員及び部会役員の職にある学年議員は、監査委員になることができない。
3　監査委員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期満了の後でも後任の監査委員が選出されるまでは、なおその職務を行う。
（監査委員長等）
第26条　監査委員会に委員長及び副委員長各1名を置き、監査委員の互選により選出する。
2　委員長又は副委員長が欠けたときは、監査委員は互選により後任者を選出しなければならない。
（監査委員会の職務）
第27条　監査委員会は、毎年4月に定期監査を行うほか、随時、監査を行うことができる。
2　監査委員会は、監査の結果について監査報告書を作成し、議会に提出しなければならない。
3　監査報告書には、次の各号に定める事項を明記しなければならない。
(1) 監査の実施時期及び監査委員の氏名
(2) 会費の収支決算の確認事項
(3) 違反又は不当事項の有無
(4) その他監査委員会の所見又は意見
4　監査委員会は、会計監査のほか、必要あるときは物品の監査を実施することができる。
5　監査委員会は、必要あるときは、会長に議会の招集を求めることができる。

第4章　部活動団体

（部活動団体の目的）
第28条　本会の部活動団体は、健全な団体活動を通じて責任を重んじ、自主的行動のできる知性と、親睦、友愛、互助の精神の体得を目的とするものでなければならない。
（部活動団体の要件）
第29条　部活動団体は、本会の会員10名以上の部員をもって組織する団体をいう。
2　部活動団体には、顧問、監督及びコーチを置くものとし、本学の教職員に委嘱する。ただし、監督又はコーチについては、本学教職員に適当な者がいないときに限り、学外者に委嘱することができる。
3　部活動団体となるには、第5章に定める同好会として1年以上の活動実績を有し、かつ、議会の承認を得なければならない。
（部活動団体の降格又は解散）
第30条　部活動団体が前条第1項に定める要件を欠いたとき、又は活動しなくなったとき、若しくはその他の事由が生じたときは、部会の委員長は、会長を通じて議会の承認を得た後、当該部活動団体の降格又は解散を命ずることができる。
2　降格又は解散を命じられた部活動団体は、速やかにこれに従わなければならない。
（複数団体加入の禁止）
第31条　会員は、複数の部活動団体の部員となることはできない。ただし、部会の承認を得たときは、この限りでない。
（部長等）
第32条　部活動団体は、部員の互選により、部長、会計及び主務各1名を選出し、部会を通じて会長に報告しなければならない。
（予算の配分と会計報告）
第33条　本会は、申請に基づき、部会を通じ部活動団体に予算を配分する。
2　部活動団体は、配分された予算について、金銭出納帳により収支を明らかにし、随時、監査を受けなければならない。
3　本会は、前2項の規定にかかわらず、第29条第2項に定める監督、コーチ等が、部活動団体の課外活動を指導するため旅費を必要とするときは、別に定めるところに基づき、これを支給する。
（部室の貸与）
第34条　本会は、部活動団体に部室を貸与する。
2　会長は、部室の使用又は管理が不適当であると認めるときは、使用の禁止を命ずることができる。
（部室等の形状変更）
第35条　部活動団体は、部室の形状を変更しようとするときは、会長の承認を得なければならない。
（部室等の賠償）
第36条　部活動団体は、部室を滅失又は毀損したときは、速やかに、会長に届け出なければならない。
2　会長は、故意又は重大な過失によって部室を滅失又は毀損したと認めるときは、賠償を命ずることができる。
（部室の監査）
第37条　会長は、部室の管理状態を随時、監査することができる。

第5章　同好会及びサークル

（目的）
第38条　本会の同好会及びサークルは、広い視野に立って自己の錬成、技能の錬磨に努めるとともに、会員相互の信頼と親睦を図ることを目的とするものでなければならない。
（同好会及びサークルの要件）
第39条　同好会及びサークルは、10名以上の会員をもって組織する団体をいう。
2　同好会となるには、サークルとして1年以上の活動実績を有し、かつ、議会の承認を得なければならない。
3　サークルとなるには、会長、体育部会委員長及び文化部会委員長の3名で構成するサークル承認委員会の承認を得なければならない。ただし、既存の部活動団体及び同好会若しくはサークルと類似のものは認めない。
4　同好会及びサークルには顧問を置き、本学の教員に委嘱する。
（同好会及びサークルの降格又は解散）
第40条　同好会及びサークルが前条第1項に定める要件を欠いたとき、又は活動しなくなったとき、若しくはその他の事由が生じたときは、会長はサークル承認委員会又は議会の同意を得て降格又は解散を命ずることができる。
2　降格又は解散を命じられた同好会及びサークルは、速やかにこれに従わなければならない。
（代表者の選出）
第41条　同好会及びサークルは、組織する会員の互選により、代表者1名を選出し、部会を通じて会長に報告しなければならない。
（活動費）
第42条　同好会及びサークルの活動に要する費用は、自己負担とする。ただし、本会が認める行事に参加するときは、本会から助成を受けることができる。
2　前項ただし書きによる助成を受けたときは、金銭の出納を明らかにし、随時、監査を受けなければならない。

第6章　会計

（予算）
第43条　本会の予算（配分を含む。以下同じ）は、毎会計年度前に会長が編成し、議会の承認を得なければならない。これに重要な変更を加えるときも同様とする。
2　予算の管理及び執行について必要な事項は、別に定める。
（決算）
第44条　会長は、毎会計年度終了後速やかに決算を作成し、監査委員会の監査を受けた後、議会に報告し，承認を得なければならない。
（会計年度）
第45条　本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章　雑則

（文書の配布等）
第46条　本会を構成するすべての機関、団体等は、本学内における文書の発行、配布及び掲示、並びに本学内において調査、金品の募集、勧誘活動等を行うに当たっては、あらかじめ会長の承認を得た後でなければ、これを行ってはならない。
（事務の委嘱）
第47条　本会は、会費の徴収、現金の保管等に関する事務のすべて若しくはその一部を、本学の大学事務局長に委嘱することができる。
（会則の改廃）
第48条　この会則は、議会において、出席議員の3分の2以上の賛成がなければ改正し、又は廃止することができない。
（その他の決定）
第49条　この会則に定めのない事項又は本会の管理及び運営に関し必要な事項は、その都度会長が決定する。

附　則

1　この会則は、平成24年4月1日から施行し、従前の金沢工業大学学友会会則（昭和43年4月1日施行）は廃止する。
2　この会則は、平成25年4月1日から改正施行する。
3　この会則は、平成31年4月1日から改正施行する。
4　この会則は、令和4年4月1日から改正施行する。
5　この会則は、令和6年4月1日から改正施行する。

金沢工業大学学生健康保険互助会規約

(名称)
第1条　本互助会は、金沢工業大学学生健康保険互助会(以下「互助会」という。)と称する。
(目的)
第2条　互助会は、会員の健康の保持と増進を図るため、疾病の予防に努め、疾病並びに学長が認める行事又は活動等における負傷に対する医療費給付を行い、もって会員相互の救済と福祉に寄与することを目的とする。
(事務所)
第3条　互助会の事務所は、石川県野々市市扇が丘7-1の金沢工業大学(以下「本学」という。)大学事務局学務部修学支援課に置く。
(会員)
第4条　互助会は、次の各号に定める会員をもって構成する。
(1) 正会員　　学部学生(学友会費を未納の者及び休学中の者を除く。)
(2) 特別会員　大学院生のうち互助会費を納入した者(イノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程及び博士後期課程は除く。)
(会費)
第5条　互助会費は、年額1,800円とする。ただし、早期卒業の学生に関しては、4年次は半額とする。
(会費の納入)
第6条　正会員の互助会費の納入は年1回とし、学友会費の納入をもってこれに充てる。
2　特別会員の互助会費の納入は年1回とし、各年度の4月30日までに所定の互助会加入申請書に互助会費を添えて、大学事務局学務部修学支援課に提出しなければならない。
3　前項の規定にかかわらず特別会員は、互助会費を分割納入することができる。
4　分割納入を希望する特別会員は、年額の半額を各年度の4月30日及び10月31日までに所定の互助会加入申請書に互助会費を添えて、大学事務局学務部修学支援課に提出しなければならない。
5　一旦納入された互助会費は、返還しない。
(会員証)
第7条　互助会の会員証は、学生証をもってこれに代える。
(資格取得)
第8条　会員の資格の取得日は、次のとおりとする。
(1) 正会員　　入学式の当日
(2) 特別会員　　互助会費を納入した各学期の開始日
(資格喪失)
第9条　会員は、次に掲げる理由が生じたときは、その翌日から会員の資格を失う。
(1) 卒業又は修了したとき。
(2) 退学したとき。
(3) 死亡したとき。
(4) その他の理由により、本学の学生としての身分を失ったとき。
(機関及び役員)
第10条　互助会には、次の機関及び役員を置き、互助会の企画、運営及び管理等を行う。
(1) 運営委員会
(2) 監事
(運営委員会)
第11条　運営委員会(以下「委員会」という。)は、互助会の最高議決機関として互助会を統括し、互助会の企画、運営、管理及び執行について決定する。
(構成及び委員長等)
第12条　委員会は、学生部長、学生部副部長、大学事務局学務部修学支援課長及び学生課学友会担当課長並びに学友会から選出された6名の学生代表(以下「学生委員」という。)を委員として構成する。
2　学生委員の任期は1年とし、再任を妨げない。また、欠員により補充となった後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
3　委員長は、学生部長がこれに当たり、会務を主宰し互助会を代表する。
4　副委員長は、学生部副部長及び学生委員の代表者がこれに当たり、委員長を補佐する。委員長が欠けたとき、又は委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
(会議)
第13条　委員会は、定例委員会として年1回開催することとし、委員長が招集する。ただし、必要あるときは、臨時に委員会を開催することができる。
2　委員会に議長を置き、委員長をもって充てる。
(審議事項)
第14条　次の各号に掲げる事項は、委員会の議を経なければならない。
(1) 互助会運営についての基本事項
(2) 予算の査定及び決算の承認に関する事項
(3) 互助会規約の改廃に関する事項
(4) その他の重要事項
(議事の決定)
第15条　委員会は、委員の3分の2以上の出席によって成立し、その議事は出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは議長の決するところによる。
(監事)
第16条　監事は副学長、学部長から2名、学友会の文化部会及び体育部会からの各1名をもって充て、互助会の会計を監査する。
2　監事の任期は1年とし再任を妨げない。また、欠員により補充となった後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(事務)
第17条　互助会の事務は、大学事務局学務部修学支援課が行う。
(経費)
第18条　互助会の経費は、互助会費、寄付金、補助金及び交付金等をもってこれに充てる。
(会計年度)
第19条　互助会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
(決算等)
第20条　決算書及び監査報告書は、毎年5月に作成し、当月中に委員会の承認を得なければならない。
(医療費給付)
第21条　互助会が行う疾病の予防並びに疾病及び負傷に係る医療費の給付に関しては、次の各号に基づき実施するものとする。
(1) 疾病の予防に関する措置は、委員会において審議し決定する。
(2) 医療費給付の対象は、金沢工業大学扇が丘診療所又は国内の保険医療機関において社会保険の適用となった医療費に限るものとする。
(3) 負傷に係る医療費の給付は、学長が認める行事又は活動等において負傷した場合で治療日数が1日以上13日以内のもの及び通学中及び移動中(学校施設内・学校施設間)に負傷した場合で治療日数が1日以上3日以内のものとする。
(4) 前号の負傷に該当する場合であっても、交通事故等(自損事故を含む。)による頚椎症候群(むちうち症)又は腰痛で他覚病状のないものに対する医療費は、これを給付しない。
(5) 歯科診療に係る医療費は、第3号に該当する場合を除きこれを給付しない。
(6) 医療保険から法定給付に加えて付加給付を受けるときは、給付する医療費から、その額を控除する。
(7) 医療費は、対象となる医療費総額の3割以内を給付することとし、1会計年度を通じての給付限度額は、30,000円とする。ただし、互助会費を分割納入した者の当該学期中の給付限度額は15,000円とする。
(給付手続)
第22条　医療費の給付を受けようとする者は、所定の手続きにより指定された期日までに、医療費給付申請を行わなければならない。
(医療費の査定)
第23条　医療費の査定は、社会保険診療報酬点数表に準じて行う。
(弔慰金)
第24条　正会員及び特別会員が死亡したときは、遺族に対し弔慰金を贈与する。
2　弔慰金の額は30,000円とする。

附　則

1　この規約の改正、予算・決算その他重要なる事項は互助会員に公示しなければならない。
2　この規約の改正は、全学議会の承認を要する。
3　この規約は、昭和48年4月15日から施行する。
4　この規約は、昭和56年4月1日から一部改正する。
5　この規約は、昭和62年4月1日から一部改正する。
6　この規約は、平成2年4月1日から一部改正する。
7　この規約は、平成7年6月1日から一部改正する。
8　この規約は、平成8年9月1日から一部改正する。
9　この規約は、平成11年9月1日から一部改正する。
10　この規約は、平成15年4月1日から一部改正し施行する。
11　この規約は、平成20年4月1日から改正施行する。
12　この規約は、平成22年4月1日から改正施行し、金沢工業大学学生健康保険互助会規約施行細則(昭和48年4月15日施行)は廃止する。
13　この規約は、平成28年4月1日から改正施行する。
14　この規約は、平成30年4月1日から改正施行する。
15　この規約は、平成31年4月1日から改正施行する。
16　この規約は、令和3年4月1日から改正施行する。
17　この規約は、令和4年4月1日から改正施行する。
18　この規約は、令和5年4月1日から改正施行する。
19　この規約は、令和7年4月1日から改正施行する。
20　この規約は、令和7年6月1日から改正施行する。

7-5 教育課程表

学部教育課程表（金沢工業大学学則 別表第1 教育課程表（第18条関係））

1. 修学基礎教育課程（学部共通）

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
修学基礎科目	修学基礎	修学基礎A	2		2.0								
		修学基礎B	2			2.0							
人間形成基礎科目	人間形成基礎	実践ウェルビーイング	1		(1.0)	(1.0)							履修クラスによって開講学期が異なる。
		技術者と持続可能社会	2				(2.0)	(2.0)					
		日本学（日本と日本人）A	1				(1.0)	(1.0)					
		日本学（日本と日本人）B	1				(1.0)	(1.0)					
		科学技術者倫理	2						(2.0)	(2.0)			
	生涯スポーツ	健康・体力づくり	1		2.0								
		生涯スポーツ演習	1			1.0							
	人間と自然	人間と自然			○								人間と自然科目の取扱いは、修学規程第9条の3に定める。

備考：（　）印及び○印は、当該学期にそれぞれ開講することを示す。

2. 英語教育課程（学部共通）

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
英語科目	英語	イングリッシュベーシックス		2	2.0								この科目中4科目を選択し必修とする。
		イングリッシュトピックス1		2	2.0								
		イングリッシュトピックス2		2		2.0							
		イングリッシュトピックス3		2	(2.0)		(2.0)						
		イングリッシュトピックス4		2		(2.0)		(2.0)					
		イングリッシュトピックス5		2	(2.0)		(2.0)						
		ビジネスコミュニケーション		2		(2.0)		(2.0)					
		アカデミックリーディング1		2		(2.0)		(2.0)					
		アカデミックリーディング2		2			2.0						
		ライティングベーシックス		2		(2.0)		(2.0)					
		アカデミックプレゼンテーション		2			2.0						
		STEMイングリッシュ		2		(2.0)		(2.0)					
		イングリッシュセミナー		2			2.0						
		TOEIC初級		2		2.0							
		TOEIC中級		2		2.0							
		インテンシブイングリッシュ		2		2.0							
	語学上級	English Academic Writing1		2	2.0								この科目の取扱いは、修学規程第9条の2に定める。
		English Academic Writing2		2		2.0							
	その他	日本語教育科目											その他科目の取扱いは、修学規程第9条の2に定める。

備考1：（　）印は、当該学期にそれぞれ開講することを示す。

備考2：「英語科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

3. 数理・データサイエンス・AI教育課程（情報デザイン学部、メディア情報学部）

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
数理基礎科目	数理基礎	情報のための数学Ⅰ	2		2.0								
		情報のための数学Ⅱ	2		2.0								
		線形代数学	2			2.0							
		情報数理A		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		データサイエンス物理		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		アドバンスト数理A		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		アドバンスト数理B		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		技術者のための統計		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		AI基礎	1			1.0							
		データサイエンス基礎Ⅰ	1			1.0							
		データサイエンス基礎Ⅱ	1				1.0						

備考1：（　）印は、当該学期にそれぞれ開講することを示す。

備考2：「数理基礎科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

3. 数理・データサイエンス・AI教育課程（情報理工学部、バイオ・化学部、工学部、建築学部）

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
数理基礎科目	数理基礎	技術者のための数理Ⅰ	2		2.0								
		技術者のための数理Ⅱ	2		2.0								
		線形代数学	2			2.0							
		データサイエンス物理		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		アドバンスト数理A		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		アドバンスト数理B		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		技術者のための数理Ⅲ		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		技術者のための統計		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)					履修クラスによって開講学期が異なる。
		環境系数理		2		2.0							履修対象:工学部環境土木工学科学生
		AI基礎	1			1.0							
		データサイエンス基礎Ⅰ	1			1.0							
		データサイエンス基礎Ⅱ	1				1.0						

備考1：（　）印は、当該学期にそれぞれ開講することを示す。

備考2：「数理基礎科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

4. プロジェクトデザイン基礎教育課程（学部共通）

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
基礎プロジェクト科目	基礎プロジェクト	プロジェクトデザイン入門（実験）	2		4.0								
		プロジェクトデザインⅠ	2			2.0							
		プロジェクトデザインⅡ	2				2.0						
		プロジェクトデザイン実践（実験）	2					4.0					
		ICT入門	1		1.0								
		データサイエンス入門	1		1.0								

5. 専門教育課程（情報デザイン学部）

（1）経営情報学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	情報デザイン学キャリアデザイン（経営情報）	2		2.0								
	Webデザイン	2		2.0								
	経営学入門	2		2.0								
	企業会計基礎	2		2.0								
	データアナリティクス入門	2		2.0								
	ITシステム基礎	2			2.0							
	プログラミング基礎	2			2.0							
	経営戦略と組織	2			2.0							
	マーケティング基礎	2				2.0						
	ビジネス統計学I	2				2.0						
	経営分析とESG	2				2.0						
	戦略会計入門	2				2.0						
	イノベーション・デザイン	2				2.0						
	ロジカルシンキング		2			2.0						
	データベースマネジメント		2			2.0						
	数理マネジメント		2			2.0						
	Webプログラミング		2				2.0					
	システムモデリング		2				2.0					
	マーケティング戦略		2				2.0					
	戦略会計応用		2				2.0					
	会計情報とビジネス法規		2				2.0					
	ビジネス統計学II		2				2.0					
	インダストリアルエンジニアリング		2					2.0				
	SDGs基礎		2					2.0				
	先進プログラミング		2					2.0				
	アルゴリズムとデータ構造		2					2.0				
	原価管理		2					2.0				
	データアナリティクス		2					2.0				
	サステナブルファイナンス		2					2.0				
	グローバルリーダーシップ実践		2					2.0				
	マーケティング実践		2						2.0			
	SDGs実践		2						2.0			
	データサイエンス実践		2						2.0			
	システム思考		2						2.0			
	先進プログラミング応用		2						2.0			
	企業価値評価とESG		2						2.0			
	アカデミックリーディング		2						2.0			
	経営情報専門実験・演習A	3						4.0				
	経営情報専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

（2）環境デザイン創成学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	情報デザイン学キャリアデザイン（環境デザイン創成）	2		2.0								
	Webデザイン	2		2.0								
	経営学入門	2		2.0								
	データアナリティクス入門	2		2.0								
	社会調査法	2			2.0							
	グラフィック・コミュニケーション	2			2.0							
	グローバル開発論	2			2.0							
	コミュニケーション・デザイン入門	2			2.0							
	プログラミング基礎		2		2.0							
	イノベーション・デザイン	2				2.0						
	カーボンニュートラル概論	2				2.0						
	コミュニケーション・デザイン実践	2				2.0						
	経営分析とESG	2				2.0						
	ランドスケープ入門	2				2.0						
	マーケティング基礎		2			2.0						
	ウェルビーイングシティ政策デザイン	2					2.0					
	3次元コンピュータグラフィックス入門		2				2.0					
	共生社会デザイン概論		2				2.0					
	異文化理解・コミュニケーション		2				2.0					
	思考のトレーニング		2				2.0					
	地域・ランドスケープ計画論		2				2.0					
	社会シミュレーション		2				2.0					
	環境・空間調査分析法		2				2.0					
	NGO組織デザイン概論	2						2.0				
	グローバルリーダーシップ実践		2					2.0				
	データアナリティクス		2					2.0				
	環境・エネルギーシステム論		2					2.0				
	サステナブルファイナンス		2					2.0				
	映像メディアと環境応用		2					2.0				
	バリアフリー・ユニバーサルデザイン論		2					2.0				
	SDGs・GX・SX入門		2					2.0				
	環境と倫理		2						2.0			
	ヘドニスティック・サステナビリティ実践		2						2.0			
	環境アート・デザイン論		2						2.0			
	学習理論と環境応用		2						2.0			
	環境デザイン創成専門実験・演習A	3						4.0				
	環境デザイン創成専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

6. 専門教育課程（メディア情報学部）

(1) メディア情報学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	メディア情報学入門とキャリアデザイン	1		1.0								
	Webデザイン	2		2.0								
	色覚・聴覚トレーニング	2		2.0								
	プログラミング入門	1		1.0								
	ITシステム入門	2			2.0							
	コミュニケーションドローイング	2			2.0							
	プログラミングⅠ	1			1.0							
	UI／UXデザイン		2		2.0							
	メディア情報論Ⅰ	2				2.0						
	サーバマネジメント入門	2				2.0						
	プログラミングⅡ	1				1.0						
	グラフィック・コミュニケーション		2			2.0						
	コンピュータシステムとAI		2			2.0						
	コンピュータグラフィックス演習		2			2.0						
	プログラミング総合		1			1.0						
	プログラミング発展		1			1.0						
	メディア文化論	2					2.0					
	音楽・音響情報処理		2				2.0					
	オブジェクト指向プログラミング		2				2.0					
	アニメーション制作演習		2				2.0					
	メディアコンテンツ応用		2				2.0					
	情報ネットワーク		2				2.0					
	多変量データの統計科学の基礎		2				2.0					
	メディア情報論Ⅱ		2					2.0				
	Webプログラミング		2					2.0				
	ゲーム制作演習		2					2.0				
	XR（VR／MR／AR）デザイン		2					2.0				
	情報セキュリティ		2					2.0				
	イメージメディア処理		2					2.0				
	データベース		2					2.0				
	モバイルアプリケーション		2						2.0			
	Webアプリケーション		2						2.0			
	ネットワークとセキュリティ演習		2						2.0			
	メディアコンテンツ数理		2						2.0			
	作品制作		2						2.0			
	AI理論・実践		2						2.0			
	メディア情報専門実験・演習A（映像制作・デジタルファプリケーション）	3						4.0				
	メディア情報専門実験・演習B（クラウドサービス活用、IoT）	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインⅢ	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーⅠ		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーⅡ		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(2) 心理情報デザイン学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	心理と情報デザイン	1		1.0								
	心理学概論A	2		2.0								※
	心理学概論B	2		2.0								※
	心理学研究法	2		2.0								※
	認知情報データ解析基礎	2		2.0								
	心理情報プログラミングⅠ	2			2.0							
	知覚・認知心理学A		2		2.0							※
	臨床心理学概論		2		2.0							※
	心理学実験	2				2.0						※
	心理学統計法	2				2.0						※
	心理学基礎実験実習Ⅰ	2				4.0						
	心理情報とキャリアデザイン	2				2.0						
	認知情報と心理調査法		2			2.0						
	心理情報プログラミングⅡ		2			2.0						
	教育・学校心理学		2				2.0					※
	心理学基礎実験実習Ⅱ		2				4.0					
	認知情報データ解析応用		2				2.0					
	健康・医療心理学		2				2.0					※
	観察法		2				2.0					
	脳生理データ解析演習		2				2.0					
	人体の構造と機能及び疾病		2					2.0				※
	神経・生理心理学		2					2.0				※
	社会・集団・家族心理学		2					2.0				※
	学習・言語心理学		2					2.0				※
	産業・組織心理学		2					2.0				※
	障害者・障害児心理学		2					2.0				※
	知覚・認知心理学B		2					2.0				※
	心理学的支援法		2					2.0				※
	脳における情報処理		2						2.0			
	発達心理学		2						2.0			※
	情報デザインと消費者心理		2						2.0			
	感情・人格心理学		2						2.0			※
	ヒューマンインタフェース設計		2						2.0			
	心理演習		2						2.0			※
	心理的アセスメント		2						2.0			※
	心理情報専門実験・演習A	3						4.0				
	心理情報専門実験・演習B	3							4.0			
	公認心理師の職責		2							2.0		※
	精神疾患とその治療		2							2.0		※
	福祉心理学		2								2.0	※
	司法・犯罪心理学		2								2.0	※
	関係行政論		2								2.0	※
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインⅢ	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーⅠ		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーⅡ		1					(1.0)	(1.0)			
	心理実習		3							← 3.0 →		進級条件、卒業に必要な単位に含めない。 ※

備考1：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。
備考2：表中備考欄の「※」印は、公認心理師の受験資格を得るための指定科目を示す。

7. 専門教育課程（情報理工学部）

(1) 情報工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	情報工学入門とキャリアデザイン	2		2.0								
	プログラミングⅠ	2		2.0								
	コンピュータシステム基礎	2		2.0								
	離散数学	2			2.0							
	論理回路	2			2.0							
	情報ネットワーク	2			2.0							
	プログラミングⅡ	1			1.0							
	プログラミングⅢ	1			1.0							
	アルゴリズムとデータ構造	2				2.0						
	オブジェクト指向プログラミング	2				2.0						
	データベース	2				2.0						
	情報工学基礎演習	2				2.0						
	コンピュータアーキテクチャ基礎	2				2.0						
	ソフトウェアデザイン	2					2.0					
	オペレーティングシステム	2					2.0					
	確率と統計	2					2.0					
	組込みシステム	2					2.0					
	情報工学系代数学	2					2.0					
	アルゴリズムデザイン		2				2.0					
	コンピュータグラフィックス	2						2.0				
	符号理論とブロックチェーン		2					2.0				
	情報システムデザイン		2					2.0				
	分散システム		2					2.0				
	デジタル通信と信号処理		2					2.0				
	コンピュータアーキテクチャ設計		2					2.0				
	データサイエンス		2					2.0				
	形式言語とオートマトン		2					2.0				
	ネットワークプログラミング		2						2.0			
	知識情報処理		2						2.0			
	プログラミング言語とコンパイラ		2						2.0			
	情報セキュリティ		2						2.0			
	仮想化技術とクラウドシステム		2						2.0			
	映像メディア処理		2						2.0			
	機械学習		2						2.0			
	量子コンピューティング		2						2.0			
	情報工学専門実験・演習A	3						4.0				
	情報工学専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインⅢ	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーⅠ		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーⅡ		1					(1.0)	(1.0)			
	情報工学特別講義Ⅱ		2		2.0							
	情報工学特別講義Ⅶ		2					2.0				

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(2) 知能情報システム学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	知能情報入門とキャリアデザイン	2		2.0								
	知能情報プログラミングⅠ	2		2.0								
	コンピュータシステム基礎	2		2.0								
	離散数学	2			2.0							
	論理回路	2			2.0							
	情報ネットワーク	2			2.0							
	知能情報プログラミングⅡ	1			1.0							
	知能情報プログラミングⅢ	1			1.0							
	アルゴリズムとデータ構造	2				2.0						
	オブジェクト指向プログラミング	2				2.0						
	データベース	2				2.0						
	知能情報工学基礎演習	2				2.0						
	コンピュータアーキテクチャ基礎	2				2.0						
	ソフトウェアモデリング	2					2.0					
	オペレーティングシステム	2					2.0					
	確率と統計	2					2.0					
	アルゴリズムデザイン	2					2.0					
	情報工学系代数学		2				2.0					
	組込みシステム		2				2.0					
	コンピュータグラフィックス	2						2.0				
	データサイエンス	2						2.0				
	オートマトンと言語理論		2					2.0				
	ブロックチェーンとWeb3		2					2.0				
	知能情報システムデザイン		2					2.0				
	分散コンピューティング		2					2.0				
	デジタル通信と信号処理		2					2.0				
	コンピュータアーキテクチャ設計		2					2.0				
	人工知能	2							2.0			
	学習理論	2							2.0			
	視覚情報処理とXR		2						2.0			
	情報セキュリティ		2						2.0			
	量子コンピューティング		2						2.0			
	プログラミング言語とコンパイラ		2						2.0			
	仮想化技術とクラウドシステム		2						2.0			
	ネットワークプログラミング		2						2.0			
	知能情報システム専門実験・演習A	3						4.0				
	知能情報システム専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインⅢ	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーⅠ		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーⅡ		1					(1.0)	(1.0)			
	情報工学特別講義Ⅱ		2		2.0							
	情報工学特別講義Ⅶ		2					2.0				

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(3)ロボティクス学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	ロボティクスキャリアデザイン	2		2.0								
	ロボティクス入門	2		2.0								
	機械系製図I	2		2.0								
	ロボット基礎力学I	2		2.0								
	プログラミング基礎I	2		2.0								
	機械系製図II	2			2.0							
	ロボット基礎力学II	2			2.0							
	電気回路I	2			2.0							
	プログラミング基礎II	2			2.0							
	ロボット材料力学	2				2.0						
	ロボット設計演習I	2				2.0						
	ロボット要素設計	2				2.0						
	ロボティクス数理・演習I		2			2.0						
	電気回路II		2			2.0						
	コンピュータ概論		2			2.0						
	ロボット応用力学I	2					2.0					
	制御工学入門	2					2.0					
	制御工学I	2					2.0					
	電子回路	2					2.0					
	マイコンプログラミング	2					2.0					
	ロボティクス数理・演習II		2				2.0					
	ロボット設計演習II		2				2.0					
	信号処理		2				2.0					
	ロボットプログラミング	2						2.0				
	ロボット応用力学II	2						2.0				
	制御工学II		2					2.0				
	シミュレーション工学		2					2.0				
	メカトロニクス		2					2.0				
	ロボット制御		2					2.0				
	熱流体工学		2					2.0				
	ロボットセンシング		2						2.0			
	アドバンストロボティクス		2						2.0			
	AIロボットプログラミング		2						2.0			
	機械学習		2						2.0			
	機械加工学		2						2.0			
	ロボティクス専門実験・演習A	3						4.0				
	ロボティクス専門実験・演習B	3							4.0			
	ロボティクス統合演習		2							2.0		
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

8. 専門教育課程（バイオ・化学部）

(1)環境・応用化学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	環境・応用化学とキャリアデザイン	2		2.0								
	物理化学	2		2.0								
	有機化学	2		2.0								
	化学と安全	2		2.0								
	化学熱力学	2			2.0							
	無機化学	2			2.0							
	分析化学	2			2.0							
	有機合成化学	2				2.0						
	化学反応論	2				2.0						
	環境化学		2			2.0						
	基礎生化学		2			2.0						
	化学工学	2					2.0					
	高分子化学	2					2.0					
	電気化学		2				2.0					
	応用生化学		2				2.0					
	バイオ・化学基礎実験・演習A1(応用化学)	1				4.0/3						
	バイオ・化学基礎実験・演習A2(応用化学)	1				4.0/3						
	バイオ・化学基礎実験・演習A3(応用化学)	1				4.0/3						
	バイオ・化学基礎実験・演習B1(応用化学)	1					4.0/3					
	バイオ・化学基礎実験・演習B2(応用化学)	1					4.0/3					
	バイオ・化学基礎実験・演習B3(応用化学)	1					4.0/3					
	応用化学演習	2						2.0				
	生命科学		2					2.0				
	機器分析化学		2					2.0				
	エネルギー固体化学		2					2.0				
	水と環境の化学		2					2.0				
	応用有機化学		2					2.0				
	化学コンピュータ演習I		2					2.0				
	無機・エネルギー機能化学		2						2.0			
	科学技術英語		1						1.0			
	化学コンピュータ演習II		2						2.0			
	地球環境学		2						2.0			
	環境計測学		2						2.0			
	有機・バイオ機能化学		2						2.0			
	応用化学専門実験・演習A1	1							4.0/3			
	応用化学専門実験・演習A2	1							4.0/3			
	応用化学専門実験・演習A3	1							4.0/3			
	応用化学専門実験・演習B1	1						4.0/3				
	応用化学専門実験・演習B2	1						4.0/3				
	応用化学専門実験・演習B3	1						4.0/3				
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			
	地学基礎実験		1			2.0						
	物理学基礎実験		1				2.0					

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(2)生命・応用バイオ学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	生命・応用バイオ学入門とキャリアデザイン	2		2.0								
	基礎生物学I	2		2.0								
	人体の構造と機能	2		2.0								
	基礎生物学II		2	2.0								
	バイオ工学入門	2			2.0							
	バイオ情報学入門	2			2.0							
	有機化学I		2		2.0							
	アカデミックライティング(生命・応用バイオ)	1				1.0						
	細胞の構造と機能	2				2.0						
	神経科学		2			2.0						
	分子生物学		2			2.0						
	有機化学II		2			2.0						
	データ解析		2				2.0					
	微生物学		2				2.0					
	感覚機能論		2				2.0					
	バイオ情報基礎		2				2.0					
	バイオ・化学基礎実験・演習A(応用バイオ)	3				4.0						
	バイオ・化学基礎実験・演習B(応用バイオ)	3					4.0					
	生命と倫理	2						2.0				
	生化学		2					2.0				
	運動機能論		2					2.0				
	生体計測		2					2.0				
	食品栄養学		2					2.0				
	遺伝子工学		2					2.0				
	生命科学		2					2.0				
	脳科学		2						2.0			
	医用工学		2						2.0			
	細胞工学		2						2.0			
	アドバンストバイオ工学		2						2.0			
	アドバンストバイオ情報		2						2.0			
	タンパク質工学		2						2.0			
	応用バイオ専門実験・演習A	3						4.0				
	応用バイオ専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			
	地学基礎実験		1			2.0						
	物理学基礎実験		1				2.0					
	地球環境学		2						2.0			
	環境計測学		2						2.0			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

9. 専門教育課程(工学部)

(1)機械工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	機械工学キャリアデザイン	1		1.0								
	機械系製図I	2		2.0								
	機械の原理・演習	2		2.0								
	工業力学I	2		2.0								
	電気基礎	2		2.0								
	機械系製図II	2			2.0							
	工業力学II	2			2.0							
	材料力学I	2				2.0						
	材料科学I	2				2.0						
	流体力学I	2				2.0						
	機械力学I	2				2.0						
	機械工作法	2				2.0						
	プログラミング基礎		2			2.0						
	材料力学II	2					2.0					
	熱力学I	2					2.0					
	機械要素設計	2					2.0					
	機械力学II	2					2.0					
	材料科学II	2					2.0					
	数値計算プログラミング		2				2.0					
	計測工学		2				2.0					
	制御工学		2				2.0					
	流体力学II	2						2.0				
	熱力学II	2						2.0				
	3Dモデリング	2						2.0				
	3Dシミュレーション	2						2.0				
	材料力学III		2					2.0				
	エコマテリアル		2					2.0				
	医用生体工学		2					2.0				
	機械加工学		2					2.0				
	機械設計演習	2							2.0			
	伝熱工学		2						2.0			
	クリーンエネルギービークル		2						2.0			
	環境・エネルギー機械		2						2.0			
	マイクロ・ナノ加工		2						2.0			
	生産プロセス		2						2.0			
	機械工学専門実験・演習A	3						4.0				
	機械工学専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(2)先進機械システム工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	先進機械システムキャリアデザイン	1		1.0								
	機械系製図I	2		2.0								
	機械の原理・演習	2		2.0								
	工業力学I	2		2.0								
	電気基礎	2		2.0								
	機械系製図II	2			2.0							
	工業力学II	2			2.0							
	材料力学I	2				2.0						
	機械材料I	2				2.0						
	基礎流体力学	2				2.0						
	機械力学	2				2.0						
	アドバンスドマニュファクチャリングI	2				2.0						
	プログラミング基礎		2			2.0						
	基礎熱力学	2					2.0					
	機械要素設計	2					2.0					
	アドバンスドマニュファクチャリングII	2					2.0					
	制御工学	2					2.0					
	振動工学		2				2.0					
	機械材料II		2				2.0					
	材料力学II		2				2.0					
	制御系プログラミング		2				2.0					
	センシングシステム	2						2.0				
	デジタルモデリング	2						2.0				
	3Dシミュレーション	2						2.0				
	応用流体力学		2					2.0				
	応用熱力学		2					2.0				
	材料力学III		2					2.0				
	先端材料		2					2.0				
	医用生体工学		2					2.0				
	機械設計演習	2							2.0			
	スマートマニュファクチャリング	2							2.0			
	ナノプロセス		2						2.0			
	機械制御システム		2						2.0			
	熱移動工学		2						2.0			
	環境・エネルギー機械		2						2.0			
	先進機械システム工学専門実験・演習A	3						4.0				
	先進機械システム工学専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(3)航空宇宙工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	航空宇宙工学入門とキャリアデザイン	2		2.0								
	機械系製図I	2		2.0								
	航空機の原理	2		2.0								
	工業力学I	3		3.0								
	機械系製図II	2			2.0							
	工業力学II	2			2.0							
	航空宇宙基礎数学	1			1.0							
	数理モデルプログラミング	2			2.0							
	機械力学	2				2.0						
	材料力学	4				4.0						
	航空宇宙工学概論	2				2.0						
	熱力学I	2				2.0						
	流れ学I	2				2.0						
	航空宇宙文献調査入門	1					1.0					
	航空材料力学I	2					2.0					
	飛行力学I	2					2.0					
	熱力学II	2					2.0					
	流れ学II	2					2.0					
	振動工学		2				2.0					
	デジタルファブリケーション		2					2.0				
	航空制御工学		2					2.0				
	航空宇宙流体力学I		2					2.0				
	航空材料		2					2.0				
	熱流体工学		2					2.0				
	宇宙推進工学		2					2.0				
	飛行力学II		2					2.0				
	航空材料力学II		2					2.0				
	航空宇宙構造力学		2						2.0			
	宇宙機設計概論		2						2.0			
	航空工学演習		4						4.0			
	航空原動機		2						2.0			
	航空宇宙流体力学II		2						2.0			
	航空宇宙材料		2						2.0			
	航空宇宙構造解析演習		1						1.0			
	航空宇宙流体解析演習		1						1.0			
	航空宇宙工学専門実験・演習A	3						4.0				
	航空宇宙工学専門実験・演習B	3							4.0			
	航空宇宙グローバル演習		2							← 2.0 →		
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(4)電気エネルギーシステム工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	電気数学I	2		2.0								
	電気数学II	2		2.0								
	電気回路基礎	2		2.0								
	電気回路I	2		2.0								
	電気回路II	2			2.0							
	電気磁気学I	4			4.0							
	電子工学	2			2.0							
	電気電子キャリアデザイン	1				1.0						
	電気回路III	2				2.0						
	電気磁気学II	2				2.0						
	電子回路I	4				4.0						
	電気電子プログラミング	2				2.0						
	過渡現象論	2					2.0					
	電気計測	2					2.0					
	電気材料	2					2.0					
	電気エネルギー発生工学	2					2.0					
	電気磁気学III		2				2.0					
	多相交流回路		2				2.0					
	電気電子コンピュータ工学		2				2.0					
	電子回路II		2				2.0					
	半導体工学基礎		2				2.0					
	電気機器I	2						2.0				
	電気製図		1					1.0				
	高電圧パルスパワー工学		2					2.0				
	電気法規と電気施設管理		1					1.0				
	パワー半導体工学		1					1.0				
	自動制御		2					2.0				
	電気エネルギー伝送工学		2						2.0			
	電気機器II		2						2.0			
	パワーエレクトロニクス		2						2.0			
	エネルギーデバイス工学		2						2.0			
	電気設計		3						4.0			
	電気応用		2						2.0			
	電気エネルギーシステム工学専門実験A	2						4.0				
	電気エネルギーシステム工学専門実験B	2							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(5)電子情報システム工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	電気数学I	2		2.0								
	電気数学II	2		2.0								
	電気回路基礎	2		2.0								
	電気回路I	2		2.0								
	電気回路II	2			2.0							
	電気磁気学I	4			4.0							
	電子工学	2			2.0							
	電気電子キャリアデザイン	1				1.0						
	電気回路III	2				2.0						
	電気磁気学II	2				2.0						
	電子回路I	4				4.0						
	電気電子プログラミング	2				2.0						
	過渡現象論	2					2.0					
	電子計測	2					2.0					
	半導体工学基礎		2				2.0					選択必修(2科目を選択して必修とする)
	情報通信システム		2				2.0					選択必修(2科目を選択して必修とする)
	音響・映像概論		2				2.0					選択必修(2科目を選択して必修とする)
	電気電子コンピュータ工学		2				2.0					
	電子回路II		2				2.0					
	電気磁気学III		2				2.0					
	分布定数回路		2				2.0					
	自動制御		2					2.0				
	半導体工学		2					2.0				
	電子材料		2					2.0				
	情報通信ネットワーク		2					2.0				
	情報伝送工学		2					2.0				
	音響工学		2					2.0				
	電気製図		1					1.0				
	光情報工学		2					2.0				
	電子デバイス工学		2						2.0			
	電波工学		2						2.0			
	通信工学		2						2.0			
	音響・映像システム		2						2.0			
	電気通信法令		2						2.0			
	光・量子エレクトロニクス		2						2.0			
	電子情報システム工学専門実験A	2						4.0				
	電子情報システム工学専門実験B	2							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(6)環境土木工学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	環境土木工学入門とキャリアデザイン	2		2.0								
	測量学I	2		2.0								
	構造力学I	2		2.0								
	土木数理		2	2.0								
	環境土木工学設計I	2			2.0							
	測量学II	2			2.0							
	アカデミックライティング	1			1.0							
	構造力学II	2			2.0							
	アカデミックドローイング	1			1.0							
	環境材料学	2				2.0						
	土質力学I	2				2.0						
	水理学I	2				2.0						
	測量実習・演習I	2				4.0						
	環境土木工学設計II	2					2.0					
	鉄筋コンクリート工学	2					2.0					
	土質力学II	2					2.0					
	水理学II	2					2.0					
	土木施工学	2						2.0				
	測量実習・演習II	2						4.0				
	交通工学		2					2.0				
	構造設計学		2					2.0				
	地盤工学		2					2.0				
	空間情報工学		2					2.0				
	環境工学I		2					2.0				
	防災工学I		2					2.0				
	建設マネジメントI		2					2.0				
	地域環境デザイン		2						2.0			
	地盤工学演習		2						2.0			
	空間情報工学演習		2						2.0			
	構造設計演習		2						2.0			
	環境工学II		2						2.0			
	防災工学II		2						2.0			
	建設マネジメントII		2						2.0			
	環境土木専門実験・演習A	3						4.0				
	環境土木専門実験・演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

10. 専門教育課程(建築学部)

(1)建築学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	建築構造のしくみ	2		2.0								
	建築の計画とデザイン	2		2.0								
	建築基礎製図	2		2.0								
	建築環境学I	2		2.0								
	日本建築史	2			2.0							
	建築構造力学I	2			2.0							
	建築設備総論		2		2.0							選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築設計基礎		2		2.0							
	建築設計演習I	4				4.0						
	建築キャリアデザイン	1				1.0						
	西洋建築史	2				2.0						
	建築構法計画	2				2.0						
	建築構造力学II	2				2.0						
	建築環境学II	2				2.0						
	建築エンジニアリング情報演習I	2					2.0					
	建築計画	2					2.0					
	建築材料	2					2.0					
	建築設計演習II	4					4.0					
	建築構造計画	2					2.0					
	建築設備学	2					2.0					
	建築施工	2						2.0				
	建築エンジニアリング情報演習II		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	鉄筋コンクリート構造		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	鉄骨構造		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築環境設計I		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築環境学III		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	都市デザイン		2					2.0				
	建築デザイン論		2					2.0				
	建築法規	2							2.0			
	サステナブル都市・建築		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築構造設計		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築安全工学		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築環境設計II		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	都市・まちづくり		2						2.0			
	建築再生論		2						2.0			
	建築総合演習A	3						4.0				
	建築総合演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

(2)建築デザイン学科

科目区分	授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
専門科目	建築構造のデザイン	2		2.0								
	建築の計画とデザイン	2		2.0								
	建築基礎製図	2		2.0								
	建築環境学I	2		2.0								
	日本建築史	2			2.0							
	建築構造力学I	2			2.0							
	建築デザイン基礎		2		2.0							選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築設備総論		2		2.0							
	建築デザイン演習I	4				4.0						
	建築キャリアデザイン	1				1.0						
	西洋建築史	2				2.0						
	建築構法計画	2				2.0						
	建築構造力学II	2				2.0						
	建築環境学II	2				2.0						
	建築デザイン情報演習I	2					2.0					
	建築計画	2					2.0					
	建築材料	2					2.0					
	建築デザイン演習II	4					4.0					
	建築構造計画	2					2.0					
	建築設備学	2					2.0					
	建築施工	2						2.0				
	建築デザイン情報演習II		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	都市デザイン		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築デザイン論		2					2.0				選択必修(5科目を選択して必修とする)
	鉄筋コンクリート構造		2					2.0				
	鉄骨構造		2					2.0				
	建築環境設計I		2					2.0				
	建築環境学III		2					2.0				
	建築法規	2							2.0			
	都市・まちづくり		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	現代建築論		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	サステナブル都市・建築		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築再生論		2						2.0			選択必修(5科目を選択して必修とする)
	建築構造設計		2						2.0			
	建築環境設計II		2						2.0			
	建築デザイン総合演習A	3						4.0				
	建築デザイン総合演習B	3							4.0			
専門プロジェクト科目	イノベーション基礎	1						(1.0)	(1.0)			
	専門ゼミ	1							1.0			
	プロジェクトデザインIII	8								← 8.0 →		
その他	進路セミナーI		1				(1.0)	(1.0)				進級条件、卒業に必要な単位に含めない。
	進路セミナーII		1					(1.0)	(1.0)			

備考：自学科の「専門科目」区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

11. 全課程から提供　リベラルアーツ系科目

(1)文理横断

授業を提供する教育課程	科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	週授業時間数 1年次 前学期 1学期	1年次 後学期 2学期	2年次 前学期 3学期	2年次 後学期 4学期	3年次 前学期 5学期	3年次 後学期 6学期	4年次 前学期 7学期	4年次 後学期 8学期	備考
修学基礎教育課程	リベラルアーツ系科目	文理横断	日本文学の世界		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			人間と哲学		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			法と社会		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			経済と社会		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			こころのはたらき		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			グローバル社会(ヨーロッパ)		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	履修クラスによって開講学期が異なる。
			グローバル社会(アジア)		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			芸術へのアプローチ		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			科学技術と社会		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			技術者のためのコミュニケーション		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			企業の組織と戦略		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			日本国憲法		2					(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			韓国語入門		2					(2.0)		(2.0)		
			国際関係論		2			(2.0)		(2.0)		(2.0)		
			危機管理論		2			(2.0)		(2.0)		(2.0)		
			指定放送大学科目											指定放送大学科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
			生涯学習特別科目											生涯学習特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
英語教育課程			外国語特別科目											外国語特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
数理・データサイエンス・AI教育課程			AIプログラミング入門		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			AI応用I		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			AI応用II		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			ビジネスデータサイエンス		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			データサイエンス応用		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			数理特別科目											数理特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
プロジェクトデザイン基礎教育課程			IoT基礎		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			IoTプロトタイピング		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			IoTプログラミング入門		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			ドローンプログラミング		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			IoT応用		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			ロボティクス基礎		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			情報ネットワーク基礎		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			ネットワークセキュリティ		1	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	
			プロジェクトデザイン特別科目											プロジェクトデザイン特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
専門教育課程			専門教養特別科目											専門教養特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。
国際教養理工学課程			グローバルPD		2		(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	
			未来学		2			(2.0)		(2.0)		(2.0)		
			コンセプチュアル思考		2			(2.0)		(2.0)		(2.0)		
			感性とデザイン		2			(2.0)		(2.0)		(2.0)		
			サステナブルイノベーション		2				(2.0)		(2.0)		(2.0)	
			科学技術と人・社会		2				(2.0)		(2.0)		(2.0)	
			国際教養理工学特別科目											国際教養理工学特別科目の取扱いは、修学規程第9条に定める。

備考：(　)印は、当該学期にそれぞれ開講することを示す。

(2)専門探究

英語科目、数理基礎科目及び専門科目の各当該科目区分において、卒業に必要な最低単位数を超えて修得した単位及び他学科専門科目の単位は、「リベラルアーツ系科目 専門探究」の単位として扱う。

教職に関する科目（学部共通）

（金沢工業大学学則 別表第2 教職に関する科目（学部共通）（第18条の2関係））

区分	授業科目名	単位		週授業時間数							
				1年次		2年次		3年次		4年次	
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
				1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2			2.0						
	教師入門セミナー	2			2.0						
	教職概論		2							2.0	
	教育制度論	2						2.0			
	教育心理学	2				2.0					
	学習・発達論		2				2.0				
	特別支援教育概論	1				1.0					
	教育課程論	2					2.0				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と実践 ※1		2			2.0					
	総合的な学習の時間の指導法	1						1.0			
	特別活動の指導法	2				2.0					
	教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）	2						2.0			
	生徒・進路指導論	3							3.0		
	教育相談	2						2.0			
教育実践に関する科目	教育実習（事前・事後指導）	1								←1.0→	
	教育実習Ⅰ	2								←2.0→	
	教育実習Ⅱ ※1		2							←2.0→	
	教職実践演習（中学校及び高等学校）	2									2.0
教科及び教科の指導法に関する科目	工業概論 ※2		2			2.0					
	職業指導 ※2		2							2.0	
	工業科教育法 ※2		4						4.0		
	情報科教育法 ※3		4						4.0		
	数学科教育法Ⅰ ※4		4					4.0			
	数学科教育法Ⅱ ※5		4						4.0		
	理科教育法Ⅰ ※6		4					4.0			
	理科教育法Ⅱ ※7		4						4.0		
大学が独自に設定する科目	介護等体験（事前・事後指導） ※1		1			1.0					

※1　中学校の教員免許希望者は必修とする
※2　高等学校（工業）の教員免許希望者は必修とする
※3　高等学校（情報）の教員免許希望者は必修とする
※4　中学校（数学）、高等学校（数学）の教員免許希望者は必修とする
※5　中学校（数学）の教員免許希望者は必修とする
※6　中学校（理科）、高等学校（理科）の教員免許希望者は必修とする
※7　中学校（理科）の教員免許希望者は必修とする

大学院教育課程表

（金沢工業大学大学院学則 別表(1) 授業科目及び単位数（第22条関係））

工学研究科 機械工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	モビリティ工学研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	動力・エネルギー工学研究		○	12				
	医療・ヘルスケア工学研究		○	12				
	生産システム工学研究		○	12				
	マテリアルデザイン工学研究		○	12				
	EARTH&SPACE環境機械工学研究		○	12				
	知的システム制御工学研究		○	12				
関係科目	材料力学特論		○	1				
	流体力学特論		○		1			
	熱力学特論		○	1				
	統合システムデザイン特論		○		2			
	モデルベースデザイン特論		○	2				
	AIロボティクス特論		○	1				
	制御工学特論		○		2			
	深層学習特論		○	1				
	飛行力学特論		○	1				
	ジェットエンジン特論		○		1			
	自動車パワートレイン特論		○	1				
	位置姿勢制御特論		○		1			
	ドローン設計特論		○	1				
	飛行制御特論		○	1				
	自動運転設計特論		○	1				
	熱機関特論		○		1			
	エネルギー変換工学特論		○		1			
	エネルギーマネジメント特論		○		1			
	再生可能エネルギー特論		○	1				
	エネルギー供給システム特論		○		1			
	生体信号計測特論		○		1			
	生体材料特論		○		1			
	生体力学特論		○	1				
	生体応用モビリティ特論		○		1			
	支援機器デザイン特論		○	1				
	工学のための解剖学		○	1				
	工学のための生理学		○		1			
	先端切削加工学特論		○		1			
	振動応用工学特論		○	1				
	先進射出成形特論		○		1			
	先端塑性加工特論		○		1			
	超精密加工プロセス特論		○	1				
	アディティブ・マニュファクチャリング特論		○	1				
	スマートマニュファクチャリング特論		○	1				
	工作機械の知能化技術特論		○	1				
	機能性金属材料特論		○		1			
	極限環境材料特論		○		1			
	複合材料力学特論		○	1				
	ファインセラミックス特論		○		1			
	計算材料学特論		○		1			
	ロケットエンジン特論		○	1				
	革新飛翔体特論		○	1				
	環境表面工学特論		○		1			
	海洋機械工学特論		○	1				

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
関係科目	ロボット制御特論		○	1				
	システム同定特論		○		1			
	確率ロボティクス特論		○	1				
	強化学習特論		○	1				
	最適制御特論		○	1				
	マルチエージェントシステム特論		○		1			
	グローバルイノベーション特論		○		4			(英語での実施科目)
	コーオッププログラム		○	4	4			
	コーオッププロジェクト		○	2	2			
	機械工学専攻特別講義Ⅰ		○	2				
	機械工学専攻特別講義Ⅱ		○	2				
	機械工学専攻特別講義Ⅲ		○		2			

この他、デュアルディグリープログラムにおいて修得した科目は自専攻の関係科目を履修し修得したとみなす。

工学研究科 機械工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	モビリティ工学特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	動力・エネルギー工学特殊研究		○	4						
	医療・ヘルスケア工学特殊研究		○	4						
	生産システム工学特殊研究		○	4						
	マテリアルデザイン工学特殊研究		○	4						
	EARTH&SPACE環境機械工学特殊研究		○	4						
	知的システム制御工学特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	モビリティ工学特論		○	2						
	動力・エネルギー工学特論		○	2						
	医療・ヘルスケア工学特論		○	2						
	生産システム工学特論		○	2						
	マテリアルデザイン工学特論		○	2						
	EARTH&SPACE環境機械工学特論		○	2						
	知的システム制御工学特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 環境土木工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	構造物設計工学研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	水環境工学研究		○	12				
	情報計画研究		○	12				
	建設マネジメント研究		○	12				
関係科目	環境土木のフロンティア		○	2				
	Advanced civil engineering		○	2				
	構造力学特論		○	2				
	地盤工学特論		○		2			
	建設材料学特論		○		2			
	水環境特論		○		2			
	空間情報工学特論		○		2			
	環境土木工学統合特論Ⅰ		○		4			
	環境土木工学統合特論Ⅱ		○	4				
	環境土木工学統合特論Ⅲ		○		4			
	環境土木工学統合特論Ⅳ		○	4				
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	環境土木工学専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	環境土木工学専攻特別講義Ⅱ		○					
	環境土木工学専攻特別講義Ⅲ		○					

工学研究科 環境土木工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	構造物設計工学特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	水環境工学特殊研究		○	4						
	情報計画特殊研究		○	4						
	建設マネジメント特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	環境土木工学特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 情報工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	アンコンベンショナルコンピューティング研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	情報通信研究		○	12				
	ハイパフォーマンスコンピューティング研究		○	12				
	ソフトウェア創造学研究		○	12				
	知能情報システム研究		○	12				
関係科目	IoT特論		○	3				(英語での実施科目)
	通信工学特論		○	2				
	量子コンピューティング特論		○		2			
	ネットワーク設計構築特論		○		2			
	コンピュータグラフィックス特論		○	2				
	高性能並列処理特論		○		2			
	オペレーティングシステム特論		○	2				
	インターフェースデザイン特論		○	3				(英語での実施科目)
	リコンフィギャラブルシステム特論		○		2			
	人間知性探究特論		○		2			
	自然言語処理特論		○		2			
	ウェブ情報システム特論		○		2			
	ウェアラブルコンピューティング特論		○		2			
	ネットワーク・セキュリティ統合特論		○	4				
	グローバルイノベーション特論		○		4			(英語での実施科目)
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	情報工学専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	情報工学専攻特別講義Ⅱ		○					
	情報工学専攻特別講義Ⅲ		○					

この他、デュアルディグリープログラムにおいて修得した科目は自専攻の関係科目を履修し修得したとみなす。

工学研究科 情報工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	アンコンベンショナルコンピューティング特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	情報通信特殊研究		○	4						
	ハイパフォーマンスコンピューティング特殊研究		○	4						
	ソフトウェア創造学特殊研究		○	4						
	知能情報システム特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	メディア情報数理特論		○	2						
	情報通信特論		○	2						
	ハイパフォーマンスコンピューティング特論		○	2						
	ソフトウェア創造学特論		○	2						
	知能情報メディア特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 電気電子工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	電力・エネルギー工学研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	電気機器・制御工学研究		○	12				
	エネルギー材料・デバイス工学研究		○	12				
	光・電子デバイス工学研究		○	12				
	通信・電波工学研究		○	12				
	音響・映像工学研究		○	12				
関係科目	電気磁気学特論		○	2				
	電気電子回路特論		○	2				
	電気応用数学特論		○	2				
	コンピュータ応用工学特論		○	2				
	電力システム工学特論		○		2			
	システム制御工学特論		○		2			
	エネルギーデバイス工学特論		○		2			
	量子力学特論		○		2			
	無線通信工学特論		○		2			
	信号処理特論		○		2			
	電力・エネルギー統合特論		○	4				
	電気機器・制御統合特論		○	4				
	エネルギー材料・デバイス統合特論		○	4				
	光・電子デバイス統合特論		○		4			
	通信・電波統合特論		○	4				
	音響・映像統合特論		○		4			
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	電気電子工学専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	電気電子工学専攻特別講義Ⅱ		○					
	電気電子工学専攻特別講義Ⅲ		○					

工学研究科 電気電子工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	電力・エネルギー工学特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	電気機器・制御工学特殊研究		○	4						
	エネルギー材料・デバイス工学特殊研究		○	4						
	光・電子デバイス工学特殊研究		○	4						
	通信・電波工学特殊研究		○	4						
	音響・映像工学特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	電気電子工学特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 システム設計工学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	メディア情報研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	認知科学研究		○	12				
	デザインサイエンス研究		○	12				
	情報マネジメント研究		○	12				
	共創イノベーション研究		○	12				
関係科目	CG特論		○	2				
	画像情報処理特論		○	2				
	データ解析法		○	2				
	ネットワークセキュリティー		○		2			
	メディアデザイン特論		○		2			
	知覚メカニズムと応用技術		○		2			
	ベイズ統計モデリング入門		○	2				
	音声工学特論		○		2			
	心理実験・測定法		○	2				
	質的データ分析特論		○	2				
	認知・感情心理学特論		○	2				
	認知科学		○		2			
	ベイズ統計モデリング実践		○		2			
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	システム設計工学専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	システム設計工学専攻特別講義Ⅱ		○					
	システム設計工学専攻特別講義Ⅲ		○					

この他、ビジネスアーキテクト専攻において修得した関係科目は自専攻の関係科目を履修し修得したものとみなす。

工学研究科 システム設計工学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	メディア情報特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	認知科学特殊研究		○	4						
	デザインサイエンス特殊研究		○	4						
	情報マネジメント特殊研究		○	4						
	共創イノベーション特殊研究		○	4						
	知的創造システム特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	メディア情報学		○	2						
	認知科学		○	2						
	デザインサイエンス		○	2						
	情報マネジメント		○	2						
	共創イノベーション		○	2						
	知的創造システム		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 バイオ・化学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	バイオ工学研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	生命情報システム研究		○	12				
	環境化学研究		○	12				
	有機・高分子機能化学研究		○	12				
	無機機能化学研究		○	12				
関係科目	基礎生化学特論		○		2			
	基礎生物機能学特論		○	2				
	基礎バイオ情報特論		○	2				
	基礎無機・物理化学特論		○		2			
	基礎有機・高分子化学特論		○	2				
	基礎分析化学特論		○		2			
	分子生物学特論		○	2				
	バイオ工学特論		○		2			
	ゲノム科学特論		○		2			
	環境化学特論		○		2			
	有機・高分子機能化学特論		○		2			
	無機機能化学特論		○	2				
	有機化学特論		○		2			
	材料化学特論		○		2			
	環境化学工学特論		○		2			
	量子化学特論		○	2				
	センシングマテリアルズ特論		○	2				
	細胞生物学特論		○		2			
	細胞情報特論		○		2			
	酵素工学統合特論		○	4				
	応用化学統合特論		○	4				
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	バイオ・化学専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	バイオ・化学専攻特別講義Ⅱ		○					
	バイオ・化学専攻特別講義Ⅲ		○					

工学研究科 バイオ・化学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	バイオ工学特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	生命情報システム特殊研究		○	4						
	環境化学特殊研究		○	4						
	有機・高分子機能化学特殊研究		○	4						
	無機機能化学特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	フロンティアバイオ・化学		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 建築学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	建築設計・意匠研究(修士設計)		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	建築設計・意匠研究(修士論文)		○	12				
	都市・地域計画研究		○	12				
	空間構築研究		○	12				
	建築構造研究		○	12				
	建築環境・設備研究		○	12				
関係科目	都市・空間デザイン特論		○	2				
	建築情報特論		○	2				
	建築生産特論		○	2				
	建築環境設計演習Ⅰ		○	2				
	空間情報特論		○	2				
	建築意匠特論		○		2			
	建築史特論		○		2			
	建築再生特論		○		2			
	景観論特論		○		2			
	都市史特論		○		2			
	建築環境設計演習Ⅱ		○		2			
	建築構造解析特論		○	2				
	建築動的設計特論		○		2			
	木質構造特論		○	2				
	建築材料特論		○		2			
	建築設備特論		○	2				
	都市環境特論		○	2				
	建築計画設計演習		○	4				
	建築構造計画演習		○	4				
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	建築インターンシップA		○	3				
	建築インターンシップB		○	7				
	建築構造設計演習		○		3			
	建築学専攻特別講義		○	2	2			

工学研究科 建築学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	建築設計・意匠特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	都市・地域計画特殊研究		○	4						
	空間構築特殊研究		○	4						
	建築構造特殊研究		○	4						
	建築環境・設備特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	建築学特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 高信頼ものづくり専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	革新的高信頼複合材料・構造システム基盤研究		○	12(6)				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	安全安心な社会・システムに向けた計測技術研究		○	12(6)				1年制コース：6単位
	革新的高信頼複合材料プロセス基盤研究		○	12(6)				2年制コース：12単位
関係科目	基礎材料力学特論		○		2			
	基礎有機・高分子化学特論		○	2				
	複合材料生産技術		○	2				
	複合材料工学特論		○		2			
	複合材料マトリックス総論		○		2			
	複合材料評価技術		○	2				
	データ解析特論-事例研究-		○	2				
	複合材料数値計算		○		2			
	分子シミュレーション		○		2			
	高信頼ものづくり専攻統合特論		○	4				
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅰ		○	2				
	高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅱ		○	2				
	高信頼ものづくり専攻特別講義Ⅲ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。

工学研究科 高信頼ものづくり専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数						備考
				1年次		2年次		3年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
特殊研究	革新的高信頼複合材料・構造システム特殊研究		○	4						いずれか1科目を選択し、必修とする。
	安全安心な社会・システムに向けたデバイス技術特殊研究		○	4						
	安全安心な社会・システムに向けた計測技術特殊研究		○	4						
	革新的高信頼複合材料プロセス特殊研究		○	4						
主要科目	企業価値とイノベーション	○			2					
	高信頼ものづくり特論		○	2						
特別科目	リサーチインターンシップ	○		4						

工学研究科 ビジネスアーキテクト専攻 修士課程

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	マーケティング研究		○	12				いずれか1科目を選択し、必修とする。
	ファイナンス研究		○	12				
	ネットビジネス研究		○	12				
	サプライチェーンマネジメント研究		○	12				
関係科目	因果推論入門特論		○	2				
	地理情報科学特論		○	2				
	サプライチェーンマネジメント特論		○		2			
	マーケティング戦略特論		○		2			
	サステナビリティ・ウェルビーイング特論		○	2				
	会計情報特論		○		2			
	グローバル・テクノロジー特論		○		2			
	分散コンピューティング特論1		○	2				
	社会環境システム特論		○		2			
	分散コンピューティング特論2		○		2			
	時空間情報システム特論		○	2				
	コーオププログラム		○	4	4			
	コーオププロジェクト		○	2	2			
	ビジネスアーキテクト専攻特別講義Ⅰ		○					特別講義の単位数・開講期はその都度定める。
	ビジネスアーキテクト専攻特別講義Ⅱ		○					

この他、システム設計工学専攻において修得した関係科目は自専攻の関係科目を履修し修得したものとみなす。

工学研究科 専攻共通科目

科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
関係科目	ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙとしての倫理と行動設計A		○	1				
	ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙとしての倫理と行動設計B		○	1				
	エンジニアのための簿記実践特論		○	2	2			
	イノベーション特論Ⅰ		○		1			
	ビジネス戦略特論Ⅰ		○		1			
	ビジネス戦略特論Ⅱ		○		1			
	基礎解析学特論A		○		1			
	基礎解析学特論B		○		1			
	工学のための確率・統計Ⅰ		○	1				
	工学のための確率・統計Ⅱ		○	1				
	先端技術と科学A		○		1			
	先端技術と科学B		○		1			
	日本語テクニカルコミュニケーション		○	2	2			
	イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅠ		○	1	1			
	イングリッシュテクニカルコミュニケーションⅡ		○	1	1			
	専攻共通特別講義Ⅰ		○	1				
	国際標準化概論Ⅰ		○		1			
	国際標準化概論Ⅱ		○		1			

備考：高信頼ものづくり専攻博士前期課程(1年制コース)は除く。

心理科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程

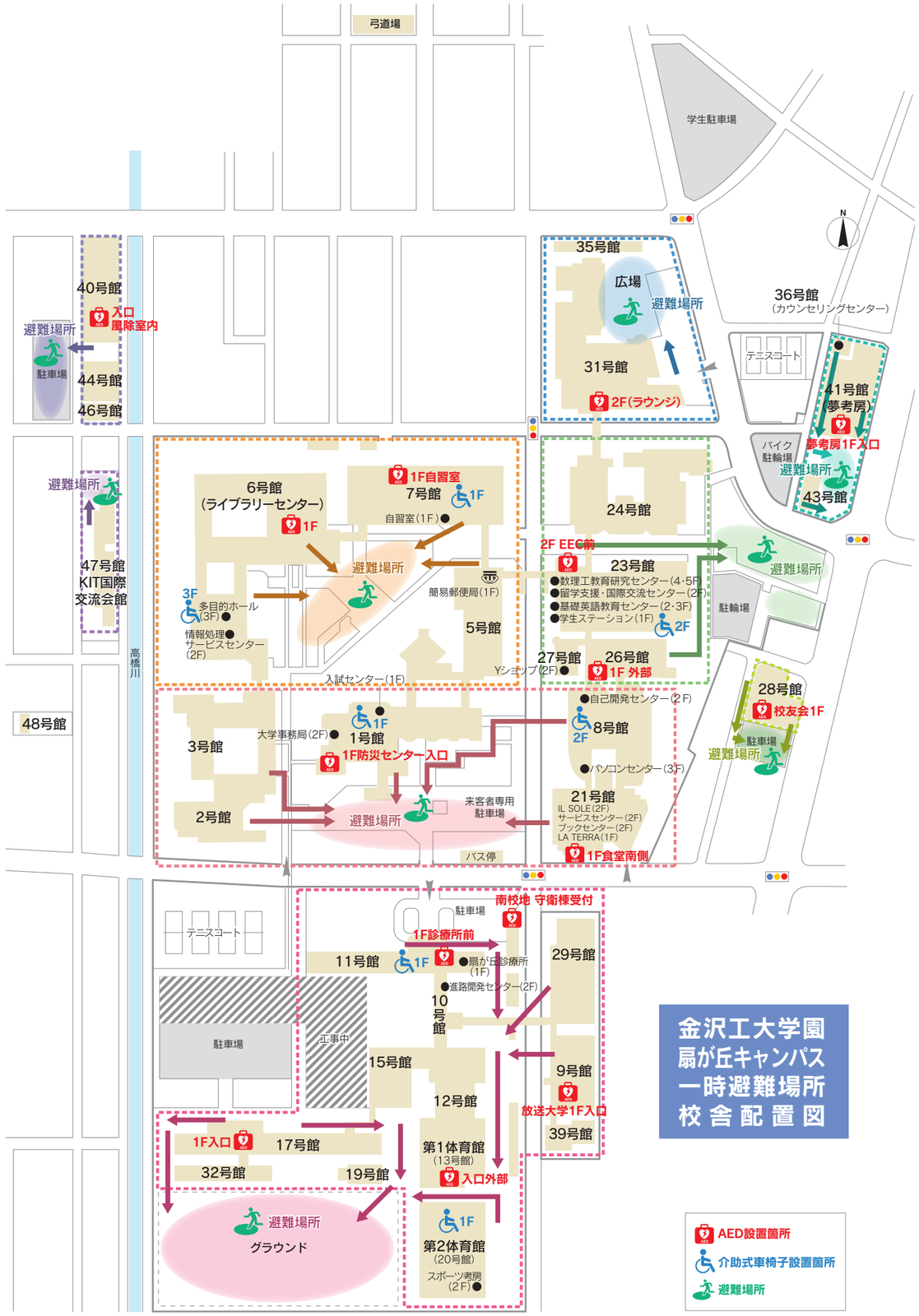
科目区分	授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
				1年次		2年次		
		必修	選択	前学期	後学期	前学期	後学期	
専修科目	臨床心理学研究	○		8				
関係科目	臨床心理学の心構え	○		2				
	臨床心理学特論Ⅰ	○		2				
	臨床心理面接特論Ⅰ	○		2				
	認知心理学特論	○		2				
	臨床心理基礎実習	○		2				
	臨床心理面接特論Ⅱ	○			2			
	臨床心理実習(心理実践実習)Ⅰ		○	5				
	臨床心理実習(心理実践実習)Ⅱ		○			10		
	臨床心理実習Ⅲ	○				2		
	臨床心理査定演習Ⅰ	○		2				
	臨床心理学特論Ⅱ	○			2			
	臨床心理査定演習Ⅱ	○			2			
	臨床心理査定演習Ⅲ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	○				2		
	心理学研究法特論	○		2				
	産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	○			2			
	心理療法特論Ⅰ	○			2			
	心理療法特論Ⅱ	○				2		
	心理療法特論Ⅲ (心理支援に関する理論と実践)	○					2	
	臨床心理地域援助特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	○					2	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ)		○	2				
	学習心理学特論		○		2			
	精神薬理学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ)		○		2			
	社会病理学特論		○			2		
	親子関係特論		○			2		
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)		○				2	
	福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		○			2		
	司法心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		○				2	
	ポジティブ心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		○	2				

イノベーションマネジメント研究科 イノベーションマネジメント専攻 修士課程

科目区分		授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
			必修	選択	1学期	2学期	3学期	4学期	
専修科目	修士研究	イノベーションマネジメント研究	○		8				
イノベーションマネジメント共通科目	戦略思考・コンサルティング	戦略思考要論		○	1			1	いずれか4単位以上を選択し、必修とする。
		戦略思考特論		○		1			
		戦略思考演習		○				1	
		コンサルティング実践特論		○				2	
		戦略プロジェクトマネジメント演習		○				1	
		システムシンキング要論		○			1		
		システムシンキング特論		○				1	
	リーダーシップ・ネゴシエーション	リーダーシップ要論		○	1				
		リーダーシップ特論		○		1			
		フォロワーシップ・リーダーシップ特論		○			1		
		イノベーションファシリテーション特論1		○	1				
		イノベーションファシリテーション特論2		○		1			
		ビジネス交渉特論		○			1		
		スロー・リーダーシップ特論		○				1	
	経営戦略	企業戦略要論		○	1				
		企業戦略特論1		○		1			
		企業戦略特論2		○			1		
		チェンジマネジメント特論1		○		1			
		チェンジマネジメント特論2		○			1		
		アントレプレナーシップ特論		○				1	
		ビジネスインテリジェンス特論		○		1			
		リスクマネジメント要論		○	1				
		リスクマネジメント特論		○				1	
		企業倫理とパーパス経営特論		○			1		
	知的財産経営	知的財産要論		○	1				
		IPランドスケープ要論		○	1				
		知的財産マネジメント要論		○		1			
		SW／BM特許実務特論		○				2	
		ブランドマネジメント特論		○				1	
		特許・商標訴訟特論		○				2	
	メディア&エンタテインメント	M&E産業要論		○	1				
		M&Eマネジメント実務特論1		○		1			
		M&Eマネジメント実務特論2		○			1		
		M&Eマネジメント実務演習		○				1	
		M&Eコンテンツ法務要論		○	1				
		M&Eコンテンツ法務特論		○		1			
		M&Eコンテンツ法務応用特論		○				1	
		M&Eコンテンツ契約実務特論		○			1		

科目区分		授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
			必修	選択	1学期	2学期	3学期	4学期	
イノベーションマネジメント共通科目	技術経営・AI	技術経営要論		○	1				いずれか4単位以上を選択し、必修とする。
		産学連携・技術移転特論		○		1			
		技術商業化特論		○		2			
		生成AIとビジネス・知財特論		○		1			
		AIによるデータ活用特論		○		1			
		生成AIの活用実務特論1		○			1		
		生成AIの活用実務特論2		○				1	
		テック系スタートアップ要論		○	1				
		テック系スタートアップ特論		○		1			
	ビジネス法務	契約法特論		○		1			
		民法特論		○	1				
		ビジネス法務特論		○			1		
		ビジネス法務特論2		○				1	
ビジネスマネジメント専門科目	経済学・グローバルビジネス	ビジネス・エコノミクス要論		○	1				「修士（経営管理）」の学位を取得する場合は、いずれか8単位以上を選択し、必修とする。
		ビジネス・エコノミクス特論		○			1		
		ビジネス分析要論		○	1				
		ビジネス分析特論		○		1			
		グローバルビジネス特論		○				1	
		ソーシャルビジネス特論		○				1	
		ソーシャルファシリテーション特論		○				1	
	組織人事マネジメント	組織人事マネジメント要論		○	1				
		組織人事マネジメント特論		○		1			
		ワークライフマネジメント特論		○	1				
		コーチング実践特論		○				1	
	ファイナンス・アカウンティング	会計・財務要論1		○	1				
		会計・財務要論2		○		1			
		企業財務特論A		○			1		
		企業財務特論B		○				1	
	マーケティング	マーケティング要論		○	1				
		B2Cマーケティング特論		○		1			
		マーケティング・コミュニケーション特論		○			1		
		CRM特論		○			1		
	オペレーション	オペレーションズマネジメント要論		○	1				
		オペレーションズマネジメント特論1		○		1			
		オペレーションズマネジメント特論2		○			1		

科目区分		授業科目名	必選区分		開講期及び単位数				備考
			必修	選択	1学期	2学期	3学期	4学期	
知的財産マネジメント専門科目	産業財産権	特許・実用新案法特論1		○	2				「修士（知的財産マネジメント）」の学位を取得する場合は、いずれか8単位以上を選択し、必修とする。
		特許・実用新案法特論2		○		2			
		特許・実用新案法応用特論		○			2		
		特許出願・審査特論		○	2				
		特許審判特論		○			2		
		意匠法特論1		○	2				
		意匠法特論2		○		2			
		商標法特論1		○		2			
		商標法特論2		○				2	
		意匠・商標法応用特論		○				2	
	グローバル知的財産	知的財産条約特論1		○	2				
		知的財産条約特論2		○			2		
		米国特許特論		○			1		
	著作権・不競法	著作権法特論		○	1				
		著作権法応用特論		○		1			
		不正競争防止法特論		○				1	
	知的財産戦略	知的財産評価実務特論		○		1			
		知的財産契約特論		○			1		
		知的財産戦略実務特論1		○			1		
		知的財産戦略実務特論2		○				1	
		特許情報実務特論		○	1				
		技術標準化と経営戦略特論		○				1	



金沢工大学園
扇が丘キャンパス
一時避難場所
校舎配置図

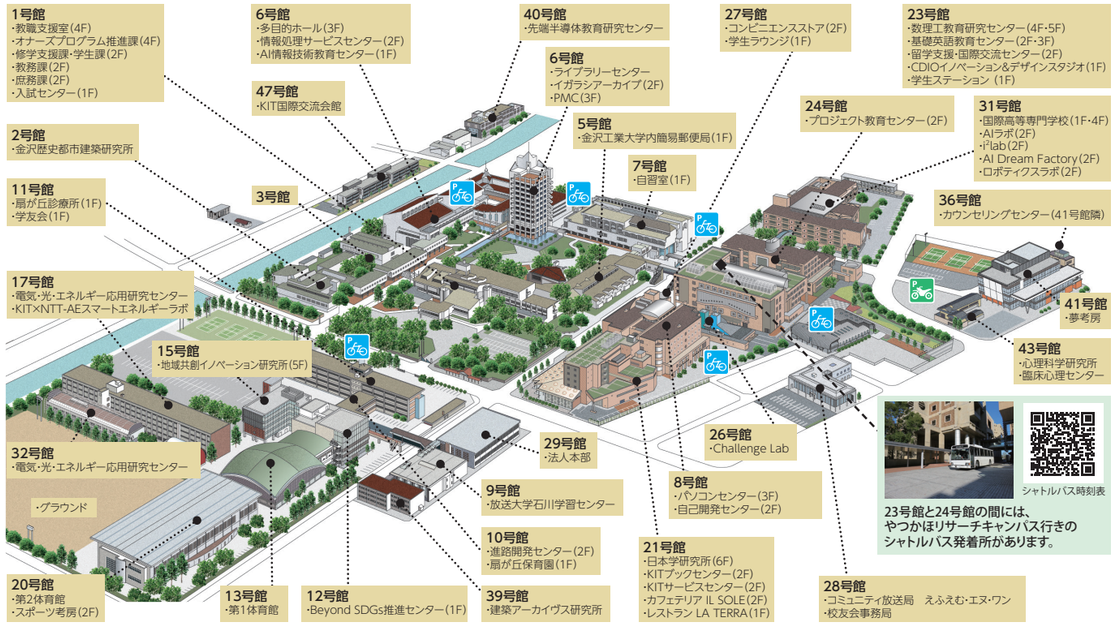
- AED設置箇所
- 介助式車椅子設置箇所
- 避難場所

CAMPUS MAP

扇が丘キャンパス 所在地:石川県野々市市扇が丘7番1号

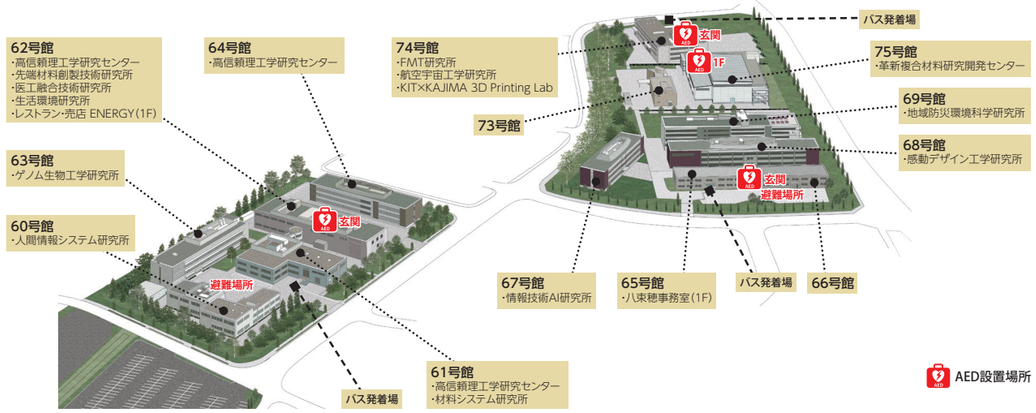
本学のメインキャンパスです。部活動やプロジェクトなどの課外活動もここを拠点に活動しています。

駐輪場　バイク駐輪場

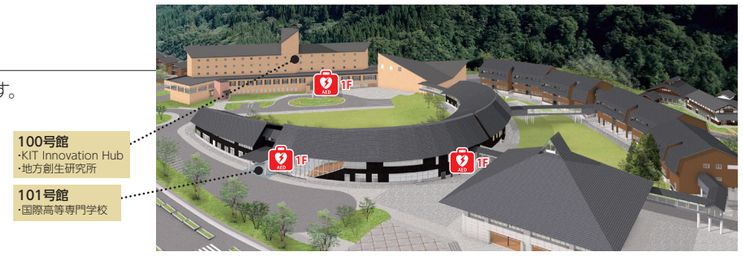


やつかほリサーチキャンパス 所在地:石川県白山市八束穂3丁目1番地

実験設備などを備えた研究所群です。一部の学科の研究室活動はここで行われます。



白山麓キャンパス

所在地:石川県白山市瀬戸辰3-1

里山を拠点とした実証実験キャンパスです。
併設校 国際高等専門学校の
1-2年次生が学ぶ校舎もここにあります。